帝國四分利公債	一〇〇	七三	一〇四、二〇〇
大藏省證券	一〇〇	九〇	—
大阪市水道公債	一〇〇	九〇	—
大阪市築港公債	一〇〇	九〇	一〇〇、〇〇〇
東京府農工債券	一〇〇	七〇	四一、六〇〇
日本興業債券	一〇〇	六五	—
日本銀行株	二〇〇	三八〇	一、一四九株
同 新株	五〇	一九七	一七三
橫濱正金銀行株	一〇〇	一六二	一、二九〇
同 新株	二五	六九	三一〇
日本興業銀行株	五〇	四九	一、〇五〇
日本勸業銀行株	二〇〇	三一四	七三四
第一銀行株	五〇	六四	七六〇
十五銀行株	一〇〇	一二二	九五〇
東京府農工銀行株	二〇	二五	一、八一一
臺灣銀行株	一〇〇	一三一	一三五
同 新株	七五	一〇七	—
朝鮮銀行株	七五	八七	一八七
北海道拓殖銀行株	五〇	四九	二七七
同 新株	三七、五	三九	七三
日本郵船株	五〇	八九	二、七二〇
東洋汽船株	五〇	一三	二、二七五
大阪商船株	五〇	二九	三五
東京瓦斯株	五〇	四〇	六、六七〇
同 新株	二〇	二三	八、〇一〇
東京電燈株	五〇	四八	五、二五九
同 新株	二五	二五	一〇、六八六
橫濱電氣株	五〇	四六	五六三
同 新株	二五	二四	七一七
鬼怒川水力電氣株	二七、五	一六	二二、〇八〇
桂川電力株	二五	一八	—
富士瓦斯紡績株	五〇	三九	七五〇
同 新株	二五	二一	二、八九〇
鐘淵紡績株	五〇	五五	二五〇
同 新株	三五	四三	四、〇四〇
東京紡績株	五〇	二七	二三〇
大日本麥酒株	五〇	四〇	一〇〇
同 新株	一五	一六	七〇
臺灣製糖株	五〇	四五	一、一五〇
同 新株	一二、五	一四	五、七九五
東洋製糖株	三五	三一	二、九三〇
明治製糖株	五〇	四〇	二八

明治製糖新株	一二、五	一三	六五
南滿洲鐵道株	二〇〇	一五八	一六九
東武鐵道株	五〇	四六	五、八八〇
同 新株	二〇	二三	二、三七〇
成田鐵道株	五〇	三一	七〇
阪神電氣鐵道株	五〇	六七	—
鹽水港製糖株	二五	二九	八、六〇〇
京濱電氣鐵道株	五〇	二〇	一〇、九四八
同 新株	三〇	一一	一二、一八〇
橫濱電氣鐵道株	五〇	三三	—
橫濱電氣鐵道新株	一二、五	一〇	—
東京製綱株	五〇	六一	一〇〇
同 新株	一二、五	二〇	—
日本皮革株	五〇	三九	六、七〇〇
帝國製麻株	五〇	五〇	一〇
同 新株	二五	二八	一〇
內國通運株	五〇	六一	—
同 新株	二五	三九	—
勸業債券	一〇〇	八〇	一、二四〇円

第四號表

公金銀行差入擔保品調書

銀行名	種類	大正三年五月末 券面又ハ株數	大正三年五月末 價格	現在 券面又ハ株數	現在 價格
市金庫	特別帝國五分利公債	一〇二、五五〇円	八四、〇九一円〇〇〇	一一六、五五〇円	九五、五七一円〇〇〇
同	甲號帝國五分利公債	七一、〇〇〇	五八、二二〇〇〇〇	七一、〇〇〇	五八、二二〇〇〇〇
同	日本銀行株	一一六株	四七、〇九六〇〇〇	一一六株	四四、〇八〇〇〇〇
同	同 新株	五〇	一〇、八〇〇〇〇〇	五〇	九、八五〇〇〇〇
同	正金銀行株	二三二	三七、五八四〇〇〇	二三二	三七、五八四〇〇〇
同	日本郵船株	一、五三〇	一三六、一七〇〇〇〇	八六〇	七六、五四〇〇〇〇

市金庫	東京瓦斯株	二、五四〇	一一九、三八〇、〇〇〇	二、五四〇	一〇一、六〇〇、〇〇〇
同	東京電燈株	二一三	一〇、二二四、〇〇〇	二一二	一〇、二二四、〇〇〇
同	東京電燈新株	二、六〇〇	六五、〇〇〇、〇〇〇	二、七五六	六八、九〇〇、〇〇〇
同	鐘淵紡績株	一五〇	八、二五〇、〇〇〇	一五〇	八、二五〇、〇〇〇
同	同新株	三〇〇	一二、九〇〇、〇〇〇	三〇〇	一二、九〇〇、〇〇〇
同	大日本麥酒株	二〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇
同	富士瓦斯紡績株	七五〇	二九、二五〇、〇〇〇	七五〇	二九、二五〇、〇〇〇
同	同新株	一九〇	三、九九〇、〇〇〇	一九〇	三、九九〇、〇〇〇
同	第一銀行株	一〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇	六、四〇〇、〇〇〇
同	日本勧業銀行株	五二六	一五二、五四〇、〇〇〇	一八三	五七、四六二、〇〇〇
同	日本興業銀行株	六四〇	三一、三六〇、〇〇〇	六四〇	三一、三六〇、〇〇〇
同	十五銀行株	四五〇	六三、九〇〇、〇〇〇	四五〇	五四、九〇〇、〇〇〇
同	臺灣製糖株	三〇〇	一三、五〇〇、〇〇〇	三〇〇	一三、五〇〇、〇〇〇
同	同新株	三八五	五、三九〇、〇〇〇	三八五	五、三九〇、〇〇〇
同	鹽水港製糖株	三、五〇〇	一〇一、五〇〇、〇〇〇	三、五〇〇	一〇一、五〇〇、〇〇〇
同	東洋製糖株	一一〇	三、四一〇、〇〇〇	一一〇	三、四一〇、〇〇〇
同	京濱電氣鐵道新株	一、一〇〇	一二、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇	一二、一〇〇、〇〇〇
同	日本皮革株	一、〇〇〇	四七、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	三九、〇〇〇、〇〇〇
同	東京紡績株	一八〇	四、八六〇、〇〇〇	一八〇	四、八六〇、〇〇〇
同	鬼怒川水力電氣株	五、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇	八〇、〇〇〇、〇〇〇
同	東京瓦斯新株	五、八〇〇	一三三、四〇〇、〇〇〇	五、九五〇	一三六、八五〇、〇〇〇

	計		一、三〇八、九一五、〇〇〇		一、一〇七、六九一、〇〇〇
三銀行	日本銀行株	四八〇	一八二、四〇〇、〇〇〇	四八〇	一八二、四〇〇、〇〇〇
同	正金銀行新株	二三八	三八、五五六、〇〇〇	二三八	三八、五五六、〇〇〇
同	日本郵船株	一、四〇五	一二五、〇四五、〇〇〇	一、四〇五	一二五、〇四五、〇〇〇
同	東武鐵道株	五、七三〇	二六三、五八〇、〇〇〇	五、七三〇	二六三、五八〇、〇〇〇
同	同新株	一、一七〇	二六、九一〇、〇〇〇	一、一七〇	二六、九一〇、〇〇〇
同	京濱電氣鐵道株	六、六九〇	一三三、八〇〇、〇〇〇	六、六九〇	一三三、八〇〇、〇〇〇
同	同新株	五、六八〇	六二、四八〇、〇〇〇	五、六八〇	六二、四八〇、〇〇〇
	計		八三二、七七一、〇〇〇		八三二、七七一、〇〇〇
帝國商業銀行	甲號帝國五分利公債	〇	〇	四、〇〇〇	三、二八〇、〇〇〇
同	帝國四分利公債	〇	〇	八、三〇〇	六、〇五九、〇〇〇
同	農工債券	二、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇
同	大阪商船株	三五	一、〇一五、〇〇〇	三五	一、〇一五、〇〇〇
同	日本銀行株	八	三、〇四〇、〇〇〇	八	三、〇四〇、〇〇〇
同	同新株	二〇	三、九四〇、〇〇〇	二〇	三、九四〇、〇〇〇
同	鹽水港製糖株	一〇〇	二、九〇〇、〇〇〇	五〇	一、四五〇、〇〇〇
同	鬼怒川水力電氣株	六、八二〇	一三六、四〇〇、〇〇〇	九、六四〇	一五四、二四〇、〇〇〇
同	拓殖銀行株	四〇	一、九六〇、〇〇〇	四〇	一、九六〇、〇〇〇
同	同新新	七三	二、八四七、〇〇〇	七三	二、八四七、〇〇〇
同	日本郵船株	二〇	一、七八〇、〇〇〇	二〇	一、七八〇、〇〇〇
同	東洋汽船株	三一五	四、〇九五、〇〇〇	一八五	二、四〇五、〇〇〇

帝國商業銀行	成田鐵道株	七〇	二、一七〇	〇〇〇	七〇	二、一七〇	〇〇〇
同	臺灣製糖新株	一〇	一四〇	〇〇〇	一〇	一四〇	〇〇〇
同	大日本麥酒新株	七〇	一、一二〇	〇〇〇	七〇	一、一二〇	〇〇〇
同	朝鮮銀行株	五一	四、四三七	〇〇〇	五一	四、四三七	〇〇〇
同	日本興業銀行株	二一〇	一〇、二九〇	〇〇〇	二一〇	一〇、二九〇	〇〇〇
同	東京電燈株	四〇	一、九二〇	〇〇〇	〇	〇	
同	第一銀行株	二〇	一、二八〇	〇〇〇	七〇	四、四八〇	〇〇〇
同	京濱電氣鐵道株	一〇〇	二、〇〇〇	〇〇〇	一〇〇	二、〇〇〇	〇〇〇
同	日本勸業銀行株	一〇	三、一四〇	〇〇〇	一〇	三、一四〇	〇〇〇
同	東京瓦斯新株	一〇〇	二、三〇〇	〇〇〇	一〇〇	二、三〇〇	〇〇〇
同	明治製糖新株	五〇	六五〇	〇〇〇	六五	八四五	〇〇〇
同	帝國製麻株	〇	〇		一〇	五〇〇	〇〇〇
同	同新株	〇	〇		一〇	二八〇	〇〇〇
同	東京紡績株	〇	〇		五〇	一、三五〇	〇〇〇
同	東洋製糖株	〇	〇		二〇	六二〇	〇〇〇
同	明治製糖株	〇	〇		二八	一、一二〇	〇〇〇
	計		一八八、八二四	〇〇〇		二一八、二〇八	〇〇〇
豐國銀行	東京電燈株	四七	二、二五六	〇〇〇	四七	二、二五六	〇〇〇
同	日本郵船株	七〇	六、二三〇	〇〇〇	二〇	一、七八〇	〇〇〇
同	鐘淵紡績株	一〇〇	五、五〇〇	〇〇〇	一〇〇	五、五〇〇	〇〇〇
同	鹽水港製糖株	五、〇〇〇	一四五、〇〇〇	〇〇〇	五、〇〇〇	一四五、〇〇〇	〇〇〇

同	臺灣製糖株	三五〇	一五、七五〇	〇〇〇	三五〇	一五、七五〇	〇〇〇
同	東洋製糖株	二、八〇〇	八五、八〇〇	〇〇〇	二、八〇〇	八六、八〇〇	〇〇〇
	計		二六一、五三六	〇〇〇		二五七、〇八六	〇〇〇
東京銀行	東洋汽船株	二、〇九〇	二七、一七〇	〇〇〇	二、〇九〇	二七、一七〇	〇〇〇
同	日本銀行株	二〇	七、六〇〇	〇〇〇	二〇	七、六〇〇	〇〇〇
同	日本皮革株	四、七〇〇	一八三、三〇〇	〇〇〇	四、七〇〇	一八三、三〇〇	〇〇〇
同	內國通運株	一二	七三二	〇〇〇	〇	〇	
同	京濱電氣鐵道株	二三〇	四、六〇〇	〇〇〇	二三〇	四、六〇〇	〇〇〇
	計		二二三、四〇二	〇〇〇		二二二、六七〇	〇〇〇
農工銀行	甲號帝國五分利公債	一三四、一〇〇	一〇九、九六二	〇〇〇	一三四、一〇〇	一〇九、九六二	〇〇〇
同	富士瓦斯紡績新株	二、七〇〇	五六、七〇〇	〇〇〇	二、七〇〇	五六、七〇〇	〇〇〇
同	鹽水港製糖株	五〇	一、四五〇	〇〇〇	五〇	一、四五〇	〇〇〇
同	臺灣製糖株	四〇〇	一八、〇〇〇	〇〇〇	四〇〇	一八、〇〇〇	〇〇〇
同	同新株	五、〇〇〇	七〇、〇〇〇	〇〇〇	五、〇〇〇	七〇、〇〇〇	〇〇〇
同	日本郵船株	二〇	一、七八〇	〇〇〇	二〇	一、七八〇	〇〇〇
同	橫濱電氣株	五六三	二五、八九八	〇〇〇	五六三	二五、八九八	〇〇〇
同	同新株	七一七	一七、二〇八	〇〇〇	七一七	一七、二〇八	〇〇〇
同	正金銀行株	一〇	一、六二〇	〇〇〇	一〇	一、六二〇	〇〇〇
同	京濱電氣鐵道新株	四〇〇	四、四〇〇	〇〇〇	四〇〇	四、四〇〇	〇〇〇
同	鐘淵紡績新株	四四〇	一八、九二〇	〇〇〇	四四〇	一八、九二〇	〇〇〇
同	日本皮革株	一、〇〇〇	三九、〇八〇	〇〇〇	一、〇〇〇	三九、〇〇〇	〇〇〇

農工銀行	東京瓦斯株	八八〇	三五、二〇〇	〇〇〇	八八〇	三五、二〇〇	〇〇〇
同	東京電燈株	一九四	九、三一二	〇〇〇	一九四	九、三一二	〇〇〇
同	同新株	一九七	四、九二五	〇〇〇	一九七	四、九二五	〇〇〇
同	日本勧業銀行株	一四〇	四三、九六〇	〇〇〇	三四五	一〇八、三三〇	〇〇〇
同	拓殖銀行株	二三七	一一、六一三	〇〇〇	二三七	一一、六一三	〇〇〇
	計		四六九、九四八	〇〇〇		五三四、三一八	〇〇〇
丁酉銀行	甲號帝國五分利公債	二四〇、〇〇〇	一九六、八〇〇	〇〇〇	三四〇、〇〇〇	二七八、八〇〇	〇〇〇
	計	二四〇、〇〇〇	一九六、八〇〇	〇〇〇	三四〇、〇〇〇	二七八、八〇〇	〇〇〇
東海銀行	甲號帝國五分利公債	二三、〇〇〇	一八、八六〇	〇〇〇	二三、〇〇〇	一八、八六〇	〇〇〇
同	大阪市築港公債	一〇〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	〇〇〇
同	第一銀行株	五九〇株	三七、七六〇	〇〇〇	五九〇	三七、七六〇	〇〇〇
同	東京電燈株	一、七〇〇	八一、六〇〇	〇〇〇	一、七〇〇	八一、六〇〇	〇〇〇
同	同新株	四、一〇二	一〇二、五五〇	〇〇〇	四、一〇二	一〇二、五五〇	〇〇〇
同	京濱電氣鐵道新株	二、九八〇	三二、七八〇	〇〇〇	二、九八〇	三二、七八〇	〇〇〇
	計		三六三、五五〇	〇〇〇		三六三、五五〇	〇〇〇
明治商業銀行	東京電燈株	二、三〇五	一一〇、六四〇	〇〇〇	二、三〇五	一一〇、六四〇	〇〇〇
同	同新株	三、六三一	九〇、七七五	〇〇〇	三、六三一	九〇、七七五	〇〇〇
同	正金銀行株	二四〇	三八、八八〇	〇〇〇	二四〇	三八、八八〇	〇〇〇
同	同新株	一〇〇	六、九〇〇	〇〇〇	一〇〇	六、九〇〇	〇〇〇
同	日本郵船株	一〇五	九、三四五	〇〇〇	一〇五	九、三四五	〇〇〇
同	臺灣銀行株	一三五	一七、六八五	〇〇〇	一三五	一七、六八五	〇〇〇

同	京濱電氣鐵道株	三、二二七	六四、五四〇	〇〇〇	三、二二七	六四、五四〇	〇〇〇
同	同新株	二、〇二〇	二二、二二〇	〇〇〇	二、〇二〇	二二、二二〇	〇〇〇
	計		三六〇、九八五	〇〇〇		三六〇、九八五	〇〇〇
中井銀行	正金銀行株	四二〇	六八、〇四〇	〇〇〇	四二〇	六八、〇四〇	〇〇〇
同	同新株	二一〇	一四、四九〇	〇〇〇	二一〇	一四、四九〇	〇〇〇
同	鐘淵紡績新株	三、三〇〇	一四一、九〇〇	〇〇〇	三、三〇〇	一四一、九〇〇	〇〇〇
同	東京瓦斯株	二、一八〇	八四、四〇〇	〇〇〇	二、五四〇	一〇一、六〇〇	〇〇〇
同	日本銀行株	五二五	一九九、五〇〇	〇〇〇	五二五	一九九、五〇〇	〇〇〇
同	同新株	一〇三	二〇、二九一	〇〇〇	一〇三	二〇、二九一	〇〇〇
同	東京瓦斯新株	一、六六〇	三八、一八〇	〇〇〇	一、九六〇	四五、〇八〇	〇〇〇
同	朝鮮銀行株	一〇〇	八、七〇〇	〇〇〇	一〇〇	八、七〇〇	〇〇〇
同	日本勧業銀行株	一四六	四五、八四四	〇〇〇	一七六	五五、二六四	〇〇〇
同	鬼怒川水力電氣株	四、八〇〇	九六、〇〇〇	〇〇〇	四、八〇〇	七六、八〇〇	〇〇〇
同	臺灣製糖株	〇	〇		一〇〇	四、五〇〇	〇〇〇
同	南滿洲鐵道株	〇	〇		六〇	九、四八〇	〇〇〇
	計		七一七、三四五	〇〇〇		七四五、六四五	〇〇〇
八十四銀行	甲號帝國五分利公債	〇	〇		三七、〇〇〇	三〇、三四〇	〇〇〇
同	帝國四分利公債	二九、五〇〇	二一、五三五	〇〇〇	二九、五〇〇	二一、五三五	〇〇〇
同	東京製綱株	四二〇	二五、六二〇	〇〇〇	一〇〇	六、一〇〇	〇〇〇
同	東武鐵道株	一五〇	六、九〇〇	〇〇〇	一五〇	六、九〇〇	〇〇〇
同	同新株	一、二〇〇	二七、六〇〇	〇〇〇	一、二〇〇	二七、六〇〇	〇〇〇

八十四銀行	南滿洲鐵道株	一九五	三〇、八一〇、〇〇〇	九九	一五、六四二、〇〇〇
同	京濱電氣鐵道株	七〇一	一四、〇二〇、〇〇〇	七〇一	一四、〇二〇、〇〇〇
同	臺灣製糖新株	四〇〇	五、六〇〇、〇〇〇	四〇〇	五、六〇〇、〇〇〇
同	日本郵船株	一〇〇	八、九〇〇、〇〇〇	一〇〇	八、九〇〇、〇〇〇
同	東京瓦斯株	六四〇	二五、六〇〇、〇〇〇	六四〇	二五、六〇〇、〇〇〇
同	東京電燈株	〇	〇	八〇〇	三八、四〇〇、〇〇〇
同	日本興業銀行株	二〇〇	九、八〇〇、〇〇〇	二〇〇	九、八〇〇、〇〇〇
同	正金銀行株	五〇	八、一〇〇、〇〇〇	五〇	八、一〇〇、〇〇〇
同	日本勸業銀行株	二〇	六、二八〇、〇〇〇	二〇	六、二八〇、〇〇〇
計			一九〇、七六五、〇〇〇		二二四、八一七、〇〇〇
麹町銀行	甲號帝國五分利公債	一〇五、五〇〇	八六、五一〇、〇〇〇	一〇五、五〇〇	八六、五一〇、〇〇〇
同	特別帝國五分利公債	七九、〇〇〇	六四、七八〇、〇〇〇	七九、〇〇〇	六四、七八〇、〇〇〇
同	農工債券	三五、〇〇〇	二四、五〇〇、〇〇〇	三二、〇〇〇	二二、四〇〇、〇〇〇
同	正金銀行株	一〇〇	一六、二〇〇、〇〇〇	一〇〇	一六、二〇〇、〇〇〇
同	日本郵船株	一九〇	一六、九一〇、〇〇〇	一九〇	一六、九一〇、〇〇〇
同	十五銀行株	五〇〇	六一、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇	六一、〇〇〇、〇〇〇
計			二六九、九〇〇、〇〇〇		二六七、八〇〇、〇〇〇
萬世銀行	農工債券	一三、五〇〇	九、四五〇、〇〇〇	四、五〇〇	三、一五〇、〇〇〇
同	甲號帝國五分利公債	二一、五〇〇	一七、六三〇、〇〇〇	七、五〇〇	六、一五〇、〇〇〇
同	鬼怒川水力電氣株	二、六四〇	五二、八〇〇、〇〇〇	二、六四〇	四二、二四〇、〇〇〇
同	東京瓦斯株	七〇	二、八〇〇、〇〇〇	七〇	二、八〇〇、〇〇〇
同	農工銀行株	一、八一一	四五、二七五、〇〇〇	一、八一一	四五、二七五、〇〇〇
同	朝鮮銀行株	一六	一、三九二、〇〇〇	一六	一、三九二、〇〇〇
計			一二九、三四七、〇〇〇		一〇一、〇〇七、〇〇〇

六、利息ハ各銀行トモ總テ一樣ニシテ現時ニ於テハ定期預金年五分八厘當座預金ハ日歩壹錢貳厘ナリ

七、如何ナル種類如何ナル金額ヲ定期預金トシ將タ當座預金トスヘキヤニ付テハ規定ノ明示スルモノ存スルコトナク市當局者ノ意見ニ一任シタリ

八、市ノ特別會計中電氣事業經濟ニ屬スル公金ハ副收入役ニ於テ專ラ之ヲ管理シ電氣局ヨリ直接、日本興業、三井、十五、川崎、森村、中井、東海及ヒ浪花ノ八銀行ヘ當座預金ト爲セリ現在ニ於ケル其預金額及ヒ預金利率ハ左掲第五號表ノ如シ但總テ擔保ヲ徵求セス別ニ郵便振替貯金九千參百參拾九圓貳拾七錢(年利三分六厘)ヲ有シ現在ノ現金ハ電氣事業費經濟所屬九百九拾五圓六拾七錢參厘歳入歳出外所屬七千六圓七拾錢ナリ

第五號表

電氣事業費經濟銀行預金及ヒ利率調書

銀行	預金高	利率	摘要
森村銀行	六二、一八八円六五〇	當座日歩 壹錢貳厘	
十五銀行	五七、六八一、六二〇	壹錢四厘	歳入歳出外所屬預金
東海銀行京橋支店	五一、八二二、〇一〇	壹錢貳厘	
中井銀行	三五、五三一、六八〇	壹錢五厘	

川崎銀行	二四、三〇三	五六〇	壹錢五厘	
浪花銀行東京支店	一八、六〇五	五四〇	壹錢貳厘	
三井銀行	一二、五五三	一五〇	壹錢	
日本興業銀行	四、三〇一	九八〇	壹錢	公債利息支拂基金預金利子
計	二六六、九八一	一九〇		

備考　十五、中井及川崎ノ三銀行ハ通知當座預金ニ屬シ引出ノ三日前豫告スルモノトス

九、市金庫事務ハ市自ラ之ヲ取扱ハスシテ市參事會ハ明治三十八年九月東京府農工銀行ニ其取扱ヲ命シ同四十四年十二月市會議決ニ依リ尙ホ之ヲ指定シタリ而シテ各區ノ派出市金庫ハ其區役所內ニ置ク東京府農工銀行ハ自己ノ責任ト計算トヲ以テ更ニ派出金庫ノ事務ヲ左ノ各銀行ニ委任シテ代理セシム東京府農工銀行カ市金庫事務取扱ノ爲メ受クル手數料ハ年額金六千圓ナリトス而シテ本年六月二十日ニ於ケル現在ノ保管高ハ市各經濟歲入金參拾壹萬五千六百拾九圓九錢貳厘ニシテ歲入歲出外現金拾萬九千八百七拾參圓七拾四錢參厘總額金四拾貳萬五千四百九拾貳圓八拾參錢五厘ナリトス

神田區	日本橋區	派出金庫　中井銀行
芝區		同　興業貯蓄銀行
下谷區	京橋區	同　八十四銀行
本郷區	小石川區	同　東京銀行
麹町區	赤坂區	同　麹町銀行
麻布區		同　江戸銀行
四谷區	牛込區	同　四谷銀行
淺草區	本所區	深川區　同　農工貯蓄銀行

然ルニ東京府農工銀行ハ業務モ漸次繁忙トナリ事務上手廻リ兼ヌル趣ヲ以テ本年五月一日附事務取扱ノ辭任ヲ願出テ之ニ對シ市ハ同月五日附ヲ以テ追テ何分ノ通達アルマテ從前ノ通事務取扱ヲ爲スヘシトノ通達ヲ爲シタル儘今日ニ及ヘル狀態ナリ

十、市各經濟歲入金ノ現在ニ於ケル計算ハ總額貳百參拾五萬四千貳百拾圓八拾六錢五厘ノ內銀行預金百七拾五萬六千五拾六圓八拾四錢七厘ニシテ外ニ郵便貯金トナレルモノ五萬四千貳百八拾七圓八錢五厘現金拾九萬參千八百六拾六圓九拾參錢參厘ナリ然ルニ殘餘ノ參拾五萬圓ハ繰替貸金トシテ特別會計中ノ電氣事業費經濟ヘ貸付アリ左揭第六號表ノ如シ

第六號表

市各經濟歲入金現計調書

經濟別	銀行預金	郵便貯金	繰替貸金	現金	計
市	五三四、四七八円〇〇〇	二、〇五四円八八五	二〇〇、〇〇〇円〇〇〇	四三、七五三円四〇一	七八〇、二八六円二八六
市區改正	四四〇、〇〇〇〇〇〇	—	一五〇、〇〇〇〇〇〇	一一、八一八三九八	六〇一、八一八三九八
水道	五二三、〇七六四七〇	五二、二三二〇〇	—	八二、五六三二五五	六五七、八七一九二五
市區改正下水道改良費	一八〇、〇〇〇〇〇〇	—	—	一、五八〇二四四	一八一、五八〇二四四
事業公債費	二、三八四〇六三	—	—	—	二、三八四〇六三
市立小學校建設資金	一、三〇六四一八	—	—	三、四六八四一〇	四、七七四八二八
火災共濟費	七四、八一一八九六	—	—	—	七四、八一一八九六
養育院	—	—	—	三二、三四八九七五	三二、三四八九七五
基本財產河岸地	—	—	—	一八、三三四二五〇	一八、三三四二五〇
計	一、七五六、〇五六八四七	五四、二八七〇八五	三五〇、〇〇〇〇〇〇	一九三、八六六九三三	二、三五四、二一〇八六五

備考　繰替貸金貸付先ハ電氣事業費經濟ナリ

歳入歳出外ニ屬スル現在ノ計算ハ總額參拾壹萬八千參百六拾參圓拾八錢九厘ノ內銀行預金貳拾壹萬八拾六圓八拾六錢七厘ニシテ他ハ現金ナリ左揭第七號表ノ如シ

第七號表

歳入歳出外所屬金現計調書

種別	銀行預金	現金	計
國稅金	〇円	七八三、二七〇円	七八三、二七〇円
計量給水料納金	二一〇、〇〇〇、〇〇〇	三七、六七八、四六九	二四七、六七八、四六九
區役所雜部金	〇	一一、七二八、八四二	一一、七二八、八四二
市役所雜部金	八六、八六七、〇八六	五八、〇八五、七四一	五八、一七二、六〇八
合計	二一〇、〇八六、八六七	一〇八、二七六、三二二	三一八、三六三、一八九

基本財產準備金ニ屬スル現在ノ計算ハ總額八百拾參萬貳拾四圓參拾七錢ノ內百四拾四萬八千八百九拾貳圓七拾參錢ヲ銀行預金百七拾四萬壹千八百七拾八圓八拾七錢ヲ以テ公債、社債及ヒ株券等ノ有價證券ヲ購入保管シ爾餘ノ四百九拾參萬九千貳百五拾貳圓七拾七錢ヲ繰替貸金トセルコト左揭第八號表ノ如シ

第八號表

基本財產、準備金現計調書

財產別	銀行預金	繰替貸金	公債社債株券實價	計
市基本財產	三九、五八九円九五〇	一円	一六九、八〇八円五五〇	二〇九、三九八円五〇〇
水道準備積立金	六六三、三八四六五五	二、一八二、四七一〇〇〇	六二二、一八六、二〇〇	三、四六八、〇四一八五五
養育院基本財產	一一九、三四五八一四	—	三六九、四二五〇〇〇	四八八、七七〇八一四
教育基金	一四、四三七七六二	一三五、〇〇〇〇〇〇	三五、八〇五一五〇	一八五、二四二九一二
事業公債償還基金	四五〇、〇〇〇〇〇〇	二、一七一、七八一七七〇	—	二、六二一、七八一七七〇
公國準備金	八、二七二七八二	三五〇、〇〇〇〇〇〇	二一九、四九六四五〇	五七七、七六九二三二
基地準備金	四四、二三五五一九	一〇〇、〇〇〇〇〇〇	一八二、一七八一七〇	三二六、四一三六八九
火災共濟基金	八五、〇〇〇〇〇〇	—	—	八五、〇〇〇〇〇〇
一石橋架換費寄附金	一、二一九六六五	一、八〇六九〇〇	一、八〇六九〇〇	三、〇二六五六五
施療病院基本金	一二、〇四八九〇九	一四〇、八七七四五〇	—	一五二、九二六三五九
乃木小社保存基金	二、〇一〇〇一〇	二、〇一〇〇一〇	五〇〇〇	一、二五七八六〇
芝浦尋常小學校基本財產	一、二七〇八六〇	—	四七五〇〇	一、二〇八六八〇
鮫橋同上	一、一六一一八七	—	五〇〇〇	一、五八五四一〇
萬年同上	一、五三五四一〇	—	四七五〇〇	九四六三三七
玉姬同上	八九八八三七	—	五〇〇〇	九一二八一〇
三笠同上	八六二八一〇	—	—	六八〇六七〇
絕江同上	六八〇六七〇	—	五〇〇〇	九八九三九〇
靈岸同上	九三九三九〇	—	五〇〇〇	二、〇六一五〇〇
實科高等女學校基本財產	二、〇六一五〇〇	—	—	八、一三〇、〇二四三七〇
合計	一、四四八、八九二七三〇	四、九三九、二五二七七〇	一、七四一、八七八八七〇	

而シテ其繰替貸金ノ貸付財產ト借入經濟トヲ細別スレハ實ニ左揭第九號表ノ如クニシテ又明治三十七年三月市會議決ニ依リ日本銀行ヘ保護預ケト爲シ在ル前示基本財產及ヒ準備金ニ屬スル有價證券ノ種別及ヒ價格ハ左揭第十號表ノ如クナリトス

第九號表

繰替貸金貸付先調書

貸付財産名	借入經濟名	金額	備考
水道準備積立金	市經濟	三〇〇、〇〇〇円〇〇〇	隅田川改良費ニ充當
同	市區改正下水道改良費	六四〇、〇〇〇〇〇〇	
同	市立小學校建設費金	五四二、四七一〇〇〇	
同	電氣事業費	七〇〇、〇〇〇〇〇〇	
教育基金	市經濟	一三五、〇〇〇〇〇〇	圖書館建設費ニ充當
事業公債償還基金	市經濟	九八八、〇〇〇〇〇〇	金六拾參萬圓隅田川改良費ニ充當
同	市區改正下水道改良費	二六〇、〇〇〇〇〇〇	金參拾五萬八千圓河川浚渫費ニ充當
同	市立小學校建設費金	九二三、七八一七七〇	
公園改良準備金	市區改正下水道改良費	一五〇、〇〇〇〇〇〇	
同	市經濟	二〇〇、〇〇〇〇〇〇	河川浚渫費ニ充當
墓地準備金	同	一〇〇、〇〇〇〇〇〇	
計		四、九三九、二五二七七〇	

第十號表

基本財産積立金等ニ屬スル有價證券種別價格及時價調書

種類	額面又ハ株數	價額	大正三年六月三十日時價換算額	增減
第一回四分利公債	九七二、二〇〇円	九〇三、〇三一八〇〇円	七八二、六二一〇〇〇円	△一二〇、四一〇八〇〇円
甲號帝國五分利公債	二二五、〇〇〇	二一五、六五二九〇〇	二〇四、五二五〇〇〇	△一一、一二七九〇〇
特別帝國五分利公債	一四九、六五〇	一三六、二一三一七〇	一四二、一六七五〇〇	五、九五四三三〇
舊公債	一一二、二二五	一七、九五六〇〇〇	一二、九〇五八七五	△五、〇五〇一二五
農工債券	四〇〇、〇〇〇	三九三、〇〇〇〇〇〇	三三四、〇五〇〇〇〇	△五八、九五〇〇〇〇
勸業債券	二四〇	二四〇〇〇〇	二〇四〇〇〇	△三六〇〇〇
貯蓄債券	六〇	六〇〇〇	五〇四〇〇〇	△九六〇〇
農工銀行株券	三、〇九八株	七五、七二五〇〇〇	八六、七四四〇〇〇	一一、〇一九〇〇〇
計		一、七四一、八七八七〇	一、五六三、二六七七七五	△一七八、六一一〇九五

（△印ハ減）

尙ホ以上ノ諸計數ハ月別ノ調査ヲ存セサルヲ以テ本年六月三十日現在ニ就キ特ニ之ヲ作成セシメタルモノナリ

一般的事實ニ對スル意見

一、市公金中基本財産及ヒ積立金ニ屬スルモノヽ管理ニ關シテハ市制第百六十七條ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ經ヘキ筋合ナリ而シテ銀行ニ預金スルハ管理行爲ニ屬スト解スヘキハ勿論ナルヲ以テ市ハ府知事ノ許可ヲ經ルノ手續ニ出テサルヘカラサルニ未タ曾テ此手續ニ出テサリシハ失當ナリトス、尤モ其中水道經濟ニ屬スル分ハ府知事ノ許可ヲ經タルモノアリト雖モ這ハ東京市區改正條例其他ノ規定ニ依レルニ過キサルナリ

二、市公金ノ預託ニ關シ市ト銀行トノ間ニ於ケル取引ノ條件ハ契約ノ內容ヲ成シ預金者タル市ノ權利ニ消長ヲ來スヘキ重要ナル關係ニ屬スルヲ以テ市制第四十二條ニ依リ市會若シクハ其委任シタル市參事會ノ決議ヲ經サルヘカラサル事項ナルニ市當局者カ

未タ曾テ附議ノ手續ニ出テタルコトナク特別市制時代ノ舊慣ヲ其儘襲用シテ今日ニ至レルハ失當ナリトス

三、市公金預託銀行ノ數現下十二ヲ算スルハ多キニ過ク元來市カ銀行預金多數分割ノ制ヲ採リタルハ預金ノ安全ヲ期スルノ必要ヲ超ヘ取扱上煩些ナル關係ト手數トヲ免カル、能ハス銀行ノ數多ケレハ資産信用ノ上ニ於テ變動ヲ來スモノ亦自ラ多カルヘキハ理ノ當然ナリ乃チ東京市ノ財政上既定ノ事業ヲ進行スル爲メ借入又ハ募債ヲ爲ス必要アル場合ニ其取引關係ニ適當ナル資格ヲ有シ且ツ基礎確實ニシテ資金ノ豐富ナル若干ノ大銀行ヲ選擇スル等ノ方策ニ出テサリシハ適當ナル措置ト認ムルコトヲ得ス

四、市公金預託銀行ニ付テハ一定ノ資格條件ヲ定メ市當局者ハ其自由ナル意見ヲ以テ之ヲ具備スルモノヽ中ヨリ十二銀行ヲ選定シタリト雖モ其選定シタル銀行中ニハ市民ノ一般ニ不適當ト認ムルモノアリ這般ノ關係ニ付テハ夫ノ東京府農工銀行カ派出金庫事務ノ委任ヲ二三ノ小銀行ニマテ及ホシタル關係ト共ニ市民ノ疑惑ヲ抱クモノアル所ニシテ從來種々ナル物議ヲ生シ之ヲ以テ市會議員操縱ノ具ニ供スルモノナリトノ批難亦尠カラス之ヲ過去十數年間ノ事蹟ニ顧ルモ所謂火ノ無キ所ニハ烟立タストノ譬ニ洩レサルノ憾ミナシトセス且現在ノ公金銀行中ニハ二、三流以下ニ屬シ其偶々數字上多大ノ資本金及ヒ積立金等ヲ有スルモノト雖モ世上種々ノ風評ヲ招キ株式ノ時價ハ拂込額ヨリ低下シテ約其半額ニ及ヘルモノアリ市當局者ニシテ銀行經營ノ眞相ニ多少ノ注意ヲ拂ハヽ不安ノ情況ヲ認メ得ヘク若シ又不安ノ情況ヲ認メタリトセハ故ラニ知ラサルヲ裝ヒテ銀行ノ改選ニ付キ機宜ノ措置ニ出テス延テハ遂ニ萬世銀行ノ支拂停止ニ逢著スルニ至リシ如キハ失當ナリトス

五、公金預託銀行ヨリ提供セシムル預金ノ擔保品ハ固ヨリ市參事會ノ決議ヲ經タリト雖モ其株券中ニハ信用ノ薄弱ナルモノ尠カラサルニ之ヲ引受クルニ當リテ市當局者ハ其時價ニ付キ細心ノ注意ヲ拂ハス本年五月末日ノ調査ニ依レハ擔保品價額ト殆ント同額ノ預金ヲ爲シ(別表第一號參考)且ツ擔保品中日ニ月ニ下落スル株券ヲ其儘保留シテ何等機宜ノ措置ニ出テサルモノアリ爲メニ擔保ノ效力ヲ減少スルコト洵ニ尠カラサルハ遺憾ナリ

六、十二銀行ニ對スル定期預金利息ハ年五分八厘ニシテ之ヲ据置ト爲シ一方預金ナキ他銀行ヨリ年八分强ヲ以テ借入ヲ爲セルハ失當ノ措置ナリトス若シ夫レ時ニ應シテ預金ヲ運用シ得サルモノアルカ如キハ是レ公金ヲ死藏シテ單ニ銀行ヲ利スルモノニ外ナラス相當ノ利息ヲ徵シテ利殖シツヽアリトノ事實ヲ以テ死藏ニアラスト云フカ如キハ迂論ナリ加之借入ノ必要アラハ須ラク公金銀行ヨリ借入ルヘク若シ又他ノ銀行ヨリ借入ルヽノ止ムヘカラサル事情アリトスルモ利息等ノ條件ニ付キ公金銀行ト同樣ニ爲サシムルノ交渉ヲ毫モ試ムル所ナク全ク多年ノ情弊ニ捉ハレ市當局者カ貸出ヲ爲シ能ハサル銀行ニ預金ヲ爲スノ不便宜ト不合理トニ甘ンシ來レルハ遺憾ニ堪エサル所ナリ

七、市公金ノ預入及ヒ引出ニ關シテハ自由ナル權限ヲ市當局者ニ附與シアルカ故ニ若シ市當局者カ周圍ノ事情ニ支配セラレ之ヲ排去スルノ誠意ト勇斷ナキニ於テハ或ハ預入又ハ引出ヲ一部ノ銀行ニ偏スルコトアルヘク或ハ便宜ニ應シ一銀行ノ預金ヲ引出シテ之ヲ他ノ銀行ニ預入スルコトアルヘク或ハ又銀行ニ於テ擔保品取戻ノ必要上市ニ對スル預金引出ヲ餘儀ナクセシメラルヽコトアルヘク斯カル取扱ハ事實トシテ決シテ稀ナリト謂フヲ得サルヘシ又之レカ爲メ市當局者若クハ其他ノ關係者ト銀行トノ間ニ於テ私密ノ取引等ヲ生スル等畢竟公表スヘカラサル情實ノ纏綿スルヲ免レサルヘケレハ禍根ハ實ニ這般ノ裡ニ胎胚スルコトヲ知ラサルヘカラス市當局者カ各銀行ノ公金預入引出ノ順序金額等ニ付キ公平ヲ失セサル樣自ラ規律シテ取扱ヲ愼重ニスル所ナカリシハ失當ナリトス現ニ第三、中井及ヒ東京府農工ノ三銀行カ他ノ各銀行ニ比シテ多大ノ預金ヲ抱擁シ居レルハ決シテ預金標準額ニ比例セルモノニアラス(前揭第一號表參考)又他ニ何等正當ノ事由ヲ存セサルカ如シ而カモ如上ノ現象ハ時ニ增減ナキニアラサルモ概ネ數年前ヨリ持續シ來レル所ニシテ全ク公平ヲ得タルノ取引ト認ムルヲ得サルハ遺憾ナリ

八、市町村財務規程第二十八條ニ依ル市金庫事務取扱ノ擔保ハ別トシ一般ノ預金ニ對スル擔保品徵求ノ制度ハ之ヲ採用セル現時ノ取扱ニ於テハ市銀行共ニ其手續煩雜ヲ極メ又預金銀行ハ擔保徵求ノ制度アルカ爲メニ預金利子ノ如キモ一般市場ノ利率ヨリ低下シ市ノ損失ハ多年ノ間ヲ積算スレハ決シテ尠シトセス又近時萬世銀行ノ支拂停止ニ鑑ミルモ必スシモ擔保品ノ提供ニノミ信

據スヘカラサル事由アリ然ルニ一方又擔保品ヲ提供セシムレハ銀行カ萬一ノ危險ニ逢遇スルモ公金ノミハ結局回收ヲ爲シ得ルコト、ナリ今回ノ萬世銀行トノ關係ノ如ク市ノ預金ハ擔保品處分ノ上損害無キヲ期シ得ヘシ而シテ第一流ノ大銀行ハ到底擔保ヲ提供シテ預金ヲ引受クルコトヲ爲ササルヘキヲ以テ委員會ハ擔保ヲ徵セスシテ一流銀行ニ預金スルヲ是トスヘキ歟又ハ二流以下ノ銀行ト雖モ擔保ヲ徵シテ預金スルヲ可トスヘキ歟其利害得失ノ岐ル、處ヲ比較考察シ討議ヲ重ネタル結果擔保制ヲ否認シテ之ヲ決議シタリ然レトモ市町村財務規程ニ依リ徵求スル擔保ノ種別ニ付テハ現下株式界ノ情況ニ徵シ大ニ選擇スルノ必要アリ監督官廳ノ許可ヲ受ケタルモノト雖モ市價ノ低落久シキニ渉ル株券ノ如キハ更ニ之ヲ排除スルノ手續ヲ爲スヘク殊ニ株券中未拂込ニ係ルモノハ拂込、名義書替、競賣若クハ失權等ニ付キ格段ノ注意ヲ加ヘサルヘカラス又轉質トシテ占有セル有價證券ニ付キテハ入替ノ取扱上多少ノ制限ヲ附スルヲ相當ナリト認ム

九、預金ノ種別ヲ多數ナル市經濟ノ科目ニ區分シタル爲メ各銀行ノ預金口座雜多トナレルハ現時ノ市財政ノ運用上頗ル不適宜ナル方法ニシテ豫算ノ組織竝ニ管理規定ニ於テ基本財産又ハ準備金等ヲ統合シテ預託シ以テ各科經濟間ノ融通ヲ簡捷圓滑ナラシメサルノミナラス各銀行ニ於ケル口座ハ總テ同一ナラサルヲ以テ經濟科目ニ依リテ遊金ヲ生スル口座ト出納ノ頻繁ナル口座トアリ銀行ノ融通自ラ均等ナルヲ得スシテ情弊ノ其間ニ生スル虞アルハ失當ノ取扱ナリトス夫ノ低利ノ預入ヲ擁シテ高利ノ貸出ヲ受クルカ如キ、矛盾セル現狀モ畢竟預金カ經濟ヲ異ニシテ、爲サレ在ルカ爲メ彼此流通ノ不便宜ナルコトモ亦其一因ヲ成スモノト認ム

十、同シク市公金ニシテ電氣局所管ノ各事業費經濟ニ係ルモノニ限リ別派ノ銀行ヲ指定シ他ノ一般及特別經濟ニ關係ナク無擔保其他特殊ノ取引契約ノ下ニ多額ノ公金ヲ單獨ニ預託セルハ公金管理上ノ統一ヲ缺キ市公金銀行ノ選定ヲ無視シタルモノニシテ固ヨリ失當ナリトス

十一、市金庫事務ノ代理ヲ東京府農工銀行ヨリ小銀行ヘ委託シタル關係中非議ノ多キモノニ付テハ市當局者ハ須ラク是等事實ノ眞相ニ付キ相當ノ調査ト注意ヲ爲スト同時ニ市金庫事務ノ取扱ハ今ヤ東京府農工銀行ヨリ辭退ノ旨ヲ申出タルヲ以テ其申出ニ對スル措置ヲ等閑ニ附セス速ニ適當ノ銀行ヲ選定スルノ方法ニ出テ此機ニ於テ從來ノ情弊ヲ一掃スルノ策ヲ講スルヲ緊要ト認ム

十二、基本財産及準備金中事業公債償還基金ヲ他ノ事業ニ流用充當シタルモノ其金額ノ約半ヲ占ムルカ如キハ眞ニ正實ナル財政運用ノ方途ナリト謂フヲ得ス畢竟市ノ信用ヲ失シ不安ヲ招キ將來公債ノ募集等ヲ困難ニ陷ラシムルニ至ルノ虞アル失當ノ措置ナリトス

十三、基本財産竝ニ準備金ヲ公債社債及ヒ株券ニ放資シタルモノ亦實ニ百七拾四萬圓ニ上レリ然ルニ市ノ財産目錄ニ記載シタル買入價額ヨリ低落ニ低落ヲ重ネタルモノ多ク之ヲ現在ノ時價ニ比較スルトキハ減損約拾七萬八千六百拾壹圓ニ及フヘキニ拘ラス（前掲第十號表參考）市當事者カ依然トシテ買入價格ヲ以テ財産ヲ計上表示セルハ姑息ニシテ市ノ內外ニ誤解ト不安ヲ惹起セシムル因ヲ成スモノトス

十四、市會計ニ關シテハ從來年計又ハ隨時計算ノ外月別ノ計數報告ヲ存セサルヲ以テ年度間ニ於ケル各月ノ經濟狀態明確ナラス延テ毎年度ノ市經濟運用上月ニ依リ加減ヲ爲スノ資料ヲ缺ケルハ用意ノ周到ナラサルモノト認ム

各箇ノ事實及ヒ之ニ對スル意見

一、公金預託ノ各銀行ヨリ市ニ差入レタル定期預リ金證書ハ總テ印刷ノ例文書面ヲ用ヰ其契約文言ニ約定期日ノ到來前ト雖モ市ノ請求ニ依リ元利金ヲ返濟スヘキ旨ヲ明示セルモノト全ク其點ヲ明示セサルモノトノ二樣アリ現在保管セル證書ノ多數ハ前者ニ屬スト雖モ萬世銀行一口貳萬圓、帝國商業銀行二口參萬七千五百五拾六圓七拾貳錢五厘及明治商業銀行ノ四口六萬圓ハ後者ニ屬スルモノニシテ而カモ特約文言ノ印刷ナキ分ニ對シテモ筆書ヲ以テ之ヲ加入シタルモノ多キニ拘ラス前示六通ノ證書ニハ之ヲ遺脫シタル儘受理シ在ルカ爲メ權利トシテハ隨時回收ノ便益ヲ失ヘルハ遺憾ナリ遡テ各銀行トノ既往ノ契約條項ノ如何ナリシヤハ證書書換ト同時ニ舊證書ヲ銀行ニ返戻シ且ツ市ニ何等ノ控寫ヲ留メサルヲ以テ之ヲ認定スルコト難シト雖モ概ネ現在ト

同一ノ狀況ヲ持續シ來レルモノヽ如シ、尤モ此特約ナキモ德義上ハ期限前ト雖モ預金ノ引出ニ應シタルノ例モアルヘシト雖モ而カモ萬世銀行ノ如キハ目下破綻ヲ來シタルニ拘ラス契約上此特權ヲ行使スルヲ得ス空シク本年九月十六日ナル期限ノ到來ヲ俟タサルヘカラス此間若シ擔保ノ目的タル株券カ益々下落スルノ傾向アルトキト雖モ豫メ其處分ニ着手スルヲ得ス又帝國商業銀行ノ一口金貳萬圓、明治商業銀行ノ一口金壹萬圓ノ如キハ公金整理ノ必要上市カ此際一旦引出ヲ希望スルモ本年十一月十二日ノ期限ノ到來スルニアラサレハ請求ノ權利ヲ生セサルモノトス

二、東京府農工銀行ニ對スル市公金ノ當座預金ハ市參事會ノ決議ニ依リ明治四十一年九月以來所謂短期定期預金ニ改メシカ其現在額ハ二口八萬圓ナリ而シテ短期定期預金ノ期間ハ一ケ月以內ニシテ必要ナル場合ニ於テハ約定期限ニ拘ラス之カ引出ヲ爲シ得ルノ條件アリ其利率ノ如キモ日步壹錢貳厘ノ割合ナレハ當座預金ニ比シ別ニ不利益無キカ如キモ假令短期トハ言ヘ既ニ定期ノ預金タル以上其引出ニ付キ當座ニ比シ銀行及ヒ市當局者間ニ於テ隨時ノ回收上多少ノ手加減ヲ加フルハ人情ノ免レサル所ニシテ而カモ實際ニ於テハ期限ニ至リ證書ヲ改メテ期間ヲ更新スルコト多キ爲メ短期ナラサル定期預金ト殆ント區別存セサルニ至リ手數ノ上ニ於テハ反テ證書更改ノ煩ヲ加フル位ナリ是レ市參事會決議ノ當時ニ在リテハ農工銀行法ニ當座預金ヲ認メサリシ趣旨ニ基キ當座ヲ短期定期ニ改ムルノ止ムヲ得サリシナルヘシト雖モ同法ハ明治四十三年四月改正セラレ拂込資本金額ヲ超過セサル金額ノ當座取引ヲ開始スルコトニ至リタルニ拘ラス市ハ依然トシテ短期定期預金ノ方法ヲ改ムルノ議ニ出テスシテ今日ニ至レルモノトス

三、市ハ明治三十二年十二月以來萬世銀行ニ對シテ市公金ノ取扱ヲ約シ現在ニ於テハ當座預金八萬圓、定期預金貳萬圓合計金拾萬圓ヲ預入シ居レリ曩キニ該銀行ハ其營業情態ニ就テ兎角ノ世評アリシカ本年三月二十四日ニ至リ遂ニ支拂停止ヲナスノ窮狀ニ陷リタリ然ルニ此營業上ノ不信用カ暴露セル當日ニ先立ツ僅ニ一週間前ナル同月十七日ヲ以テ市カ該銀行ニ預入セル定期預金貳萬圓ノ約束期限ニ達シタルニ市當局者ハ直ニ該金額ノ定期預入ヲ繼續シ改メテ本年九月十六日ヲ以テ其期限ト爲シタル爲メ差當リ引出ノ途無キニ至レルモノトス

四、市當局者ハ本年六月二日萬世銀行カ擔保トシテ提供セル有價證券ノ一部ヲ賣却シテ其整理ヲナスノ止ムヲ得サルニ至レリ元來該銀行カ市ニ提供セル擔保ハ帝國五分利公債、農工銀行債券、同銀行株券及ヒ鬼怒川水力電氣株券等其主ナルモノナリシカ市當局者ハ右整理ヲナスニ際シ特ニ選ンテ市場ニ確實ナル信用ヲ有スル公債及社債ヲ賣却シ眼前ニ市價ノ低落ヲ示シツヽアル其餘ノ株券ヲ保存シタルハ前後輕重ノ甄別ヲ愆リタルモノト謂フヘク且ツ夫レ市當局者カ該銀行提供ノ擔保ヲ處分シテ預金ノ回收ヲナサヽルヘカラサル情勢ニ至リタルハ明白ニ該銀行ノ營業情態カ不安ノ急迫ニ陷リシヲ證明スルモノナルニ今日ニ至ルマテ之ニ對シテ何等整理ノ方法ヲ講セサリシモノトス

五、市カ東京府農工銀行債券ヲ引受ケタル申込價格ノ總計ハ參拾九萬參千圓ニシテ額面金額ニ依リ之ヲ區別スレハ明治四十四年七月拾萬圓、同四十五年二月拾萬圓、同年七月拾萬圓、大正元年十一月五萬圓、同二年三月五萬圓ノ五回ナリ而シテ其中後三回ノ合計貳拾萬圓ニ付キテハ銀行ヨリ市ニ對シ市ニ於テ必要ヲ生シタル節ハ申込價格ヲ以テ買入償却スヘキ旨ノ特約證書ヲ差入レアリ市ハ必要ニ應シ何時ニテモ申込價格ヲ以テ買戻サシムヘキ權利ヲ保有セルニ拘ラス、爾來市經濟ノ狀況ニ微シ資金ノ供給ヲ感シタル場合ニ於テモ其全部又ハ一部ニ付キ此特權ヲ行使スルノ途ニ出テタルコトナシトス

六、市ハ明治四十三年五月ニ於テ第一回帝國四分利公債ノ募集ニ應シ其發行價格九拾五圓以上ニ對シ九拾五圓拾錢ノ申込價格ヲ以テ額面九拾七萬貳千圓ヲ引受ケタリシカ凡ソ斯クノ如キ一括シタル多額ノ申込ヲ爲スニ當リテハ反面ニ於テ多少ノ利益ヲ享クルヲ得ルハ殆ント這方面ニ於ケル當然ノ事例ニ屬ス然ルニ市カ一般ノ條件ニ從ヒ發行價格以上拾錢ノ增率（プレミアム）ヲ以テ引受ケタルハ表面毫モ間然スル所ナシト雖モ此間市ヲシテ何等特殊ノ利益ヲモ得セシムルコトヲ爲サヽリシハ事餘リニ形式ニ過キ市ノ爲メニ忠實ナル措置ト認ムルヲ得ス

前途ニ處スル委員會ノ希望

委員會ハ上來報告シタル事實及ヒ意見ニ基キ力メテ情實ト弊竇トヲ芟除シ市公金ノ保管ヲ安固ニシテ其運用ヲ便宜ニスル爲メ將來ニ於テハ新ニ市公金管理ニ關スル規程及ヒ其施行細則ヲ制定シ現行ノ關係規定中包括シ得ヘキモノハ整頓シテ成ルヘク之ヲ包括シ市電氣局所管ノ各事業費經濟ニ屬スル公金ヲモ同一ノ取扱ニ置カシメ且ツ新規定ニ抵觸スル從前ノ規定ハ總テ同時ニ廢止スルヲ以テ最モ適當ノ措置ナルヘシト信ス而シテ其取扱ニ關スル規定ノ細目ニ至リテハ固ヨリ市當局者ニ於テ成案アルヘシト雖トモ管理ニ關スル事項ノ中市公金預託ニ關シテハ委員會ハ左記ノ事項ヲ其規程中ニ明定セラレンコトヲ切ニ希望スル所ナリ

一、預託銀行ノ資格條件

(一) 銀行ノ資本金拂込濟額ト積立金トノ合計金五拾萬圓以上トアルヲ五百萬圓以上ニ改正スルコト

本項ハ一般銀行經濟界ノ現狀ニ鑑ミ現行條件ヨリ十倍ノ高キニ引上クルノ趣旨ニシテ蓋シ固ヨリ少數ナル確實ノ銀行ヲ選擇セントスルノ意ニ外ナラス今日ニ於テハ五百萬圓トナスモ未タ以テ高キニ過キサルヘシト信ス仍テ其引上ヲ爲スタメ之ヲ改メントス（別表第二號參考）

(二) 銀行ノ創立後滿五年ヲ經過スルヲ要ストアルヲ十年以上ニ改正スルコト

本項ハ銀行ノ基礎及ヒ經營ノ特ニ確固タルモノヲ選拔セントスルノ意ニ外ナラス仍テ之ヲ改メントス（同上參考）

(三) 東京市ニ本店ヲ有スルコト及ヒ手形交換組合ニ加盟若クハ代理依託セルコトノ現行條件ハ共ニ之ヲ廢スルコト

本項ハ近來ニ在リテハ東京市以外ニ本店ヲ有スル銀行ト雖モ他ノ各條件ニ該當スル資格ヲ具備スル大銀行アリ然ルニ東京市ニ本店ヲ有セサル一事ヲ以テ是等ヲ除外スルハ交通ノ最モ進歩シタル銀行取引界ノ現狀ヨリ觀レハ寧ロ無要ノ制限ニシテ而シテ如上ノ各資格條件ヲ完備スル銀行ハ實際ニ於テハ殆ント總テ手形交換組合ニ加盟セルナルヘシト雖モ假令偶々加盟セサルモノアリトスルモ市公金預託ノ上ニ於テ之ヲ除外スルノ必要ヲ認メス仍テ之ヲ廢セントス

二、預金取引ノ種別

預金ハ定期及ヒ當座ノ二種ノ取引ニ定メ現行ノ經濟科目ニ依ル口座ノ區別ヲ廢スルコト

本項ハ市經濟ノ科目ニ依リ各銀行ノ預金ニ多數ノ口座ヲ設クルハ無益ノ區別ト認メ其煩些ナル關係ヲ除カンカ爲メ經濟科目ハ市會計ノ簿面ニ止メ銀行ヘノ預金ハ各經濟科目ヲ總括シテ定期及ヒ當座ノ二種ノ取引ニ區別シ其他ノ區別ヲ設ケサルコトニ改メントス（前掲第二號表參考）

三、預金額ノ制限

預金ハ資本金拂込額ト積立額トヲ併セタル金額ノ半額ヲ超過スルコトヲ得サル現行ノ制限規定ハ之ヲ維持スルコト

本項ハ將來ニ於テモ市公金預託ノ安全ヲ企圖スル上ニ於テ相當ナル制限ト認ムルヲ以テ之ヲ存セントス

四、月別計算ノ報告

預金ノ現在其他ノ會計狀態ヲ毎月末ヲ標準トシ月別ニ之ヲ報告公示スルハ市經濟運用上頗ル適當ノ方法ト認ムルヲ以テ之ヲ要求セントス

市公金預託銀行ノ資格條件改正ノ結果從來ノ資格ヲ喪失スルト否トヲ問ハス現在預託銀行ノ預金ハ總テ此際一旦回收シ更ニ改正資格ノ各銀行ヘ改正規定ニ依リ適宜ノ按配ヲ以テ預託スルノ方法ニ出テンコトヲ希望ス又市金庫事務ノ取扱其他ノ擔保品タルヘキ有價證券ハ總テ株金拂込未濟ノ株券ヲ廢除スルコトニ改ムルヲ要ス蓋シ株金ノ拂込未濟ノ株券ハ會社ノ經濟狀態株主ノ資力關係等ヨリ權利ノ異動ヲ生スル場合尠カラスシテ安全ヲ缺ク虞アリ近來ノ株式ニ於テ殊ニ其然ルヲ覺ユ尤モ未拂込ノ株券ト雖モ會社ニ依リテ固ヨリ確實ナルモノアリト雖モ之ヲ區別スルハ動モスレハ詮衡ノ當ヲ失スル虞アルヲ以テ總テ除外スルコトニ改メ（別表第三號參考）尙ホ其ノ選定セラレタル各種ノ擔保證券ハ現行ノ如ク單ニ告示スルニ止メス之ヲ規程中ニ明定シ若シ將來加除スルノ必要ヲ生シタルトキハ其都度一部ノ改正ヲ施スヘク要ハ規定ヲ嚴重ニシテ擅リニ改廢セサラシムルニ在リ

市公金預金、擔保對照表

（大正三年五月三十一日現在）

擔保價格	預金額	銀行	擔保價額	預金額	銀行
八三二、七七一〇〇〇円	七八四、一一〇円	第三銀行	三六三、五五〇〇〇〇円	二四〇、〇〇〇〇〇〇円	東海銀行
一八八、八二四〇〇〇	一八七、五五六	七二五	三六〇、九八五〇〇〇	二四〇、〇〇〇〇〇〇	明治商業銀行
二六一、五三六〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	〇〇〇	七一七、三四五〇〇〇	七一五、〇〇〇〇〇〇	中井銀行
二二三、四〇二〇〇〇	二一八、〇〇〇	〇〇〇	一九〇、七六五〇〇〇	一九〇、〇〇〇〇〇〇	八十四銀行
四六九、九四八〇〇〇	二七五、〇〇〇	〇〇〇	二六九、九〇〇〇〇〇	二二五、〇〇〇〇〇〇	麺町銀行
一九六、八〇〇〇〇〇	一八五、〇〇〇	〇〇〇	一二九、三四七〇〇〇	一二〇、〇〇〇〇〇〇	萬世銀行

備考　萬世銀行ハ擔保價格金拾貳萬九千參百四拾七圓ノ外現金六拾四圓拾八錢ヲ保留ス

參考第二號

各銀行資本金拂込額竝積立金額表

銀行名	設立年月日	拂込資本金額	積立金額
日本銀行	明治十五年十月	參千七百五拾萬圓	貳千八百貳拾八萬圓
日本勸業銀行	明治三十年六月	千七百五拾萬圓	參百九拾五萬七千四百圓
日本興業銀行	明治三十五年三月	千七百五拾萬圓	百六拾四萬九百四拾參圓
第一銀行	明治六年七月	千貳百九拾參萬七千五百圓	七百九拾五萬圓
第三銀行	明治九年九月	四百參拾五萬圓	參百四拾萬圓
第十五銀行	明治十年五月	貳千參百五拾萬圓	參百七拾萬圓
第百銀行	明治十一年六月	四百萬圓	參百八拾八萬圓
安田銀行	明治四十四年八月	千萬圓	九拾萬圓
三井銀行	明治四十二年十二月	貳千萬圓	四百九拾五萬圓

備考　本表ハ大正二年下半期ノ決算ニ係リタルモノニシテ安田銀行及三井銀行ハ組織變更及增資ノ結果ヲ表示スルモノトス

大阪市公金取扱銀行擔保品種類及價格表（第一號）

府債公債	四五分利（額面百圓ニ付）	八拾參圓七拾貳圓	
大阪市公債	六分利五分利	（同上）	八拾七圓七拾四圓六拾九圓
四十回		（同）	
四十五回、四十六回		（同）	七拾四圓
日本銀行株	新舊株	參百八拾八圓貳百七圓	
横濱正金銀行株	新舊株	百六拾壹圓六拾八圓	
日本勸業銀行株	新舊株	參百拾貳圓貳百九拾圓	
神戸市築港公債		（同）	八拾七圓
勸業債券		三十三回、三十六回（同）	
		三十四回（同）	六拾六圓
朝鮮銀行株			九拾六圓
北海道拓殖銀行株	舊株		五拾貳圓
	新株		四拾貳圓
臺灣銀行株	舊株		百貳拾九圓
	新株		八拾五圓
日水興業銀行株			五拾圓
以上			

大阪市公金取扱銀行擔保品種類及價格表（第二號）

政府公債	價格ハ時價ノ百分ノ九十ヲ以テ算出ス	上
大阪市公債	同	上
神戸市築港公債	同	上
勸業債券	價格ハ時價ノ百分ノ八十ヲ以テ算出ス	上
北海道拓殖銀行株	同	上
日本銀行株	同	上
横濱正金銀行株	同	上
日本勸業銀行株	同	上
朝鮮銀行株	同	上
阪神電氣鐵道株式會社株	同	上

日本銀行擔保品種類價格表

種類	價格	種類	價格
日本興業銀行株	同上	同	同上
臺灣銀行株	同上	阪堺電氣軌道株式會社々債	同上
株式會社日本製鋼所社債	同上	箕面有馬電氣軌道株式會社々債	同上
日本郵船株式會社株	同上	株式會社川崎造船所社債	同上
大阪商船株式會社株	同上	宇治川電氣株式會社々債	同上
大阪商船株式會社々債	同上	大阪電氣株式會社株	同上
東洋汽船株式會社々債	同上	大阪瓦斯株式會社株	同上
南海鐵道株式會社株	同上	以上	
同　社々債	同上		
帝國政府發行各公債	時價ニ依ル	南海鐵道株券	五拾五圓
大阪市公債證書	時價ノ八掛	日本郵船株券	六拾五圓
大阪市築港公債證書	同上	横濱正金銀行株券	百四拾五圓
大阪市電氣鐵道公債證書	同上	大阪商船株券	貳拾八圓
清國政府五分利付鐵道公債證書	同上		
	八拾圓		

右調査委員ノ意見ニ對シ、理事者ヨリハ、十月十三日附ヲ以テ左ノ辯明書提出アリタリ。

一發第四、四七一號

市公金ニ關スル市會檢査委員報告ニ對シ別紙辯明書提出候也

大正三年十月十三日

東京市會議長中野武營殿

東京市長法學博士男爵　阪谷芳郎

▽理事提出ノ辯明書

市公金ニ關スル市會檢査委員報告ニ對スル辯明書

市會檢査委員ノ市公金ニ關スル調査事項ハ、細密ニ渉リ、且ツ理事者ニ對シ有益ナル注意ヲ與ヘラレタルコトヲ深謝ス。然レトモ其ノ未タ事實ヲ盡ササル點ト、其ノ見解ヲ異ニシタル點ニ就キテハ、市會ノ議決ニ先チ、一應之ヲ辯明シ置クヲ適當ナリト信ス。

一、基本財産管理手續ニ關スル件

基本財産ノ管理手續ハ、府知事ノ許可ヲ經ヘキモノナルニ、從來銀行ニ預金スルニ當リ、其ノ手續ヲ經サルハ失當ナリト云フニアルモ、市制第百六十七條ハ、新ナル基本財産ヲ設定スルニ當リテ要スル手續ナリト信シタルニ依ルモノニシテ、本問題タル基本財産ハ、既ニ舊市制時代ニ於テ設定セラレタルモノニ係リ、當時豫算ヲ以テ市會ノ議決ヲ經、銀行預金トナシ來リタルモノナレハ、即チ新舊市制町村制ノ經過法タル、明治四十四年勅令第二百四十三號第一條「市制町村制施行前、舊市制町村制ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ、本令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外、之ヲ市制町村制ニ依リ爲シタルモノト見做ス」ニ該當スルモノトシテ取扱ヒ來レリ。然レトモ其ノ管理方法ニ關シテハ、各種ヲ通シテ統一的ナル規程ノ制定ヲ期シ、目下調査中ナルヲ以テ、近キ將來ニ於テ相當ノ案ヲ具シ、市會ノ議決ヲ求メ、府知事ノ許可ヲ受クルノ手續ヲ取ルコトト爲スヘシ。

二、預託銀行トノ取引條件ニ關スル件

市公金、預託銀行トノ取引條件ハ市ノ權利ニ消長ヲ來スヘキ重要ナル關係ニ屬スルヲ以テ、市制第四十二條ニ依リ、市會若クハ其ノ委任シタル市參事會ノ議決ヲ經サルヘカラサルニ、之カ手續ニ出テサルハ失當ナリト云フニアルモ、既ニ豫算ニ於テ銀行預金ト

ナスコトヲ議決セラレアル以上ハ、其ノ餘ノ手續ハ市制ノ執行ニ屬シ、其ノ結果資金ノ緩急ヲ圖リテ、定期預金若クハ當座預金トシテ保管スルハ、市制第八十七條第二項第二號ニ所謂『財産及營造物ヲ管理スル事』ナル條文ニ當リ、全然市長ノ權限ニ屬スルモノナリト信ス。即チ豫算ノ定ムル處ニ依リ、工事施行ノ請負ヲ爲サシメ、又ハ物品ノ購買ヲ爲スニ當リテ、其ノ契約條件ハ專ラ市長ノ定ムル處ニシテ、一々之ヲ市會ノ議ニ付セサルト同一ナリト信ス。

三、預託銀行ノ數ニ關スル件

現下ノ如キ市公金預託銀行ノ數多キハ、取扱上煩些ナル關係ト手數トヲ要スルノミナラス、資本信用上ノ變動モ亦從テ多シ。然ルニ資金ノ豐富ナル若干ノ大銀行ヲ選擇セサリシハ、適當ナル措置ニアラスト云フニアルモ、當初銀行選定ノ時ニ當リ、三井、三菱ヲ初メ、第一、第十五、第百等、所謂市内ニ於ケル大銀行ニ交渉シタルモ、擔保制度其ノ他ノ事情ニ依リ、其ノ承諾ヲ得ルニ至ラサリシナリ、而シテ銀行數ノ少ナキハ、固ヨリ資産信用ノ上ニ於テ變動少ナシト雖、政府ト日本銀行トノ如ク絶對ノ信用ナキ以上ハ、萬一變動ヲ生シタルトキハ、其ノ變動ノ結果タルヤ、預金ノ分量ニ於テ大ナル危險アルヘキヲ豫想セサルヘカラス、是ニ於テ從來ノ方針トシテハ、預金ノ確實安全ヲ期センカ爲、分割主義ト、擔保制度トヲ採用セリ。之カ爲萬世銀行ノ如キ事件ノ發生スルニ當リテモ、其ノ危險ノ程度少ナク、損失ヲ蒙ルコトナクシテ、終局ヲ見ルヲ得ヘシト信スルナリ。

四、預金銀行選定ニ關スル件

選定シタル市公金預託銀行中ニハ、市民ノ一般ニ不適當ト認ムルモノアリトハ、當局者ノ信スル能ハサル所ナリ。固ヨリ經濟界ノ變動ニ依リ、銀行營業者ニモ榮枯盛衰アルハ、數ノ免カレサル處ニシテ、長キ間ニ於テハ、現在ノ預託銀行ノ内ニ於テモ、亦多少ノ變態ナキヲ期シ難カルヘシ。是ニ於テカ當局ハ、常ニ是等銀行ノ經營上多大ノ注意ヲ拂ヒ、其ノ取引上ニ相當ノ手加減ヲ加フルニ毫モ怠ルコトナキヲ期セリ。然レトモ萬世銀行事件ノ如キハ事後ノ今日ヨリ觀察スルトキハ、兎角ノ批評ヲ免カレサルヘシト雖事前ニ於ケル當時實際ノ情況ニ至リテハ、全ク之ヲ豫知スル材料ヲ得ル能ハサリシナリ。乃チ該事件ハ突發的ニシテ、銀行當事者ニ於テモ、亦其ノ事ノ意外ナリシコトニ驚キタル事情タリシコトハ頗ル遺憾ノコトナリトス。此ノ如キハ獨リ萬世銀行ニ於テノミ現ハレタル事件ニアラスシテ、往々大銀行ニ於テモ亦其實例アルヲ見ルナリ。

五、擔保品ニ關スル件

擔保品ノ價格ニ關シテハ、時ノ相場ニ從ヒ、時々之ヲ變更スルニ細心ナル注意ヲ拂ヒ、從來二、三箇月目ニ此變更ヲ爲シ來レリ。現ニ最近六月ニ變更シ、九月ニモ亦之ヲ行ヘリ。又預金額ト擔保價格ト同額ナルヲ批難セラルヽモ、其ノ擔保價格ハ種類ニ依リ、時價ノ五掛乃至九掛ヲ以テ常ニ之ヲ定メアルヲ以テ、預金額以上ノ擔保ヲ徴スルノ必要ナシ。若シ其以上ヲ要求スルコトトセハ、擔保價格ヲ時價ヨリ割引シテ決定スルコトヲシテ無意義ニ終ラシムルノ結果トナルヘシ。尚且ツ各銀行ノ提供スル擔保ハ、多クハ据置ニシテ、常ニ預金額ニ對シ數萬圓ヲ超過スルヲ例トセリ。偶々例示セラレタル五月末日ハ、諸税及水料ノ收入多大ナリシ爲、預金額ヲ增加シ、其ノ結果擔保ト預金ト略ホ同額ノモノアリシト雖、是等ハ以テ一時的ノ現象ニ過キサルナリ。

六、資金運用ニ關スル件

市ハ公金預託銀行ニ對シ、年利五分八厘ヲ以テ定期預金ヲ据置キ、一方電氣事業ノ爲メ年利八分强ヲ以テ借入レタルハ失當ニシテ公金ノ死藏ナリトセラルヽモ、市ハ目下電氣事業ノ外尚數多ノ事業ニ着手シ、預金ハ常ニ是等ノ事業資金ノ標的トナリ、之カ繰替融通ヲ要スルモノ少ナカラス。本年度ノ豫算ニ定メタル處ニシテ、財産ノ處分及繰替借入ヲ爲スコトヲ要スルハ、電氣事業費ノ外實ニ六百拾貳萬圓餘ニ上レリ、今其ノ内譯ヲ示セハ、左ノ如シ。

經濟別	事業別	借入又ハ財産處分豫定金額	經濟別	事業別	借入又ハ財産處分豫定金額
市	隅田川第二期改良	円 八六六、二三九	市	市區改正下水道改良費	六五〇、〇〇〇
市	河川浚渫	四七六、一〇三	市	下水改良	〇〇〇
市立小學校建設費	建設補助	二八四、五〇〇	市	區改正道路改正	八二〇、〇〇〇
水道	擴張	三、〇二七、四五一			〇〇〇
		〇六〇		計	六、一二四、二九四
					二八九

前掲事業ノ財源タル其ノ財産處分、若クハ借入金ニ依ル資金ハ、正ニ之ヲ得ル能ハサルノ事情アルヲ以テ、其ノ資金ノ成立スル迄ノ間ハ、市ノ現在預金ヲ以テ之ニ應セサルヘカラス。而シテ是等ノ事業ニ對シ、昨年度迄ニ繰替融通シタルモノ、實ニ四百九拾參萬圓餘ニ上リタルハ既知ノ事實ニシテ、其ノ餘ノ參百四拾萬圓餘モ既ニ之ヲ融通シ、若クハ融通ノ豫約アルモノニ係レリ。即チ六月末ニ於テ、前記參百四拾餘萬圓餘ノ現在殘金ヲ示シタルモノ、八月末ニ於テハ、既ニ貳百五拾萬圓餘トナリ、更ニ九月、十月ニ至テハ、漸次其ノ減少ヲ見ルハ當然ノ事ナリトス。今若シ是等ノ預金ヲ以テ電氣事業ニ流用センカ、前掲ノ事業ハ之カ中止ヲ爲サル限リハ、他ニ其ノ資金ヲ求メサルヘカラス。其ノ資金ヲ求ムルハ他ニ方法アルナク、現在ノ電氣事業ノ如ク他ヨリ借入金ヲ爲サヽルヘカラサルナリ、而シテ其ノ金利ノ如キハ、如何ナル資格ノ銀行ニ資金融通ヲ求ムルモ、格段ナル當初ノ契約ナキ限リハ、時ノ相場ニ從フノ外ナキハ當然ナルヲ以テ、直チニ預金利子ト借入金利子トヲ對比シ、其損得ヲ斷スルハ不可能ノコトナリト信ス。尙且ツ電氣事業ニ於テ借入レタル五銀行ニハ、公債募集ニ關シ特殊ノ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ、其ノ公債成立迄ノ間、其ノ融通ヲ求ムルノ便宜ナルコトハ、敢テ辯明ヲ要セサルヘシ。

七、公金預入引出ノ順序金額ニ關スル件

各銀行ノ公金預入引出ノ順序、金額等ニ付キ、公平ヲ失セサル樣自ラ規律シテ取扱ヲ愼重ニスル所ナカリシハ失當ナリトアルモ、當局者ハ其公金取扱ニ對シ、決シテ謂レナク預入引出其ニ一部ノ銀行ニ偏シタルコトナク、或ハ便宜ニ應シ、一銀行ノ預金ヲ引出シテ他ニ預入ヲ爲シタルカ如キ事實ハ絶對ニ之ヲ認メス。尙又銀行ニ於テ擔保品取戻ノ必要上、其ノ預金引出ヲ餘儀ナクセラルヽコトアルヘシトハ、其意味ヲ十分ニ了解シ能ハサルモ、斯ル事實ハ未タ一回タモ逢遇セサルノ事實ナリトス。現ニ第三、中井及東京府農工ノ三銀行ニ於ケル預金ノ他銀行ニ比シテ多大ナルハ、預金標準額ニ比例セルモノニアラス、又他ニ何等ノ正當ノ事由存セサルカ如シトセラルヽモ、預金標準額ナルモノハ、未タ曾テ之カ定メアルモノナシ。夫ノ明治四十二年ニ於テ當時ノ市參事會カ定メタル處ハ、即チ左ノ如クニシテ、唯預金銀行ノ資格ヲ定メ、併セテ預金ノ最高限度ヲ示セルニ過キサルナリ。

市ノ基本財産及準備金等ニシテ、預金ト爲ス場合ニ於テハ、左ノ事項ニ該當スル銀行中ヨリ、預ケ入レ銀行ヲ選定スルモノトス。

一、資本金ノ拂込額及積立金ヲ併セ、金五拾萬圓以上ナルコト。

一、東京市內ニ本店ヲ有スルコト。

一、五ケ年以前ノ創立ニ依ルコト、但豐國銀行ハ此限リニアラス。

一、手形交換組合ニ加盟若クハ代理依託セルコト。但農工銀行ハ此限リニアラス。

一、預金ハ資本金拂込額ト積立金ヲ併セタル金額ノ年額ヲ超過スルコトヲ得ス。但農工及日本興業銀行ハ、此限リニアラス。

加之預金額ヲ拂込資本金及積立金ニ比例セシムルカ如キハ、出納ノ手續上事實不可能ノコトニ屬セリ。即チ預金ノ引出ハ、其ノ所要經濟ノ資金ヲ其ノ必要ニ應シテ隨時引出スモノナレハ、其所要資金ノ率ニ比例的ニ必要ヲ生セサル限リハ、到底其ノ比例ヲ保ツ能ハサルハ自明ノコトナリトス。然ラサレハ各資金ヲ各銀行ニ比例シテ分割預金シ、其引出モ亦各銀行同時ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ實ヲ得ル能ハサルヘシ。此ノ如キハ其ノ手續ノ煩雜ナルノミニシテ、實益ナク、又云ソヘクシテ行フ能サルノコトナリ。故ニ現今ニアリテハ、其資金ノ性質ト金額ニ依リテ之ヲ考査シ、或ハ之ヲ分割預金シ、或ハ全部預金セリ。從テ所要資金ノ如何ニ依リ、彼是其ノ增減アルハ當然ノ事ニシテ、當局者ノ殊更ニ之カ取扱ヲ偏頗ニスルカ如キコトハ、アリ得ヘカラサルノ事實ナリトス。夫ノ前記三銀行ノ他ニ比シテ多額ノ預金アルハ、皆夫々理由アルコトニシテ、東京府農工銀行ニ在テハ、市金庫ヲ取扱ハシムルノ關係上、市經濟ノ普通歲入ノ全部ヲ預入スルノ豫約アリ、從テ家屋稅、營業稅ノ納期ニ於テハ、隨分多額ニ上ルコトアリ、又中井銀行ハ從前市ノ預託銀行タリシ日本通商銀行ト合併シタル結果、其預金ヲ引受ケタルト、又其預金中割合ニ引出ヲ要セサル資金アルニ依ル。又第三銀行ハ、各種重ナル資金ヲ預金シ、其ノ資金ノ出入比較的少ナキモノ多キ自然ノ結果ニ外ナラサルナリ。

八、擔保制度ニ關スル件

公金預託銀行ニ對スル擔保品徵求ノ制度如何ニ關シテハ、敢テ委員ノ決議ヲ否認スルモノニアラス、其ノ利害ハ篤ト之ヲ考究スヘ

シ。又金庫事務ヲ取扱ハシムル銀行ヨリ徵スル擔保ニ就キテハ、第五ニ於テ縷述シタルト等シク、當局者ニ於テ細心之カ注意ヲ怠ラサリシト雖、將來モ亦十分之ニ留意シテ萬全ノ方法ヲ取ルニ努ムヘシ。

九、預金口座ニ關スル件

預金口座ノ雜多ナルハ財政上ノ運用ニ不適宜ニシテ、其間情弊ノ生スル虞アルヲ以テ失當ナリトアルモ、假令銀行ノ口座ヲ單一ニ爲スモ、市事業ノ特別經濟ノ存在スル以上ハ、到底其ノ運用ヲ單純ナラシムルヲ得サルナリ。即チ其ノ運用ニ當リ繰替融通ノ場合ハ、各資金ニ對シ一々監督官廳ノ許可ヲ受クルヲ要シ、且第六ニモ縷述シタル如ク、資金ノ性質ニ依リ其ノ出入ニ緩急アレハ、其手數ハ之ヲ免カルヽヲ得サルナリ。而シテ其間情弊ヲ生スル虞アリ、又低利ノ預金ヲ擁シテ高利ノ貸出ヲ受クル等云々ニ對シテハ是亦既ニ第六ニ縷述シタル處ヲ以テ諒解セラルヘシト信ス。

十、電氣局所管預金銀行ニ關スル件

電氣局所管經濟ニ於ケル預金ノ方法ハ特殊ニシテ、管理上ノ統一ヲ缺クヲ失當ナリトセラルヽモ、電氣事業ハ一種ノ營業ナルヲ以テ、其ノ性質上之ヲ市一般ノモノト同一ナラシムルハ、其金錢取扱上頗ル便宜ナラサルモノアリ、是ニ於テ金庫制度ノ如キモ、特ニ監督官廳ノ認可ヲ經テ之カ除外例ヲ定メタル次第ナリ。從テ其ノ預託銀行ノ如キモ、當分舊東京鐵道會社時代ノ慣例ヲ襲踏シタルニ過キス。然レトモ是等ハ早晩其ノ統一ヲ圖ル考案ナルヲ以テ、相當ノ時期ニ於テ實行スルニ至ルヘシ。

十一、金庫事務代理ニ關スル件

市金庫事務ノ代理ヲ東京府農工銀行ヨリ小銀行ニ委託シタルニ非議多キモノアリト云フモ、是等ノ事實ハ曾テ之ヲ聞知セサルノミナラス、金庫事務ハ、農工銀行ニ命令シ其ノ取扱ニ當ラシメ、全然其責任ヲ負擔セシムルモノナレハ、假令代理者タル小銀行ニ於テ損失等ノコトアルモ、當然農工銀行ニ於テ其ノ責ニ任スルヲ以テ、市トシテハ何等損失ヲ蒙ルコトナシ。又農工銀行ノ金庫事務取扱ノ辭任ニ對シテハ、目下事務ノ都合上其ノ時期ヲ待ツモノニシテ、遠カラス其ノ解決ヲ爲シ得ヘシト信ス。

十二、事業公債償還基金流用ニ關スル件

事業公債償還基金ヲ他ノ事業ニ流用充當スルハ、市ノ信用ヲ失シ、不安ヲ招キ、將來公債ノ募集等ヲ困難ニ陷ラシムルニ至ルノ虞アル失當ノ措置ナリトアルモ、本件ハ大正二年第五十八號市會議決ニ係ル處ニシテ、單ニ資金ノ融通ニ止リ、敢テ之ヲ永久ニ流用固定シタルモノニアラス。而シテ斯ル短期ナル一時ノ融通ハ、其ノ償還ニシテ確實ナル以上ハ、所謂資金ノ死藏ヲ避クル所以ナリト信ス。

十三、公債社債及株券ノ價格ニ關スル件

市ノ財産目錄ニ記載シアル公債社債及株券ノ價格ハ買入價格ニシテ、時價ト比シテ大差アルハ、市ノ內外ニ誤解ト不安トヲ惹起スルモノナリトアルモ、財産目錄ハ、現在財産ノ實在ヲ明確ナラシムルニ外ナラスシテ、會社等ニ於ケルカ如ク、之ヲ以テ損益計算ノ資ニ供スルモノニアラス。而カモ其ノ種類、額面、數量等ヲ明記シアル以上、毫モ誤解ト不安トヲ惹起スルカ如キ虞ナキヲ信スルナリ。

十四、會計月別報告ニ關スル件

市會計ニ關シテハ月別ノ計數報告存セサルヲ以テ、各月ノ經濟狀態明確ナラストアルモ、市ノ出納ハ市制第百四十一條ニ依リ、每月末現在ヲ以テ之ヲ檢査シ、尙其ノ現計ハ之ヲ市公報ニ揭載シテ公表セリ。尙且委員ノ報告ニ係ル諸表カ、總テ月末計算書ヲ根據トセラレタルコトニ徵スルモ明カナレハ、何等カノ誤解ニ出テタルモノナリト信ス。

十五、定期預金證書文言ニ關スル件

定期預金證書中其ノ契約文言ニ約定期日ノ到來前ト雖モ、市ノ請求ニ依リ元利金ヲ返濟スヘキ旨ヲ明示セサルモノ六通アリ、是等ハ權利トシテ隨時回收ノ便益ヲ失ヘルヲ遺憾ナリトアリ、此ノ點ニ關シテハ、明カニ當局者ノ手落ナリシナリ。然レトモ事實トシテハ從來其ノ文言ノ有無ニ拘ラス、其ノ必要ノ生シタルトキハ、德義上之ヲ回收シ來リ、將來モ亦之ヲ回收シ得ルコトヲ信スルナ

リ。唯萬世銀行ノ件ニ至リテハ、稍其ノ事情ヲ異ニスルモノナリ。即チ既ニ支拂停止ノ後、擔保物件處分ノ時期ニ達シ居ルヲ以テ假令前記ノ文言アリト雖、市ノ利益保護ノ上ヨリ相當ノ時期ヲ待ツヲ要スルナリ。

十六、短期定期預金ニ關スル件

東京府農工銀行ニ於ケル短期定期預金ハ、當座預金ト同一ナルモ、定期ナル以上ハ、當座ニ比シ其ノ引出ニ付回收上多少ノ手加減ヲ加フルコトアルヘシトアルモ、該預金ハ期日前ニ回收シ得ルノ自由アルヲ以テ、其ノ取扱ハ當座預金ニ異ルナク、從來之カ爲ニ市ニ不便ヲ與ヘタリト感シタルコトナシ。唯之ヲ短期定期預金ト爲スハ、農工銀行法改正以前、即チ同行ニ於テ當座預金ヲ取扱フ能ハサリシ時代ノ習慣ヲ持續シタルニ過キサルナリ。

十七、萬世銀行預金ニ關スル件

萬世銀行ノ支拂停止ヲナシタル一週間前ニ於テ預金ヲ爲シ、差當リ之カ引出ノ途ナカラシメタリトハ事實ニシテ、頗ル遺憾ノ點ナリトス。右ニ關シテ既ニ第四ノ項ニ於テ縷述シタル如ク、當時兎角ノ世評アリシヲ以テ、當局者ハ各種ノ情報ヲ蒐集スルニ努メ、其ノ結果該銀行ノ危期ハ既ニ去リ、從前ノ信用亦回復シ、著々整理ノ上、確實ナル營業ヲ持續シ得ヘシトノ報告ヲ得タルヲ以テ、強テ擔保アル預金ヲ回收スルノ必要ナシト認メ、從來存スル預金ヲ其儘繼續スルニ至リシナリ。然ルニ支拂停止ノ事情突然發生シタルハ、頗ル遺憾トスル所ナルモ、當時ノ狀況ニ顧ミレハ、蓋シ止ムヲ得サル處置ナリシト信ス。

十八、萬世銀行擔保處分ニ關スル件

萬世銀行ノ擔保處分ニ關シ、其ノ擔保物ノ前後輕重ニ關シ批難セラルヽモ、其ノ處分ニハ二個ノ理由アリシナリ。(一)擔保物ハ各銀行共ニ自己所有ノモノト、他人名義ノモノトアルハ既ニ了知セラルヽ處ニシテ、萬世銀行現在ノ場合ニ於テモ亦此ノ兩者アリタリ。而シテ他人名義ノモノヲ處分セントセハ、其手續煩雜ニシテ、多數ノ日子ヲ要スル處アリ、依テ當局者ハ其簡單ナル方法ヲ選擇シ、速ニ之カ解決ニ努メ不取敢銀行所有ニ係ルモノヲ處分シタルモノナリ。(二)株式界ノ不況ハ今日尚一層甚シト雖、當時ノ實況ハ從前ニ比スレハ諸株豫想外ノ下落ヲ見タル時ナリシヲ以テ、近キ將來ニ其回復騰貴ノ機會アルヘキヲ見込ミ、暫ク其時機ヲ待ツヲ彼我ノ利益ナリト觀測シタルニ依レリ。此ノ間多少ノ見込違アリトスルモ、事市場ノ相場ニ關スルコトナレハ、必シモ失當ノ處置ナリト云フヲ得サルヘシト信ス。

十九、農工銀行債券引受ニ對スル特約ニ關スル件

東京府農工銀行債券ノ引受ニ當リ、同銀行ハ市ニ於テ必要アル場合ハ、申込價格ヲ以テ買入償却ヲ爲スヘキ特約アルモノ貳拾萬圓アリ、然ルニ市ハ曾テ此ノ特權ヲ行使シタルコトナシトアルモ、過去ニ於テハ未タ此ノ特權ヲ行使スルノ機會到達セサリシヲ以テ之ヲ行使セサリシナリ。本年ノ如ク各經濟ノ資金ノ殘額少額ヲ示ス場合ニ際シテハ、或ハ之ヲ行使スルノ機ナシトセサルナリ。

二十、四分利公債募集ニ關スル件

明治四十三年五月第一回帝國四分利公債ノ募集ニ對シ、市ハ發行價格以上拾錢ノ「プレミアム」ヲ付シ、額面九十七萬二千圓ノ多額ヲ應募シタルニ拘ラス、市ニ何等特殊ノ利益ヲ取得セサリシコトノ批難アルモ、市トシテハ當時此ノ條件ヲ付シテ應募スルモ、尚有利ナリト思料シタル結果、之ヲ實行シタルモノト察セラル。而シテ特殊ノ利益云々ニ關シテハ、如何ナル點ヲ指示セラルヽヤ不明ナリト雖モ、其ノ當時ハ五分利公債乘換ノ結果ニ出ツルモノニシテ、何等特殊ノ條件アリシヲ聞カサルナリ。

市會ハ十月二十三日ノ會議ニ於テ、右市政檢査委員會第一回報告ヲ議題ニ供シタルモ、**秋虎太郎君**ノ動議ニ依リ、次會マデ延期スル事トシ、更メテ十二月四日ノ會議ニ上程、委員長**豐川良平君**ヨリ、委員會ノ意見ノ概要ニ就キ簡單ニ報告アリタル後、**後藤武夫君**、本員ハ委員會ノ意見ト市長ノ意見トヲ對比シ、市長ノ意見ノ優ルモノアルヲ認ム、委員會ガ公金預託銀行ノ資本金五拾萬圓以上ト云ヘルヲ、五百萬圓以上ト改正スベシト云ヘル一事ニ就キテハ、本員ハ反對スルモノニアラザルモ、資金ノ多少ハ必ズシモ信用ノ基礎トナスニ足ラズシテ、壹千萬圓以上ノ資金ヲ擁セル北濱銀行ノ破產シタル實例モアルナリ、故ニ委員會ノ意見ト市長ノ意見トヲ比較對照シテ研究スル必要アリト信ズルヲ

以テ、新ニ九名ノ委員ヲ設置シ是レガ比較調査ヲ爲サシメラレンコトヲ望ムトノ動議ヲ提出シ。**音羽耕逸君**ハ、辯明書ニ對シテ左ノ如ク反駁セリ。

第一、豫算ハ單ニ會計ノ範圍ヲ定メタルモノニシテ、行政行爲ノ法則ニ非ス。殊ニ豫算ノ效力ハ一年限リノモノナリ。此ノ豫算ヲ以テ報告シ置キタル以上、府知事ノ許可ヲ要セズト云ヘルガ如キ議論ハ、到底委員會ヲシテ承服セシムベキ辯明ニ非ズ。

第二、ハ是レ亦第一ト同樣檢査委員ハ此ノ辯明ヲ採用スル能ハズ、市ノ會計ハ勿論豫算ニ於テ承認セラレ居ルモ財產及ビ營造物ヲ管理スル行爲夫レ自體ハ、市制ノ明文ニ依リ、每事必ズ市會又ハ市會ヨリ委任セラレタル市參事會ノ決議ヲ經ベキモノナリ。

第三、預金銀行ノ數ニ關スル件ニ就テハ、檢査委員ハ物的信用、即チ擔保制度ニ重キヲ置クベキカ、或ハ人的信用即チ銀行ノ完全ナル基礎ニ信用ヲ置クベキカニ付、種々對比考覈ノ結果、不完全ナル物的信用、即チ擔保品ヨリモ、完全ナル人的信用、即チ大銀行制ニ信賴スル方可ナリトノ意見ニ一致シタルモノニシテ、是レ亦理事者ノ辯明ヲ承認スル能ハズ。

第四、預金銀行選定ニ關スル件モ、亦檢査委員ノ意見ハ不幸ニシテ市當局ノ辯明トハ全然其見地ヲ異ニセリ。現在ノ銀行界、商業經濟界ノ實況ニ對シ、多數ノ小銀行ニ預金ヲ分割預託スルヨリモ、寧ロ少數ナル一流銀行ニ預託シ置ク方安全ニシテ、且ツ便利ナリト認ム。

第五、檢査委員ハ六月以前ノ事實ニ就イテ檢査シタルモノナルヲ以テ、六月以後ノ事實ハ之ヲ知ラズト雖モ、檢査委員ガ檢査シタル當時ノ事實ハ、理事者ノ辯明トハ異レリ。

第六、檢査委員會ハ、銀行ニ數百萬圓ノ公金ヲ預託シ居リナガラ、相當ニシテ必要アルニ際シ、其銀行ヨリ預金ヲ引出シテ使用セザリシ其狀態ヲ指シテ、公金ノ死藏ト稱シタルモノナリ。然ルニ當局者ノ是レニ對スル辯明ハ、委員會ノ報告ヲ誤認セラレタルモノニシテ、從テ報告ノ趣旨ニ副ハズ。

第七、檢査委員ハ市當局ニ對シテ、公金ノ預入引出等ニハ一定ノ規律、即チ制限ヲ附セラレンコトヲ希望シタルモノニシテ、當局ノ辯明ハ其價値ナシト信ズ。殊ニ檢査委員ガ檢査ノ際、市當局ニ就キ何故ニ或ル銀行ニハ頗ル多額ノ預金ヲ爲シ、他ノ銀行ニハ極メテ少額ノ預金ヲ爲セルヤト訊シタルニ、此ハ多年ノ惰力、多年ノ慣習ニシテ、他ニ理由アルニ非ズトノ答辯ナリキ。而シテ檢査委員ハ調査ノ結果、正當ノ理由アリト認メザリシヲ以テ、報告書記載ノ如ク報告シタルナリ。

第八、ハ當局者モ檢査委員會ノ報告ヲ承認サレタルヲ以テ、反駁ノ要ナシ。

第九、檢査委員ノ意見ハ、要スルニ一般經濟ノ各科目ヲ區別セラルヽハ致方ナシトスルモ、銀行預金マデモ科目ニ從テ小區分スル必要ナシト云フニ在リテ、是レ亦當局ノ辯明ヲ承認スル能ハズ。

第十、電氣局所管預託銀行ニ關シテハ、是レ亦改メテ反駁ノ必要ヲ認メズ。

第十一、ハ市當局ガ小銀行選定ノ際、其間從來幾多ノ情實纏綿セル事情ヲ檢査委員ハ認メ得タルヲ以テ、其選定方ニ就キ充分注意サレンコトヲ希望シタルニ過ギズ。

第十二、事業公債償還基金ヲ他ノ資金ニ流用充當セラルヽ事ハ、市ノ信用ヲ失墜シ、種々不安ヲ招ク虞アリ、殊ニ外債ノ募集上ニモ影響スベシ。故ニ之ヲ濫ニ他ノ經濟ニ流用セラルヽコトハ、檢査委員ハ到底之ヲ是認スル能ハズ。殊ニ市當局者ノ辯明ニ依レバ、河川改良浚渫費ノ如キ、或ハ下水道改良費ノ如キ、或ハ學校

建設費ノ如キ科目ニ流用セラレ居レリトノ事ナリ。斯ノ如キ永久ニ固定セラル、經濟科目ニ之ヲ流用セラル、事ハ、檢査委員會ハ絶對ニ是認スル能ハザルナリ。

第十三、市當局者ノ辯明ハ、現在財産ノ實在ヲ明確ナラシメ得ベシトスルモ、其時價明カナラザレバ財産其物ノ價額ハ明確ナラズ。故ニ檢査委員會ハ此ノ財産ノ價額ヲモ明確ニサレンコトヲ望ミタルモノナリ。

第十四、市會計中ノ出納檢査ニ關シテハ、月別ノ計算報告ト云ヘルモノハ之アルモ、之ヲ各會計ノ種別ニシタルモノニシテ毎月統計的ノ報告ヲ爲シタルモノアルヲ見ズ。委員ノ有スル月別計算ハ、當時市ニハ之無ク特ニ是レガ調製ヲ依頼シタルモノ勘カラザリシナリ。

第十五、市當局ニ於テ檢査委員ノ意見ノ全部ヲ是認シ居レルヲ以テ、反駁ノ必要ヲ認メズ。

第十六、當局者ノ辯明ニ對シテ、反駁ノ必要ヲ認メズ。

第十七、當局モ檢査委員會ノ報告ノ大體ヲ承認セラレ居レルヲ以テ、此上ハ追究セズ。只辯明中ニ「當局者ハ各種ノ情報ヲ蒐集スルニ努メ、其結果該銀行ノ危期ハ既ニ去リ、從前ノ信用亦回復シ、著々整理ノ上、確實ナル營業ヲ持續シ得ベシトノ報告ヲ得タルヲ以テ云々」トアリ、何處ヨリ如何ナル報告ヲ得ラレタリシヤハ知ラザルモ、將來ハ斯ル誤リタル報告ニ欺カレザルヤウ注意サレンコトヲ望ム、

第十八、檢査委員會ガ當局ヲ責ムル趣旨ハ、大體ニ於テ最近ノ事實トシテ日々下落ニ下落ヲ重ネ居ル或特殊ノ株券ヲ何故ニ速ニ處分セントハセザリシヤト云フニ在リテ、何故翌日ノ相場ノ下落ヲ知ルヲ得ザリシヤトテ之ヲ責メタルモノニハアラザルナリ。

第十九、市ハ農工銀行ニ對シ、同行ノ引受債券ニ就イテハ、何時ニテモ必要ノ場合ハ申込價額ヲ以テ買入償却ヲ爲シ得ベキ特約アルニ拘ハラズ、市ガ之ヲ行使セザリシヲ責ムル所以ノモノハ、此ノ權利ヲ行使スル機會ハ數〻到來シ、又其必要ハ數〻アリシモノト認メタルナリ。然ルニ當局ハ未ダ斯ル時期ニ到來セザリシト云ヘル辯明ハ、甚ダ理由ニ乏シキモノト認ム。

第二十、市當局ノ辯明ト檢査委員會報告ノ趣旨トハ、全然見地ヲ異ニセルモノニシテ、反駁ノ必要ヲ認メズ。

斯テ後藤君ヨリ提出シタル調査委員再設置ノ動議ニハ、贊成者ナク、檢査委員ノ報告ニ對シテハ他ニ異議ヲ唱フル者ナク、殆ド全會一致ニテ之ヲ是認セリ。

第貳拾四節　戰捷ニ付天機奉伺竝ニ祝電發送ノ件

出征軍ノ戰捷ニ付、天機ヲ奉伺シ、併セテ出征軍其他ニ祝電發送ノ爲メ、十一月八日臨時市會ヲ開キ、議長ノ起草シタル奉祝上奏文及ビ出征軍其他ニ對スル祝電ノ文案ヲ議題ニ供セリ。劈頭**長谷川吉次君**、上奏文ハ愼重ヲ要スルヲ以テ、議長指名五名ノ委員ヲ選定シテ審議セシメ度ク、祝電文モ序ニ同一委員ニ付託セラレンコトヲ望ムトノ動議ヲ提出シ。**角田眞平君**ハ、上奏文ハ鄭重ニセザルベカラザルヲ以テ、此ハ長谷川君ノ動議ニ贊成ナルモ、祝電文ハ議長ノ起草シタル其マヽニテ可ナルベシト論ジ。**長谷川君**ハ角田君ノ意見ニ同意シ、他ニ意見ナカリシヲ以テ、議長ハ直チニ左ノ五名ヲ委員ニ選定セリ。

角田眞平　津村重舍　辰澤延次郎　黑須龍太郎　長谷川吉次

委員ハ**角田眞平君**ヲ委員長ニ推シ、愼重審議ノ末、上奏文ハ原案通可決シ、本會議ニ臨ミテ其趣報告シタル後、希望條項トシテ英國皇帝陛下ニモ祝電ヲ贈呈シタク、其取計ヒハ市長ニ一任シタシト望ミタルニ、滿場異議ナカリシヲ以

テ、議長中野武營君ハ、總員ニ起立ヲ求メテ、左ノ上奏文ヲ朗讀セリ。

東京市長正四位勳一等法學博士男爵臣阪谷芳郎、誠恐誠惶、伏シテ惟ミレハ

天皇陛下允文允武、聖烈四表ニ光被ス。

曩ニ獨逸國ニ對シテ戰ヲ宣シ給ヒシ以來、皇師ノ向フ所摧破セサルナシ。而シテ青島ノ敵軍ハ天嶮ニ據リ、防備ヲ嚴ニシ、拒守數閱月ノ久シキニ及フ。我カ陸海軍ノ將士、英國陸海軍ト協同シテ之ヲ攻擊スルヤ、勇戰奮鬪、堅壘ヲ陷レ、敵ヲシテ遂ニ開城ノ已ム可カラサルニ至ラシメタリ。是レ偏ニ陛下神武ノ然ラシムル所、國威茲ニ照耀ス、臣等感激ノ至リニ勝ヘス。臣芳郎、茲ニ東京市會ノ議決ヲ具シ、謹テ天機ヲ奉伺シ、戰捷ヲ祝賀シ奉ル。

尙ホ議場ノ承認ヲ經タル議長起草ノ祝電文ハ、左ノ如シ。

帝國青島攻城軍ニ祝電

青島攻城軍指揮官陸軍中將神尾光臣閣下

閣下ノ統率セラルル青島攻軍カ、開戰以來頑强ナル敵兵ヲ擊攘シテ、屢々殊功ヲ奏シ、更ニ英國陸軍ト協同シテ敵ノ要塞ヲ攻擊シ、勇戰健鬪遂ニ之ヲ陷落セシメラレタルハ、洵ニ閣下ノ周到ナル畫策ト、麾下ノ勇壯ナル奮鬪トニ職由スルモノニシテ、感嘆ノ至ニ勝ヘス。茲ニ東京市會ノ議決ニ因リ、謹ンテ祝辭ヲ呈シ、併セテ閣下始メ將卒諸士ノ辛勞ヲ謝シ、尙ホ名譽アル死傷者ニ對シ、切ニ同情ノ誠ヲ表ス。

帝國艦隊ニ祝電

青島封鎖艦隊司令長官海軍中將加藤定吉閣下

閣下ノ統率セラルル青島封鎖艦隊カ、開戰以來幾多ノ險難ヲ排シテ、屢々殊功ヲ奏シ、更ニ英國艦隊ト協同シテ青島攻城軍トノ行動ヲ援ケ、遂ニ之ヲ陷落セシメラレタルハ、洵ニ閣下ノ周到ナル畫策ト、麾下ノ勇壯ナル奮鬪トニ職由スルモノニシテ、感嘆ノ至ニ勝ヘス。茲ニ東京市會ノ議決ニ因リ、謹ンテ祝辭ヲ呈シ、併セテ閣下始メ將卒諸士ノ辛勞ヲ謝シ、尙ホ名譽アル死傷者ニ對シ、切ニ同情ノ誠ヲ表ス。

英國海軍ニ祝電

閣下ノ統率セラルル英國海軍カ帝國艦隊ト協同シテ、青島攻城軍ヲ援ケ、勇戰健鬪、遂ニ之ヲ陷落セシメラレタルハ、洵ニ感激ノ至ニ勝ヘス。茲ニ帝國東京市會ノ議決ニ因リ、謹ンテ祝辭ヲ呈シ、併セテ閣下始メ將卒諸士ノ辛勞ヲ謝シ、尙ホ名譽アル死傷者ニ對シ、切ニ同情ノ誠ヲ表ス。

英國陸軍ニ祝電

閣下ノ統率セラルル英國陸軍カ帝國軍隊ト協同シテ、青島ノ要塞ヲ攻擊シ、勇戰奮鬪、遂ニ之ヲ陷落セシメラレタルハ、洵ニ感激ノ至ニ勝ヘス。茲ニ帝國東京市會ノ議決ニ因リ、謹ンテ祝辭ヲ呈シ、併セテ閣下始メ將卒諸士ノ辛勞ヲ謝シ、尙ホ名譽アル死傷者ニ對シ、切ニ同情ノ誠ヲ表ス。

第貳拾五節　助役決定ノ件

本市助役原田十衞、田川大吉郎、宮川鐵次郎ノ三君ハ大正三年十月一日任期滿了シテ退職シ、暫ク缺員ノマヽナリシガ、十二月四日市長ヨリ左ノ如ク推薦シ、市會ノ決定ヲ求メ來レリ。

一、發二、五三六號

前記ノ者、本市助役ニ推薦致候條、御決定相成度候也。

大正三年十二月四日

東京市長法學博士男爵　阪谷芳郎

高橋要治郎

宮川鐵次郎

市會ハ、同日開會ノ議題ニ之ヲ供スルヤ、**阪谷市長**ハ、定員三名ノ助役ヲ二名ニ減ジタルハ、市會多數ノ希望ナリト認メタルニ因ルト提案ノ理由ヲ說明シ、且ツ曰ク、助役ヲ二名トシタル結果現在市ノ三部制モ、從テ改正ノ必要アリト考フ、職制改革ニ就イテハ腹案モアルニ依リ、追テ適當ノ時機ニ於テ之ヲ行フ考ヘナリト。次イデ**横山勝太郎君**、高橋氏ハ官吏出身ニシテ官治上ニハ經驗アル人ナルベシト雖モ、自治ニハ經驗ナキ人ナリ、故ニ氏ハ適任者ニアラズト考フルヲ以テ、本員ハ反對ス、宮川氏ハ自治ニハ經驗アル人ナルモ、市政革新ノ意味ヨリ舊人物ハ能フ限リ之ヲ見合ハサル、方可ナルベシト思惟ス、殊ニ滿期退職シタル三助役中ヨリ宮川氏一人ヲ推薦シタルハ、如何ナル理由ナリヤ、想フニ市長ガ宮川氏ヲ推薦シタルハ、市長ノ絕對自由意思ニ據リタルモノニアラズシテ、或一派ノ運動ノ結果已ムヲ得ズシテ爲シタルモノアラザルナキカ、要スルニ宮川氏ノ推薦ニ就イテハ、市長ハ吾々市民ニ對シ、良心ニ反シタル虛僞ノ言ヲ弄セザルベカラザル事トナルベキヲ以テ、是レ亦贊成スル能ハズ、故ニ市長ハ本案ヲ撤回セランコトヲ望ムト說キ。**後藤武夫君**ハ、高橋君ト云ヒ、宮川君ト云ヒ、何レモ本市助役トシテ適任者ト考フ、本員ハ感情ニ走ラズ、俗論ニ媚ビズ、至公至平、絕對自由ノ立場ニ在リテ贊成スト論ジ。**中野議長**ハ、本問題ハ餘リ議論ニ涉ルヲ避ケテ採決セント欲スト諮リ、採決ノ結果、贊成者多數ニシテ、市長ノ推薦通決定セリ。

十二月八日ノ會議ニ於テ、理事者ヨリ提出ノ左ノ議案ヲ議題ニ供シタルニ、滿場異議ナク直チニ原案通可決セリ。

第百三十八號

土地購入及基本財產處分ニ關スル件

北豐島郡板橋町ノ內

一、地　坪　約二萬九千七百坪

此豫定價格金拾四萬八千五百圓　但坪當金五圓

右養育院本院敷地ニ充ツル目的ヲ以テ、養育院板橋分院所在地附近ニ於テ相當ノ土地ヲ選定購入スルモノトス。

而シテ之カ會計ハ、左記方法ニ依リ整理スルモノトス。

左　記

一、土地購入代及之ニ伴フ費用ハ、養育院基本財產ヨリ組入レ支辨スルモノトス。

一、養育院基本財產ノ減額ハ、寄附金ヲ募集シ、又ハ現在養育院敷地建物ヲ賣却シテ補塡スルモノトス。

一、養育院基本財產一時支出ノ結果、養育院經濟歲入利子收入減少スルニ依リ、此減額ヲ補塡スル爲市經濟ヨリ補給スルモノトス。

說明　現本市養育院ハ、明治二十九年三月本所區長岡町ヨリ移轉セシモノニシテ、當時敷地建物共ニ其收容力ニ餘地アリシモ、爾來入院者ノ增加ハ、逐年高率ヲ以テ進ミ、其收容ニ堪ヘサルモノアルニ至リ、敷地ノ擴張、建物ノ增築ヲ爲シタリ。加之巢

第貳拾六節　救育事業

鴨分院、安房分院、井之頭學校及板橋分院ヲ新設シテ、收容者中、兒童及感化生並長病者ノ別置ヲ行ヒ今日ニ至レリト雖モ、輓近收容者ノ員數ハ、彌ミ增加シ來リ、到底現在ノ設備ニテハ、之ニ應スル能ハサル狀態ト爲リ、從ツテ收容室ノ增築擴張ハ、目下焦眉ノ急ニ迫レリ。然シテ現在ノ敷地ハ、既ニ其餘地ナク、一面市ノ發展ニ伴ヒ、土地ノ價格騰貴シタルヲ以テ、隣接地ノ買收等モ之ヲ行フノ困難ナル事情アルト共ニ、養育院事業ノ如キハ、其性質上繁華ナル市街地ニ置クノ必要ナク、寧ロ之ヲ郊外ニ移ス方、財政上ハ勿論、收容者ノ衞生上ニモ有益ナルヲ認メタリ。依テ最近板橋町ニ建築シタル養育院板橋分院附近ノ土地ヲ選定購入シ、此所ニ本院ヲ移轉スルノ計畫ヲ立テ、本案ヲ提出ス。

第二十七節　隅田川口改良第二期工事計畫追加施行ニ關スル件

十二月八日ノ會議ニ於テ、理事者ヨリ提出ノ左ノ議案ヲ議題ニ供シタルニ、滿場異議ナク直チニ原案通可決セリ。

第百三十六號

隅田川口改良第二期工事計畫追加施行ニ關スル件

隅田川口改良第二期工事計畫中、更ニ埋立並護岸工事、左記ノ通追加施行シ、之ニ要スル工費額金參拾貳萬千拾貳圓ハ、繼續土木費隅田川口改良費ノ內ヲ以テ之ヲ支辨スルモノトス。

左記

埋立地名	位置	追加施行工程
第六號	隅田川口第二期改良工事第二號乃至第四號埋立地先	埋立面積六五、八三三坪五
第七號	同上第一號埋立地先	假護岸築設

說明　隅田川口改良第二期工事ノ浚渫土量ハ、既定埋立地ヲ完成シ、猶航路維持浚渫ニ屬スル土量約六萬坪ハ、埋立地外ニ放捨セサルヘカラサル狀況ナルニ依ル。此際築港計畫ニ準據シ。水深十二尺ノ船溜ヲ新設シ、之レヨリ生スル浚渫土量トヲ併セ。第六號地ヲ埋築シ、第七號地ハ假護岸ノミヲ設ケ、漸次航路維持浚渫土ヲ利用シ埋築スルヲ得策ト認メ、本案ヲ提出ス。

（參照）

一第六號	埋立地	面積	六五、八三三坪五
	此埋立所要土	立	一七四、八四〇坪
	內		
	第二期改良工事既定埋立地所要土殘土	立	六〇、〇〇〇坪
	船溜及運河浚渫土	立	一一四、八四〇坪
一第七號	埋立地	面積	一二、九八五坪四
	此埋立所要土	立	三四、五〇〇坪
	本土坪ハ工事竣功後ニ於ケル航路維持浚渫ヨリ生スル土砂ヲ充當ノ見込		

第貳拾八節　衆議院議員選擧法中改正ニ關スル請願ノ建議

十二月八日ノ會議ニ於テ、秋虎太郎君ハ口頭ニテ左ノ建議ヲ提出セリ。

衆議院議員選擧法中改正ニ關スル請願ノ建議

政府ハ今回衆議院ニ對シ、選擧法改正案ヲ提出スト聞ク。仍テ此際衆議院選擧法中、東京市ノ區ヲ獨立ノ選擧區ト爲スベキコトヲ、政府及帝國議會ニ請願セント欲ス。

議長ハ之ヲ議場ニ諮リ、日程ヲ變更シテ直チニ議題ニ供スルヤ、秋君更ニ法令其他利害關係等調査ノ必要上、一區一

名ノ割ニテ議長指名十五名ノ委員ニ調査ヲ付託セラレンコトヲ望ムトノ動議ヲ提出シ、異議ナク之ヲ可決シタルヲ以テ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

坪谷善四郎　宮崎三之助　村松恒一郎　黒須龍太郎　笠原文太郎
笠原小十郎　伊藤仁太郎　岩松兼經　秋虎太郎　八東可海
鳩山一郎　溝淵正氣　川久保源治　小泉策太郎　所澤貞太郎

委員ハ溝淵正氣君ヲ委員長ニ推シ、種々調査ノ末、左ノ如ク請願書ノ文案ヲ起草シ、尙ホ愼重調査中、大正七年六月市會議員ノ任期終了シテ、本案ハ自然消滅ニ歸セリ。

請願書

一、衆議院議員選擧法別表中、東京市定員十一名トアルヲ、十五名ニ改正セラレンコトヲ望ム。

理由

現行衆議院議員選擧法別表ニ依ルトキハ、議員定數三百八十一名ニシテ、內郡部竝ニ島嶼ニ屬スルモノ三百五名、市區ノ獨立選擧區ニ屬スルモノ七十六名ナリ。則チ市區ニ屬スル商工業ノ代表者ト見ルヘキモノハ、全數ノ二割ニ過キス。而シテ本年十月二十六日官報號外ヲ以テ發表セラレタル人口數ニ依リ、議員トノ割合ヲ見ルニ、全國議員一人當リ人口十四萬三千九百四十五人、各獨立市區議員ノ一人當リ平均人口十萬七千二百八十人也。今全國議員ノ一人當人口數ヲ以テ、東京市ノ人口二百〇三萬三千三百二十人ヲ除ストキハ、十四名强トナリ、各獨立市區議員ノ一人當人口數ヲ以テ除ストキハ、十九名トナル。故ニ東京市ノ議員數ハ、人口數上十四名餘十九名ノ定員ナルヲ至當ト信ス。抑〻選擧法ノ別表員數ハ、明治三十三年三月二十九日法律第七十三號ヲ以テ發布セラレタルモノニシテ、既ニ十有四歲ヲ經、此間人口ノ增加、商工業ノ發展ハ、議員數ノ增加ヲ必要ナラシムルニ至レリ。依テ此際本市ニ於ケル定員ヲ上記ノ如ク改正セラレンコトヲ希望ス。

右本市會ノ決議ニ依リ請願致候也。

大正三年十二月

東京市長

第貳拾九節　河岸地貸地料變更ノ件

第百五十九號

河岸地貸地料變更ノ件

東京市基本財產河岸地貸地料大正四年四月一日ヨリ別表ノ通變更スルモノトス

說明　本市市區改正費ノ資源タル基本財產河岸地現行貸地料ハ、明治四十三年四月ノ改正實施ニ係リ、大正四年三月末日ヲ以テ五年ヲ經過シ、且現時ノ狀況ニ適合セサルモノアルニ依リ、別表料率ノ如ク改正シ、明年度ヨリ之カ實施ヲ爲スモノトシ、本案ヲ提出ス。

（參照）

現行地料年額及改正地料年額竝增加割合左ノ如シ

現行地料年額　金參拾四萬六千六百參拾壹圓拾六錢
改正地料年額　金四拾四萬五千八百貳拾六圓壹錢
差引增額　金九萬九千百九拾四圓八拾五錢

大正年間　第參章　大正三年　第貳拾九節　河岸地貸地料變更ノ件

増加歩合　二割八分六厘餘
（別表ハ委員會修正報告ノ別表ト重複スルニ付略ス）

本案ハ十二月二十二日ノ會議ニ上程、後藤武夫、早川庄太郎兩君ノ動議ニ依リ、議長指名十一名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

加藤正義　山口憲　津村重舍　西川嘉門　細野順
中島行應　大貫傳兵衛　伊東靖　八東可海　松崎英太郎
三浦良幹

委員ハ加藤正義君ヲ委員長ニ、山口憲、津村重舍ノ兩君ヲ理事ニ、西川嘉門、細野順、中島行應三君ヲ主査ニ推シ、審査ノ末、大正四年六月二十二日ノ會議ニ於テ、左ノ如ク修正シタル旨報告セリ。

第百五十九號議案調査委員意見報告

委員ハ屢々集會審議ヲ遂ケ、別冊朱書ノ通リ修正シタリ。

説明　本案ハ本市經濟ニ重大ナル關係ヲ有スルノミナラス、多數借地人ニ利害ヲ及ホス重要ナル案件ナルヲ以テ、委員會ハ數回討論ノ末、專ラ公平ヲ旨トシ、偏重、偏輕ナカランコトヲ主義トシ、愼重ニ實地ヲ踏査シテ、根本的地料ノ整理ヲ爲サンコトヲ議定シタリ。蓋シ本市ニ於テ從來屢々行ハレタルカ如キ現行地料ヲ基礎トシ、之ニ幾割ヲ增加スルト云フカ如キ簡易ナル方法ヲ以テ、本案地料ノ變更ヲ圖ルトキハ、現行地料ノ高キモノハ事情ノ如何ニ拘ハラス、益々高キヲ加ヘ、低キモノハ假令市區改正其他ノ事情ニ依リ利便ヲ加フルコト著シキモノアリト雖、尙低廉ヲ繼續シ、公平ヲ失スル嘲ヲ免レサルヲ以テナリ。

以上ノ理由ヲ以テ、委員會ハ特ニ主査委員三名ヲ選定シ、二ヶ月ノ日子ヲ費シ、河岸地全部ニ涉リ實地ヲ踏査シ、其位置、地形、土地ノ情況、交通機關ノ便否等、精密ナル調査ヲ爲シ、各地料ノ權衡ヲ保タンコトヲ努メタリ。

主査委員ハ調査ノ結果、現行地料ハ概シテ低廉ニシテ、値上ヲ爲スヲ相當ト認メタルモ、一時ノ激增ハ關係者ニ多大ノ苦痛ヲ與フルコトヲ思ヒ、彼是酌酌ヲ加ヘ、其原案最高增加率二十一割ナルヲ、更ニ七割五分ニ限定シ、之ニ依リ査定案ヲ作リ、之ヲ委員會ニ報告シタリ。

主査委員ノ査定案ニ依ルトキハ、前項末文ノ如ク酌酌ヲ加ヘタルニ拘ラス、仍ホ原案ニ對シ一層增額セシモノアリ、於是各委員モ亦實地ヲ踏査シ、委員會ハ原案以上ニ增額スルコトハ穩當ニアラスト認メ、之ヲ原案ニ止メ、而シテ主査委員カ原案ヲ以テ高キニ失スト爲シ低減シタルモノハ、之ヲ是認シ、仍ホ其中ニ於テ、特殊ノ事情アリト認ムルモノニ付キテハ、審議ノ末更ニ修正減額シタリ。

原案中値上ヲ爲サスト雖モ、附近地料ニ比シ非常ニ高價ナルモノ二ヶ所アリ、其原因ヲ調査スルニ、一ハ京橋區白魚河岸四十七號ニシテ明治四十年ニ於テ、他ハ同區小田原河岸十一號ノ一ニシテ明治四十五年ニ於テ、共ニ競爭入札ニ依リ貸與シタルモノナリ。前者ハ即約十年ヲ經過シ、今尙他ニ比シ數倍ノ借地料ヲ支拂ハシムルハ公平ヲ以テ自ラ任スヘキ本市貸地料トシテ穩當ナラスト認メ、事情ヲ酌酌シテ之ヲ半減シタリ。後者ハ同一理由ニ基キ之ヲ低減シタルモ、年數ノ經過未タ滿三年ニ過キサルヲ以テ、之ヲ二割五分減ニ止メタリ。

又同一河岸地ニシテ、其中借入ノ前後、土地ノ情況ニ依リ、地料ヲ異ニスルモノアリ。是等ハ公平ノ觀察ニ於テ穩當ヲ欠クモノト認メ、實地ノ狀況ヲ酌酌シ、平均シテ、一地域ハ可及同一地料ニ修正シタリ。

以上ノ修正ニ依ル河岸地料總額ハ、四拾貳萬七千九百八拾參圓八拾四錢ニシテ、現行地料總額參拾四萬六千六百參拾壹圓拾六錢百參拾壹圓拾六錢ニ對シ、增加スルコト八萬壹千參百五拾貳圓六拾八錢ナリ。即其增加率ハ、平均二割三分四厘トナレリ。之ヲ原案地料總額四拾四萬五千八百貳拾六圓壹錢ニ比較スレハ、壹萬七千八百四拾貳圓拾七錢ノ減額ナリ。

附　言

本案ハ調査委員設置セラレシヨリ玆ニ五ケ月ヲ閱シ、一見調査緩慢ニ流レタル嫌ナキニアラスト雖モ、事頗ル困難ニシテ、加フルニ細密ナル調査ト、愼重ナル審議トヲ盡シタル結果、自然多數ノ日子ヲ費スニ至リシハ、止ムヲ得サル所也。

右及報告候也

大正四年五月二十六日

議長宛

委員長以下委員連名

（別冊）

第百五十九號

河岸地貸地料變更ノ件　◎七

（右肩ノ◎印ハ委員會ニテ修正　左側ノ｜印ハ委員會ニテ削除）

東京市基本財產河岸地貸地料大正四年四月一日ヨリ別表ノ通變更スルモノトス

（參照）現行地料年額及改正地料年額並增加割合左ノ如シ

現行地料年額　金參拾四萬六千六百參拾壹圓拾六錢

改正地料年額　●金四拾貳萬七千九百八拾參圓八拾四錢　金四拾四萬五千八百貳拾六圓壹錢

差引增額　●金八萬千參百五拾貳圓六拾八錢　金九萬九千百九拾四圓八拾五錢

增加步合　●二割三分四厘餘　二割八分六厘餘

（別紙）

麵町區							
河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當	河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當
飯田河岸	自四號至八號	円 〇八七	円 一二〇	飯田河岸	自九號至三十二號ノ三	円 〇九五	円 ●一五〇 一六〇
神田區							
河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當	河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當
鎌倉河岸	自三號至十三號	円 二〇四	円 ●二七〇 二八〇	紅梅河岸	自一號ノ二ノ一至四號ノ二	円 一〇八	円 ●一〇〇 一〇八
同	自十四號至十五號	二九八	●二七〇 二九八	同	九號ノ一	一二三	●一二〇 一二三
同	自十六號至二十五號	二〇四	●二七〇 二八〇	同	自十號至十四號ノ二	二一六	●二一〇 二一六
同	二十六號	三九三	●二七〇 三九三	同	自十五號至十六號ノ一	三〇三	●二五〇 三〇三

河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當
鰹河岸	至自三十一一號號	円 三五二	円 四一〇〇
同	至自三十四二號號	円 二八〇	円 二九〇
同	三十四號ノ內	二八八	二九〇
佐久間河岸	至自三十四二號號	二三〇	二九〇
岩井河岸	至自十九一號ノ二號	一六七	二二七四〇〇
同	至自二十四二號號	一七二	二七〇
同	至自二十一號號	一八七	二七〇
同	九號ノ內	二四九	二七〇
同	七	一八七	二七〇
同	六	二五三	二七〇
同	五	一八七	二七〇
柳原河岸	三號	一七七	二七〇
昌平河岸	至自二十九八一號合併號	二六五	二二六五〇

日本橋區

河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當
同	三十四號ノ內	二八八	二九〇
佐久間河岸	至自三十四二號號	二三〇	二九〇
鞍地河岸	至自三十二二號ノ三一	一六二	二二六七〇〇
同	十六號ノ三	四五五	四四五五〇
同	十六號ノ二	三四〇	三四〇
同	十五號ノ二號	二二五	二二〇五〇
三崎河岸	一號	三四〇	三四〇
同	至自九七十十二六號號	二三〇	二九〇
同	至自七四十十五四號號	二三〇	二七〇
同	至自四十四二號十ノ二號	二三〇	二九〇
同	三十六號	二三〇	二九〇
佐久間河岸	三十六號	二三〇	二九〇
同	三十十七八號號ノ內乙	四〇〇	四〇〇
同	至自四十四二號十ノ二號	二三〇	二九〇
同	至自七四十十五四號號	二三〇	二七〇
同	至自九七十十二六號號	二三〇	二九〇
三崎河岸	一號	三四〇	三四〇
同	至自十五十號ノ二號	二二五	二二〇五〇
同	十六號ノ二	三四〇	三四〇
同	十六號ノ三	四五五	四四五五〇
鞍地河岸	至自三十二二號ノ三一	一六二	二二六七〇〇
三十二號	円 三七二	円 四六五〇〇

河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當
同	至自三三十十一一號號	円 三五二	円 四一〇〇
蔦河岸	至自二三十一一號號	二二〇	二二〇〇
同	三十四號ノ內	一四六	二二〇〇
同	至自二三十四二號號	二二〇	二二〇〇
同	至自二二十十四二號號	一七七	二二〇〇
同	至自二十十一號號	一七七	二二〇〇
同	至自二十十一號號	一八七	二二〇〇
同	九號ノ內	二四九	二二〇〇
同	七	一八七	二二〇〇
同	六	二五三	二二〇〇
同	五	一八七	二二〇〇
柳原河岸	三號	一七七	二二〇〇
昌平河岸	至自二十九八一號合併號	二六五	二二六五〇〇

大正年間　第參章　大正三年　第貳拾九節　河岸地賃地料變更ノ件

河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當
同	至自三三十十九八號號	二二七八	三六〇
蔦河岸	至自三十一一號號	二二九	三四〇
同	至自二三十十一一號號	二二九	三一〇
同	至自二十十八六號號	二二九	三一〇
同	至自二二十十四二號號	二二九	三一〇
同	至自二二十十一一號號	二二九	三一〇
同	至自三十十一五號號	二二九	三一〇
同	至自三十十六五號號	二二九	三一〇
同	十五號ノ二號	二二九	三一〇
同	十六號ノ二	二二九	三一〇
同	十六號ノ三	二二九	三一〇
鞍地河岸	至自三十二二號ノ三一	二二九	三一〇
三十二號	円 三七二	円 四六五〇〇

河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當
同	至自三三十十一一號號	二二九	三一〇
本村河岸	至自三三十十一一號號	二二九	三一〇
同	三十十一一號號	二二九	三一〇
同	三十二二號號	二二九	三一〇
同	三十十一一號號	二二九	三一〇
同	三十十一一號號	二二九	三一〇
同	三十十四一號號	二二九	三一〇
同	三十十六四號號	二二九	三一〇
同	十五號ノ二號	二二九	三一〇
同	十六號ノ二	二二九	三一〇
同	十六號ノ三	二二九	三一〇
鞍地河岸	至自三十二二號ノ三一	二二九	三一〇
三十二號	円 三七二	円 四六五〇〇

河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當
同	至自三三十十一一號號	二二九	三一〇
蔦河岸	至自三三十十一一號號	二二九	三一〇
同	三十十一一號號	二二九	三一〇
同	三十十一一號號	二二九	三一〇
同	三十十一一號號	二二九	三一〇
同	三十十一一號號	二二九	三一〇
同	三十十一一號號	二二九	三一〇
同	三十十一一號號	二二九	三一〇
同	十五號ノ二號	二二九	三一〇
同	十六號ノ二	二二九	三一〇
同	十六號ノ三	二二九	三一〇
鞍地河岸	至自三十二二號ノ三一	二二九	三一〇
三十二號	円 三七二	円 四六五〇〇

河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當
同	至自三三十十一一號號	二二九	三一〇
永久河岸	至自九一號	二六四	二二六一〇
北新堀河岸	一號	二二二	二九〇
同	一號ノ一	五四一	五五四三一〇
行徳河岸	至自二十二九號號	二二二	二九〇
同	至自十一一二號號	一八二	二二九七〇〇
同	十二號	四五五	四三五六〇
同	十一一號	一八二	二二九七〇〇
同	十四三號	二二〇	三二〇
同	十十六	二二〇	三二〇
同	一一	二二〇	三二〇
同	十	二二〇	三二〇
同	三	二二〇	三二〇
本村河岸	至自三一十十一一號號	二二二	三一〇
同	三十十一一號號	二二九	三一〇
同	三十十一一號號	二二九	三一〇
同	三十十一一號號	二二九	三一〇
同	三十十一一號號	二二九	三一〇
同	三十十一一號號	二二九	三一〇
同	三十十一一號號	二二九	三一〇
同	三十十一一號號	二二九	三一〇
同	十五號ノ二號	二二九	三一〇
同	十六號ノ二	二二九	三一〇
同	十六號ノ三	二二九	三一〇
鞍地河岸	至自三十二二號ノ三一	二二九	三一〇
三十二號	円 三七二	円 四六五〇〇

河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當
本材河岸	自六十九號至七十四號	三二七	三六〇
同	自七十六號至七十七號	三六〇	四四〇
西河岸	自二號至十二號	二二九	四〇〇 / 四三〇
同	十三號	二三〇	四〇〇 / 四七〇
同	自十四號至二十號	二五九	四五〇 / 四七〇
小舟河岸	一號	三八二 / 四九五	四七〇
同	自二號至七號	三八二	四七〇
同	自八號至五十號	三五九	四七〇
同	五十一號	四〇一	四七〇
末廣河岸	自一號至十八號	四二六	五〇〇
魚河岸	自一號至二號	四三二	五五〇
同	三號	四一四	五五〇
同	自四號至十號	四三二	五五〇
同	十一號	四一四 / 四三二	五五〇
魚河岸	自十二號至三十五號	四三二	五五〇
同	自三十六號至六十一號	四一四	五五〇
同	六十二號	四三二	五五〇
茅場河岸	一號	三八九	四四〇
同	自二號至二十五號	三二一	三九〇
元柳河岸	自一號至九號	二八三	三〇〇
四日市河岸	自二號至六號	三四七	四七〇
龜島河岸	自一號至十九號ノ二	二二一	二七〇
同	二十號	二五八	二七〇
同	自二十一號至二十五號	二二一	二七〇
同	二十六號	一八四	二七〇
同	自二十七號至四十四號	二二一	二七〇
米河岸	一號	四五五	四八〇
同	自二號至四十號	四一三	四八〇

河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當
裏河岸	自三號至十一號	二二一	三八〇
同	自十二號至二十號	二三六	三八〇
東萬河岸	自一號ノ內一至十一號ノ二	三二三	四四〇
同	自十二號ノ一至二十三號	三四二	四四〇
同	自二十四號至五十六號	二八五	四一〇
同	五十七號	二八五 / 二二八	四一〇
同	自五十八號至六十五號	二八五	四一〇
同	六十六號	二二八	四一〇
同	自六十七號至七十號	二八五	四一〇
同	七十一號	三〇四	四一〇
西萬河岸	自一號至六號	三〇五	四二〇
同	自七號ノ一ノ甲至七號ノ二	四〇七	四二〇
同	自八號至四十八號	三〇五	四二〇
同	自四十九號至五十號	三六六	二四〇
同	五十二號ノ內	三九六	四二〇
中洲河岸	自三十一號至三十三號	二七一	二七〇
	自一號至四十五號ノ二		二七一
	自三十四號至四十五號ノ二		二四〇
柳原河岸	自二號至三號	二六五	二七〇 / 三〇〇

京橋區

河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當
大根河岸	自一號至十六號	円 二五五	円 三五〇
同	十七號	二七五	三五〇
大根河岸	自十八號至十九號	円 二九七	円 三五〇 / 三七〇
竹河岸	自二號至八號	二九二	三七〇

竹河岸	自九號ノ一至二十一號	二八一	三五〇	日比谷河岸	自四號至三十七號	一六〇
同	二十二號	三〇〇	三五〇	南櫻河岸	自十二號至十五號	一六七
本材河岸	自二十三號至三十六號	二八五	三三〇	同	十六號	二一八
同	自四十一號至四十九號	二九六	三二〇	同	自十七號至十九號	一六七
楓河岸	自一十二號至二十號	二〇四	二七〇	同	二十號	二一八
北櫻河岸	自二十三號至十二號	二四五	二二五〇	同	自二十一號至六十二號	一六七
同	十四號	二三三	二二五〇	湊河岸	一號	二二八
同	自十五號至六十四號	二三三	二二五〇	同	自二十二號至四十一號	二〇二
將監河岸	自一十四號	一六七	二五〇	南新河岸	自一十四號至四十一號	二一二
同	五號ノ內	三四七	二八四七〇	北新河岸	自一十八號至二十一號	一八〇
同	自二十六號至二十六號	一六七	二五〇	越前堀河岸	自一四號至四號	一四四
同	自二十七號至五十六號	一八四	二五〇	稻荷河岸	自三十八號至二十五號	三〇五
同	自五十九號至六十一號	一五八	二五〇	南新堀河岸	自二十二號至二十二號	二一五
日比谷河岸	自一三號至三號	一七七	二三〇	同	自二十四號至二十六號	一九九
東豐玉河岸	自六十三號至六十一號	一七三	二二〇	小田原河岸	十一號ノ一	八八八
同	自六十二號至七十四號	一七三	二二〇	同	自十一號ノ二至三十六號	一六一
西豐玉河岸	二號	二六六	二七〇	蜊河岸	自二號至三號	一六九
同	自四十三號至四十一號	二三八	二七〇	同	一號合併四號合併	一三五
同	自四十四號至五十八號	二三八	二四〇	同	五號ノ一號ノ二合併五號	一六九
白魚河岸	自七十二號至二十二號	二四二	三〇〇	同	六號	一三五
同	二十四號	二四二	二四〇	同	七號	一三五
同	自二十五號至二十九號	二二一	二四〇	新富河岸	自一十二號至十六號	一一五
同	自三十號至四十二號	二二一	二四〇	同	自八十二號至二十二號	一八五
同	三十一號	三一五	三一〇	南飯田河岸	自一號至三號ノ二	一八七
同	四十三號	三一五	三一〇	龜島河岸	自二號至八號	二七五
同	四十七號	一六三〇	二二〇	明石河岸	自一號至二號	二三九
船松河岸	自一十七號至十七號	一五二	二一〇	同	三號ノ內ノ一	五五五
同	十八號	二三八	二三〇	同	三號ノ內ノ二	二三九
小田原河岸	自十三號至十三號	一六一	一九〇	同		

芝區

河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當	河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當
芝口河岸	自十三號至十二號	一六八円	二九〇〇円	新堀河岸	自十一號至十二號	一一九円	一七〇〇円
同	自十三號至二十三號	一七七	三〇〇	同	十三號	一一八	一七〇
同			二九〇	同	十四號	一一七	一七〇
新門前河岸	自一號ノ一至十二號	一一八	一二〇	同	十五號	一二六	一七〇
同	十三號	一二六	一二〇	同	十九號	一一〇	一七〇
同	自十四號至十七號	一一八	一二〇	同	自二十七號至二十七號	〇七六	一一〇
同			一二六	同	自二十九號至三十四號	一〇七	一一八
新堀河岸	一號	一二八	一七〇	同	自三十七號ノ一至三十九號	一一九	一七〇
同	二號	一一九	一七〇	同	三十五號	〇七六	一一〇
同	三號	一一七	一七〇	同	自四十一號至四十一號	〇七六	一一四
同	四號	一一六	一七〇	同	四十二號	〇七六	一一二
同	五號	一二六	一七〇	同	四十三號	一一九	一七〇
同	自十六號至十號						

河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當	河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當
南金杉河岸	一號	二一六	一二〇	北金杉河岸	自六號ノ一至六號ノ二	一〇〇	一二〇
同	自三號至七號	一二九	一三〇	同	自十六號至十九號	〇八二	一二〇
同	自十九號至十三號	一〇八	一三〇	同	自十七號至十五號	〇八四	一二〇
北金杉河岸	自一號ノ二至五號ノ二	一三五	一五〇	車町河岸	自一號ノ二ノ甲至四號ノ二	〇八九	一四〇

麻布區

河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當	河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當
新門前河岸	自一號至十七號	一〇八円	一〇八円	薪河岸	自十四號至十五號	一〇八円	一六〇
薪河岸	自一號至三號	〇九〇	一四〇	北赤羽河岸	自二號地先至二號	一〇〇	一七〇

牛込區

河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當	河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當
神樂河岸	自一號至二號	一〇〇円	一五〇〇円				

小石川區

河岸名	番號	現行地料坪當（円）	改正地料坪當（円）
市兵衛河岸	自二號 至五號	一〇一	一五〇 一七〇
同	八號ノ一ノ內	一五〇	一五〇 一七〇
市兵衛河岸	自八號 至十號ノ二	〇九七	一五〇 一七〇

淺草區

河岸名	番號	現行地料坪當（円）	改正地料坪當（円）
代地河岸	號外	三〇〇	三〇〇
同	一號	二二八	三〇〇
同	一號ノ一	三〇〇	三〇〇
同	二號	二二八	三〇〇
同	二號ノ一	三〇〇	三〇〇
同	三號	二二八	三〇〇
同	三號ノ一	二〇〇	三〇〇
同	四號	二二八	三〇〇
同	四號ノ一	二八〇	三〇〇
代地河岸	五號	二二八	三〇〇
同	五號ノ一	二八〇	三〇〇
同	六號	二二八	三〇〇
同	六號ノ一	二八〇	三〇〇
同	七號ノ一	二二八	三〇〇
同	七號ノ一ノ甲	二八〇	三〇〇
同	七號ノ二ノ甲	二二八	三〇〇
同	七號ノ二ノ乙	二八〇	三〇〇
同	八號	二二八	三〇〇

河岸名	番號	現行地料坪當（円）	改正地料坪當（円）
代地河岸	自八號ノ一 至八號ノ三	二八〇	三〇〇
同	自九號ノ二 至九號ノ三	二五〇	三〇〇
同	十號	二二八	三〇〇
同	十號ノ一	二五〇	三〇〇
同	十一號	二二八	三〇〇
同	十一號ノ一	二五〇	三〇〇
同	自十二號 至十三號	二二八	三〇〇
同	自十四號ノ一ノ甲 至十四號ノ一ノ乙	二五〇	三〇〇
同	十五號	二二八	三〇〇
同	十五號ノ一	二五〇	三〇〇
同	十六號	二二八	三〇〇
同	十六號ノ一	二五〇	三〇〇
同	十七號	二二八	三〇〇
同	十七號ノ一	二五〇	三〇〇
代地河岸	十八號	二二八	三〇〇
同	十八號ノ一	二五〇	三〇〇
同	十九號	二二八	三〇〇
同	十九號ノ一	二五〇	三〇〇
駒形河岸	自號外一ノ一ノ內 至五號ノ一	二二七	二五〇 二七〇
同	自五號ノ二 至六號	二二七	二五〇 二九〇
同	自七號 至五十一號	二二七	二五〇 二七〇
同	自五十二號ノ內 至七十九號	一九九	二五〇 二七〇
同	自八十號 至八十一號	二二七	二七〇 二九〇
同	八十二號	二八四	三二〇 三四〇
淺草河岸	一號	三〇二	三二〇 三四〇
同	自三號 至六號	二四八	二六〇 二九〇
同	自七、八號合併 至十三號	二二〇	二五〇 二六〇
同	自十四號 至三十四號	一九三	二五〇 二六〇

本所區

河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當
北竪河岸	至自六十四二號ノ二號	円一七九	円二一〇一〇〇
同	至自八六十十九五號號	一五八	一一九八〇〇
同	九十號	一三八	一一九八〇〇
同	至自九百十一號號	一三八	一一七六〇〇
同	至自百百二十三八號號	一〇六	一一七五〇〇
同	至自百百三十十七九號號	一〇六	一一八五〇〇
同	至自百百十三號十八ノ二號	一〇六	一一五四〇〇
同	至自百百十四六號十四ノ內號	〇九五	一一五二〇〇
同	至自二百六五號十ノ九二號	〇七三	一〇〇
尾上河岸	至自六十四二號ノ二號	円一七九	円二一〇一〇〇
同	至自八六十十九五號號	一五八	一一九八〇〇
同	九十號	一三八	一一九八〇〇
同	至自九百十一號號	一三八	一一七六〇〇
同	至自百百二十三八號號	一〇六	一一七五〇〇
同	至自百百三十十七九號號	一〇六	一一八五〇〇
同	至自百百十三號十八ノ二號	一〇六	一一五四〇〇
同	至自百百十四六號十四ノ內號	〇九五	一一五二〇〇
同	至自二百六五號十ノ九二號	〇七三	一〇〇
尾上河岸	至自一一號號ノ二一	円一八〇	円二三〇
同	至自一一三二號號	一六〇	一一九八〇〇
同	至自一一五四號號	一一三	一一九八〇〇
同	至自一一八六號號	一八〇	二三〇
同	九號	一七一	二三〇
同	至自一一十十號號	一八九	二六〇
同	十十號號	一八九	一一九八〇〇
同	十十四三號號號合併	一一三	一一九八〇〇
左衛門河岸	至自二一四一號號	二五〇	二一九六〇〇
今戸河岸	一一二	一七〇	一一七〇
小島河岸	一號	〇	一八〇
埋堀河岸	至自十一一號號	一一三	一一五四〇〇
同	十二十十四五號號	一一二	一一五四〇〇
同	二十十五號號	一三〇	一一五四〇〇
同	二十十六號號	二〇五	一一〇〇五〇
同	二十十七號號	〇八三	一一七五〇〇
同	三十號	一〇〇	一七〇
同	三十十二號號	一〇〇	一七〇
同	三十十四號號	二五七	一一五五七〇
同	三十十四八號號	二九二	二二九五二〇
東橫川河岸	至自六一號號	一〇八	一一〇
同	至自十十號七ノ二號	〇六〇	〇九〇
同	至自十十二號一ノ三號	〇六〇	一〇〇一〇〇
同	至自十十四六號ノ一號號	〇六〇	〇九〇
同	至自二十十五號號	〇八七	一一〇
同	至自二百六五號十ノ九二號	〇七三	一〇〇
尾上河岸	十七號	一六〇	一一九八〇〇
同	十八號	二一四七二	一一九八〇〇
同	至自二十十四九號號	二二七	二六〇
同	二十十五號號	二二七	二一八七〇
同	二十十六號號	一四二	一一九八〇〇
同	二十十七號號	一一八五九一	一一九八〇〇
同	至自二二十十九八號號	二一〇五七一	二一三一〇〇
同	三十號	一五一	二一三一〇〇
埋堀河岸	至自十一六號號	〇七七	一三〇
同	十十八七號號	〇八六	一一八五〇〇
同	十九號	一五〇	一五〇
同	十號	一一五	一一五四〇〇
同	二十一號號	一一八	一一五四〇〇
同	二十十號號	一一五	一一五四〇〇
同	三十十四八號號	一一五	一一五四〇〇
常物河岸	至自十四一號ノ二號	二五七	二一三一〇〇
同	至自二十十九五號號	二九二	二二九五二〇
同	至自十二十二號號	一〇〇	一七〇
同	至自二二十二十號號	一〇〇	一七〇
同	十九號	〇八三	一一七五〇〇
藥師前河岸	至自十二八號號	一〇〇	一七〇
同	二十十五號號	二〇五	二一〇八七〇
同	二十十四號號	二二七	二一九八〇〇
同	二十十六號號	二二七	二一九八〇〇
埋堀河岸	二十十三號號	一一三	一一五四〇〇
同	二十十四號號	一一二	一一五四〇〇
同	二十十五號號	一三〇	一一五四〇〇
同	二十十六號號	二〇五	二一〇〇五〇
同	二十十七號號	〇八三	一一七五〇〇
同	二十十二號號	一〇〇	一七〇
同	二十十二十號號	一〇〇	一七〇
同	二十十四一號ノ二號	二五七	二一五五七〇
同	二十十九五號號	二九二	二二九五二〇
同	二十十六一號號	一〇八	一一〇
同	二十十七號ノ二號	〇六〇	〇九〇
同	二十十二號一ノ三號	〇六〇	一〇〇一〇〇
同	二十十四六號ノ一號號	〇六〇	〇九〇
同	二十十二號號	〇八七	一一〇

大正年間　終戰事　大正三年　終戰紀元節　河岸地賃地料變更ノ件

西横川河岸	一號	一五〇	一四〇 一五〇
同	自二號至三號	一二九	一四〇
同	自四號至二十號	一一四	一四〇
同	自二十一號ノ一至二十三號ノ二	一二六	一四〇
同	自二十四號至五十六號	一一四	一四〇
同	自五十七號至六十五號	一〇八	一四〇
同	自六十六號至七十四號	〇六〇	〇八〇
同	七十五號	〇七八	一二〇
同	自七十六號至七十九號	〇六〇	〇八〇
同	八十號	〇七八	一二〇
同	自八十一號至九十四號	〇六〇	〇八〇
同	自九十六號至九十七號	〇八七	一二〇
同	自九十八號至百五號	〇六〇	〇八〇
同	百六號	〇八七	一二〇
西横川河岸	自百七號至百十四號	〇六〇	〇八〇
同	自百十五號至百十六號	〇七八	〇八〇
同	自百十七號至百十八號	〇六〇	〇八〇
源森河岸	自一號至三號	一五〇	一五〇 一七〇
同	自四號至十四號	〇七八	〇九〇
同	自十五號至十六號十七號合件	〇八七	一三〇
同	自十八號ノ一至二十二號	〇七二	〇九〇
北源森河岸	自一號至十號	〇八七	〇九〇
北五間堀河岸	自一號至六號	〇八六	一一〇 一三〇
東六間堀河岸	自二號至十六號	〇八二	一〇〇 一一〇
西六間堀河岸	自一號至二十一號	〇九〇	一一〇 一二〇
千歳河岸	自一號至十一號	一〇〇	一四〇
同	自十二號至十八號	一〇〇	一七〇
菊河岸	自一號至二十八號	〇六八	一一〇

南竪河岸	自一號至三十二號	一二一	一六〇 一八〇
同	自三十三號至三十七號	一一〇	一四〇 一六〇
同	自三十九號至五十五號	一〇〇	一四〇 一六〇
同	五十六號	〇八九	一四〇 一六〇
同	自五十七號五十八號ノ一合件至八十一號	〇八九	一三〇 一四〇
南竪河岸	自八十二號至八十三號	〇八九	一四〇 一六〇
同	八十八號	〇七七	一四〇 一六〇
同	自八十九號至百三號	〇七七	一二〇 一三〇
同	自百五號至百十八號	〇六六	〇九〇
同	自百十九號至百三十一號	〇五五	〇八〇 〇九〇

深川區

河岸名	番號	現行地料坪當	改正地料坪當
南五間堀河岸	自一號至四號	円 〇九六	円 一二〇 一五〇
同	五號	一二六	一二〇 一五〇
同	自六號至十二號	〇九六	一二〇 一五〇
同	自十四號至十八號	〇八二	一〇〇 一三〇
同	二十號	一三五	一三〇 一三五
東六間堀河岸	自一號至十九號ノ二	〇九四	一〇〇 一一〇
同	自二十一號至二十八號	〇九四	一〇〇 一一〇
東六間堀河岸	自二十九號至三十四號	円 〇九四	円 一三〇 一四〇
西六間堀河岸	自一號至十八號	一一四	一一〇 一二〇
同	自十九號至二十五號	一一四	一三〇
同	自二十六號至三十三號	一一四	一一〇 一二〇
東亥ノ堀河岸	自一號至二號	〇二九	〇五〇 〇九〇
同	自三號至二十七號	〇六〇	〇九〇
同	二十八號	二〇五	二〇〇 二〇五

東亥ノ堀河岸	三十號	〇八九	〇八九
同	三十一號	一〇五	一〇〇／一〇五
西亥ノ堀河岸	自一號 至十四號	一〇七	一三〇
同	自十五號 至二十二號	一二四	一三〇
同	二十三號	一五五	一五〇／一五五
同	自二十四號 至三十二號	一二四	一三〇
數矢河岸	自一號 至八號	〇八〇	一一〇
同	自十號 至十九號	〇六七	一一〇
黑江河岸	號外	一五〇	一六〇／一七〇
同	自一號 至三號	一二二	一六〇／一七〇
同	四號	一二二	二〇〇／二一〇
同	四號ノ一	一七〇	二〇〇／二一〇
同	五號	一二二	二〇〇／二一〇
同	五號ノ一	一七〇	二〇〇／二一〇

黑江河岸	六號	一二二	二〇〇／二一〇
同	六號ノ一	一七〇	二〇〇／二一〇
同	七號	一二二	二〇〇／二一〇
同	七號ノ一	一七〇	二〇〇／二一〇
同	自八號 至九號	一二二	二〇〇／二一〇
同	自二十五號 至二十六號	一二二	一六〇
同	二十七號	二七五	二七〇／二七五
巽河岸	自一號 至二十九號	一七四	一四〇／一七四
清住河岸	自一號 至十二號	〇九八	一一〇
西元町河岸	自一號 至九號	〇九四	一一〇
島田河岸	自一號 至四號	〇三六	〇六〇
小名木河岸	自一號 至二號	一一九	一三〇
同	自三號 至四號	一二九	一三〇
同	自七號 至十三號	〇七五	一〇〇

小名木河岸	十四號	〇七五	一一〇
入船河岸	一號	一〇一	一二〇／一三〇
同	二號	四〇〇	四〇〇
安宅河岸	自一號 至三四號ノ二號合併	〇九〇	一一〇／一二〇
同	自五號 至十四號	一一二	一一〇／一二〇
油堀河岸	一號	一六五	一六〇／一六五
同	自三號 至十號	一八一	一八〇／一八一
同	自十一號 至十二號	一三〇	一七〇
同	自十八號 至三十二號	〇九八	一二〇
同	自三十三號 至三十九號	〇八三	一二〇
東門前河岸	自一號 至二號	〇九四	一六〇／一七〇
同	自三號 至四號	〇八六	一五〇／一七〇
同	自五號 至六號	一〇一	一七〇
同	七號	〇八六	一五〇／一七〇

東門前河岸	八號	一〇一	一七〇
北仙臺堀河岸	自一號 至四十四號	一二一	一三〇／一四〇
南仙臺堀河岸	自一號 至四號	〇九〇	一二〇
同	自六號 至九號	〇六七	一二〇
同	十號	一五五	一五〇／一五五
同	自十一號 至二十八號	〇六七	一二〇
伊澤河岸	自一號 至六號	一三二	一三〇／一四〇
大住河岸	自一號 至十號	一三三	一二〇／一三三
永代河岸	一・二號	一八三	二四〇
	自一號 至九號		二六〇
同	十號ノ一	一八三	二六〇
同	十號ノ二	一九九	二六〇
同	自十一號 至十三號	二二九	二三〇
佐賀河岸	自一號 至二號	一四六	一五〇

晒場河岸	自一號至五號		〇六三		一〇〇
同	自六號至八號		〇五一		●〇九〇 一〇〇
小松河岸	自一號ノ一至二號		一〇六		●一二〇 一三〇
同	三號		一一八		●一二〇 一三〇
松賀河岸	自一號至二號		一一八		●一三〇 一四〇
松村河岸	一號		一二二		●一三〇 一四〇
同	自二號至十二號		一三七		●一三〇 一四〇
一色河岸	自一號至八號		〇九九		一三〇
大和河岸	自一號至三號		一〇四		一二〇
濱邊河岸	自八號至十八號		一二八		一三〇
同	十九號二十號合併		二五八 一二八		◎二五〇 二五八 ◎一二〇 一二八
同	二十一號		一二八		一三〇
同	自二十二號至三十七號		一五九		●一五〇 一六〇
同	三十八號ノ一		一三七		●一三〇 一三七

濱邊河岸	自三十八號ノ二至六十七號		一二八		一三〇
門前河岸	自一號至二十四號ノ一ノ一		一〇三		●一三〇 一四〇
同	二十四號ノ一ノ二 二十四號ノ二合併		一一二		●一三〇 一四〇
同	二十五號		一一五		●一三〇 一四〇
同	自二十六號至三十八號ノ一		一〇三		●一三〇 一四〇
同	三十八號ノ二		二二六		●二二〇 二二六
同	自三十九號至六十號		一〇三		●一三〇 一四〇
同	六十一號		一一〇		●一三〇 一四〇
同	自六十二號至六十七號		一〇三		●一三〇 一四〇
同	六十八號		一六七		●一三〇 一六七
同	自六十九號ノ一至六十九號ノ二		四六八		●四六〇 四六八
萬年河岸	一號		二一六		●二〇〇 二一六
芝翫河岸	自一號至十二號		一四四		一六〇
奥の河岸	自三號至五號		一六〇		●一六〇 一七〇

加賀河岸	七號		一五一		一八〇
同	自八號至十六號		一二二		●一六〇 一八〇
同	十七號		一一六		●一六〇 一八〇
同	自十八號至二十一號 二十號ノ二合併		一二二		●一六〇 一八〇
同	二十二號		二三一		●二三〇 二三一
同	自二十三號至二十四號		一二二		●一六〇 一八〇
同	二十五號		一五一		一八〇
近江屋河岸	自二號至三號		〇八一		一一〇
同	四號		〇六九 〇八一		一一〇
同	五號		〇六九		一一〇
福住河岸	自一號至八號 九號合併		〇五九		一〇〇
同	十號		〇七六		●一三〇 一四〇
同	十號ノ一		一四〇		一四〇
同	自十一號至十二號		〇七六		●一三〇 一四〇

福住河岸	十三號		〇七六 〇九五		●一五〇 一七〇
同	二十七號		〇九五 一〇二		一八〇
同	二十八號		〇七六		一八〇
同	二十八號ノ一		一八〇		一八〇
同	二十九號		〇七六		一八〇
同	二十九號ノ一		一八〇		一八〇
同	三十號		〇七六		一八〇
同	三十號ノ一		一八〇		一八〇
同	三十一號		〇七六		一八〇
同	三十一號ノ一		一八〇		一八〇
同	三十二號		〇七六		一八〇
同	三十二號ノ一		一八〇		一八〇
大島河岸	自十二號至十四號		一〇一		●一一〇 一二〇
辨天前河岸	三號ノ内		〇三〇		●一〇〇 一二〇

辨天前河岸	四號	〇六五	一〇〇〇	辨天前河〇	八號	〇七七	一〇〇〇
同	自五號ノ一至五號ノ二ノ乙	〇六八	一〇〇〇	中木場河〇	自二號至五號	〇八七	一〇〇
同	六號	一〇四	一〇〇〇	西町河〇	一號	〇四八	〇八〇〇九〇
同	自七號ノ一至七號ノ三	〇七七	一〇〇〇	西永代河〇	一號	〇七五	一一〇
同	七號ノ四	〇八二	一〇〇〇				

劈頭坪谷善四郎君、京橋區內ノ白魚河岸四十七號ト、小田原河岸十一號ノ一ニ當ル二ケ所ハ、借地希望者多ク、爲メニ競爭入札ニ據リテ落札シタル場所ナリ、然ルニ斯ル場所ニ對シテ今日値下ゲヲ行ハヾ、他日ノ惡例ト成ルベシト聞ケリ、故ニ此ノ二箇所ハ原案ニ復活シ、他ハ委員會ノ修正通可決セラレンコトヲ望ムト說キ。**横山勝太郎君**ハ、東京市ノ地代ハ高キニ失ス、河岸地ノ賃貸料モ、調査委員ノ修正額ハ本員ノ希望額ニ達セザルヲ以テ、原案竝ニ委員會ノ修正意見何レニモ絕對ニ反對スト論ジ。**鎌田芳太郎君**ハ、横山君ノ說ニ反對シテ、原案維持ヲ力說シ。**音羽耕逸君**ハ、一箇年間ノ延期說ヲ主張シタルモ、採決ノ結果、何レモ贊成者少數ニテ否決サレ、坪谷君ノ意見通可決セリ。

第參拾節　市會議員異動

大正三年中ニ於ケル市會議員ノ異動、左ノ如シ。

選擧區	氏名	年月日	摘要
四谷區	石川顯一郎	大正三年一月六日	死亡
淺草區	小柴市兵衛	大正三年二月四日	死亡
牛込區	中島行孝	大正三年五月一日	死亡
神田區	小林乙松	大正三年十二月二十一日	死亡
牛込區	升本喜兵衛	大正三年十二月二十二日	死亡

第四章　大正四年

第壹節　阪谷市長並松木電氣局長ノ辭任

二月三日ニ開カレタル本年初頭ノ會議ニ於テ、**阪谷市長**ハ、突如左ノ如ク退職ノ挨拶ヲ爲セリ。

昨年十月市會ハ、「本市財政ノ基礎ヲ危クセズシテ普ク市民ヲシテ公平均一ナル低廉ノ公定料金ニ據ラシムベキ具體的ノ實行方法ヲ定メ、二箇月以內ニ本市會ニ提案アランコトヲ望ム」ト決議シ、以テ本職ニ電燈問題ノ解決ヲ委託セリ。爾來本職ハ孜々トシテ本問題ノ調査ニ從事シタルモ、遂ニ期限內ニ終了スル能ハザリシガ故ニ、十二月ニ至リ、更ニ翌年一月三十一日迄ノ延期ヲ請ヒ、此間ニ於テ本職ハ最善ノ案ヲ具シテ本市會ニ提出スベキ希望ヲ以テ、更ニ或ハ調査ヲ命ジ、或ハ交渉ヲ重ネ、能フ限リノ努力ヲ試ミ、以テ電燈料金ニ對スル市會屢次ノ建議ノ趣旨ニ副ハンコトヲ期シタルモ、終ニ事志ト違フニ至リタルハ、恐懼ニ堪ヘザル所ニシテ、玆ニ自己ノ責任ヲ明カニスル爲メ、內務大臣ニ骸骨ヲ乞フノ決心ヲ爲セリ。尙ホ電燈會社トノ交渉ニ關シテハ、德義上公會ノ席ニ於テ言明ヲ憚ルモノ少カラザルガ故ニ、委曲ヲ認メテ冊子ト爲シ、報告書トシテ諸君ノ內覽ニ供スルコトトシタルモ、其內容ハ祕密ニ付セラレンコトヲ希望ス。回顧スレバ明治四十五年七月圖ラズモ諸君ノ推薦ヲ辱ウシテヨリ二箇年有半、其間幸ニ大過ナキヲ得タルハ諸君ノ協贊ノ賜物トシテ玆ニ深甚ノ謝意ヲ表ス。尙ホ市政ニ關シテハ爲スベキコト固ヨリ少カラザルモ、當面ノ問題ハ大正四年度ノ豫算ナルガ、是亦參事會員諸君ノ勉勵ニ由テ調査ヲ完了シ、本日玆ニ之ヲ提出スルヲ得タルハ、本職ノ欣快ニ堪ヘザル所ナリ。就職以來余ハ常ニ減稅ノ方針ヲ執リ來リタル爲メ、時ニ或ハ緊縮ニ過ギタルノ憾アリシナランモ、能フ限リ市民ノ負擔ヲ輕減シ、入ルヲ計テ出ヅルヲ制スルノ意ニ外ナラズ、幸ニシテ本年度豫算ニ對シテモ、亦此方針ヲ守ルコトヲ得タルハ、余ノ欣喜ニ堪ヘザル所ナリ。又昨年末以來計畫セル行政整理問題モ、今ヤ既ニ一段落ヲ告ゲ、參事會ガ本年度豫算ヲ査定シタル結果、大ニ緊縮ノ實ヲ見ルヲ得タリ。特ニ一言シタキハ、事小ナルニ似タルモ、市役所及ビ區役所ニ於ケル時間勵行ノ必要ニシテ、日々一時間ノ差ハ、多年ノ間ニハ所謂塵モ積レバ山ヲ成スノ格言ニ漏レザルベキヲ以テ、行政整理ノ一項トシテ之ガ實行ヲ嚴ニ吏員ニ命ジタリ。其他諸般ノ施設ニ關シテハ、余ノ意見ヲ兩助役ニ傳ヘ置ケリ。終ニ臨ミ余ノ特ニ高調セント欲スル點ハ、余ノ辭職ガ毫モ東京市ノ財政ト關係ヲ有セザル事是ナリ、本市ハ多額ノ外債ヲ有シ、且ツ內地ニ於テモ昨年既ニ五百萬ノ市債ヲ發行シタル爲メ、余ノ辭職ニ關聯シテ財政上ノ誤解ヲ生ズルガ如キコトナキヲ切望ス。卑見ヲ以テスレバ、東京市ハ三百年ノ歷史ヲ有シ、江戶時代ノ繁榮ハ明治ノ初ニ於テ一時頓挫シタリト雖モ、爾後今日ニ至ルマデ人口ノ增加、商工業ノ發達、實ニ著キモノアリテ、將來益〻繁榮ニ赴クベキハ疑ヲ容レザル所、從テ賢明ナル諸君ノ指導協贊ノ下ニ着々施設經營ノ步ヲ進ムルトキハ、十年乃至二十年ノ後ニハ、今日ノ東京市ノ富力ヲ幾倍スルハ決シテ難事ニアラズト信ズ。故ニ余ノ辭職ガ東京市ノ財政上ノ危機ニ起因スルガ如キコトナキハ自ラ明白ナルベシ。東京市ハ固ヨリ充分ナル資力ヲ有スルモ、其財政ニ關シテハ、諸君ノ周到ナル注意ヲ要ス。余ハ市ヲ愛スルノ餘リ敢テ此言ヲ爲スノミ。

斯クテ阪谷市長ハ退場シ、次ニ**松木電氣局長**モ、亦左ノ簡單ナル挨拶ノ後、同ク退場セリ。

市長ノ挨拶中、前段ノ電氣事業ニ關スル點ニ對シテハ、余ハ職務上當面ノ責任ヲ感ズル者ナリ。故ニ既ニ自己ノ決心ヲ市長ニ披瀝シタルガ、此席ニ於テハ之ヲ縷述セザルベシ。惟余ハ此機會ニ於テ、長ク諸君ノ厚情ヲ辱ウシ

タルコトニ對シ、謹ンデ感謝ノ意ヲ表シ、併セテ諸君ガ益ゝ市民ノ爲メニ盡クサレンコトヲ祈ルト微衷ヲ言明スルニ止メン。

備考　上記阪谷市長ガ提出シタル冊子ハ「電燈問題ニ關スル經過報告」ト題シ、電燈經營統一案、東電及ビ日電代表者トノ折衝等ニ關シ、頗ル詳細ニ記述セルガ、市長ノ希望シタル如ク、當時ニ在リテハ其内容ヲ祕スルノ必要アリタランモ、今日ニテハ固ヨリ斯ル必要ナカルベシ。但シ此報告書ハ十九ノ目次ヨリ成リ、稍長文ノモノナルヲ以テ、其全部ヲ此處ニ收錄スル能ハズト雖モ、幸ニ其劈頭ニ記述セル「概要」ヲ一讀セバ、阪谷市長ノ調査ノ方針ト其經過ノ梗概ヲ窺知シ得ベキヲ以テ、左ニ之ヲ轉載スルコトトセリ。

一　概　要

本市電燈料金ニ關シ、市會ハ大正三年十月十九日ヲ以テ、市財政ノ基礎ヲ危クセシテ全市民ヲシテ公平均一ナル低廉ノ公定料金ニ據ラシムヘキ具體的ノ實行方法ヲ定メ、二箇月以内ニ提案スヘキコトヲ市理事者ニ要望セラレタリ。

玆ニ於テ本職ハ電氣局長ニ命シ、之ニ對スル諸種ノ方案ヲ調査セシメ、先ツ以テ料金協定ノ方法ニ依リ、東電及日電ノ代表者ニ協商ヲ試ミタルモ、兩社トモ該方法ノ實行ハ、頗ル困難ナル事情アルヲ申出テ、事業ノ統一ヲ要望スルニ至レリ。本職ニ於テモ市會決議ニ係ル電燈料金輕減ノ旨趣ニ副ハントセハ、寧ロ市營統一ヲ以テ最モ適切ナル方法ナリト思量シ、專ラ此方面ニ向テ調査ヲ進捗セシメ、更ニ之ヲ以テ兩電ト交渉ヲ開始セリ。當時兩電代表者ハ各當事者間ノ交渉ヲ圓滑ニ進捗セシムル爲メ、男爵澁澤榮一並ニ森村市左衛門ノ兩氏ニ仲介ヲ托スルノ提議ヲ爲シタルニ依リ、本職ハ兩社ヨリ兩氏ニ申入レ、兩氏ニ於テ之ヲ承諾シ、兩氏ヨリ市長ニ申出テラルヽニ於テハ異議ナキ旨ヲ答ヘタリ。爾來當時者ニ於テ數次ノ折衝ヲ試ミタルモ、若干ノ間隔アリテ合致セサリシニ依リ、各其主張ヲ仲介者ニ申出テタルニ、仲介者ハ別ニ仲介意見書ヲ作成シ、各當事者ニ交付セラレタリ。然ルニ該意見書ニ對シ、本職ハ多少ノ異議ナキニアラスト雖モ、互讓妥協ノ意味ニ於テ、仲介意見書ヲ尊重シ、大體之ニ同意ヲ表シ、單ニ電燈電力事業ノ基根タル電力料金ニ對シ讓歩ヲ求メタルモ、東電ニ於テハ、該意見書ニ對シ數種ノ異議ヲ申出テ、當事者ノ間ニ一致點ヲ見出スコト能ハス。遂ニ交渉不調ニ歸シタルハ、本職ノ頗ル遺憾トスル處ナリ。而シテ本問題ハ一般經濟界ニ至大ノ關係ヲ有スルノミナラス、市財政上重要ナル事項ナルヲ以テ、夙ニ當局諸大臣及關係官廳ニハ、本職ノ意見ノアル處ヲ開陳シ又屢ゝ其經過等ヲ報告シテ、本件ノ進捗上萬一ノ遺憾ナキヲ期シタリ。以下順ヲ追フテ、其調査及交渉ノ顚末及經過ヲ詳述スヘシ。

尙ホ市ノ最初ノ提案ニ依レバ、東京電燈會社ノ買收價格ヲ金三千百二十萬圓、日本電燈會社ノ買收價格ヲ、未拂込株金全部拂込濟ノ上ハ、金千百五十萬圓、未拂込ノ儘ナレバ金六百萬圓ト見積レリ。

第貳節　市政檢査委員會意見報告

▽市政檢査委員會第二回報告　前章第貳拾參節ニ記述シタル市政檢査委員會第一回報告ノ後ヲ承ケ、其第二回報告ハ本年二月三日ノ會議ニ左ノ如ク提出セラレタリ。

市政檢査委員會第二回報告

委員會ハ市教育事務ノ檢査ニ關シテ、前後十九回ノ集會ヲ開キ、且ツ其所屬學校及研究所等ヲ臨檢シ、愼重審査ノ結果、左記ノ議決ヲナシ、之ヲ第二回ノ報告トナス。

但本報告ハ、普通會計ニ屬スルモノニ就キ調査シタル結果ナリ。其特別會計ニ屬スルモノハ、他日更ニ報告スル所アルヘシ。

右及報告候也

大正三年十二月二十六日

委員長　豐川良平

理事　大橋新太郎　鎌田芳太郎　松山傳十郎

委員　菅羽耕逸　矢野鉉吉
羽田如雲　大澤朝吉　黒須龍太郎
木村正孝　西川嘉門　尾後貫朝吾郎
野並慶定　長清助　中島行麿

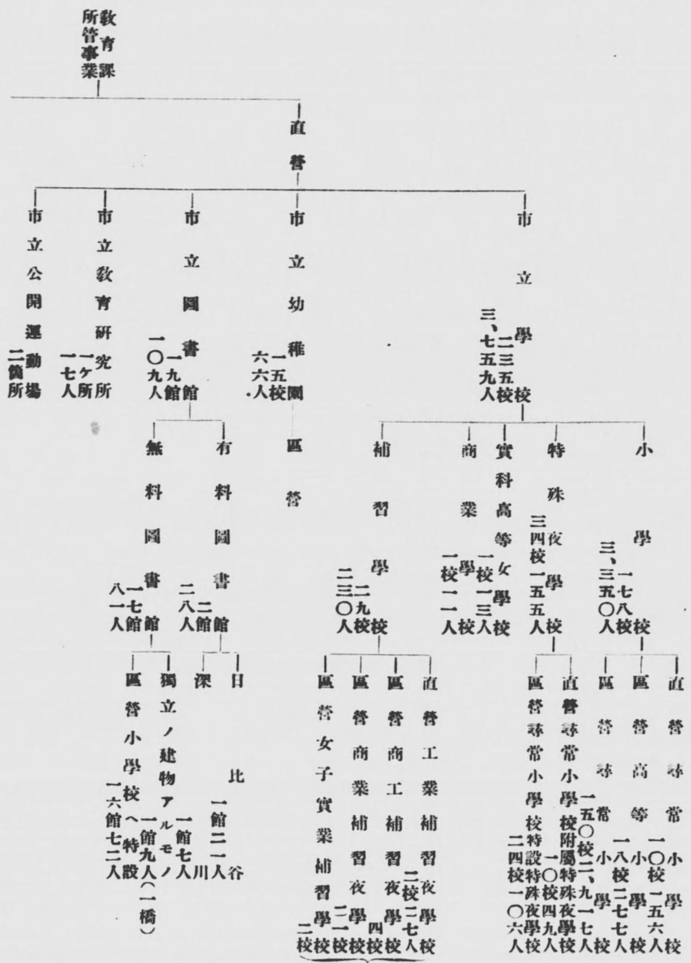
東京市會議長中野武營殿

市教育事務ニ關スル檢査報告

第一章　總論

都市ノ進歩發達ハ教育事業ノ振興ニ原因シテ各種事業ノ根底ヲナスモノナルモ其效果ハ常ニ無形ノ間ニ來ルモノナルカ故ニ動モスレハ閑却セラル、傾向アリ電氣、財政、土木又ハ上下水道事業等時々刻々ノ結果カ直ニ數字計算ノ上ニ指摘セラル、モノハ視聽ヲ刺戟スルコト切ナルカ爲ニ調査研究ノ機會ニ接スルコト多キモ教育事業ニ至リテハ從來市政ノ重要問題トシテ世論ノ注視ヲ受ケタルコト尠キヲ遺憾トス且ツ又市財政上ヨリ視ルモ教育方面ノ費目ハ多項ニ亘ルカ爲ニ一項目ニ於テハ多額ニ上ラサルモ總計ノ結果ハ普通會計ニ於テ大正三年度ノ豫算二十六萬六百二十八圓特別會計ニ於テ同シク百七十七萬八十七圓ヲ計上スルニ至ル況ヤ各區ノ大正三年度區費豫算總額二百五十一萬二千三百十九圓中教育費百九十八萬九千五百八十三圓ヲ算シ全部殆ト教育費ナリト云フモ不可ナキオヤ一方ニ於テハ府知事ヨリ指定セラレタル學校ハ未建設ノモノ多ク就學兒童ハ年々增加スル爲ニ多數ノ小學校ハ教授訓練管理上多大ノ不成績ヲ忍ヒツ、不自然ナル二部教授ヲ施行スル現狀ニアリ殊ニ現下ノ時局ニ際シテ市當局者ハ市財政ノ現狀ニ鑑ミ最必要ナル小學校ノ改築設備等ニスラモ制限ヲ加フルノ止ムナキニ到レリ此ノ如キ場合ニ於テ市教育事業ヲ刷新シ冗費ヲ省キ事務ヲ簡捷ニシ不急ノ施設ヲ制限シ以テ事業ノ成績ヲ擧クルト同時ニ經費ヲ節減スルコトハ最モ急務ナリト信シ主トシテ檢査ノ方針ヲ此處ニ定メタリ唯市當事者ハ情弊ノ有無ヲ調査スルニ必要ナル書類ノ提供ヲ拒ミタルヲ以テ本報告ヲシテ多少隔靴搔痒ノ感アラシメタルハ遺憾ナリト雖モ猶且調査シ得タル條項ニヨリテ多クノ有益ナル推斷ヲ得タルハ又自ラ滿足スルトコロナリトス

●教育課所管事業一覽表



- 補習
  - 補助教育補助　三〇
    - 區營商工補習夜學校　四校
    - 區營商業補助夜學校　二一校
    - 區營女子實業補習夜學校　二校
    - 私立工業補習夜學校　一校
    - 私立商業補習夜學校　二校
  - 專任學校醫手當補助　九區　一七人
  - 事業補助　七
    - 東京市教育會
    - 東京府教育會
    - 本郷區教育會
    - 同善會
    - 東京市特殊小學校後援會
    - 東京盲人教育會
    - 樂石社

備考　人數ハ教員數、館員數、所員數及醫員數ヲ示セルモノトス　小學校竝夜學校ニ兼務セル教員ハ重複シテ計上セルモノトス
本表ハ大正三年九月末日現在ニ據ル

●教育課所管普通經濟一覽表

- 教育課所管普通經濟
  - 歲入　二一、六九七円
    - 學校圖書館使用料　一二、七一三円
      - 授業料　八、二八三円
      - 閲覽料　四、四三〇
    - 府補助金　二、二一四
      - 教員住宅費補助　一、七八八
      - 實業夜學校費補助　四二六
    - 特別基金經濟ヨリ繰入　六、七七〇
  - 歲出　八九三、九一二
    - 經常部　二三五、九二五
      - 學務委員會費（市役所費、費用辨償）　三、二八四
      - 實科高等女學校費　一〇、二一八
      - 商業學校費　六、二六八
      - 工業夜學校費　八、七二四
      - 特殊尋常小學校及附屬特殊夜學校費　一〇三、一一八
      - 特殊夜學校費　二八、八一三
      - 日比谷圖書館費　一九、四〇八
      - 深川圖書館費　四、九二三
      - 自由圖書館費　三五、五二四
      - 教育研究所費　一一、八五三
      - 教育諸費　三、七九二
    - 臨時費　六五七、九八七
      - 學校營繕竝設備費　三、〇〇九
      - 圖書館營繕費　四、二八二
      - 補助費　二〇、六九五
      - 市立小學校建設資金經濟繰入（雜支出）　六三〇、〇〇〇

○市立尋常小學校二部教授學級及兒童數

區名	尋常一學年	二學年	三學年	四學年	五學年	六學年	合計	兒童總數
麴町	—	—	—	—	—	—	—	—
神田	二七	一四	五	—	四	二	五二	二、八四七
日本橋	—	—	—	—	—	—	—	—
京橋	—	—	—	—	—	—	—	—
芝	—	—	—	—	—	—	—	—
麻布	—	—	—	—	—	—	—	—
赤坂	—	—	—	—	—	—	—	—
四谷	一五	一三	三	三	—	—	三四	二、〇三九
牛込	二四	一六	六	四	—	—	五〇	二、九二六
小石川	三八	二六	一八	四	—	—	八六	四、七九六
本郷	八	—	—	—	—	—	八	五二七
下谷	四四	二四	二二	四	—	—	九四	五、六〇四
淺草	六五	二九	一六	四	—	—	一一四	六、五九一
本所	六六	五四	四	四	—	—	一二八	八、一二六
深川	三三	八	四	四	四	四	五七	三、一七五
合計	三二〇	一八四	七八	二七	八	六	六二三	三六、六六七

備考　二部教授ノ學級數ハ午前午後部ヲ合セテ記載セリ故ニ收容力ノ關係ヨリ見レハ此半數ニ對スル教室ノ不足トスレハ大差ナシ

○府知事指定市立尋常小學校數成績調

區名	明治三十二年指定	其後ノ指定	合計	未建設校數
麹町	四	一	四	一
神田	八	二	一〇	三
日本橋	五	一	五	一
京橋	一〇	一	一〇	三
芝	八	一	八	一
麻布	三	二	五	一
赤坂	二	一	四	一
四谷	三	一	八	一
牛込	七	一	七	一
小石川	三	四	七	一
本郷	四	一	四	一
下谷	七	四	一一	三
浅草	七	五	一七	四
本所	四	四	九	七
深川	五	四	九	二
合計	九〇	二三	一一三	二三

○學齢兒童累加表（毎年四月末日調査　△印ハ減ル）

年度	兒童總數	前年度ト比較シタル增加減
明治三十二年	一九七、六二三	○
同三十三年	一九三、六五二	△三、九七二
同四十年	二〇二、三五八	八、七〇七
同四十四年	二〇六、五六〇	四、二〇二
同四十五年	二一一、六三五	五、〇七五
大正二年	二二四、六二七	一二、九九二

○大正三年度各區總豫算及教育費調

區名	豫算總額	經常費	臨時費	合計
麹町	一〇九、二一三円	七五、四七六円	〇円	七五、四七六円
神田	一八九、一三五	一六二、五〇九	一、三〇〇	一六三、八〇九
日本橋	二〇六、一五三	一八二、一三〇	七〇五	一八二、八三五
京橋	二一一、一〇五	一六〇、八五〇	一、八七五	一七二、七二五
芝	二三七、九〇四	一七六、七六三	〇	一七六、七六三
麻布	一四八、四七九	八六、七五八	〇	八六、七五八
赤坂	七九、五九〇	五五、九二八	〇	五五、九三八
四谷	七八、九一一	五二、一七九	〇	五二、一七九
牛込	一一四、二二七	一一三、四〇六	〇	一一三、四〇六

大正年間　鈴四章
大正四年　鈴貳節
市政會議員委員會意見報告

小石川	一二二、二四三	一〇四、七二七	六〇〇	一〇五、三二七	
本郷	一六三、二九八	一二二、八七二	〇	一二二、八七二	
下谷	二〇七、一三五	一七一、四五八	二、〇九七	一七三、五五五	
浅草	二三〇、五〇二	二〇一、八八六	一、八八〇	二〇三、七六六	
本所	二三二、一四七	一六五、五五〇	一、二四六	一六六、七九六	
深川	一五一、三七七	一三二、三二六	五、〇五一	一三七、三七七	
合計	二、五一二、三一九	一、九六四、八二九	二四、七五四	一、九八九、五八三	

本表ハ各區ニ於ケル大正三年度總豫算決議書ニ依リ計上セリ從テ其後ノ經常部各臨時部ノ追加豫算アルヘキモ之ヲ含マス殊ニ臨時部ハ各區其追加ト爲ス例ナルヲ以テ本表ニ計上セルハ僅少ナル一部ニ過キス

一　朋黨對峙

市教育界ハ朋黨對峙ノ弊アリテ市教育當事者モ亦コレニ浚頭スルノ形迹アリ由來市教育界ニハ市ノ政治的黨派ニ淵緣スルモノ、出身學校ヲ同シウスルモノ、地方關係ニヨルモノ、同シ利害ノ下ニアルモノ等ノ團結アリ三多摩派、岩溪會派、同窓會派、戸野派等ヲ始メ地方ト其出身先輩ニシテ市政ニ關係アルモノニヨツテ結ハレタル岐阜組、信州組等ノ名稱カ市教育界ノ常套語トシテ傳稱セラルヽハ少クトモ黨同伐異ノ傾向ヲ示スモノト謂フヘク教育課吏員ノ選任小學校教職員ノ進退移動等カ斯ル黨派ノ消長ト結ヒツケラルヽハ市教育者間普通ノ認定トイフモ不可ナシ此ノ如ク市教育者間ニ朋黨比周ノ弊アリテ市當事者モ亦コレニ關係セル形迹アルハ甚タ不都合ナル行爲ト謂ハサルヘカラス

二　事業濫設

市教育當事者ハ徒ラニ施設事項ノ多キヲ衒ハンカ爲ニ不急ノ事業ニ多額ノ費用ヲ投シ以テ事業ヲ濫設シタル傾向アリ勿論事業ソノモノヽ性質ハ必スシモ不可トセサルモ之ヲ企計スルニ誠意ヲ缺ケルヲ以テ秩序ナク連絡ナク形式ノミ存シテ效果擧ラス殊ニ豫算割取ノ多キヲ以テ其課ノ面目ナリトスルカ如ク想ハル、點スラアルハ遺憾ト謂ハサルヘカラス假ニ斯ル事業ノ必要ヲ感スルトスルモ今ヤ東京市ノ財政ハ餘裕乏シク小學校ノ設備不完全ニシテ義務教育ノ上ニモ障碍ヲ來シツヽアル有樣ナルカ故ニコレカ施設ニ關シテハ須ク十全ノ考慮ヲ要ス而モ此點ニ於ケル市當事者ノ教育事業ノ施設ハ緩急輕重ヲ誤レル嫌アリ遺憾ナリト言ハサルヘカラス

三　事務煩瑣

現今ノ市教育事務ハ簡易敏捷ヲ缺キ從テ小學校事務ノ支障ヲナスコト多シ市教育課ノ事務處理細則ニ據ルモ形式ヲ整フル爲ニ組織ヲ華ニシ其結果トシテ冗員ヲ增加セル形迹ナキニアラス刷新トイヒ整理トイフハ有用ノ適材ヲ活動セシムルヲ本トスルニアリ然ルニ形式ノ爲ニ冗員ヲ增シ爲ニ事務煩瑣ニシテ效果擧ラス却テ徒ラニ經費ノ膨脹ヲ見ルカ如キハ甚タ遺憾ナリトス

第二章　各論

一　教育課

教育課處務細則ニ依レハ課長ノ下ニ專屬及第一ヨリ第四ニ至ル五係アリ各係ニ五名乃至十一名ノ吏員ヲ配置シ恰モコヽニ小市役所ノ組織ヲ見ル如キ觀ヲナセリ其結果ハ類似シタル事務ヲモ強イテ分割シ管掌スヘキ事務ヲモ避ケテ顧ミサル如キ有樣トナレリ現任課長カ就職以來十ケ年ヲ經過スルニモ拘ハラス視察ノ目的ヲ以テ未タ一回タモ市內小學校ヲ巡視シタルコトナキ失態ヲ甘ンスルモ畢竟コレカ爲ナリ又市役所費支出俸給人員調ニ據レハ教育課ノ吏員ハ二十二名ト定メタルモ現在ニ於テハ三十四名(內四名囑託)ノ吏員ヲ置キ殊ニ必須ノ緊急事項アラサルニ拘ハラス屢々囑託臨時雇等ヲ置キテ之ニ多額ノ俸給ヲ與フル如キ人ノ爲ニ强テ事ヲ繁クスルノ弊アリト云フヘシ試ニ其一二ノ例ヲ擧クレハ大正三年一月十七日ヨリ三月三十一日マテ臨時雇ヲ命シ出勤簿ノ捺印ヲ證トシテ之ニ三十六日間ノ日給總計金五拾四圓(日給一日金壹圓五拾錢)ヲ支給シタル某氏ハ當時病氣ニテ出廳ノ形迹ナキヤノ疑アリ又某氏ハ大正三年七月十三日ヨリ日給壹圓ニテ囑託ヲナシタルモ同人ハ僅ニ四日間出廳執務シタルノミニシテ餘ハ出張ト稱シテ今日ニ至ルマテ何等ノ成績ヲ擧ケス斯ノ如キハ冗員濫設ノ尤モ甚タシキ例證ナリ又大正二年十二月東京市教育會カ總會ヲ開クニ際シ市教

育課員ノ加入セル一派ハ他ノ反對派カ自派ニ好都合ナル定款ノ改正ニ反抗センコトヲ恐レ市内各小學校ヲ巡リテ教員ノ多數ヲ催促シ强テ會場ニ臨マシメタルカ如キハ其弊測ルヘカラサルモノアリ又大正二年ヨリ三年ニ亘リ擧行セラレタル市區名譽職ノ選擧ニ際シ教育課員ノ或者ハ選擧運動ヲ試ミ自己ノ名ヲ以テ有權者タル小學校教員ノ投票ヲ動カスヘク力メタルモノアリ又市會ニ於テ役員ヲ定ムルニ際シ教育課ハ好惡ノ私心ヲ挿ンテ其人選ニ運動シタル形迹アリ是等ハ一二ノ近キ實例ニシテ市教育者ニ朋黨比周ノ弊アリト認メラル、所以ナリトス凡ソ行政整理ニ於テ局課ノ廢合ト云ヒ冗員ノ淘汰ト云フハ其重大要件ナルニ教育課ハ殊更ニ分課ヲ煩ハシクシ俸給ヲ分割シテ吏員ヲ增加スル如キコトヲナシツ、アルハ冗員ヲ增シ及ヒ事務ノ簡捷ヲ缺クコト甚タシキモノト認ム

○市役所費支出俸給人員調

主事	主事補	視學	學務員	雇	計
一	一	四	一二	五	二二

○教育課現在人員配置調（△印囑託）

專屬長　田村喜三郎　（山本　俊一　新島　讃吉　佐久間　智　平野彌一郎　後藤　和治

第一係長　濱　幸次郎　（橋本　福藏　法貴慶次郎　△小鹽均一郎　吉岡　泰平　森川　勉　△飯島　正　（小池殖次郎　齋藤　金造　△桑屋清次郎　櫻谷　直記　△上野　巳熊

第二係長　櫻谷　直記　（山田　貫實　山本　俊一　松島　廉平　加藤　善助　堀江長三郎

第三係長　田村喜三郎　（羽生　正　加藤市太郎　永井　喜作　松井　半三　辻　幹

第四係長　土屋　義行　（廣瀨久次郎　眞殿　慈　長谷川信雄　成島　貫吉　石田　巖

○教育課處務細則

第一條　本課ニ專屬及左ノ係ヲ置キ事務ヲ分掌セシム但新計畫ニ關スルモノ又ハ異例若クハ重要ナル事項ハ主事補ニ協議スルモノトス

專屬

一、學校幼稚園職員ノ任免進退、身分服務ニ關スル事項
一、同上ノ年功加俸、選奬及無試驗檢定ニ關スル事項
一、文書ノ收受發送ニ關スル事項
一、公印ノ保管ニ關スル事項
一、師範學校卒業生ノ配置ニ關スル事項
一、師範學校入退學ニ關スル事項

第一係（視學事務）

一、學校幼稚園職員ノ任免、進退、身分服務ニ關スル調査
一、同上ノ年功加俸、選奬及無試驗檢定ノ調査
一、學校幼稚園ノ教授訓練及管理ニ關スル調査
一、同上ノ設備其他一般ノ狀況ニ關スル調査
一、學校衛生ニ關スル調査
一、學校經濟ニ關スル調査
一、教員講習ニ關スル調査
一、社會教育ニ關スル調査
一、兒童校外取締ニ關スル調査
一、兒童褒賞ニ關スル調査
一、校長會ニ關スル調査

第二係（豫算決算社會教育其他）

一、豫算決算事務報告竝市會議案ニ關スル事項
一、教育基金ノ管理收支ニ關スル事項

一、圖書館ノ設置廢止設備管理監督竝收支ニ關スル事項
一、教育事業ノ奬勵補助ニ關スル事項「小學校建設費補給、實業教育特殊教育、學校醫補助ヲ除ク」
一、學務委員及學務委員會ニ關スル事項
一、學事諸調査及學事年報統計ニ關スル事項
一、本課所屬ノ物品取扱車馬貸ニ關スル事項
一、豫算出納簿ノ整理ニ關スル事項
一、法規類ノ輯錄及保管ニ關スル事項
一、他係ノ主管ニ屬セサル事項

第三係（區營小學校ノ建設管理監督等）

一、小學校建設資金ニ關スル事項
一、區營小學校幼稚園設置廢止ニ關スル事項
一、同上ノ教科編制及就學事務ニ關スル事項
一、同上ノ監督管理ニ關スル事項
一、區經濟教育費ノ豫算決算竝區會議決ニ關スル事項
一、區ノ教育上ノ財產ニ關スル事項
一、官公私立小學校幼稚園ニ關スル事項
一、區營小學校建設費補給ニ關スル事項

第四係（直營學校教育研究所及補助ヲナス特殊教育實業教育機關ノ管理監督等）

一、直營學校ノ設置廢止設備ニ關スル事項
一、直營學校ノ教科編成及就學事務入退學ニ關スル事項
一、同上ノ管理監督及收支ニ關スル事項
一、教育研究所ノ管理監督及收支ニ關スル事項

一、教育講習ニ關スル事項
一、學校衛生及學齡補助ニ關スル事項
一、區營及補助ニ依ル私人經營實業學校ノ設置廢止管理監督竝補助ニ關スル事項
一、補助ニ依ル私人經營特殊教育機關ノ監督補助ニ關スル事項
一、官公私立實業學校及中等程度以上ノ諸學校ニ關スル事項

第二條　各係ニ係長ヲ置キ課長之ヲ命ス
係長ハ課長ノ命ヲ受ケテ係員ヲ指揮シ其所管事務ヲ掌理ス

第三條　收受文書ハ課長ノ閲覽ヲ經テ文書主任之ヲ係長ニ配付ス

第四條　配付ヲ受ケタル文書ハ其擔當主任ニ於テ速ニ調査スヘシ若シ調査シ難キトキハ其事由ヲ係長ニ申出ツヘシ

第五條　回議ハ關係各係ノ合議ヲ經ヘシ

第六條　回議ノ訂正改竄等ヲナシタル箇所ハ係長之レニ捺印スヘシ紹合ノ契印亦同シ

第七條　告示訓令規定通達及例規トナルヘキ通牒ノ類ハ主管ノ係ニ於テ發案シ各係長ノ合議ヲ經施行後各係ヘ回覽シ第二係ニ於テ例規輯錄ニ分類登錄スヘシ

第八條　完結文書ハ速ニ文書主任ヲ經内記課ニ引繼クヘシ若シ留置ヲ要スルトキハ留置簿ニ件名ヲ記シテ係長ノ承認ヲ受クヘシ

第九條　豫算決算及事務報告ハ左ノ期限内ニ各係ヨリ第二係ニ回付スヘシ

一、翌年度豫算概算計書及説明材料　八月三十日限
一、前年度決算書及説明材料　七月十日限
一、前年中ノ事務報告　一月十日限

第十條　豫算上ノ事業及事務ハ各係長ニ於テ其種目竝着手竣成等ニ關スル豫定表及事務功程ヲ調製シ左ノ期限ニ從ヒ課長ニ報告スヘシ

一、豫定表　豫算決定後十日以内
一、功程表　豫算決定後四箇月毎ニ一回

大正年間　第四章　大正四年　第貳節　市政檢査委員會意見報告

第十一條　庁當事務ニ就キ當事者ニ面談ヲ要スルトキハ係長ノ指揮ヲ受クヘシ

第十二條　各府廳等ニ送付スヘキ上司ノ指令並辭令書ハ課長閲覽ヲ經テ發送スヘシ

第十三條　市參事會市學務委員會其他ノ委員會ニ於ケル說明ハ課長又ハ當該係長之ニ當ルモノトス

第十四條　課長ハ或ル事項ヲ限リ特ニ委員ヲ設ケ又便宜他係ヲシテ之ヲ處理セシムルコトアルヘシ

第十五條　出張ハ各係長ニ於テ出張命令簿ニ記載シ課長ノ決裁ヲ經ヘシ

第十六條　出張者ハ歸廳後出張命令簿ニ其要領ヲ記載復命スヘシ

但別ニ復命書ヲ要スルモノハ三日以内ニ之ヲ作成提出スヘシ

第十七條　視學ノ普通視察ハ豫メ係長ニ於テ毎月分ノ出張豫定表ヲ作リ課長ノ決裁ヲ經ヘシ

第十八條　前條ノ復命書ハ翌月十日迄ニ其前月分ヲ作成シ之ヲ市長ニ提出スヘシ

第十九條　執務時限外又ハ休日ノ執務ハ各係長ニ於テ執務時限外勤務簿ニ記載シ課長ノ決裁ヲ經ヘシ

第二十條　本細則ニ規定ナキ事項ハ隨時課長ノ指示スル所ニ從フモノトス

以上

二　市學務委員

市長カ市立小學校教員ヨリ選任スル市學務委員ノ在職期間ハ法規上制限ナシト雖モ市學務委員ハ一方ニ於テハ同一人ヲ長年月在任セシムルコトハ其本務タル學校長ノ成績ニ影響スル恐アリ爲ニ明治三十七年十二月市ハ内訓ヲ發シテ市區トモニ教員ヨリ選任スル學務委員ハ二箇年ヲ期間トスルコトニ定メタリ然ルニ市當局者ハ毫モ此内訓ニヨラス本郷區誠之小學校長杉浦恂太郎氏ヲ明治三十八年九月九日ヨリ同四十四年九月二十五日マテ日本橋區常磐小學校長水野浩氏ヲ明治四十年二月十三日ヨリ明治四十四年九月二十五日マテ各々繼續在任セシメ時ナラサルニ又突如之ヲ解任シタリ而シテ此二人ニ代ツテ就任シタルモノハ吉岡泰平氏ト近藤辰三郎氏トニシテ所謂三多摩派ト岐阜組トノ代表者ナリトハ當時教育者間ニ流說セラレタル所ナリキ要スルニ市當事者ノ學務委員選任ハ動モスレハ情實ヲ以テ之ヲ左右スルノ疑アルハ遺憾トスル所ナリ

附市公民ヨリ選出スル市學務委員ハ市會ノ權限ニ屬スト雖モ其出席數甚タ少ク職務ヲ遂行スルニ遺憾アルモノアリ例ヘハ大正二年度ニ於テ委員會ヲ開クコト三十七回ナルニ某々二氏ノ如キハ共ニ僅ニ八回ノミナルハ公民トシテ學務委員ノ重任ヲ荷ニスルノ嫌アリ特ニ參考トシテ玆ニ附記ス

尚既往久シキニ亘ル間學務委員會賄費ニ豫算超過ノ事實アルヲ認メ其ノ眞相ヲ調査シタルニ明治四十一年度及同二年度ノ學務委員會賄費ハ共ニ四百七十四圓ナリシニ前年度ニ於テ七十八圓五十錢、次年度ニ於テ百六十九圓十錢ノ不足ヲ告ケタリ同四十三年度ハ豫算ヲ五百七十四圓ニ增加シタル結果決算ニ於テ七十五圓八十錢ヲ餘シタルモ四十一、二年度ノ豫算額ニ比スレハ尚二十四圓二十錢ヲ超過セリ當事者ノ說明ニヨレハ委員會ノ開會度數多カリシニ由ルトイフモ實際ハ必スシモ然ラス當時ノ學務委員ハ委員長ト共ニ十一名ノ定員ナルモ毎ニ數名ノ缺席アリ勿論缺席ヲ豫測シテ賄數ヲ定ムルコトハ不可能ノ場合アルヘキヲ以テ毎會十一箇ヲ計上シタルハ必スシモ咎ムヘカラストスルモ特別調査委員會ノ如ク全員悉ク出席ノ場合ニ在リテモ尚且委員ノ頭數以上ノ賄數ヲ支出セシニ照合セハ委員本會ニ於テ缺席者ヲ豫知シツヽモ全員相當ノ賄數ヲ要求シタル事ヲ想定シ得ラルヘシ又當時ノ記錄ニヨリテ委員會出席者ト賄數トノ對照ヲ調査スルニ明治四十一年一月二十九日調査委員長以下全員六名ノ出席者ニ對シテ賄數十箇同年十月二十八日ノ同上委員會ニ於テ出席全員三人ニ對シテ賄數四箇同年十二月二日ノ調査委員會ニ於テ出席全員五名ニ對シテ賄數六箇ヲ支出シ同四十二年度ニ於ケル全員出席ノ調査委員會ニ於テ提供シタル委員以外ノ賄數及ヒ出席委員ニ賄ヲ支出セサリシ委員本會ニ於テ毎會必ス一箇ヲ支出シ計二十五箇ノ委員數外ノ賄數アリ同四十三年度ニハ同樣ノモノ四十七箇ニ及ヘリ賄費ノ如キハ瑣細ニ亘ルト雖モカヽル不當支出數年ニ及ヘハ驚クヘキ總額ニ達シ居ルヤモ知ルヘカラス特ニカヽル私曲不正ノ支出ヲナシテ少額ナリトモ豫算超過ノ結果ヲ見タル如キハ市政弛廢ノ一例證トシテ決シテ看過スヘカラサルモノト認ム

三　市直營ノ各學校

市財政ノ狀況ハ小學校ヲ完成スル餘裕ナク校舍足ラス設備亦完カラサル爲ニ教育上多大ノ缺陷アル二部教授スラ忍ンテ之ヲ行ハサ

ルヘカラサル現狀ニアリ此際ニ當リ巨費ヲ割イテ各種ノ市營學校ヲ設クルハ緩急ヲ誤レルモノト謂ハサル可カラス法令ノ明文ニ依レハ市町村ハ小學校教育ノ施設上妨ケナキ場合ニ限リ高等女學校又ハ中學校ヲ設置スルコトヲ得ト規定シタルモ亦此理由ニ依レルモノト信ス勿論設立ノ趣旨目的ハ必スシモ不可トセサルモ現時ノ狀勢ニ於テハ緩急ノ順序ト經營ノ方法トニ於テ遺憾ナキ能ハス左ニ各校ニ就テ之ヲ詳說スヘシ

(1) 實科高等女學校

本校設立ノ動機ハ明治四十四年二月前經營者タル福島甲子三氏カ基本金二千圓ヲ添ヘテ市ニ寄附ヲ申出タルヲ最初トシ東京市立女子技藝學校ト稱シ明治四十五年三月高等女學校令ニ從ヒ現在ノ組織ニ改メタリ如此最初ヨリ必要ニ迫ラレテ經營シタルモノニアラサルカ故ニ市ノ財產ハ校舍及附屬品ニ止マリ土地及校舍ノ一部ハ賃借トナリ居レリ從テ市立直營學校トシテ其基礎極メテ不安固ナルモノナリ

本校ノ經費ハ大正三年度ノ豫算ニテ一萬一千六百三十七圓ヲ計上セリ而シテ同校生徒ノ授業料ハ本科貳圓別科壹圓五拾錢ニテ大正三年度ノ豫算ニハ四千二百九十圓ノ收入ヲ計上スルヲ以テ差引約七千三百四十七圓ハ市費ノ負擔トナルヘシ今同校ノ生徒數ヲ調査スルニ出席平均二百三十一人七分ナリ假リニ二百三十二人トスルトキハ生徒一人ニツキ年額三十二圓ヲ支出スルモノニシテ現在小學教育ノ狀況ト比シテ緩急ヲ誤ルモノト謂フヘシ且大正三年七月ノ調査ニ據レハ生徒中四十六名ハ單身寄留者ナリ是等ニ對シテ費用ヲ支出スルハ市直營學校ノ本旨ト云フヲ得ス明治四十五年二月市當局者ハ本校ノ移轉ヲ計畫シ麴町區內ニ地所建物ヲ購求セントシ其經費金十七萬六千五百十一圓ヲ計上シテ之ヲ實行スルノ案ヲ立テ大正二年二月十三日ノ學務委員會日程ニ上セ置キナカラ其開會ノ期ニ至リテ突如之ヲ撤回シタリ斯ル大規模ノ計畫ヲ容易ニ企計シ又容易ニ撤回スル如キハ同校ノ經營ニ對シテ誠實ヲ缺キタルモノト認ム

○市立第一實科高等女學校生徒調

大正三年度

○市立第一實科高等女學校生徒寄留地調

大正三年七月現在

區名	本科 全戶寄留	本科 單身寄留	選科 全戶寄留	選科 單身寄留	計 全戶寄留	計 單身寄留	合計
神田	二人	一人	〇人	一人	二人	一人	四人
下谷	一三	六	九	七	二二	一三	三五
本郷	一八	六	三	七	二一	一三	三四
淺草	六	一	〇	〇	六	一	七
麴町	〇	一	〇	一	〇	二	二
日本橋	〇	一	〇	〇	〇	一	一
京橋	〇	〇	〇	一	〇	一	一
小石川	四	五	〇	〇	五	四	九
本所	二	〇	〇	〇	二	〇	二
郡部	一一	六	三	三	一三	九	二二
合計	五六	二六	一五	二〇	七一	四六	一一七

月	本科在籍生徒數 本科	選科	計	入學者	半途退學者	日々出席平均數
四	一八五人	八〇人	二六五人	一一一人	一六人	二二四・二人
五	一八二	八六	二六八	一七	一四	二三四・三
六	一八〇	八六	二六六	二一	二三	二三六・七
計	五四七	二五二	七九八	一四九	五三	六九五・二
平均	一八二・三	八四	二六六・三	四九・六	六・五	二三一・七

(2) 商業學校

本校ハ最初簡易ナル商業夜學校トシテ經營セラレ商家ノ徒弟ヲ收容シ少額ノ經費ヲ以テ比較的良好ノ成績ヲ擧ケタリ然ルニ明治四

十三年組織ヲ擴張スルニ及ヒ教職員ヲ增加シ從テ經費ノ膨脹ヲ來シ大正三年度ノ豫算ニハ六千二百六十八圓ヲ計上シ年俸一千一百圓ノ校長以下職員ノ給料ニ四千九百八十圓ヲ支拂フ如キ有樣トナレリ更ニ之ヲ生徒一人ニ對スル費用ニ就テ觀察スルニ大正三年度ノ豫算ニ依レハ同校經費六千二百六十八圓ニ對シ二千三百圓ノ授業料收入アルヲ以テ約四千圓ノ市費ヲ支拂ハサルヘカラス今大正三年四月ヨリ六月ニ至ル日々出席平均數ヲ見ルニ二百五十六人餘ナルヲ以テ一人ニ付拾六圓强ノ給費ヲ要スル割合ナリ此ノ如キハ要スルニ市ノ財政現狀ニ對シテ不權衡ノ嫌アリトイフヘシ

○市立商業學校生徒調

大正三年度

月	在籍生徒數 本科	別科	計	入學者數	牛途退學者數	日々出席平均數
四	二二七人	九五人	三二二人	二〇二人	四人	二七〇・〇人
五	二一九	九九	三一八	一三	一七	二五三・五
六	二一四	九九	三一三	四	九	二四五・五
計	六六〇	二九三	九五三	二一九	三〇	七六九・〇
平均	二二〇	九七・六	三一七・七	七三	一〇	二五六・三

(3) 工業補習夜學校

第一第二ノ兩校アリ大正三年度ノ豫算ハ八千七百三十四圓ヲ計上セリ學科ニ於テ普通科中學科ハ純然タル補習教育ナルモ本科ハ電氣機械及建築ノ三科ニ別チテ專門的教授ヲナセリ本科教授ノ狀況ハ講義ヲ用ヒテ實習ニ依ラス第二工業補習夜學校ニ於テ木工ノ實習ヲ課シツヽアルモ唯機械ヲ得易キ爲ニシテ必スシモ之ヲ必要ト認メタルモノニ非ス元來工業教育ハ生徒カ工業者ノ徒弟ナレハ講義ヲ授クルノミニテ可ナルヘキモ技術ノ實習ニ依リテ工業者ヲ養成セントスルヲ目的トセハ器械ヲ應用シテ技術教育ヲナササルヘカラス今第一及第二工業補習夜學校ニツイテ檢査スルニ本科生徒ハ工業家ノ徒弟ト云フヨリモ寧ロ工業家タルヘキ希望ヲ有スル者多キヲ以テ現在ノ如キ單ニ講義ヲナスノミニテハ何等效績ヲ擧ケ難キモノト認ム若シ强テ之ヲ保存スル心要アリトセハ夜學ヲ晝間教授ニ改メ且必要ナル器械ヲ備ヘ專門ノ講師ヲ聘シテ之ニ當ラシメサルヘカラス之ヲ經費ノ上ヨリ見ルモ大正三年度ノ豫算ニツキ生徒ノ授業料ヲ差引クモ猶市ノ負擔ハ七千四拾壹圓ニ達シ居レリ若シ良師ヲ聘シ器械ヲ備ヘ晝間教授ノ設備ヲナストキハ其結果ハ更ニ莫大ニ上ルハ明カナリ又生徒數ヨリ云フモ委員等ノ臨檢シタル大正三年九月二十八日ノ調査ニ依レハ第一ハ普通中學ノ兩科出席者三百名本科七十三名第二ハ同シク普通中學ノ兩科出席百五十一名本科五十二名ナリ以テ本科ノ成績カ學科ニ比シテ甚タシク劣レルヲ知ルヘシ要スルニ本科即チ電氣建築及機械ノ科目ヲ教授スルコトハ其設備現在生徒ノ修業目的ニ副ハス而モ之ヲ完備スルコトハ市財政ノ現狀ニ於テ不適當ナルモノト認ム

附　委員等ノ臨檢シタル大正三年九月二十八日第二工業補習夜學校ニ於テ電氣科擔任教員ノ無屆缺勤ニ依リ同科ノ生徒全部ヲ空シク退散セシムルノ失態ヲ演出セルヲ目擊セリ以テ不熱心ノ一證トナスヲ得ヘシ

○市立工業補習夜學校生徒調

大正三年度

校名	月	在籍生徒數 選科	本科	計	入學者數	牛途退學者數	日々出席平均數
第一工業補習夜學校	四	二九五人	八九人	三八四人	三八四人	〇人	二八八・六人
	五	三五五	八八	四四三	六四	五	三〇七・六
	六	三四二	八五	四二七	三一	四七	三〇六・三
	計	九九二	六二	一、二五四	四七九	五二	九〇二・五
	平均	三三〇・七	八七・三	四一八	一五九・七	一七三	三〇〇・八
第二工業補習夜學校	四	二八九	八八	三七七	三八一	四	二九四・〇
	五	二八八	七八	三六六	二九	四〇	二八二・二
	六	二九八	八〇	三七八	二八	六	二三九・二
	計	八七五	二四六	一、一二一	四二八	五〇	八五・四
	平均	二九一・六	八二	三七三・六	一四二・六	一六・六	二七一・八

○市立工業補習夜學校生徒職業調

大正三年九月現在

第一工業補習夜學校

職業	人數	職業	人數	職業	人數
電氣工	九〇	鑄工	一	運送夫	八
木工	二五	鍛工	七	下駄工	二三
仕上工	一九	仕上工	七	將棋工	三九
金物細工	九	機關工	一五	帽子工	一二
鐵工	四六	自轉車工	四	縫工	一七
給仕	七九	金庫工	七	炭業	一
鍛工	一〇	衡器工	一	建築金物工	一
櫃盤工	四	洋傘骨工	一	スプリング工	三
國工	一二	板金工	二	金屬工	二
其ノ他ノ職工	一〇	計量器工	三	製線工	三
雜業	四三	時計工	一	通信事務	一
無職	五七	鉛職工	五	鹽工	五
合計	四〇四	菓子工	一	警手	一
		昆布工	一	建築圖工	二
		疊職	一	家具工	一
		彫刻工	一	製材職	一
		形紙工	一	煉瓦積工	一
		篠細工	二	指物工	三
		鉛職工	一	大工	一
				木型工	一七
				新聞配達夫	二
				工場給仕	二
				官衙給仕	一
				工業的商	一
				商	一
				無業	一
				石工	三
				電工	二
				鑛金工	二
				通信事務工	一
				形付工	六
				硝子器工	三
				ゴム工	一
				製藥工	一
				印刷工	一
				木箱工	六
				合計	三二六

第二工業補習夜學校

⑷　特殊尋常小學校

極貧ニシテ就學スル能ハサル者ニ對シテハ市モ保護者モ義務教育ノ負擔ヲ免除セラレ居ルモノナリ故ニ東京市カ特殊小學校ヲ設ケ市費ヲ以テ極貧者ノ子弟ヲ扶育スルハ一ノ篤志行爲ナリト云フヲ得ヘシ然ルニ特殊小學校ノ狀態ヲ觀察スルニ市ハ此上ニモ更ニ校費ヲ以テ手工原料ヲ購買シ其製作品ヲ販賣シタル金額全部ヲ兒童ニ給與シテ之ヲ貯蓄セシムル等ノ取扱ヲナセリ如此ハ校費ノ使途ヲ誤ルモノタルハ勿論學校ニ於ケル手工科ノ目的ハ技巧ノ練習ヲ旨トスルモノニシテ決シテ事業ヲ教ヘ又ハ工賃ヲ與フル爲ニアラサルモノナリ然ルニ特殊小學校ノ手工科ハ多クノ時間ヲ割キテ職工的作業ヲナサシムルモノアリ曾テ三笠小學校カ「ボール」箱ヲ張ラシメ鮫ケ橋小學校カ突羽子ノ製造ヲナサシメ靈岸小學校カ「コハゼ」ヲ作ラシメタルカ如キ孰レモ手工科ノ爲ニスルヨリモ販賣ノ途ヲ得ルヲ先ニシタルモノニシテ從テ教授的ノ順序系統ヲステテ只管時々ノ需要ヲノミ詮索スルノ弊ニ陷ルヲ免レス現ニ兒童ノ漸ク其技ニ熟シタル此頃ニ至リ需要ノ途既ニ絶ヘテ遂ニ其教科ヲ拋棄スルノ止ムナキニ至レルカ如キ寧ロ滑稽ノ觀アリト云フヘシ更ニ一例ヲ萬年小學校ニ求ムレハ該小學校ニ於テハ六時間ノ授業ノ半三時間ヲ割イテ毎日同一作業即チ玩具用土製假面ノ型拔ヲナサシメツツアルカ如キ其目的ハ需要ニ應シテ工賃ヲ得ンカ爲ニ課スルモノニシテ殆ト教育ノ目的ヲ失ヘル觀アリ此ノ如キ情況ナルト同時ニ一方ニ於テハ特殊小學校長ノ易轍頗ル頻繁ナルアリ而モ學校ノ事ハ當該校長ノ方針ニ一任シテ市經營ノ意味ヲ失ヘル觀アルヲ以テ其成績常ニ擧ラス市財政ニ餘裕ナキ際ニ於テ十萬四千二百五十八圓ノ巨費ヲ投シテ經營スル以上更ニ一段ノ刷新改良ヲ加ヘサルヘカラス

此種ノ特殊小學校ノ外ニ所謂特別小學校ト稱スル特殊小學校アリ林町、猿江、菊川ノ三校ハ即チコレナリ此三校ハ特殊小學校ノ形式ヲ以テ市ノ直營ニカカルモ實際ニ於テハ市立小學校ト同樣ナル生活程度ノ子弟ヲ收容シ一方ニ於テハ他ノ特殊小學校ト同シク貧民ノ子弟ヲ收容シテ同教室ニ混同教育セルハ兒童ノ精神狀態ニ惡結果ヲ來スノ恐アリテ一般教授訓練管理ノ上ニ多大ノ障碍アルヲ免カレサルモノト認ム

○特別特殊尋常小學校兒童給與調

校名		在籍兒童	給與兒童	一人當給與額
菊川			八七〇人	八〇錢
林町			七四〇	一〇四
猿江			九一五	三四

○特殊小學校豫算及兒童一覽

學校名	總豫算額	入學兒數 自四月一日至九月末日	中途退學兒童數（同上）	兒童數（同上平均）	兒童貯金總額（九月末日現在）	兒童一人當最高貯金額（同上）	兒童一人當最低貯金額（同上）	兒童一人當平均額（同上）
萬年	一一、七四〇円	二七三人	八三人	一、〇三七人	五九〇一三七円	一九八三〇円	一〇〇円	八三〇円
靈岸	八、六三三	二七三	五二	七二六	六二九二一八	一五二五五	一〇〇	一一九四
三笠	一〇、二九三	三一七	一四九	八三八	六一七八〇〇	一一七〇〇	一〇〇	八八三
鮫橋	七、四三三	一八八	八三	五六一	七四九〇一〇	三六八一〇	一〇〇	二三七四
玉姫	九、三八二	三〇七	七一	八四一	二四八五七〇	一一三五〇	一〇〇	五六四
芝浦	七、四〇三	二一二	一〇五	五五六	一九二二三五	五一〇〇	一〇〇	六六三
絶江	八、九五九	二九〇	五九	七四八	九七二〇〇	五〇〇〇	一〇〇	四七五
林町	八、五一七	二二五	七三	六九九	三六四六四〇	一〇〇〇	一〇〇	二九五
菊川	一〇、七二八	二三四	七二	八七四				
猿江	一〇、七二八	三三九	一六二	九六八				
計	九三、八一六	二、六五九	九〇九	七、八四七	三、四八八八一〇			

四　其他ノ教育事業

(1)　市立圖書館

日比谷及深川ノ二圖書館ハ有料ニシテ他ノ十七圖書館ハ無料トシ帝國教育會ニ特設ノ建物ヲ有セサルモノ、外ハ總テ各小學校内ニ置ク有料圖書館中深川圖書館ハ經費豫算五千四百八十一圓ニシテ閲覧料四百圓ナルヲ以テ市ノ負擔額ハ五千八十一圓ナリトス然ルニ同館ノ閲覧者ハ大正二年度ノ調査ニ依ルトキハ一日平均二百二十二人ニ過キス之ヲ規模ノ小ナル自山圖書館ニ比較スルモ帝國教育會内ニ特設セル一橋圖書館ハ一日平均四百七十三人六分、日本橋圖書館ハ三百六十八人三分、京橋圖書館ハ三百七十二人四分ニシテ入場者數ヨリ云フトキハ深川圖書館ハ全圖書館中第六位ニアリ一方自山圖書館ハ十七ニ對スル大正三年度ノ豫算ハ三萬五千五百二十四圓ニシテ一館平均二千九十圓ナルヲ以テ深川圖書館ニ要スル費用ヲ以テスレハ優ニ二個ノ自山圖書館ヲ經營シ得ヘシ要スルニ現下ノ市財政情況ヨリ觀察スル時ハ深川圖書館ハ之ヲ縮少スルヲ至當トス且日比谷圖書館ノ主事補ハ贊員ナリト認ム自由圖書館ノ經營ハ小學校ニ附屬スルモノハ校長ヲ主事トナスモ市教育課ヨリ派遣セル事務員其實權ヲ取リテ徒ラニ事務ノ複雜セル觀アリ從テ其經費ハ實際ヨリモ膨大セル傾向アリト認ム

○市立圖書館一覧

館名		藏書冊數	閲覧人員	同上一日平均	一ケ年經費	職員數
日比谷圖書館	洋	四三、八八四冊 三、七八二	二四三、五一八人	七四〇・二人（敬） 支	四、〇三〇円 一九、四〇八	二一
深川圖書館	洋	七、九七八 二五一	六六、〇一一	二二二・〇（敬） 支	四、九二三 四〇〇	七
一橋圖書館	洋	五、〇三四	一五五、三五七	四七三・六	四、六二五	八
外神田圖書館		一、六二〇	四九、八三三	一四七・九	一、八六四	四
日本橋圖書館		八、五〇四	一、二二、三〇六	三六八・三	二、二〇四	五

京橋圖書館	六、〇三四	一二三、六四一	三七二・四	同	二、二四二	五	
月島圖書館	二、〇三一	四七、七五八	一四四・三	同	一、八六四	四	
三田圖書館	二、三三七	三五、二八九	一〇六・三	同	二、一六五	五	
麻布圖書館	二、〇九五	三八、七一五	一一五・九	同	二、一六五	五	
氷川圖書館	一、八七五	三一、六六八	九六・五	同	一、九二五	四	
四谷圖書館	一、九三七	六二、六一一	一九二・七	同	二、一六五	五	
牛込圖書館	四、一五二	五九、三四三	一八〇・四	同	二、一一五	五	
小石川圖書館	二、五二六	六四、〇七六	一九三・二	同	二、一一五	五	
本郷圖書館	二、一八七	五三、六四八	一六三・一	同	二、一一五	五	
臺南圖書館	一、九三一	五四、九七九	一六六・一	同	一、八六四	四	
淺草圖書館	二、八二四	七六、二〇一	二五〇・七	同	二、一六五	五	
本所圖書館	二、一三八	四四、一二二	一三二・五	同	二、一六五	五	
兩國圖書館	大正三年度新設				一、二一四	四	
中和圖書館	大正三年度新設				一、二一四	四	

(2) 東京市教育研究所

本所ハ元東京市教育講習所ト稱シ明治四十年九月ノ創立ニシテ其目的ハ義務教育年限延長後從來尋常科正教員ノ免許狀ヲ所有スルモノニ對シ延長二ケ年ノ授業ニ適スヘキ講習ヲナスニアリシモ其結果頗ル擧ラス監督官廳亦講習終了者ニ對シテ其資格ヲ認メサルヲ以テ當事者ノ勸誘奬勵至ラサルナキニ拘ハラス生徒ノ就テ學フモノ每ニ少數ニ留リシカ同四十二年學科目ヲ變更シ研究科ヲ新設シタルモ依然トシテ不成績ヲ示シタリ次テ該所ニ於ケル無責任ナル調査ニヨリテ小學校教員ノ無學ナルコトヲ誇張的ニ發表シタルモノアリテ全市教育者間ノ大紛擾ヲ釀シタル事實アリ爲ニ不成績マスマス甚タシキヲ加ヘ其結果市立小學校長會ハ組織ノ變更ニ依リテ其刷新改革ヲナサン事ヲ迫リ遂ニ大正二年四月現在ノ名義ニ變更セリ而モ今日ニ至ルマテ本所主眼トスル研究科及講習科ノ生徒ハ依然トシテ入學スルモノ少ク現在ニ於テハ研究科百四十四人講習科二十人ノ在籍者アルニ過キス其不振驚クノ外ナシ要スルニ本所ハ創立以來今日ニ至ルモ其主眼タル教員ノ學力ヲ增進スル爲ニ學科ノ講習ヲナスト云フ目的ハ甚タ不成績タルヲ免レス他ニ調査巡回研究觀察等ノ諸科ヲ併置ストイヘトモ其實際ノ效果ハ今日或ハ豫期ノ如クナルヲ必セス斯ル情況ナルニ拘ハラス本所ノ經費ト勞力トハ頗ル多大ニシテ大正三年度ノ豫算ニ依レハ經費一萬千八百五十三圓ヲ算上シ其約半額タル六千二百十圓ハ主事專任講師及事務員ノ給料ニシテ他ニ講師ノ手當千八百圓評議員手當二百十圓等ヲ計上スルニ至ツテ市教育研究所ハ俸給ヲ支拂フ爲ニ設ケラレタル觀アリト謂フヘク之ヲ係員ニ就テ見ルモ主事及專任講師五人事務員二人講師十人評議員二十一人外ニ所長一人ヲ算スルカ如キ其經費ト規模ノ膨大トハ事業ノ不振ト副ハサルモノアリ要之本所ハ其性質及目的ニ於テ必スシモ不要トセサルモ經營其宜シキヲ得ス寧ロ根本的改造ノ必要アリト認ム

○教育研究所經費豫算

教育研究所費	一一、八五三					
給料	六、二一〇	主事及專任講師給	五、二五〇	年俸	五人	平均 一、〇五〇
		事務員給	九六〇	月俸	二人	平均 四〇
雜給	三、一一九	講師手當	一、八〇〇	月俸	十人	平均 一五
		評議員手當	二一〇	年額	二十一人	一〇
		慰勞手當	六四四			
		特別手當	六四			
		給仕小使給	三一三	小使給	一人	一、一七三
		人夫及車馬賃	八八		二人	四〇

需用費	一、三二〇
諸費	一、二〇四

○教育研究所生徒調

區名	研究科 地理	化學	動物	手工	合計	講習科
本郷區	二	一	二	二	七	〇
下谷區	〇	二	三	二	七	〇
本所區	一	七	五	二	二五	一
小石川區	二	二	二	二	六	二
牛込區	四	三	二	二	一	二
四谷區	二	二	二	一	五	二
赤坂區	二	一	二	二	七	〇
麻布區	二	二	二	二	七	〇
芝區	四	三	二	二	一	二
京橋區	〇	二	二	二	六	二
日本橋區	一	七	五	二	二五	一
神田區	〇	二	三	二	七	〇
麹町區	二	一	二	二	七	〇
合計	三〇	二二	二〇	二〇	九二	二〇

(3) 教育費補助

課目	合計
川書	四三一四
	四〇四三
	三六四三
	二五四二
	一四四三一一
	二〇四二

本項ニ屬スルモノハ一東京府教育會及東京市教育會、一本郷區教育會、一同善會、一特殊小學校後援會、一盲人教育會、一樂石社一深川商業學校、一本所工業學校、一日本橋商業學校等ノ私設團體ニ對スル補助金トス

東京府教育會及東京市教育會ハ同一目的ノ下ニ成立セルモノニシテ唯前者ハ郡部ニ會員ヲ有スルト云フ相違アルモ其市ニ對スル事業ハ毫モ相異ナルコトナク其會員ノ大部分ハ學校教職員ナルカ故ニ市内ノ學校職員ハ事實上二重ノ會費ヲ徴收セラルル如キ情況ニアリ且兩會對峙ノ結果ハ動モスレハ同一ノ事業上ニ衝突ヲ生シテ凡テニ於テ弊害ノ多キヲ認ム市ハ兩教育會ニ補助金ヲ與フルニツキ相當ノ條件ヲ要求シツツアルハ當然ナリト雖此際斯ル情弊ヲ芟除スヘキ方針ニ於テ更ニ相當ナル條件ヲナスハ甚タ必要ナルヘシ

其他ノ補助金下附ニ就テ調査スルニ其理由ハ一ニ被下附者ノ申出ニ應シタリト云フニ過キスシテ下附スヘキ理由ノ調査ハ極メテ不完全ナリ從テ其間ニ情實ノ潜在セサル無キカヲ疑フモノアルヲ遺憾トス例ヘハ同善會ノ如キ其經營スル學校ハ一學級ヲ法定制限内ノ五十人ト定メテ二部教授ノ編制ヲナセリ而シテ市ハ之ニ對シテ同校大正三年度經常費豫算三千四百七十一圓ニ對スル五分ノ二强即チ千四百圓ノ補助金ヲ交付セリ一學級五十人ヲ收容スル如キ設備ニ對シテ學校經費五分ノ二强ニ相當スル補助ヲ與フルハ決シテ當ヲ得タリト云フヲ得ス要之市當局者カ被補助者ノ申出ニノミ重キヲ置キ其補助スヘキ事業ノ性質效果ヲ調査スルニ及ハサリシハ輕率ノ所爲ニシテ情實ニヨリテ事ヲ處スルトノ譏ヲ受クルモ亦止ムヲ得サルヘシ

○被補助私設團體一覽

被補助團體名	摘要	補助金額	補助標準
東京府教育會	市指定ノ事業年二回ノ通俗講談會開會教育事項ノ調査報告	三〇〇	
東京市教育會	同　上	二、〇〇〇	
特殊小學校後援會	同會經費中ヘ補助	九〇〇	
本郷區教育會	附屬尋常小學校經費中ヘ補助	四〇〇	一學級ノ定員ヲ五十人以上トシ毎級二百圓
同　善　會	同養蠶常小學校經費中ヘ補助	一、四〇〇	同上二部教授ノ一部ニ對シテハ其半額
盲人教育會	盲人技藝學校ノ經費中ニ補助	二〇〇	
樂　石　社	市ノ指定ハ市小學校教員ノ爲ニスル吃音ノ矯正ト市小學貧民兒童ノ爲ニスル吃音ノ無料矯正	二〇〇	
深川商業補習夜學校	學級二在籍生徒六一	二二〇	補助規程ニヨリ補助
本所工業補習夜學校	學級二在籍生徒八六	二四〇	同　上
日本橋商業補習夜學校	學級二在籍生徒九六	一八〇	同　上

(4) 學校衛生

市ハ明治四十年三月醫學博士緒方正規氏ニ顧問ヲ囑託シ學校衛生ニ關スル重要問題ノ解決ヲナスヘク企計シタルモ現在ニ至ルマテ之ニヨリテ決定シタル約三十六件ハ概ネ各種ノ通牒事項ニシテ更ニ學校衛生上根本問題ノ決定ニ觸レス試ニ最近學校衛生ニ關スル重要問題ヲ數フルニ（一）校舍ニ三階建ヲ許スハ兒童ノ健康ニ差支ナキカ（二）學校ノ掃除ヲ兒童ニ行ハシムル利害（三）校庭ニ「アスフワルト」ヲ加工スルノ利害（四）東京市學事年報ニ依レハ兒童ノ齲齒患者ハ校醫ノ診斷ニヨルモ八十「パーセント」ヲ數ヘ體質薄弱ナルモノ五十「パーセント」羸弱ニシテ就學ヲ猶豫セラレタルモノ約六百人ニ及フ是等ノ取扱ニ關スル方法（五）學校教員ノ呼吸器病ニ關スル注意（六）「トラホーム」豫防ノ方法等アリテ教授、訓練、管理ノ上ニ至大ノ關係アルト同時ニ學校ノ設備及經費ト密接ナル利害關係アリ殊ニ「アスフワルト」敷ノ如キハ緒方博士ノ反對アリト云フニ拘ハラス市當事者ハ單ニ形式的ノコトニノミ奔リテ毫モ重要ナル決定ヲ與ヘス教員ノ呼吸器病カ非常ニ恐ルヘキ結果ヲ生スル傾向アルモ學校衛生ハ兒童ノ上ニアリテ教員其他ハ度外タルカノ如キ態度ヲ持シ「トラホーム」ノ患者ハ教育上多年ノ懸案ナルニ今ヤ漸ク狃レテ之ヲ侮ル如キ情況ノ下ニアリ斯ル怠慢ノ情況ヲ以テ顧問ノ要職ニ重キヲ置カス置職以來殆ト八ケ年間ニ通牒案文三十六件ノ起草ヲ見タル外市學校衛生上何等根本的決定ヲナササルハ誠實ヲ缺クコト甚シキモノト謂ハサルヲ得ス

(5) 市視學

市視學ハ學校幼稚園職員ノ任免、進退、身分、服務ニ關スル調査ヲナシ年功加俸、選奬及無試驗檢定或ハ教授、訓練、管理等ニ關スル調査ヲナス等其職務ハ頗ル重大ナルモノナリ市現時ニ於ケル學校教職員ノ任免等ニ關スル手續ハ區長ノ內申ニ依リ市長之ヲ決定シテ監督官廳ノ指揮ヲ乞フニアルモ唯市長ハ親シク之ヲ調査スル能ハサルヲ以テ部下ニ一任シ部下タル教育課長ハ又之ヲ視學ノ報告ニ俟ツ是今日ノ實際ナリ從テ視學ノ職責ハ甚タ重シ然ルニ視學ノ人選ハ一ニ市長ノ權限內ニアリテ別ニ何等ノ資格制限ナキ故ニ動モスレハ人選ヲ誤ルノ結果ヲ免レス現在ニ於テモ教育上適任ナラサル吏員ヲシテ前陳ノ如キ重大ナル任務ニ當ラシメツツアル事實アリ左ノ一例ノ如キハ其最モ顯著ナルモノトシテ傳ヘラル

現任視學某氏ハ明治四十四年中多クノ先輩ヲ超ヘテ、市學務委員ニ選任セラレタリ當時教育界一般ノ輿論ハ之ヲ以テ彼ノ同鄉先輩ニシテ市政ノ實權ヲ掌握セル三多摩出身諸氏ノ情實的關係ニ由ルモノトセリ次ニ明治四十五年氏ハ特別ノ成績アリト認メラレサルニ拘ハラス五十五圓給ヨリ一躍二級ヲ飛ヒテ七十圓ノ高給校長ニ任セラレ市教育社會ノ驚異ヲ招キシカ大正三年八月ニ至リ氏ハ病氣職務ニ堪ヘスト謂フコトニテ小學校長ヲ辭職シ其後旬日ナラスシテ市ハ氏ヲ市視學ニ選任シ以テ市內小學校監視ノ劇務ニ從事セシムルニ至レリ

如此ハ市視學ノ人選ニ弊害ノ伴ヘル一例ナリ前陳ノ如ク市視學ノ職務ハ重大ニシテ其調査材料ハ市長カ教職員任命內申ノ唯一材料

タルニ拘ラス無經驗ノ事務員ヲ之ニ任シ或ハ情實ヲ以テ選任スル等ハ市教育上ニ甚タシキ惡結果ヲ與フルモノト認ム且又現在ノ市視學ハ其巡視區域甚タ不均一ニシテ市ハ豫メコノ巡視豫定表ヲ設クト雖モ毫モ實行サレス或校ハ一年僅ニ一回ノ巡視ヲ受ケタルニ過キスシテ或校ハ四五回乃至其以上ノ視察ヲ受ケタルアリ屢々視察ヲ受ケタル學校ニ視察スヘキ特發事項ノ多カリシ形迹モナク却テ視察ヲ受ケサル學校ハ其教職員カ偶々視學其人ト親シカラサルニ由ルトノ世評アルハ最モ注意スヘキモノトス如此視學ノ選任ニ當ヲ得サル事實アリ視學ノ視察モ亦親疎アリ且ツ教育課長ハ視學ノ目的ヲ以テ未タ曾テ學校ヲ巡視セスト云フ現狀ニ於テ本市ノ教育事務ハ甚タ憂惧スヘキモノアリト謂ハサルヘカラス

特ニ注意スヘキハ市立各學校ニ於ケル風紀問題ナリトス市內小學校男女教員間ニ醜汚ナル行爲アリトハ屢々世ニ傳ヘラルヽ次第ナルカ必スシモ之ヲ無根ト見ルヘカラサル理由アリ更ニ最モ甚シキハ男教員ト女生徒トノ間ニ風紀ノ悖亂セル行爲アルコトニテ特殊小學校ニ於テハ生徒ノ就學期遲レタル者モアリテ相當ノ年長者モアリ彼等ノ社會的關係上カカル行爲ニ對スル道德觀念ノ薄弱ナル爲ニ最モ誘惑ニ陷イリ易キ傾向アリト傳ヘラル市直營ノ女學校ニ於テモ職員生徒間ニ疑惑ヲ挿ムモノアリ是ノ如キ狀況ナルニ拘ラス市當局者ハ一ニ世間ニ對スル彌縫ヲナスニ急ニシテ斷乎タル廓清ノ手段ヲ盡サス却テ醜關係アリト傳ヘラル者ヲ相互ニ結婚セシメ其ノ形迹ヲ糊塗スルニ至ルコレ一ニ市當局者就中市視學ノ曠職ニ歸スヘキモノナリト認ム

(6) 講演會

講演會ハ明治四十年十月以來大正二年度ニ至ルマテ二十四回開會シ大正三年度ノ豫算ニハ五百四十圓ヲ計上セリ本會ノ如キハ性質上市教育事業ヲ補佐スル條件ノ下ニ相當ナル補助金ヲ交附シツツアル市教育會ノ如キモノヲシテ經營セシムルヲ可トスヘキニ之ヲ分立セルハ徒ラニ冗費ヲ嵩メ繁文ヲ重ヌルノミ以テ經營ノ宜シキヲ得タルモノト云フヘカラス

第三章　結論

前列擧セル事實及之ニ對スル意見ヲ綜合シタル結果市政中教育ニ關スル條項ニ對シ檢査委員會ノ希望ヲ述フルコト左ノ如シ

一、教育課　適材ヲ擧ケ冗員ヲ陶汰シ組織ヲ改良シテ小學校及其ノ他ノ教育事務ヲ簡捷ニスルヲ急トス

二、市學務委員　小學校教員ヨリ選任スルモノハ情實ヲ避ケテ人材選任ヲ本位トシ且其任期ヲ一定勵行スル事。又學務委員ハ市制ニ依リテ設置スル委員トハ全ク趣ヲ異ニシ其正條ノ支配外ニ立チ市會ノ議決ニ依ラスシテ設置スヘク法定セラレタル重要ナル任務ニアルモノナルカ現行市學務委員條例ハ其委員數ヲ十三人ト規定シ法令ハ十五人マテノ增員ヲ認許シ且ツ市ハ市制ノ許ス範圍ニ於テ市參與副收入役ヲ置キ名譽職參事會員モ其極限ノ十二人マテ之ヲ置ケルニ拘ハラス單リ學務委員ニ限リテ二人ノ市教育行政參加權ヲ奪フハ以テ學事ニ忠實ナリト云フヲ得ス又學務委員ノ設置ハ市會ノ選擧ニヨルモノナルカ故ニ素ヨリ嚴格ニ每區一人ヲ標準トスルコト能ハサルヘキモ市小學校事務カ現時ノ如ク各區自身ニヨリテ執行サルヽ場合ニアリテハ各區一人ヲ理想トシ其實現ノ機會ヲ存スルコトハ必シモ理由ナシト言フヘカラス故ニ市ハ條例ヲ改メテ學務委員ノ定員ヲ十五名ニ增加シ成ルヘク每區一人ヲ標準トシテ選出スルノ方針ニ出テラレンコトヲ望ム

三、市直營學校　(1)實科高等女學校　市財政ノ現狀ト同校ノ實際ヨリ見ルトキハ廢校ヲ至當トスルモ一旦存立セルモノヲ廢絕スルハ極端ニ失スル嫌アリ殊ニ尋常小學校卒業生ニ實科ヲ授クル學校ハ市內ニ唯一ノ女子職業學校アルモ希望者多數ニシテ選拔試驗ノ結果ハ概ネ高等女學校若クハ高等小學校ヲ卒業シタルモノヽ入校ヲ見尋常小學校卒業者ハ常ニ殆ト入學シ得サル現況ナリ故ニ此際實科高等女學校ノ組織ヲ改メテ尋常小學校卒業生ノ收容ヲ標準トスル實科專門ノ學校トナシ主トシテ授業料ノ收入額ヲ以テ經營セラルル範圍ノモノトナスヲ至當トナス大正元年三月ニ於ケル尋常小學校卒業生ノ女子ハ約八千二百八十人ニシテ其中高等女學校高等小學校及各校ニ入學セルモノハ四千四百八十人ナリ殘リ三千八百人ハ或ハ私立ノ裁縫學校若クハ仕立屋等ニ就キテ不秩序ナル裁縫教授ヲ受ケ或ハ行儀見習ト稱シテ他出シ或ハ家庭ニアリテ家事ノ手傳ヲナスモノ等ナルヲ以テ經營其宜シキヲ得ルニ於テハ相當ノ生徒ヲ得ルコト決シテ困難ナリトセス

(2) 商業學校　前項ト同樣ノ理由ニヨリ假令現在ノ組織ヲ存續スヘシトスルモ成ルヘク簡易ナル方法ニヨリ費費ヲ省キ專ラ實用

的人物ノ養成ニ力ムルコト

(3) 工業補習夜學校　現在ノ本科ハ工業家ヲ養成スヘキ講師、器械等ノ設備ヲ缺如ス假リニ之ヲ完ソスルトシテモ夜學校ハ斯ル事業ニ適セス加之其位置又ハ施設ニ於テ成ルヘク府立ノ同種學校トノ重複ヲ避クル爲之ヲ改造シ主トシテ工業者ノ徒弟ニ補習教育ヲナスヘキ設備トナシテ經費ノ節約ヲ計ルヲ可トス

四、其他ノ教育事業　(1) 市立圖書館　深川圖書館ノ組織ヲ改メ一橋圖書館ノ如ク特設ノ建物ヲ有スル自由圖書館トナシ經費ニ節減ヲ加フルコト自由圖書館ハ其學校ニ附設スルヨリハ經營ヲ該學校長ニ委任スルコトハ入館者ノ濫讀ヲ取締ル利益アリ又之ト俟チテ圖書ノ選擇質疑ノ應答ヲ受クルノ便宜アリ且ツ經營上校長ヲ主幹トシ別ニ市直派ノ事務員ヲ置クハ重複ト謂ハサルヘカラス故ニ現在ノ制ヲ改メ前陳ノ希望ヲ條件トシテ經營ヲ學校長ニ一任シ一方設置ノ目的ヲ確實ニシテ從來ノ弊風ヲ除クト共ニ一方ニ經費ノ節減ヲナスコト

(2) 東京市教育研究所　徒ラニ其名ヲ美ニスルモ組織不完全ニシテ效果擧ラス實ニ於テ得ル所無キヲ以テ根本的ニ改造スルヲ要ス

(3) 教育費補助　東京府、市、兩教育會同一趣旨ノ團體カ殆ト同一ノ會員ニヨリ成立セルハ甚タシキ矛盾ナリ且兩會ノ施設事項カ何等利害ヲ異ニセサル以上市カ兩會ニ別途ノ補助金ヲ與フル以上ハ却テ分立ヲ助成スル嫌アリ故ニ市ハ兩會ニ補助金ヲ交附スル以上其合併ヲ先決條件トシ合併成立後更ニ講演會等ニ於テナシツヽアル事業中要用ナルモノヲ行ハシムルヲ可トス如此ハ學校教員ヲシテ二重ノ會費ヲ拂シムル如キ弊ヲ去リ兩團體ノ衝突若クハ無用ノ競爭ヲ去リ教育團體トシテ市ノ希望スル條件ヲ完フスルニ最良ナルモノト認ム其他現今ノ補助ハ多少濫施ノ嫌アルヲ以テ先ツ補助スヘキ方針ヲ確立シテ現狀ヲ整理シ延テ將來ヲ律シ從來ノ如ク理由調査ノ不完全ニシテ其間往々情實ノ伏在ヲ疑ハシムルカ如キ弊ニ陷ラサランコトヲ要ス

(4) 學校衞生　從前ノ如キ狀況ニテハ一千圓ノ年俸ヲ支給シテ專門博士ノ顧問ヲ置クノ必要ナシ乍併學校衞生ノコトハ極メテ重要ナルヲ以テ當事者ハ現制ヲシテ價値アラシメ學校衞生上ノ重要問題ヲ解決シテ授業上及經營上有益ノ效果ヲ擧クルニ努ムヘシ

(5) 市視學　不適任ノ者ヲ視學ニ選任シ之ヲシテ教職員任免其他ノ詮衡ニ當ラシムルコトハ情弊多キヲ以テ現在ノ專任制度ヲ左ノ如ク改メラレムコトヲ希望ス

市ハ現在市視學ノ擔任スル事務ヲ區長ノ手ニ移シ市長ノ指揮命令ノ下ニ之ヲ補助執行セシムル方法ヲ採ルカ或ハ新ニ條例ヲ制定シ視學ノ名實相副フ優良ノ人物ヲ任用シテ監督官廳ノ承認ヲ受クルカノ方法ニ依リ速ニ前陳ノ情弊ヲ除去セラレンコトヲ望ム

本案ニ關シ委員長**豐川良平君**先ヅ述ベテ曰ク、委員ハ會議ヲ開クコト前後十九回、其間時ニ或ハ激論ヲ戰ハシテ殆ド決裂ニ終ラントシタルコトアリタルガ、斯ル熱心ナル調査ノ結果ハ、諸君ノ手許ニ配付セル報告書ニ詳ナリ。尙ホ質問ニ對シテハ、鎌田、松山ノ兩理事ニ答辯ノ勞ヲ請フコトトセリト。是ニ於テ**安住佐太郎君**、第一條ノ總論中ニ『市當事者ハ情弊ノ有無ヲ調査スルニ必要ナル書類ノ提供ヲ拒ミタルヲ以テ、本報告ヲシテ多少隔靴搔痒ノ感アラシメタルハ遺憾ナリ』ト云ヘルガ、是レ如何ナル書類ナルカト問ヒ。**鎌田芳太郎君**答ヘテ曰ク、是レ視學ニ關スル書類ナリ視學ガ學校出張ノ報告ト、當該學校ノ日誌ト、往々符合セザルコトアリ、爲メニ視學ノ行動ノ內容ヲ調査スルノ必要アリタルヲ以テ、理事者ニ關係書類ノ提出ヲ要求シタルニ、理事者ハ視學ハ市長ニ直屬セル國ノ事務ヲ掌リ、自治制ト關係ヲ有セズ、況ンヤ問題ハ教員ノ勤怠、黜陟、及ビ彼等ノ俸給ノ增減等ニ關スルガ故ニ、祕密ニ付スルノ要アリト論ゼリ、元來視學ノ職ハ府市双方ニ之ヲ設ケタルガ、府ノ視學ハ專ラ郡部ノ學校ヲ巡視シ、市ノ學校ノ視察ニ關シテハ、之ヲ市ノ視學ニ一任セリ、而シテ委員ノ意見トシテハ、市ガ視學ノ俸給ヲ支拂フ以上ハ、理事者ハ委員ニ對シテ彼等ノ行動ヲ監査スルニ必要ナル書類ノ提供ヲ拒絕スルノ理由ナシト云フニ在ルモ、國ノ事務ナリトシテ理事者ハ之ヲ提供セザルガ爲メニ、委員ハ隔靴搔痒ノ感ナキヲ得ザルナリト。次ニ**後藤武夫君**ハ、報告書中ノ「男教師ト女生徒

ノ間ニ風紀ノ壞亂セル云々」ノ文字ハ、士君子ノ見ルヲ厭フ所、宜ク之ヲ削除スベシトノ意見ヲ述ベタルニ對シ。**鎌田君**ハ、市政檢査委員ガ事實ヲ審査シテ、忌憚ナク之ヲ直言スルハ其職責ナリ。但シ醜行者ノ姓名ヲ明記スルコトハ特ニ之ヲ避ケタリ、而カモ視學ガ斯ル風紀上ノ問題ヲ等閑ニ付シ、之ニ對シテ譴責懲戒ヲ加フルノ擧ニ出デザリシハ、曠職ノ責ヲ免ルヽ能ハザル所、委員ガ此等ノ事實ヲ摘發スルハ、固ヨリ當然ナリト辯ジ。**後藤君**、事實ノ報告ハ不可ナシトスルモ、此種ノ事實ニ關シテハ、口頭ヲ以テ當局者ヲ責ムレハ足ル、敢テ印刷物トシテ之ヲ市會ニ公表スルノ必要ナシト再說スレバ。**伊藤仁太郎君**ハ、檢査委員ガ周密ナル調査ヲ遂ゲタルノ勞ヲ謝シ、事實ヲ明言スルハ檢査委員ノ權能ニ屬シ、他人ノ咏ヲ容ルベキニ非ズト論ズ。斯クテ採決ニ入リ、本報告ハ可決セラレタリ。

▽**檢査委員第三回報告**　尋デ六月二十二日ノ會議ニ左ノ第三回報告アリ、

市政檢査委員會第三回報告

委員會ハ市ノ區役所事務及衞生事務檢査ニ關シ、別紙ノ通リ議決セリ。

右及報告候也

大正四年五月二十一日

委員長、理事、委員連名

議長宛

（別紙）

市ノ區役所事務ニ關スル檢査報告

市內十五區ノ行政ヲ精細ニ檢査スルコトハ市會ノ希望ナルヘキモ區行政ハ頗ル複雜多端ニシテ一區ヲ檢査セントスルモ尙且多大ノ努力ヲ要ス況ヤ十五區全般ニ亘ルヲヤ少數ナル檢査委員カ僅少ノ時日ヲ以テ其目的ヲ達スルコトハ到底期シ難キコトナリ是ニ於テ檢査委員ハ先ヅ檢査ノ方針ヲ定メ豫メ區行政事務中全般ノ標準トナルヘキモノ數項ヲ選定シ是ニ對スル詳細ナル檢査ヲ試ミ以テ他ヲ類推スヘキ參考トナサントセリ爾來該方針ヲ以テ著々檢査ヲ進行シ遂ニ本報告ノ如キ結果ヲ得タリ元ヨリ全體ニ於テ多少ノ遺憾ヲ免レサルモ尙コレニ依リテ區行政カ如何ニ取扱ハレツツアルカヲ隱約ノ間ニ察知セラルヘキハ檢査委員ノ窃ニ滿足スル所ナリ

區衞生行政ニ關スル事項ハ、便宜上之ヲ市衞生行政檢査報告中ニ揭クルコトトセリ

第一　市稅滯納情況

市稅ノ滯納ハ年々巨額ニ達シ、市財政上甚タ憂フヘキコトニ屬ス大正二年度ノ調査ニ依レハ調定金額二百九十六萬九千六百四十九圓コノ人員百二十九萬二千九百六十五人ニ對スル繰越金額千分比例ハ四萬九千九十六圓コノ人員三萬一千六百四十一人ニシテ金額ニ於テ十六・五、人員ニ於テ二十四・四ノ數字ヲ示セリ而シテ調査ノ結果ニ依レハ滯納者ノ分類ハ大略左ノ如キ現狀ニアリ

一、十分納稅ニ堪フル資產者ニシテ、出來得ル限リ納稅ヲ延長シ其間ニ生スル納稅金ノ利子ヲ得ントスル私慾ニ依ル者モ勘カラス

二、名譽職等ニシテ自己ノ權勢ヲ恃ミ吏員ヲ愚ニシテ自ラ知リツヽ滯納ヲ敢テスル者アリ

三、芝居、寄席其他ノ興行物ニ在リテハ、家屋持主ト興行者トハ別人ニシテ、興行者ハ一興行終ル每ニ踪跡ヲ晦マシ、稅金ヲ徵收セントスルモ遂ニ其ノ對手ヲ捕ヘ得サル事多シ

四、營業上ノ損失又ハ無資產ノ爲メニ結局滯納ニ至ルモノ

以上ニ就テ(一)ハ眞ニ惡ムヘキ行爲ニシテ苟モ市民ノ上流ニ在ルモノトシテ許スヘカラサルモノナレハ嚴ニ之ヲ取締ラサルヘカラス(二)ハ又甚タ驚クヘキ現象ナリコノ二者ハ(四)ノ所謂窮民トハ異ナリテ優ニ納稅ノ資力アルモノニシテ彼等ノ滯納ハ一ニ其非公義心ニ原因ス而モ當事者ハ彼等ノ身分地位ヲ憚リテ法定ノ處分ヲ斷セス或ハ斷行スルコトハ却テ彼等ノ自暴自棄的滯納ヲ挑發スル恐アリ寧ロ寬假シテ徐ニ徵收スルニ若カストスル等種々ノ情弊ニ捕ハレ甚シキニ至リテハ數年ニ亘リテ之ヲ放置スル事實アリ從テ資力ナ

クシテ滞納スルモノハ悲慘ナル處分ヲ受ケ資力アリテ横着ヲ敢テスルモノハ公然滞納シテ憚ラサル奇怪事ヲ見ルニ至ル(三)ノ脱税者ノ如キハ殆ト詐僞行爲ニ等シキモノト謂ハサルヘカラス嚴重ナル制裁法ヲ設クルノ必要アリト認ム

大正二年度市税成績表

區名	調定 金額	調定 人員	繰越 金額	繰越 人員	調定ニ對スル繰越千分比例 金額	調定ニ對スル繰越千分比例 人員
	円	人	円	人	円	人
麹町	二一八、六三七	四一、一七三	九五八	四五一	四・三	一〇・九
神田	二六五、〇二八	一一七、〇二五	二、五三三	一、一五三	九・五	九・八
日本橋	七九九、〇四四	一五〇、六八七	五、四一五	三〇七	六・七	二・〇
京橋	三四四、七七三	一二二、八五七	一、八七八	九四六	五・四	七・七
芝	一四七、六一二	九六、九〇九	一、一四八	一二五	七・七	一・二
麻布	七三、七九四	四九、一三二	一八	五	〇・二	〇・一
赤坂	一六三、六六八	四二、六二三	三二	九	〇・一	〇・二
四谷	四五、四八七	一三、七五六	二九三	三七	六・四	二・六
牛込	九一、一五一	七一、八〇二	一、〇〇〇	五三五	一〇・九	七・四
小石川	八五、九一四	六七、五二四	四四三	一五九	五・一	二・三
本郷	一一七、四五五	七四、七三五	九二一	三五七	七・八	四・七
下谷	一二一、三二九	八九、九六九	一、二六七	六三三	一〇・四	七・〇
浅草	二〇八、六六八	一六二、三一六	二九、〇〇二	二五、七一二	一三八・九	一五八・四
本所	一五七、九一二	一一六、〇一五	一、八〇二	五八二	一一・四	五・〇
深川	一二九、一七七	七六、四四一	二、三八七	六三〇	一八・四	八・二
合計	二、九六九、六四九	一、二九二、九六五	四九、〇九六	三一、六四一	一六・五	二四・四

第二　繰替金ニ關スル件

法定ノ繰替金ニシテ市豫算ニ計上セラルヽモノハ六種類ナルモ其主ナルモノハ行旅病人及行旅死亡人費、精神病者監護費及徴兵旅費ノ各繰替金ナリトス是ニ關スル事務取扱ハ法規ニ依リ區長ニ委任シアルモ各種繰替金高ハ年々ニ増加シ同時ニ未償還金額ノ著シク巨額ニ達セルコトハ市財政上容易ナラサル現象ナリ試ミニ前記三繰替金ノ梗概ヲ擧クレハ

一、行旅病人及死亡人費繰替金　大正四年二月末現在調査ニ依レハ各區取扱ノ繰替金總額ハ十五萬九千八百四圓四十三錢八厘ニシテ内償還金總額五萬四百七十八圓五十七錢八厘、差引未償還總額十萬九千三百二十五圓八十六錢トナリ此件數三千二百三十五件ニシテ各區ニ於テ檢査シタル結果別表示ス所ノ如ク成績甚タ不良ナルモノアリ

二、精神病者監護費繰替金　大正四年二月末現在調査ニ依レハ各區取扱繰替金總額二十五萬九千六百七十九圓五十八錢五厘ニシテ内償還金十八萬三千七百六十八圓二十七錢五厘、差引未償還金七萬五千九百十一圓三十一錢トナリ此件數四百四十六件ニシテソノ成績ハ表示セルカ如ク又甚タ不良ナルモノアルヲ遺憾トス

三、徴兵旅費繰替金　コノ種ニ屬スルモノハ各區トモ成績良好ニシテ大正四年四月末日ノ調査ニ依ルニ各區總計二萬六千七百八圓九十二錢ノ繰替金ニ對シ僅ニ千五百二圓五十六錢ノ未償還金アルニ過キス從ツテ各區共ニ取扱不整理ノ點ヲ認メス

(一)及(二)ニ對スル償還成績ノ不良ナルハ、一ハ其手續ノ煩雜ナルニ依ルモノナリ即チ區ハ斯ル繰替金ニ對シテ先ツ關係人ノ原籍地ニ照會シテ償還ヲ求メ若シ其義務ヲ遂行セサル時ハ其地ノ町村吏ニ託シテ强制處分ヲ執行シ猶不足アル時ニ於テ始メテ東京府ニ償還ヲ求ムルコト、ナリ居レリ然ルニ區カ最初ノ手續ヲナスモ原籍地ノ町村吏員ハ動モスレハ是ヲ放置スル者多シ而シテ要求者モ時日ノ經過ト共ニ手續履行ニ對スル督促ヲ怠リ彼是荏苒シテ遂ニ未償還金額ノ堆積ヲ見ルニ至ル後ニ揭ケタル小石川、牛込兩區ノ如キハ四五年以前ヨリ償還請求ヲ怠リ麹町、下谷兩區ノ如キモ精神病者ニ對シテ四、五年乃至三、四年ノ放置ヲ敢テシ其他ノ各區トモ孰レモ手續ノ繁雜ヲ煩シトシテ償還ノ督促ヲ怠リタルヲ見ル

反之(三)ニ屬スル徴兵旅費繰替金ハ大正二年勅令第二十五號及同年内務省令第五號ノ發布ニヨリテ償還請求ノ手續極メテ簡單トナリタル結果逢ニ前陳ノ如キ好成績ヲ見ルニ至レリ故ニ(一)及(二)ニ對スル償還金請求ノ手續ニ於テ紊雜ヲ極ムルコトハ現在ノ如キ繰替金未償還金ノ堆積ヲ見ルニ至リタル一原因ナリトハ云ヘ區當事者トシテ之カ爲メニ自己ノ責任ヲ免カル、理由トハナスヘカラス法規ニ不備ノ點アラハ却テ益々整理ヲ嚴密ニシ出來得ル限リ成績ヲ擧クヘキヲ至當トスヘキニ頃雜ナル手續ニ逢フテ早クモ怠慢ヲ事トシ不整理ヲシテ益々甚シカラシメタルハ不注意ト認メサルヲ得ス。要スルニ國庫支辨カ若クハ繰替金償還ニ關スル法規ヲ改正シテ成ルヘク簡單ナル取扱手續トナスカヲ將來ノ必要希望トシ現在ニ於テハ區當事者カ勉勵努力シテ整理ヲ忘ラサラン事ヲ望ム

行旅病人及死亡人費繰替未償還金及未決事件調（二月末現在）

區名	繰替金	償還金	未償還金	未決事件
麹町	二、一六六・五円四〇	一、一七二・三円五〇	九九四・一円九〇	三〇
神田	八、〇三二・六四五	三、二一八・二七五	四、八一三・三七〇	一五七
日本橋	二、四二九・六六〇	一、一〇八・六一五	二、三二一・〇四五	三七
京橋	四、三〇六・八〇五	一、三六八・三八〇	二、九三八・四二五	一四三
芝	一六、八二一・二四〇	四、一〇一・四五〇	二一、七一九・七八六	三五五
麻布	一、四三八・二四〇	三七三・〇九〇	一、〇六五・一五〇	二八
赤坂	一五一、六一〇	一二・五五〇	一四〇・〇六〇	六
四谷	七、九七・五〇六	七、四八五・七九六	五一一・七一〇	二八
牛込	一五、五一七・一〇〇	七、一四三・九六〇	八、三七三・一四〇	二四一
小石川	五二、七七四・三〇七	四、七二五・〇九二	四八、〇四九・二一五	九七二
合計	一五九、八〇四・四二八	一、一六九、三一九・九三七	一〇九、三二五・八六〇	三、三三五

精神病者監護費繰替未償還金及未決事件調（二月末現在）

區名	繰替金	償還金	未償還金	未決事件
麹町	二〇、四五七・一円九〇	七、四九四・七円八〇	一二、九六二円四一〇	八二
神田	一七、九九二・三四〇	一一、七七四・七八〇	六、二一七・四六〇	四二
日本橋	三、三八九・〇五〇	三、〇三一・三五〇	三五七・七〇〇	二
京橋	一八、三六八・四〇〇	一五、三六六・八〇〇	三、〇〇一・六〇〇	一一
芝	二三、一五〇・一八〇	一六、六五三・九五〇	六、四九六・二三〇	三九
麻布	一一、一三二・五六〇	一〇、六六七・六六〇	四六四・九〇〇	四
赤坂	四、五六四・一七〇	二、八五九・九二〇	一、七〇四・二五〇	一六
四谷	四、二八二・三三〇	三、一七一・六三〇	一、一一〇・六〇〇	一一
牛込	六、七五九・二二〇	四、〇四〇・〇三〇	二、七一九・一九〇	二四
小石川	二六、一八一・七四〇	二〇、六四四・九六〇	五、五三六・七八〇	三六
合計	一二、九二六・〇八〇	一〇、七八九・五八五	二、一三六・五〇〇	五

下谷	三四、八〇一・五〇〇	二三、八一六・九〇〇	一〇、九七四・六〇〇	六四
淺草	三八、一八六・七四〇	三〇、四九〇・九六〇	七、六九五・七八〇	三三
本所	二三、六〇〇・九二〇	一四、二一二・八九〇	九、三八八・〇三〇	四三
深川	一三、八九七・三六〇	八、七五二・〇八〇	五、一四五・二八〇	三四
合計	二五九、六七九・五八五	一八三、七六八・二七五	七五、九一一・三一〇	四四六

徵兵旅費繰替未償還金調（二月末現在）

區名	繰替金	償還金	未償還金
麹町	一、一三五・七五〇円	一、一〇七・八七〇円	二七・八八〇円
神田	二、九六五・七七〇	二、八九五・一六〇	七〇・六一〇
日本橋	三、二七五・〇七〇	三、二四九・五二〇	二五・五五〇
京橋	二、四三七・九四〇	一、九七〇・七六〇	四六七・一八〇
芝	二、四一六・二六〇	二、三六七・八二〇	四八・四四〇
麻布	一、五四六・六〇〇	一、五一七・六〇〇	二九・〇〇〇
赤坂	七九一・九四〇	七七四・四九〇	一七・四五〇
四谷	六六一・〇三〇	六五八・三〇〇	二・七三〇
牛込	一、五八五・〇七〇	一、二〇八・六二〇	三七六・四五〇
小石川	一、九一一・一七〇	一、八八六・三六〇	二四・七一〇
本郷	二、一四〇・一九〇	一、九一二・四〇〇	二二七・七九〇
下谷	一、三四八・八四〇	一、三〇二・七二〇	四六・一二〇
淺草	一、八六八・六六〇	一、七九七・九一〇	七〇・七五〇
本所	一、六五〇・六〇〇	一、六一八・二九〇	三二・三一〇
深川	九七四・〇三〇	九三八・四四〇	三五・五九〇
合計	二六、七〇八・九二〇	二五、二〇六・三六〇	一、五〇二・五六〇

第三　區吏員ノ定員

市カ豫算ニ於テ各區ノ吏員數ヲ定メタルハ其區ニ於ケル事務掌程ヲ熟察シ必要ヲ限度トシタルモノナレハ漫リニ移動スヘカラサルハ論ヲ俟タス、明治三十年告示六十四號ニ於テ、俸給豫算額內ニ於テ各區吏員ノ增減ヲ許シタルハ要スルニ止ムヲ得サル事情ニ對スル除外例トモ見ルヘキモノニシテ、是ニ據リテ既定ノ員數制限ヲ全然破壞スルコトノ失當ナルハ多言スルヲ須キサルヘシ然ルニ

各區ニ於ケル現狀ハ該告示ヲ濫用スル弊アリ十五區ヲ通シテ書記ハ定員ヨリ一名乃至二名ヲ減シ市定員數合計五百八人ヨリ十七人ヲ減シ同書記補ハ合計二百十九人ヨリ七人ヲ減セリ而シテ一方ニ於テ區長カ任免黜陟ノ權能ヲ有スル月俸雇ハ著シク增減シ特ニ日給雇ハ頗ル增加シ各區合計平均百六十七人八九ト定メラレタル員數ハ殆ント二倍ノ增加ヲ爲シ平均三百六十一人ノ現在數ヲ見ルニ至レリ如此ハ市行政上ノ不統一タルヲ免レス特ニ書記ノ如キ上級區吏ヲ減員シテ其ノ俸給ヲ月俸雇又ハ日給雇ノ如キニ流用スルハ區長カ自己ノ職權使用ニ便スル嫌ナキニアラス若シ區ノ實情カ斯ノ如キヲ必要トセハ始ヨリ相應ノ員數ヲ定ムルモ差支ナカルヘシ然ルニ既ニ條令ヲ以テ定員ヲ限リ同時ニ各區カ任意ニコレヲ增減易置スルコトヲ許スハ矛盾ノ甚シキモノニシテ其ノ間ニ情弊ノ生スルハ自然ノ成行ト謂ハサル可カラス要スルニ區カ俸給豫算額內ニ於テ區吏員ヲ增減易置スルコトハ萬止ムヲ得サル場合トシ根本ニ於テハ市カ規定セル員數ニ據ラシムヘク相當ノ取締ヲ爲スヘキ必要アリト認ム

區吏員定員現員比較表

區名	區分	書記	書記補	月給雇	日給雇
麹町	定員	二八	一一	一九	一、九九〇
	現員	二八	一一	八	一六
神田	定員	四一	一七	二六	三、八七二
	現員	四〇	一七	二四	二〇
日本橋	定員	三九	一七	二六	四、六〇一
	現員	三八	一六	二四	一四
京橋	定員	四二	一九	三〇	五、四〇八
	現員	四二	一九	二四	三一
芝	定員	三九	一九	三〇	四、二八二
	現員	三九	一九	二八	三二
麻布	定員	二五	一〇	一七	一、七一四
	現員	二三	九	一五	二一
赤坂	定員	二四	一〇	一五	一、五五七
	現員	二三	九	一二	一〇
四谷	定員	二二	八	一二	二、九三〇
	現員	二二	八	八	一三
牛込	定員	二七	一一	一六	一六
	現員	二七	一一	一四	一三
小石川	定員	二八	一〇	一六	三、一〇一
	現員	二六	九	一五	二一
本郷	定員	三一	一四	二一	三、九三八
	現員	三〇	一三	二三	二六
下谷	定員	三八	一六	二四	五、二三三
	現員	三六	一四	二五	二五
淺草	定員	四七	二二	二八	一〇、〇五三
	現員	四三	二二	一五	七五
本所	定員	四三	一九	三一	四、九〇五
	現員	四三	一九	二七	一八
深川	定員	三四	一六	二四	五、五八九
	現員	三二	一六	一九	二六
合計	定員	五〇八	二一九	三三五	六一、二八三（平均一六七人八分九厘）
	現員	四九一	二一二	二八一	三六一

第四　水道鍵ノ保管

各區役所ニ於テ取扱フ水道鍵ハ頗ル亂雜ナル情態ニ在リト認ム單ニ鍵其ノモノ、價値ヨリ見ルトキハ輕微ナルモノ、如キモコレヲ受授スル手續及費用ヲ考ヘ鍵ソノモノ、有無ハ直接ニ水道ノ使用ト否トニ關係スルモノナルコトヲ察スル時ハ又甚タ緊要ト謂ハサルヘカラス然ルニ各區役所ニ就テ檢査シタル結果ニヨレハ鍵數ノ正確ナルハ京橋、赤坂及深川ノ三區ニ過キスシテ多クハ市役所ヨリ受入シタル數ト需用者ニ供給シタル數トノ差カ現在ノ保管數ニ一致セス特ニ奇怪ナルハソノ現在數ノ極メテ多キコトニテ甚シキハ八十個乃至百二十五個ノ超過ヲ見ルモノアリ現品ノ不足セルモノ元ヨリ責ムヘキモ如此ク過剩ヲ見ルコトハ一層奇怪ニシテ不取締ノ至リト謂ハサルヘカラス元來區役所ニ斯ク多數ノ鍵ヲ死藏スルコトハ既ニ無意味ノ次第ニシテ畢竟スルニ品物個々ノ價値低キタメニソノ使用ヲ輕忽ニ取扱ヒタルモノト認ムル外ナク宜シタ相當ノ取締ヲナスヘキモノトス

水道鍵調査表

區名	現在數 市設共用栓鍵	現在數 私設共用給水栓鍵	檢査ノ結果	區名	現在數 市設共用栓鍵	現在數 私設共用給水栓鍵	檢査ノ結果
麹町	五八	四〇	十個不足	牛込	一一二	二四九	十六個多
神田	一〇三	一三二	八十五個多	小石川	五	五六	四個不足
日本橋	八三	七九	二個多	本郷	一九七	一七六	六十個不足
京橋	九三	一二	過不足ナシ	下谷	三一二	四八四	三個不足
芝	四七五	一四四	三十一個多	浅草	六〇四	一五二	百二十五個多
麻布	一一八	七〇	十個多	本所	一、〇一六	四八二	五十個多
赤坂	一〇〇	一〇七	過不足ナシ	深川	五七一	三〇〇	過不足ナシ
四谷	四〇〇	五二八	八十七個多	合計	四、二四七	三、〇一一	三百二十九個多

東京市カ市民ノ便益ヲ計リ各區役所ニ吏員ヲ派シ一般公衆ノ爲メニ庶務、戸籍、衛生、税務及會計等ニ關スル諸願屆書等ノ無料代書ヲナスコト、シタルハ甚タ宜シキヲ得タルモノナリ然ルニ實施以來今日ニ至ルマテ市民カ實際上其ノ便益ヲ利用スルコト尠シトハ一般ニ流布スル非難ナリ各區役所ニ就テ調査シタル結果ハ別表ノ如ク最上ハ約七割ノ依頼ニ應スルモ最下ハ僅ニ二分ニ留マルモノアリ且ツ各區役所ノ調査材料ハ甚タ不十分ニシテ總テ備付用紙ノ減額數ヲ基礎トスルニ過キサルモ、該用紙ハ各代書者カ多數ヲ一括シテ自己ノ使用ニ供スヘク請求シ去ル事實アルヲ認ム從ツテ六割七割ノ諸願屆書等カ無料代書ニ依ルト云フコトハ極メテ薄弱ナル測定ト云ハサルヘカラス現ニ各區役所前ニ十數軒ノ代書業者カ安ンシテ營業シツ、アルハ又以テ無料代書カ一般市民ニ利用セラルヽコト甚タ尠キヲ證スルニ足ルヘシ無料代書カ實際ニ利用セラレサルハ其ノ方法ノ拙ナルニ依ル現在ノ如ク區役所内ノ各課ト同シ位置ニ在リテ執務スルハ一般市民ヲシテ近接スルニ心ヲ置カシムルモノナルヲ以テ宜シク其位置ヲ區役所ノ入口、歩廊下ナトニ移シ依頼者ヲシテ代書業者ニ就クト同シ簡易ト安心トヲ以テ臨マシムヘキヲ要ス

無料代書成績表

區名	區別	庶務	戸籍	衛生	税務	會計	計	割合
麹町	總數	一五、六九二	三、八九五	一五、〇三五	三、三四六	二、六四〇	六九、六〇八	五・五
神田	總數	一二、五七二	一〇、八五〇	一二、〇八七	二、六五八	二五〇	三八、四一七	
日本橋	總數	一五、六四三	五三、四一五	一七、四七四	一六、二四一		一〇二、七七三	六・八
	總數	一一、〇六六	三三、九七一	一六、〇五三	七、七一〇	×	六九、八〇〇	
京橋	總數	三、〇二八	二九、一二六	×	×	×	三三、一四四	三・七
	總數	二、四四一	九、五二三				一一、九六四	
芝	總數	九八、四六八	八八、七二二	五六、〇〇六	一〇〇、〇四四	×	三四六、一三九	一・二
	總數	六、二六六	一七、二四七	二、一三、五九	五、四一六		四一、一八八	
麻布	總數	五一、七三八	四五九、九四六	五二四、三八七	一二、一二九	二五六、七六七	一、四一四、一四〇	〇・二七
	總數	二、一八二	一三、一一七	八、二六三	二、一二九	二、三六六	二八、〇三二	
赤坂	總數	九、八六六	八四、〇〇七	一四九、一〇一七	一七五、一一二	一〇〇、三二四	五九〇、七五六	〇・七二
	總數	三、〇六九	三、〇二三	一〇、七四二	四、八〇四	一、五三一	四一、一五八	
	總數	一、四四五	一六、八五五	八、三一七	五、四一五	×	三、〇三一	六・一
	總數	一、一〇〇	七、五三〇	八、一五四	二、八〇〇		一九、六八四	

	總代數	總書數		總代數	總書數		總代數	總書數		總代數	總書數		總代數	總書數		總代數	總書數	
四谷	一、〇一六	五、七一三	×	二、一九五	一、八六九	×	一四、二八九	九、一一三	六・四	一四、八六九	九、一一三	六・四	一四、一八八	四、一五〇	×	二、一九五	一、八六九	×
牛込	一、〇一三	九、三九〇	×	一〇、八二八	八五〇	×	三二、一六三	一七、五九〇	〇・七九	三二、一六三	一七、五九〇	〇・七九	四四、一八八	四五〇	×	一〇、八二八	八五〇	×
小石川	二、四九五	一一、二六五	×	七、九八五	四、四八〇	×	一〇、四〇七	八、〇五二	五・七	六六、八二六	三八、〇五二	五・七	一〇、四〇七	八、〇五二	×	七、九八五	四、四八〇	×
本郷	一三、〇〇七	八、八〇二	×	二、七八七	八、一〇四	×	二、一九三	七、八〇〇	五・四	六七、三一五	三六、三三	五・四	二、一九三	七、八〇〇	×	二、七八七	八、一〇四	×
下谷	九、〇一三	六、九五六	×	一四、一八八	一三、九九三	×	一四、一八八	一三、九九三	四・七	五九、六八三	二八、三三七	四・七	一四、一八八	一三、九九三	×	一四、一八八	一三、九九三	×
浅草	七七、八五六	四六、五六六	八四四	三四、五四二	六、九〇八	八四四	三四、四〇九	二五、七九〇	三・二	二八六、四〇八	九一、一八〇	三・二	三四、四〇九	二五、七九〇	八四四	三四、五四二	六、九〇八	八四四
本所	二六五、八五七	九二、〇八〇	一〇〇	二一、五二三	七、五〇〇	一〇〇	二三四、二九七	二七、七〇五	一・二	二三四、二九七	二七、七〇五	一・二	二一、五二三	七、五〇〇	一〇〇	二一、五二三	七、五〇〇	一〇〇
深川	二、八五七	一、一〇四	一四七、一〇七	三三、三五三	七、三〇四	一四七、一〇七	二、二一〇、三七四	四三、七九四	〇・二	二、二一〇、三七四	四三、七九四	〇・二	三三、三五三	七、三〇四	一四七、一〇七	三三、三五三	七、三〇四	一四七、一〇七
合計	八〇四、九五七	二三五、六二九	五〇七、八二二	八八五、〇三三	六七、六四三	五〇七、八二二	一五五、七七九	五五三、四九九	〇・九六〇	一五五、七七九	五五三、四九九	〇・九六〇	八八五、〇三三	六七、六四三	五〇七、八二二	八八五、〇三三	六七、六四三	五〇七、八二二

第六　雜　件

各區役所巡視ノ際ニ得タル所感ハ區行政刷新上多少ノ參考トナルヘキヲ以テ左ニ其ノ主ナルモノ數項ヲ掲ク

一、區吏員ノ勞力ト報酬　區役所吏員ノ俸給ハ市役所吏員ニ比シテ約一割ノ低度ナリ市理事者ハ市吏員ハ頭腦ヲ勞シ區吏員ハ手足ヲ役スルモノナルヲ以テ二者俸給ノ差異モ亦止ムヲ得スト稱スルモ區吏員ハ殆ント點燈時マテ殘留スル情態也。故ニ兩者吏員ニ讓ラス且ツ其ノ執務ハ非常ニ繁忙ニシテ市吏員ハ定時刻ニ退出スルモ區吏員ハ殆ント點燈時マテ殘留スル情態也。故ニ兩者ノ間ニ俸給ノ差異ヲ爲スヘキ理由甚タ薄弱ニシテ區吏員ハ現在ヨリモ待遇ヲ厚フスヘキ必要アリト認メタリ

二、區吏員ト社會的智識　區吏員ハ殆ント區役所內ニノミ籠居シ事務ニ從フ外他ニ修養ノ途ナキヲ以テ動モスレハ社會ノ進步ニ後ル、傾向アリ故ニ各區役所ニ於テ適當ナル方法ニ依リ時代ノ智識、新法令等ニ對スル適度ノ修養ヲ爲サシムルハ甚タ緊要ナルヘク爲ニ吏員等ヲシテ一層繁忙ナラシムルハ又止ムヲ得サルコトナルヘシ

三、區吏員ノ食事　區役所ニヨリテハ區吏員カ其ノ執務場所ニ於テ食事ヲナシツヽ區民ト應接スルヲ見ル如此ハ甚タ不體裁ニシテ少クトモ對者ノ感情ヲ損フコトナシトセス宜シク一定ノ食堂ヲ備ヘ係員交代ニ食事ヲナス等便宜ノ處置ヲナスヘキ必要アリト認ム

四、區吏員ノ交換轉勤　區吏員中ニハ多年同一役所ニ於テ同一ノ事務ニ從事セル爲メ背後ニ情實ノ纏綿ヲ來スト同時ニ因循姑息ニ陷キル弊ナシトセス老朽無能ノ世評アルモ一ニ是ニ原因スル傾向アリ故ニ斯カル吏員ハ時宜ニ從ヒ各區役所間ニ交換轉勤スル途ヲ開カハ如上ノ弊風ヲ根絶シ能アル者ヲシテ勤績ヲ全フセシメ無能者ヲシテ自ラ勇退セシムルニ至ルヘシト信ス

五、輕微ナル職務曠廢　重要ナル事務ハ各吏員コレカ運用ニ注意セル傾向アルモ輕微ナルモノニ到リテハ動モスレハ慣レテ輕忽ニ失スル弊害アリ試ニ各區役所ニ就テ斯ル種目ノ二三ヲ檢査セシニ往々滿足ナル記錄ヲ得サリシ如キハ其ノ一例也小事ヲ忽ニスルハ推シテ大事ニ忠實ナラサルヲ證明シ得ルモノトセハ斯ル實例ハ又甚タ注意スヘキモノナリト信ス

以　上

市衞生事務ニ關スル檢査報告

第一　衞　生　課

市衞生課ノ組織ト其ノ事務ノ進行トハ大體ニ於テ遺憾ナシト謂フヲ得ス課長以下所屬吏員ノ選任ヲ適切ニシ衞生ト關係アル市事務ヲ調査シテ其ノ所屬ヲ明ニシ及ヒ既設衞生事業ノ刷新改良ヲ計ル等日ヲ緩フスヘカラサルモノ亦勘カラス玆ニ市政檢査ノ結果ヲ摘要シテ其ノ一般ヲ報告セントス

衞生課ノ事務ハ大部分ハ專門的ノ智識技能ヲ要スルモノナルカ故ニ現今ノ如ク普通事務ヲ執ルト同一ノ吏員ニ委託スルハ成績ヲ擧クルニ遺憾ナシトセス從テ市衞生事業ヲ改良發展セントセハ根本トシテ左ノ數項ヲ實行スル必要アリト認ム

一、衞生課長ハ成ルヘク專門的智識技能ヲ有スル者ヲ任命スルコト

二、他ノ分掌事務ハ必要ニ應シ專門技能者ヲ充用スルコト

三、衞生課ノ編成ハ警視廳第三部ノ編成法ニ準據スルコト

以上ハ市衞生課改良ノ根本的要件ナリトス其他ハ以下各項ニ分チテ說明スヘシ

第二　市衞生試驗所

東京市內ニハ內務省所屬ノ衞生試驗所アリテ主トシテ化學工業品ニ對スル衞生試驗ヲナシ警視廳モ亦同シ施設ヲナシテ防疫ニ關スル試驗ニ努メ一般公衆ノ委託ニ應スルニ遺憾ナキヲ以テ市カ特ニ衞生試驗所ヲ特設シテ斯ル需要ニ應スル必要ナキノミナラス市自身モ前二箇所ニヨリテ必要ナル衞生試驗ヲ充タスヲ得ヘシ唯タ水質試驗ノ設備ハ市水道ト關聯シテ市衞生試驗所ノ特長ト認メ得ルモ如此ハ市水道課ノ附屬事業トセハ足ルヘシ從テ今日ノ場合ニ當リ市カ巨額ノ經費ヲ支出シ別ニ獨立組織ヲナセル衞生試驗所ヲ設クルノ必要ナシ若シ夫レ都市ノ面目ヲ保ツ爲ニ斯カル形式ノ存在ヲ必要トスルト云フニ至テハ實際ニ副ハサル議論ニシテ何等注意ヲ拂フヘキモノニアラサル可シ

第三　消毒所

市ハ消毒所ヲ直營シテ一般市民ノ需要ニ應スヘク規模ノ擴張ヲ計畫セリ現下東京市內ニハ私設ノ消毒所多ク孰レモ警視廳ノ嚴重ナル監督ヲ受ケ設備ニ於テ何等遺憾アルナク且ツ其ノ規模ハ市民ノ需要ニ應シテ毫モ差支アルヲ見ス然ルニ市カ莫大ノ費用ヲ投シテ之ヲ計畫セントスルハ毫モ理由ナキコトニシテ徒ニ民業ヲ壓迫スルニ過キサルヘシ從テ該計畫ハ斷然中止スルヲ以テ市ノ利益ナリト認ムルモノナリ

第四　養育院收容者ノ健康診斷

養育院ハ庶務課ニ屬シ市カ設置セル慈善救恤事業ノ一ナリト雖モ其收容セル者ノ大多數ハ不健康者ニシテ疾病治療ハ事務ノ主ナルモノナリ從テ收容者ニ對スル健康診斷ハ市衞生上決シテ輕視スヘカラス

先年養育院內ニ發疹チブスノ發生シタル際ニ初發患者ノ系統ヲ明ニセス加之不定ノ熱性患者ニ對シテ速ニ隔離豫防ノコトヲナサス遂ニ多數ノ續發患者ヲ出シタルハ市衞生上ノ一大問題ト謂ハサル可カラス且養育院內ニハ當時既ニ醫員アリ看護婦アリ傳染病患者ヲ隔離スル餘地モ亦存在シ其ノ構內ハ全然社會ト交通遮斷ノ情態ニアリ故ニ院內ニ傳染病患者發生シタル場合ニ狼狽シテ駒込病院ニ轉送スルノ必要ナキノミナラス却テ公衆ニ病毒傳播ノ危險アリ況ヤ養育院ハ相當ノ基本財產ヲ有シ相當ノ經費支出ヲ許スヲヤ然ルニ經費貧弱ナル駒込病院ニ患者ヲ轉送スルハ其意ヲ得サル處置ト謂ハサルヲ得ス

斯ル事情ヨリ見ルモ養育院ノ健康情態ニ關スル施設ハ市衞生ト密接ノ關係アリ其他藥品器械ノ購入ト云ヒ衣食住ノ設備ト云ヒ其事務ノ衞生課ニ隸屬スヘキモノ頗ル多シ故ニ事ノ衞生ニ關スルモノハ寧ロ衞生課ヲシテ分掌セシメ更ニ適當ナル方法ニヨリテ感化救恤事業トノ聯絡ヲ保ツヲ可トス

第五　駒込病院

東京市カ莫大ノ經費ヲ以テ駒込病院ヲ設備シ此種ニ於ケル最完全ヲ期シツヽアルハ何人モ認ムル所ナルニモ拘ラス猶且ツ市民カ入院ヲ嫌忌スル傾向アルハ甚タ遺憾トスル處ニシテ市內ニ於ケル傳染病患者發生數ニ比シ自費入院患者ノ甚タ尠キハ畢竟コレニ對スル手段方法ノ未タ到ラサル所アルカ爲ナリ元ヨリ當病院ノ目的ハ公衆衞生ヲ主眼トシ毫モ營利的性質ヲ備ヘサルヲ以テ自費患者ニ對シテ特別ノ待遇法ヲ講スル能ハスト雖モ其傳染病專門病院トシテ患者治療ニ關スル熟練ト成績トハ之ヲ償フテ餘アルヘシ況ヤ自費患者ニ對スル設備必スシモ薄シト云フニアラサルヲヤ今日自費患者ノ收容增加スル時ハ啻ニ市ノ公益ヲ增加シ設備其他ノ改良費ヲ潤澤ニスルノミナラス從テ下級市民ノ信認ヲ增シテ傳染病隱蔽ノ風習自ラ減シ一般ノ利益計ルヘカラサルモノアルヘシ即チ當病院現下ノ急務トシテ努メテ自費患者收容ノ手段方法ヲ講スヘキ必要アリト認ム

第六　施療病院

東京市カ貧窮者ノ施療病院ヲ設置スルハ其ノ當ヲ得タルモノナルモ其事業ノ實狀ニ至リテハ甚タ遺憾多キヲ認ム市內十五區ヲ巡視

シ施療出願者ヲ調査スルニ多クハ濟生會、三井慈善病院、又ハ慈惠病院ノ施療ヲ希望スルモノニシテ市設施療病院ヲ望ムモノハ極メテ尠ク入院者ニ就テ調査スルモ僅ニ京橋、芝及ヒ深川ノ三區在住者ニ限ラレタル觀アリ更ニソノ多數ハ全然所屬醫員ノ研究材料タルニ過キサルカノ如キ感アルヲ遺憾トス例ヘハ數年間ノ治療ヲ要スル糖尿患者ヲ數ケ月入院セシメタルアリ七日間ニシテ退院セル普通ノ產婦異常產又ハ發病者ニシテ一週間內ニ全治退院ヲ命シタル等類例枚擧ニ遑アラス宜シク刷新改良ヲ加ヘテ市カ本病院ヲ施設シタル本旨ニ副ハシムヘキヲ要ス

備考　結核患者ハ貧窮者ノ最モ多キヲ占ムルモノニシテ彼等ノ最大苦痛タリ然ルニ施療病院ニ於テ該患者ノ入院ヲ厭フ形迹アリト云フニ至テハ言語道斷ノ次第ト謂ハサルヘカラス畢竟理事者監督ノ不行屆ト謂フノ外ナク一大注意ヲ加フヘキモノトス

第七　精神病者委託病院

東京市カ精神病者ヲ委託セル精神病院ハ其施設一樣ナラス爲メニ甚シキ幸不幸ノ差別アリ如此ハ理事者トシテ相當ノ注意ヲ要スヘキモノト認ム

病院ノ或モノハ六疊一室ニ五名ノ患者ヲ收容セルアリ如此ハ法規ニ抵觸スルノミナラス實際上患者ノ衞生狀態ニモ多大ノ惡影響ヲ與フルヤ明ナリ特ニ患者ニ對シテ給與スル衣食ノ如キ統一ト親切トヲ缺キ殆ント看護法ノ何モノタルヲ知ラサル情態ニアリ精神病者ヲ斯ル情態下ニ置クハ眞ニ人道ヲ無視スルモノト謂ハサル可カラス

曩ニ戸山病院カ閉鎖ノ嚴命ヲ受ケタルハ醫界破天荒ノ事件ナルカ該病院ニ患者ヲ委託セル市理事者カ當日マテ何等注意スル所ナカリシハ無責任ノ罪ヲ遁ル、能ハサルヘシ由來戸山病院ノ院長ハ醫師タル素養經歷無キ者ナレハ假令醫長其他ノ實務者其人ヲ得タリトスルモ市ハ充分此間ニ注意ヲ拂フ必要アリ現ニ檢査委員カ巡視セル際ニモ二百名以上ノ患者ヲ收容シナカラ一名ノ宿直醫員ヲ置カサリシヲ見テ深ク其ノ不規律無責任ニ驚キタリ如此事情ハ僅ノ注意ヲ以テシテ容易ニ觀取スルヲ得ヘシ

斯ル事實ノ存在セル以上市理事者ハ精神病者委託病院ニ對シテハ今後充分ニ監督注意ノ實ヲ擧ケサルヘカラス而シテ新ニ委託ヲナサントスル際ニハ其約束ヲ嚴ニスルコト勿論ナルヘシ猶現下ノ最大急務トシテハ左ノ條件ヲ嚴行スルノ必要アリト認ム

患者ニ對シテ一定ノ被服ヲ與ヘ一定ノ食料ヲ給シ規定ノ看護法及ヒ監督法ヲ勵行シ及ヒ規定ノ病室ニ起臥セシムルコト

備考　戸山病院ハ近キ將來ニ再ヒ開院セラルヽ計畫アリト謂フ警視廳ノ許否ハ俄ニ推測シ難キモ東京市トシテハ前ト同一院長ニ依テ經營セラルヽ以上斷シテ患者ヲ委託セサランコトヲ希望ス

第八　學校衞生

教育ト衞生トハ互ニ相關聯スルモノナリトハ云ヘ又自ラ別個ノ智識技能ヲ有ス故ニ學校衞生ノ事務ハ寧ロ衞生課ノ主管ニ移シ更ニ他ノ方法ニヨリテ教育事業トノ連絡ヲ保タシムルヲ適當ナリト認ム檢査委員カ各區各學校ノ狀況ヲ檢査シタル結果衞生上ニ遺憾多キヲ見テ特ニ如上ノ感ヲ深フシタリ

一、法定傳染病ニ對スル消毒施行ハ間々報告書ニ記載セルモ其乙種丙種ニ屬スル傳染病、流行疾病ニ對シテハ殆ント其實ヲ發見セス而モ法定傳染病ニテ休學セル兒童ヨリモ法定外ノ痲疹、百日咳、水痘等ノ爲ニ休校セル者多數ナルハ要スルニ學校ニ於ケル消毒標準ノ空文ヲ墨守シテ學校衞生ノ眞髓ヲ沒却セルニヨルモノナルヘシ

二、學校教員ノ體格檢査ハ一年一回施行セラル、モノナルカ其檢査表ヲ一覽スルニ各學校孰レモ體格强中等疾病ナシト云フニ一致セリ又教員勤怠表ニ著シキ疾病缺勤ヲ見ルト矛盾セリ要スルニ徒ニ形式的ノ檢査ヲ事トシ實際的價値アル檢査ヲ施行シタルモノト認ムル能ハス

三、兒童體格檢査表モ亦甚々亂雜不統一ナリ例ハ或學校ノ檢査表ニ外被病ト記入セラレタルモノカ他ニ於テハ耳鼻科又ハ全身病等ニ記入セル如キ一々列擧スヘカラス如此檢査表カ文部省ニ提出セラレテ兒童健康調査ノ標準トナルハ慨ハシキ次第ナリ

四、學校醫ヲ專任タラシムルト囑託タラシムルトハ一ニ其ノ區ノ任意トシ只專任ノ場合ニ於テノミ市ハ之ニ俸給ノ半額ヲ補給スルテウ現行規程ノ精神ハ市カ校醫ノ專任ヲ以テ學校衞生上最良ノ施設ナリト認メ區ヲシテ力メテ之ニ倣ハシメントスル一ノ奬勵

ニ出テタルモノナルヘキモ囑託醫モ亦同一目的ヲ以テ同一ノ事務ヲ取扱ハシムル制度ノ下ニ置カレタルモノナレハ之ニ對シテモ亦相當ノ補助アルヘキヲ當然ナリト認ム

第九　種痘

市ニ於テ種痘ノ勵行ニ留意スルハ甚タ其ノ意ヲ得タルモ其ノ手續方法ニ於テハ改良スヘキ點多シ

一、種痘普及ノ爲ニ配布セラル、通知書中ニ記載セル事項中沐浴ヲ命シ襦袢ノ着用ニ制限ヲ附スル如キハ一般階級ニ對シテ種痘ヲ普及セシムルニ多少阻碍ヲ生スルモノト認ム

二、種痘ハ一ノ技術ナリ然ルニ現在ノ如ク各區ノ醫師ニ依囑シテ區々一樣ナラサル結果ヲ生セシムルカ如キハ啻ニ其ノ普及上ニ遺憾アルノミナラス又種痘者ニ一種ノ疑惑ヲ抱カシメ尙且ツ成績ノ不統一ヲ見ル恐ナシトセス故ニ種痘ハ成ルヘク之ヲ統一的ニ施行スルヲ理想トスヘシコレ市ノ種痘普及ノ本旨ニ副ヒ且ツ市民ノ幸福ヲ增進スル所以ノ途ナリト信スレハナリ

第十　市吏員ノ公務上傳染病ニ感染シタル上申書ニ就テ

市吏員カ事實上公務ノ爲ニ傳染病ニ感染シタル場合ニハ法規上ノミナラス市ニ於テ可及タケ充分ノ救護ヲ加ヘサル可カラサルモ斯ル際ニ往々審査杜撰ノ批難アルヲ耳ニスルハ遺憾ナリ特ニ市吏員ニシテ法定傳染病ニ罹ルモノハ多ク公務上ノ感染者トシテ上申セラレタルヤノ傾向ナキニアラス現ニ深川區ニ於ケル市政檢査ノ際ニ當事者カ明確ナル答辯ヲナシ得サリシ事實モアリ玆ニ明確ナル證跡ヲ指示スルニ由ナシト雖モ既ニ疑似ノ形迹アル以上ハ多數ノ吏員ヲ使用スル市當局ニ於テ最モ愼重ナル手續ヲ取ルノ必要アリト認メ特記反省ヲ促ス所以ナリ

第十一　掃除監視吏員

一、掃除監督制度

汚物掃除ハ市ノ大問題ナリ現在ニ於テ市ハ汚物掃除令ニ依リ掃除監督長（衞生課長兼任）一人、監督十五人、巡視百五十人及各區ニ於テ衞生掛長ヲ兼任掃除監督トシ人夫ヲ指揮監督シテ事業ヲ進捗セシメツ、アリ此ノ行政方法ハ果シテ適當ナリヤ否ヤ

一、掃除監督長　法令ニ依レハ掃除監督長ハ專任者ヲ置クコト、ナリ時宜ニ依リ助役等ヲ以テ之ニ充ツルモ可ナルヘク定メラレ居レリ然ルニ現在ニ於テ衞生課長ヲシテ兼任セシメ是ニ部下任免黜陟ノ實權ヲ授ケ以テ各區內ノ行政ニ關係セシメツ、アリ如此ハ法令ノ意義ヲ誤レルモノニシテ且一課長ニシテ區ノ行政首腦タル區長ヲ凌クノ嫌アリ

二、掃除監督　法令ニハ掃除監督ノ定員及俸給ハ掃除巡視ノ監督必要上之ヲ定メ云々トアリテ必スシモ專任トスヘキ明文ナシ從テ兼任トスルモ亦妨ケス現在ノ監督ハ區長ハ之ヲ指揮命令スルノ權限ナク而モ市ハ區長ニ其動怠ニ關スルコトノミヲ依賴シアリ共結果監督ニ對スル直接統轄者ナクシテ全然中間性ノ吏員トナリ爲ニ却テ行政事務ノ澁滯ヲ釀成スル現狀ナリ

三、掃除巡視　法令ハ每月數回各戸ニ付キ掃除ノ實況ヲ監視セシメ得ルニ充分ナル吏員ヲ置クコトヲ原則トシ事情許サヽル時ハ將來漸次增員スル目的ヲ以テ時宜ニ從ヒ員數ヲ定メンコトヲ要求セリ市ノ現況ハ十分ナラスト雖モ相當ノ巡視員ヲ配置セルヤ疑フヲ要セス唯タ市ヨリ出張セル一人ノ監視員カ果シテ彼等ヲ監督シ得ルヤハ疑問ナリ況ヤ監督モ巡視モ共ニ區長ト無關係ナルヲヤ若シ監督長カ彼等ノ報告ニ聽イテ事績ノ擧レルヲ即斷セハ弊害ハ必ス其處ニ胚胎スヘシ區ニ於テハ特ニ衞生掛長ヲシテ監督ノ任ニ當ラシムルモ結果ハ徒ニ市ト區トノ間ニ行政上ノ圓滑ヲ欠クニ過キス經費ト冗費トヲ膨大ニスルモ得ルトコロハ遂ニ失フトコロヲ償ハサルヘシ既ニ牛込區ノ如キハ市派出ノ監督員ナキニ拘ラス却テ良成績ヲ擧ケツ、アリ

以上列擧セル如ク現在施行ノ汚物掃除ニ關スル吏員ノ配置ハ根底ヨリ改革スヘキモノト認ム一時的事業ナレハ市カ直轄スルモ不可ナケンモ區ノ繼續事業トシテ永久ナルヘキ性質ノモノニ對シ區當事者ト何等ノ關係ナキハ斷シテ不可ナリ既ニ多數ノ區長ハ之ニ對スル改良案トシテ左ノ如キ意見ヲ抱持セリト聞ク

一、助役ヲ掃除監督長トナスコト

二、區長ヲ掃除監督トナスコト

三、掃除巡視ハ衛生巡視ト改稱シ汚物掃除及水道檢査ヲナサシムルコト

四、如上ノ實施ハ左ノ利益アリ

イ　監督系統ヲ一ナラシメ行政整理及事務簡捷ニ適ス

ロ　專任監督十五人ノ廢止ニヨリ俸給、被服及手當等其他ノ費用ヲ合シテ七千五百拾圓餘ヲ節減シ得ヘシ

以上ハ實際上ノ不便ヨリ案出セル改良案ト見ルヘシ右各項中(一)乃至(三)ハ何等現行法令ニ抵觸セス(四)ハ一部改正ヲ加フル要アルヲ以テ急ニ實行シ難カルヘク且衛生巡視ノ名稱ニ於テ他ト一致セサル嫌アルモ又必スシモ以テ之カ改正ヲ累スニ足ラサルヘシ更ニ希望ヲ開陳スレハ

一、現在ノ各區掃除監督ヲ掃除監督補トシテ區書記ヲ兼任セシメ區長ハ掃除監督トシテ之ヲ監督スル事

二、助役ヲ監督長トスルト同時ニ市衛生課長ヲモ監督トスル事此ノ場合ハ監督長ヲ補佐スルモノトス

三、大正四年度ノ豫算ニハ掃除巡視ト水道檢査員トヲ相互セシムル目的ヲ以テ各共定員ヲ減シタリト云フ而モ二者ハ職務執行ノ權限ニ相犯シ難キモノアリテ强テ之ヲ行ヘハ市民ノ權利ヲ犯スモノトシテ反對セラルヽヤモ知ルヘカラス其結果兩者トモ徒ニ屋外表面ノ見聞ヲ互報スルニ留マリ取締上ノ不成績ヲ原因スルニ至ル恐アリ故ニ兩者ノ一ヲ兼任トシ兩樣ノ職權ヲ有セシムルコトハ甚タ必要ナリト認ム

之ヲ要スルニ今日ノ掃除監視員制度ハ當初コノ機關設置ノ精神ニ副ハス其執行機關タル市ト區トノ調和圓滑ナラサルヲ以テ速ニ矯正改革スヘキモノト認ム

二、汚物掃除ノ實際

汚物掃除ニ要スル實際ノ作業ハ市ノ直營ニ依ルカ或ハ請負業者ニ託スルカハ重要ナル研究問題ナリ直營トスル時ニ注意スヘキ點ハ左ノ諸項ナルヘシ

一、市内ノ塵埃ヲ燒却スルモノトセハ其設備ハ如何火力ヲ利用スル方法ナキカ、灰分ヲ如何ニ處分スルカ、其中ヨリ何物カヲ獲得スル能ハサルカ等ヲ研究調査シテ後ニ始メテ施行スヘク單ニ埋立地ノ如キ廣漠地ニ之ヲ燒却シ其燼灰ヲ風ノマニ〳〵飛散セシムル如キハ市營トシテ甚タ無意義ナリ

二、千葉其他ノ地方ニ於テ市ノ塵芥ヲ農業肥料ニ需用スルハ注目スヘキ事實ナルモ其ノ運搬經費ハ果シテ請負業者ノ運搬費ヨリモ減少スヘキカ否カヲ調査セサル可カラス

概シテ直營ハ統一シ易ク監視シ易ク其效績モ亦擧ケ易キモ之ニ伴フ經費ノ增額ハ自ラ免ル可カラス反之請負ニ委任スル時ニハ事業ノ性質上寧ロ少額ノ經費ヲ以テ遂行シ得ル傾向ナシトセス特ニ水災等ノ如キ臨時ノ場合ニハ供給請負ニ非レハ多數ノ人夫ヲ急速ニ傭入スルコト難キ不便アリ或ハ方今民間事業ニ見ル如ク平常多數ノ人夫ヲ定傭トナシ一旦有事ニ際シ是等ニ事業ノ請負ヲ爲サシムルヲ得ハ費用ニ於テモ事業進捗上ニ於テモ市ノ利益スルトコロ多大ナルヘシ要スルニ直營ノ事ハ利害ヲ判斷シテ後ニ決定スヘキモノナルヘシ試驗的ニ一部分ニ對シテ實施スル如キハ市ノ事業ヲ玩弄スルモノナリト謂ハルヽモ辯解ノ辭ナカルヘシ

三、掃除巡視等ノ被服

薄給ノ掃除巡視又ハ水道檢査員等ニ對シテ被服費ヲ給與スルハ當然ノ處置ナルモ監督長監督各區ニ於ケル掛長又ハ兼任者ノ如キ比較的高給吏員ニ對シテ之ヲ給與スル如キ規定ハ全然廢止スヘキモノト認ム苟モ市吏員全體ニ對シテ被服費給與ノ規定ナキ以上彼等ノ如キ高給者ニ對スル被服費給與ハ無意義ト謂ハサルヘカラス强テ制服ノ必要アリトセハ宜シク警視廳ノ警部ニ於ケル制度ヲ適用スルヲ可トス

第十二　撒水及除雪

一、撒水

市ノ定メタル撒水標準ハ左ノ如シ

三月——六月	面積平均	二千二百坪以內一人
七月——十月	同	一千七百坪以內一人
十一月——二月	同	二千八百坪以內一人

但種々條件ニ依リ二百坪ヲ減スルヲ得

右ノ標準ニ於テ市ハ區ニ對シテ費用ヲ支出スルモノナルカ明治四十五年四月一日該標準規定後人道、車道ヲ區別シタル市區改正ノ結果街路上ノ面積ニ變化ヲ生シタルニ拘ハラス何等改正ヲ加ヘサルハ不當ナリ且又撒水適否ノ如キモ一ニ掃除巡視ノ報告ヲ基礎トスルモ彼等カ街上撒水ノ監視ヲ爲サヽルハ明白ナル事實ナリ然ルニコノ根底ナキ報告ヲ是認シテ莫大ナル撒水費ノ支出ヲ決定スルハ甚タ不親切ナル行動ト謂ハサルヲ得ス

二、除雪

現今除雪ノ規定ハ二寸ニテ一人二百八十坪トシ一日七十錢ノ手當ヲ給與ス而モ坪數ヲ標準トシテ人數ヲ算出スル故ニ若シ一人五百六十坪ヲ除雪スル時ハ二人分ノ賃錢ヲ得ヘク又積雪四寸ノ際ハ一人當百四十坪トナル規定ナリ此ノ規定ハ種々ノ弊害ヲ生スルモノナリ試ニ之ヲ列擧スレハ

一、各區ノ除雪ハ除雪面積ヲ一人負擔面積ニテ除シタル人夫數ニ對シテ賃錢ヲ算出シ之ヲ請負人ニ支拂フモノニシテ事實ニ於テハ所定ノ人夫數ヲ出サヽルコトヲ常トス

二、除雪面積中ノ人道ハ各戸私ニ除雪ヲナスモ市ニ於テハ之ヲ人夫使用面積ニ算入シ居ルヲ以テ實際上無用ノ費用ヲ支出シツヽアリ

三、監督不行屆ノ爲ニ人夫ハ午前九時十時ニ至リテ前夜ノ降雪ヲ除クヘク從事スルコトアリ他ノ場合モ亦然リ此ノ如ク時間ヲ後ルヽ結果除雪面積ハ減少シ從テ請負者ハ不用ノ人夫ニ對スル賃錢ヲ貪ルノ惡弊ヲ生スルニ至ル

四、現制度ハ區直營ノ人夫供給契約ナルモ實際ハ請負ナリ若シ全然公入札ニヨル請負トセハ費用ヲ省キテ却テ良結果ヲ得ヘシ

如上ノ弊害伏在スル爲ニ動モスレハ區吏ト人夫供給者トノ間ニ弊竇ヲ生ス麻布區ニ於ケル區吏犯罪事件ノ如キ全クコレニ原因ス

第十三　人夫供給

請負人夫ト謂ハス市直營人夫ト謂ハス汚物掃除、撒水、除雪、下水及消毒等ニ於テ人夫ヲ雇用スルニ際シ事業ノ直營ト請負トヲ問ハス總テ之ヲ各區ニ委任シ市ハ其報告ニ盲從シテ賃錢ヲ支出スル爲ニ弊害自ラ其間ニ生シ公吏ト請負者ト結托シテ不正事件ヲ釀成スルハ市政ノ不整理甚シキモノト云フヘシ理事者ハ直營ト請負ト人夫ノ選擇ヲ異ニスト云フト雖モ十五區ニ就テ實地踏査ノ結果ハ何等特異ノ點ヲ發見セス斯カル情態ニ於テハ麻布區吏不正事件ノ如キ事實カ他區ニ潛在セストモ限ラレス由是觀之人夫供給ノ如キハ直營ト請負トヲ問ハス事業ニ對スル得失ヲ定ムルニ由ナク却テ請負事業ノ利益アルヲ思ハシムルニ至ル要之人夫供給ハ監督ノ最モ困難ナルモノナレハ宜シク適當ノ方法ヲ講シテ不統一ノ缺點ナキ樣努力セラレンコトヲ望ム

第十四　街頭便所

街頭便所ニ關スル清潔掃除法ノ規定ハ甚タ周到ニシテ監督員ノ報告モ亦遺憾ナシト雖モ實地踏査ノ結果ニ依レハ事實ノ甚タ相違セルヲ遺憾トス更ニ監督ノ一層嚴密ナランコトヲ要ス別表ニ示セル防臭劑施行ノ不統一ナル如キ亦其顯著ナル一例ナリ蓋シ防臭劑ノ品目相異ナルハ各自ノ見地ニヨリテ取捨選擇ヲ許スト雖モ便所數ニ應シテ其使用量ヲ定メス其稀釋度ノ如キハ殆ント防臭劑應用ノ基礎ヲ誤リ甚シキハ一箇年間ノ藥量ヲ月割トセル如キ方法ヲ實行セルアリ掃除度數モ一回或ハ四回ナト極メテ不統一ヲ免レス斯ル亂雜不統一ヲ顧ミス一定ノ經費ヲ要求スル當事者ノ態度ハ殆ント常識ヲ以テ判斷シ難キモノアリ宜シク速ニ事務ヲ整理シ各區ノ統一ヲ謀リ清潔法ノ骨子ニヨリテ實效ヲ擧クヘキナリ

備考　街頭便所ハ至ル所ニ不足シ駐在所ノ巡査スラ其不足ニ苦シミ彼等自ラ處罰令違犯ヲ敢テセル事實尠カラス一方ニ衞生ヲ極言シ一方ニ如斯非衞生ノ事實アルハ當事者ノ猛省スヘキ點ナリトス

區名	街頭便所數	防臭藥	稀釋度	人夫數	一日	一回
麹町	一一	アイゼル	百五十倍	二八—三六	一回	
神田	一七	アイゼル	二百倍	夏	一回	
日本橋	三一	アイゼル	二百倍	一〇六人	二—三回	
京橋	四一	アイゼル	二百倍	一〇七人		四升—五升
芝	二三	アイゼル	二百倍	一、〇八五人	二—三回	
麻布	一〇	アイゼル	百倍	七二一人	三回	三合
赤坂	一〇	アイゼル	三百倍	二人	二回	稀釋液約二斗
四谷	四	アイゼル				
牛込	八	アイゼル	二百倍	一人	適量	
小石川		クレシン	二布仙	七二八人	一ケ所	
本郷	六	アイゼル	二百倍	一人	稀釋二—三回	一キログラム
下谷	一八	アイゼル	百五十倍	三人	一日一三六	一ケ所
浅草	三三	アイゼルフタリン	百五十倍	六人	二—四回	一日五磅
本所		アイゼル	二百倍	五人	二回	三合
深川	三〇	アイゼル	百五十倍	四人	一—四回	七合

第十五　各區衛生事業ノ振作

大體ニ於テ十五區ヲ通シ衛生事業不振ノ遺憾アリ宜ク督勵ヲ加フヘキ必要アリ東京市ノ各區カ自重シテ自治ノ效績ヲ擧クルニ當リ衛生事業ノ如キ振作一日ヲ緩フスヘカラサルモノナリ此ニ對シテハ各區通有ノ衛生恩賜金ノ利子ヲ以テ補給シ或ハ市ヨリ直接ニ補助ヲナシ一方ニハ冗費ヲ省キ冗員ヲ節シ以テ社會公衆活動ノ根本ヲ養フヘシ特ニ法定傳染病外ノ傳染病、流行病等ニ對シテ豫防ヲ試ミ或ハ結核豫防、壯丁及兒童ノトラホーム豫防又ハ多人數雜沓スル場所ノ衛生狀態ヲ改善スル等ハ市カ直接ニ干渉スルヨリ寧ロ各區ノ自治ニ委スルハ總テノ點ニ於テ利益スル所多大ナルヘキヲ信ス

以上

本報告ハ太田信次郎君ノ動議ニテ次回マデ延期スルニ決シ、七月十七日ノ會議ニ於テモ同君ノ動議ニテ再ビ延期シ、越エテ十月四日ノ會議ニ左ノ如ク補遺ノ報告アリタリ。

市政檢査委員會第三回報告補遺

第三回報告市衛生事務ニ關スル檢査報告ノ中、第七精神病者委託病院ノ內、戸山腦病院ニ付再度檢査ノ結果、左ノ如ク補遺報告ス。

戸山腦病院視察報告

大正四年十月二日戸山腦病院ノ經營狀態ニ付キ檢査委員檢分ノ結果先ツ清潔ノ點ニ於テ著シク好感ヲ與フルモノアリ患者ニ對スル取扱方法ニ關シテハ曩キニ非難アリタル故ナランカ現在ニテハ懇切叮嚀ナリト云フモ不可ナク食物ノ如キモ衛生上ヨリモ滋養上ヨリモ適當ナルカ如シ而シテ曩キノ報告ニハ宿直員無キ樣ノ記述ヲ爲シタルモ今之ヲ精査スルニ宿直員ヲ備ヘ置クコト確實ニシテ委員ハ明治三十四年以降ノ宿直員ノ手當支拂書ヲ實見シタリ

斯カル狀態ナレハ戸山腦病院ノ現狀ハ大體ニ於テ良好ナリトイフヲ得可ク市トシテ之ニ患者ヲ委託スルモ不安ナキモノト認メタリ殊ニ精神病院ノ設備少キ本市ニ於テ斯カル特殊ノ病院ニ患者ヲ委託スル事ヲ廢シテ入院治癒ノ便宜ナカラシムルヨリモ時ニ嚴密ナル監督ヲナシテ委託ヲ繼續スルヲ可ナリトス

備考

現在入院患者　百四十七名　（市ノ委託患者　百二十一名　郡部同　六名　直接私費　二十名）

看護人　三十三名　　內女子　十二名

本案ニ關シ、**坪谷善四郎君**左ノ修正意見ヲ陳述セリ。

委員ノ報告ハ、大體ニ於テ用意周到、調査詳密、其勞實ニ感謝ニ値ヒス。唯報告ノ第七、精神病者委託病院ニ關スル記事中、「戶山病院カ閉鎖ノ嚴命云々」トアルモ、事實ハ三箇月間ノ營業停止ナリシガ故ニ宜ク之ヲ「三箇月間營業停止」ト修正スベシ。次ニ「戶山病院ノ院長」トアルハ、院主ノ誤ナラン、院長ハ醫學士ニシテ經營ノ責任者ニアラザレバ、是亦院主ト修正スベシ。猶ホ備考ノ末文ハ「前ト同一院長ニ依テ經營セラルヽ以上斷シテ患者ヲ委託セサランコトヲ希望ス」トアルガ、本報告ノ提出後、此病院ハ營業停止ノ懲戒ニ省ミル所アリテ、大ニ改良ヲ加ヘタルヲ以テ、警視廳ハ改メテ其開業ヲ許可シタリ。目下此種病院ノ大部分ハ、現在以上ニ收容患者ノ數ヲ增加スルノ餘地ヲ有セザルノ狀態ニ在ルノ際ナレバ、理事者ニ於テ此病院ノ改良如何ヲ調査シタル結果、適當ナリト信セバ、之ニ患者ヲ依託スルモ敢テ不可ナカルベシ。故ニ「警視廳ノ許否ハ俄ニ推測シ難キモ」以下ノ文字ヲ、「假リニ許可セラレタルトキハ、市理事者ハ之カ經營ノ實質ヲ精査シ、以テ患者ヲ依託セラレンコトヲ希望ス」ト修正スベシ。

次ニ**近藤達兒君**、余ハ坪谷君ト同ク、委員諸君ノ勞ヲ多トスル者ナルガ、只報告書中大ニ矛盾ノ點アリテ、或ハ在院患者ノ手ニ成リタルニアラズヤトノ感ヲ抱カシム、戶山病院ニ關スル調査ノ結果、衞生上、滋養上不適當ナリト云ヘルガ、如何ナル方法ニ依テ調査シタルカト問ヒ。**伊藤仁太郎君**、曩ニ委員松山傳十郎君ガ辭任シタルハ、此報告書ニ關聯セザルカト問フ。**西川委員**、本報告書ハ七月二十四日附ヲ以テ市會ニ提出シタルガ、之ニ先ダチ戶山病院ノ經營者ハ、或ハ報告書ノ內容ヲ聞知シタル乎、大ニ設備ニ改善ヲ加ヘタリ。委員ノ希望空シカラズシテ病院ガ自ラ進ンデ斯ク反省ノ實ヲ示シタルコトヲ耳ニシ、再視察ヲ爲シタル結果、報告補遺ヲ提出スル必要ヲ認ムルニ至レリト答フレバ。**近藤君**ハ更ニ、余ハ再調査ヲ爲スニ至リタル事情ヲ問ヒタルニ非ズ、如何ナル方法ニ依リ、又如何ナル方面ヨリ比較裁量シテ、衞生上、滋養上ノ適否ヲ斷定シタルカト質シ。**西川委員**ハ、我々ガ再視察ノ際ニハ突然出張シタルニ院內ノ掃除モ間然スル所ナク、且ツ衣食住一日五十錢ノ割合トシテハ頗ル懇切ナリト思惟シタルヲ以テ、此ノ旨ヲ報告セルナリト答ヘ、尋イデ左ノ如キ問答アリタリ。

楳川忠兵衞君　檢査委員、特ニ主査ハ、本問題ニ關シ、充分調査ノ末此報告ヲ爲セリト信ズ、然ルニ今之ヲ坪谷君ノ意見ノ如ク修正シ、又ハ西川君ノ辯明ノ如ク改ムルモ、主査ニ於テ異議ナキヤ。

豐川委員長　余ハ坪谷君ノ修正說ニ異議ナキコトヲ委員長トシテ茲ニ答辯ス。

近藤達兒君　委員ガ一回ノ視察ニ依リ、滋養上、衞生上頗ル適當ナリト斷定スルニ至リテハ、實ニ其大膽ニ驚カザルヲ得ズ。元來此病院ガ營利ヲ目的トシタルハ檢査委員モ認ムル所ニシテ、前報告ニハ、二百名以上ノ患者ヲ收容セルニ拘ラズ、一名ノ宿直醫ヲモ置カズト明言シタルニ、報告補遺ニハ、「今之ヲ精査スルニ宿直員ヲ備ヘ置クコト確實ニシテ、委員ハ明治三十四年以降ノ宿直員ノ手當支拂書ヲ實見シタリ」ト言フ、而カモ斯ル手當支拂書ハ後日ニ至リテ故意ニ作製スルコトモ可能ナリ、故ニ補遺ハ全然之ヲ承認スルコトナク、第三回報告ヲ修正ヲ加ヘズシテ承認センコトヲ望ム。

坪谷君　尙一言セン若シ余ノ修正案ガ通過スルトキハ、補遺ノ廢棄ハ勿論ナリ。

後藤武夫君　斯ル小問題ニ關シ喧々論難ヲ試ミルノ要ナシ。第三回報告ハ七月當時ノ狀況ヲ述ベ、補遺ハ其後大ニ改善ヲ加ヘタル十月當時ノ狀況ヲ述ベタルモノニシテ、兩者共ニ信ヲ措クニ足リ、必ズシモ矛盾セルニアラ

ズ。而シテ坪谷君ノ修正案ハ將來理事者ハ精査ノ上、病院ニ患者ヲ委託スベシト云フニ在ルヲ以テ、毫モ異議ヲ挾ムノ餘地ナキニアラズヤ、宜ク速ニ採決スベシ。

八束可海君　余モ本案ノ修正ヲ認ム、但シ戸山病院ニ關シテハ從來既ニ定評アリ、余ノ町内ノ知人ハ嘗テ一子ヲ此病院ニ託シタルニ、其待遇頗ル冷酷ナリシカバ、兩親ハ大ニ驚キ、退院ノ許可ヲ得ルコトヲ余ニ依頼セリ、仍テ余ハ京橋區長ト協議シ、煩瑣ナル手續ヲ經テ、辛ウジテ退院セシメタリ。此ノ如キ事實ヲ念頭ニ措キテ第三回報告ヲ讀ムトキ、吾人ハ其頗ル肯綮ニ中ルモノアルヲ覺ユ、然ルニ最近提出セラレタル補遺ニ於テハ大ニ改善ノ事實ヲ高調スルモ、是レ果シテ長ク持續セラルヽヤ否ヤ疑ナキ能ハズ、故ニ余ハ當局者ガ將來常ニ監視ヲ怠ルコトナキヲ希望ス。

市長奥田義人君　市政檢査委員會第三回報告ノ議決ニ先ダチテ一言スベキコトアリ。余ガ就任ノ當時、第一回及ビ第二回報告ハ既ニ市會ノ議決ヲ經タリ。而シテ第一回報告ニ對シテハ市理事者ハ辯明書ヲ提出シタルモ、第二回報告ニ對シテハ之ヲ提出セザリシト聞ク。而シテ第一回及ビ第二回報告書中ニ指摘セラレタル各事項ニ關シテハ、多クハ余ノ同意スル所ナルヲ以テ、就任以來能フ限リ之ヲ實行スルコトニ努メツヽアリ。又第三回報告ガ委員會ニ於テ議決セラルヽヤ、余ハ細心之ヲ熟讀セリ。但シ就任日尚淺ク、雜務ニ忙殺セラレテ、余ハ未ダ區役所及ビ病院等ヲ親ク視察スルノ暇アラザル爲メ、充分ノ調査ヲ遂グル能ハザルヲ遺憾トス。而モ此第三回報告書ニ對シテハ、余ノ就任前ニ於テ辯明書提出ノ内議ヲ決シタルヲ以テ、就任後其成案ヲ受領セリ。然レドモ檢査委員諸君ノ報告ニ對シ、理事者ガ一々辯明書ヲ提出シテ兩者ノ間ニ議論ヲ交フルガ如キハ、余ノ欲セザル所ニシテ、諸君ガ多忙ノ身ヲ以テ、過去ノ市政ニ關シ、或ハ屢〻會議ヲ開キ、或ハ屢〻實地ヲ踏査シテ、到達シタ結論ノ報告ニ接スルトキ、理事者トシテハ其意見ヲ尊重シ、其利害得失ヲ攻究シ、採ルベキハ之ヲ採リ、行フベキハ之ヲ行ヒ、以テ市政ノ改善ヲ期スレバ足リ、辯明ノ爲メニ徒ラニ論議ヲ闘ハシテ、遂ニ相互ノ間ニ確執ヲ招クガ如キハ、斷ジテ避ケザルベカラズ。以上ノ理由ニ因リ、余ハ一旦決定シタル辯明書ノ提出ヲ差控ヘタリ。前述ノ如ク第一回及ビ第二回ノ報告書ニ指摘セラレタル事柄ニ就テハ着々實行シツヽアルモ、第三回ノ報告事項ニ關シテハ、余ハ自今一段ノ調査ヲ遂ゲタル後ニ非ザレバ、何等ノ言明ヲ爲スヲ得ズ、但シ諸君ガ充分ニ審査シタル以上、此報告ガ實際狀態ト懸隔ナキコトハ余ノ確信スル所ナリ。猶次ノ日程タル第四回報告中ニハ、多少事實ト相違ノ點アルガ如クナルヲ以テ、之ニ關シテハ其上程ノ際ニ言及スル所アルベシ。

豐川委員長　此際伊藤君ノ質問ニ答フベシ。松山君ガ檢査委員ヲ辭シタルハ、決シテ此調査ニ關シ意見ヲ異ニシタルガ爲メニアラズ。

岩松業經君　本員ハ第三回報告ヲ承認ス。尚ホ其補遺ハ前ノ檢査ノ際不充分ナリシ點ヲ、後ノ檢査ノ際ニハ大ニ改善セリト云フニ外ナラザレバ、是亦承認シテ可ナリ。前ノ調査ヲ認ムルモ、同一委員ノ手ニ成レル後ノ調査ヲ認メザルハ、矛盾ノ甚キモノナリ。

松山傳十郎君　先刻伊藤君ハ余ガ檢査委員辭任ノ理由ヲ問ヒタルモ余ハ答ヘザルニ如カズト思惟シタルヲ以テ、沈默ヲ守レリ。然ルニ委員長ハ之ニ答ヘテ、余ノ辭任ハ毫モ本報告ニ關聯セズト云ヘルヲ以テ、余ハ今ヤ一言ナキ能ハズ。余ガ辭表ヲ委員長ニ提出シタルハ、檢査委員會ガ本問題ニ關シ、再檢査ヲ爲スコトヲ決議シタル際ナリキ。蓋シ一旦檢査報告ヲ提出シタル後、改善ノ實ヲ擧ゲタルノ理由ヲ以テ再檢査ヲ爲ストセバ、檢査ニ重ヌルニ檢査ヲ以テシ、報告ニ重ヌルニ報告ヲ以テシ、底止スル所ナキニ至ルベシ。此故ニ余ハ委員會ニ於テ再檢査ニ

反對シタルモ、少數ニテ敗レタリ。猶他ニ種々ノ事情アリタルヲ以テ、余ハ之ヲ動機トシテ委員ヲ辭シタルモ、是レ必ズシモ自己ノ意見ガ成立セザリシ爲メニ非ズ。只終始變動セル不定矛盾ノ意見ニ對シテ、責任ヲ負フコトヲ欲セザルガ爲メノミ。

豐川委員長　松山君ハ余ノ言ヲ誤リナリトシ、調査ニ關シテ意見ヲ異ニシタルガ爲メニ辭任シタリト說明セリ。余ハ神明ニアラザルガ故ニ、人ノ心底ヲ透視スル能ハズ、從テ當時同君ガ果シテ如何ナル意見ヲ胸中ニ秘シタルカヲ洞察スル能ハザリシモ、同君ガ余ニ告ゲタル所ハ、市ノ財政ハ今ヤ殆ド破産狀態ニ在ルヲ以テ、財政整理及ビ行政整理ノ二大問題ヲ愼重ニ調査スルハ目下ノ急務ニシテ、其他ノ小問題ニ齷齪スルヲ容サズト云フニ在リタリ。其立論斯ノ如ク堂々タルモノアリシモ、余ハ情誼上再考ヲ請ヒ、暫ク辭表ヲ余ノ手許ニ保管セリ、願クハ議長ハ書記ヲシテ此辭表ヲ朗讀セシメンコトヲ。

安住佐太郎君　今委員長ハ神明ニアラザルガ故ニ、洞察スル能ハザリシト云ヘルモ、常識ヲ以テ判斷スルトキハ、松山君ガ檢査委員ノ一旦決議シタル事項ニ關シ、再三檢査ヲ繰返スガ如キハ大ニ不可ナリトシテ、辭職ノ決意ヲ爲シタルコトヲ推知スルニ難カラズ。殊ニ同君ガ代リテ檢査委員タランコトヲ余ニ求メタル際、余ハ該委員ノ職務モ久シカラズシテ終了スベケレバ、留任シテハ如何ト忠告シタルニ、同君ハ委員ガ同一問題ノ檢査ヲ幾回カ繰返スガ故ニ、容易ニ終結ヲ告ゲザルベシト答ヘタリ、以テ同君ノ意ノ在ル所ヲ知ルニ足ラン。又坪谷君ハ文字ノ修練ヲ缺クト爲セルモ、措辭ノ巧拙ハ問フ所ニ非ズ。要ハ檢査シタル事實ヲ率直ニ告白スルニ在リ、而シテ市長モ言ヘル如ク、之ニ對シテ辯明ヲ試ルト否トハ市長ノ任意ニシテ、之ニ贊成スルト否トハ我々ノ任意ナリ。委員トシテハ報告ヲ爲セバ足リ、議場トシテ之ヲ受クレバ足ル。然ルニ之ニ對シテ種々ノ論評ヲ加フルガ故ニ、遂ニ檢査委員ニ對シテ、更ニ檢査委員ヲ設ケザルベカラザルガ如キ事態ヲ生ズルニ至ル。猶ホ又本報告提出後幾許モナクシテ、所謂補遺ナルモノヲ以テ此報告ト正反對ノ言明ヲ爲シタルハ、吾人ノ承服スル能ハザル所、是レ蓋シ松山君ガ委員タルヲ肯ンゼザリシ所以ナラン。故ニ余ハ本報告ノミヲ承認シ、修正ノ撤回ヲ希望ス。

坪谷君　余ハ決シテ字句ノ修正ヲ提議シタルニアラズ、報告書ニハ戸山病院ガ閉鎖ノ嚴命ヲ受ケタリト云ヘルモ、事實ハ三箇月間ノ營業停止ナリ。更ニ又戸山病院長ハ醫師ノ素養經歷ナキ者ト云ヘルモ、院長ハ醫學士ナレバ、勿論院主ヲ指シタルナラン。以上ハ事實相違ノ點ナルヲ以テ、之ヲ改竄スルノ必要アリ。又備考ニ關シテモ、余ノ主張スル修正ハ、實際問題トシテ適當ナリト信ズ。

是ニ於テ議長**中野武營君**ハ、報告書中ノ閉鎖ヲ三箇月間ノ營業停止ト修正シ、院長ヲ院主ト修正スベシトノ坪谷君ノ說ニ對シ、檢査委員ハ同意スルヤ否ヤヲ質シタルニ。**豐川委員長**、兩ナガラ之ヲ承認スト答ヘ。**議長**ハ更ニ、坪谷君ノ修正說ト、報告補遺トハ兩立スル能ハズ、此點ヲ如何ニセントスルカヲ質シタルニ。**津村重舍君**ハ、總テ委員會ノ報告ハ單ニ之ヲ聽取スレバ足ル。若シ修正ヲ容ストセバ、幾多ノ點ニ於テ其必要ヲ生ズベシト說キ。**坪谷君**ハ、報告ヲ議シテ之ニ修正ヲ加ヘタルノ前例ハ尠カラズ、若シ修正ヲ許サズトセバ、之ヲ議スルノ要ナシトテ修正意見ノ採決ヲ求ム。仍テ**議長**ハ、檢査委員ハ此等ノ點ニ關シ、自ラ進ンデ正誤スルノ意ナキヤト問ヒ。**豐川委員長**、修正意見トシテ議長ノ手許ニ提出スベシト答フ。此時**音羽耕逸君**、檢査委員會ノ理事ノ一人トシテ坪谷君ニ問フベキ事アリ、坪谷君ノ修正意見ハ補遺ノ全部ヲ撤回シ、報告ノ本文ノミニ就テ議決セントスルニ在ルカト質シ。**坪谷君**、然リト答フレバ。**音羽君**、果シテ然ラバ余ハ之ニ反對ス、報告ニ對シテ別ニ意見ヲ附スルハ可ナランモ、報告中ノ事實ノ點ヲ左右スルガ如キ修正ニハ贊成スル能ハズト述べ。**中野議長**、坪谷君ノ修正意見ニ就キ採決セントスルヤ、其方法ニ關シ

異議ヲ唱フルモノアリタレバ。**豐川委員長**ヨリ、本日ハ他ニ重要ナル議案アルヲ以テ、紛糾ト遲滯トヲ避クル爲メ、本報告ノ採決ヲ次會マデ延期スベシト發議シ、終ニ延期ニ決セリ。

越エテ十月二十六日ノ會議ニ於テ本報告ガ更ニ議題ニ供セラルルヤ、**豐川委員長**ハ、本報告ニハ補遺ヲ附帶セシムル旨ヲ改メテ言明シ。**鎌田芳太郎君**ハ、余ハ委員ノ一人ナルモ、前回坪谷君ノ動議ニ贊意ヲ表シタリ。顧フニ院長及ビ病院閉鎖ノ二點ハ字句ノ相違ニ止マリ、趣旨ニ於テハ異ル所ナク、又將來斷ジテ患者ノ委託ヲ許サズトセバ、或ハ彼等ヲ收容スル處ナキニ至ルノ虞アリ、是レ余ガ修正ニ贊成スル所以ナリ。猶ホ又此修正ニ伴ヒ、補遺ノ自然消滅ニ歸スルハ勿論ナリト述べ。**中野議長**、檢査委員ノ報告ニ對シ、本會ニ於テ修正ヲ加フルハ可能ナルカ、或ハ議員ノ多數ガ報告ト意見ヲ異ニスル場合、別ニ之ヲ表示スルノ方法ヲ講ジ、强ヒテ委員ノ意見ヲ修正スルコトヲ避クルヲ妥當トスルカ、採決ノ爲メ、豫メ此點ヲ明カニスルノ必要アリト說キ。**坪谷君**、前例ヲ索ムルニ、曾テ市政監査委員會ガ其意見報告書ヲ提出シタル際、議論沸騰シ、終ニ事實ノ相違ヲ訂正シタルノミナラズ、其意見ヲモ變改シタルコト一再ニシテ止マラズ、若シ必要アラバ、一層具體的ニ之ヲ指摘スベシト述ブ。次ニ**近藤達兒君**、東京市ハ各腦病院ニ患者ヲ送リツヽアルガ、若シ本病院ヲ除クトキハ、患者ヲ收容シ盡ス能ハザルノ現狀ニ在ルカ如何ト理事者ニ問ヒ。助役**高橋要次郎君**ハ、精神病者ノ總數ヲ正確ニ記憶セザルガ故ニ、調査ノ上追テ實況ヲ報道スベシト答ヘ。**中野議長**ハ、報告ニ對スル修正ヲ認メ、之ヲ討議スルモ不可ナキヤ、採決ニ臨ミ紛糾ヲ防グ爲メ、豫メ此點ヲ明白ナラシムルノ必要アリト再說シ。**安住君**ハ、檢査委員ハ五月ニ此病院ヲ檢査シ、其結果ヲ七月ニ報告セリ、其後委員ハ病院ヨリノ依賴ニ應ジテ、十月ニ至リ再檢査ヲ爲シ、總テノ點ニ於テ著シキ改善ヲ見タリトシテ補遺ヲ提出セリ。斯ノ如ク同一問題ニ關シ幾回カ檢査ヲ重ヌルトセバ、委員ノ任務ハ終結スル期ナカルベシ。故ニ此際疑惑ノ眼ヲ以テ迎ヘラレツヽアル補遺ヲ撤回シ、單ニ坪谷君ノ修正說ニ就テ論議スルヲ得策トセズヤ、委員長ノ意見如何ト質シ。**横山勝太郎君**ハ、討論終結ヲ提議シ、檢査委員ノ報告ハ修正ヲ許スベキモノナルヤ否ヤノ先決問題ニ就テ採決ヲ促シタルガ。**坪谷君**ハ、先刻近藤君ノ質問ニ對スル理事者ノ答辯ハ要領ヲ得ザリシヲ以テ、余代テ說明センニ、從來東京市ガ腦病患者ヲ委託セル病院ハ八院ナリシガ、其內六院ハ最近警視廳ヨリ患者ノ收容ヲ禁ゼラレタル爲メ、市ハ非常ニ不便ヲ感ゼリト述べ。**中野議長**ハ、又復委員會ノ報告ニ對シ、修正意見ノ提出ヲ認メテ其可否ヲ採決ニ附シ得ルヤ否ヤヲ先ヅ決定セザルベカラズト論ズレバ。**鎌田君**ハ、其點ニ就テ一言スベシ、事實ハ神ト雖モ抹殺スル能ハザルモ、之ニ關スル希望ニ至テハ、人ニ依テ異ル場合アリ、故ニ檢査委員ガ將來戶山病院ニ患者ヲ依託スベカラズトノ希望ニ對シ、市會ノ希望ハ之ヲ以テ過酷ト爲シ、病院ノ設備及ビ待遇上改善ノ實ヲ擧ゲタル場合ニハ、之ニ患者ヲ託シテ可ナリト云フニ在ラバ、之ヲ議決スルハ當然ナリト述べ。**議長**ハ、若シ別個ノ決議トセバ固ヨリ議論ノ餘地ナキモ、坪谷君ノ意見ハ報告ヲ修正セントスルモノナルガ故ニ、疑義ヲ生ゼリト說キ。**村松恒一郎君**ハ、委員ノ報告ニ關シ當議場ニ於テ決議スル以上、市會ノ意思ヲ表明スルモノナレバ、偶〻委員會ノ意見ト相容レザル場合ニハ、其旨ヲ明示スルニ躊躇スベカラズト述ブ。此時**秋山朗君**、余ノ考フル所ニ據レバ、問題ノ文字ハ孰レモ印刷ノ誤植ナルガ如シ、即チ院長ハ院主ノ誤、閉鎖ハ營業停止ノ誤ナリ。故ニ先ヅ之ヲ誤植トシテ訂正シ、然ル後備考ヲ承認スルヤ否ヤヲ問題ト爲スベシ。事實ノ訂正ハ不可ナルモ、之ヲ印刷ノ誤謬ト見バ不可ナカラント論ジ。**鎌田君**ハ、備考ハ事實ノ記述ニ非ズシテ希望ナリ、從テ市會ハ此希望ヲ如何ナル程度ニ於テ容認スルカヲ決スレバ足ルト說キ。**角田眞平君**、委員會ヨリ提出セル二報告ハ孰レモ訛傳ト見做スベキニ非ズ、委員諸君ガ自ラ之ヲ撤回シ、兩者ヲ一ノ報告ニ結合シテ前ノ檢査ノ際ハ彼ノ如ク、後ノ檢査ノ際ハ此ノ如シトシテ提出スルノ擧ニ出デザリシ以上ハ、兩報告ヲ可決スルノ外ナカルベク、而シテ其取捨斟酌ハ理

事者ニ一任シテ可ナリト述ブレバ。**安住君**、果シテ然ラバ、檢査委員ハ先方ノ請求ニ應ジテ、二タビ三タビ檢査ヲ繰返スヲ妨ゲズトノ結論ヲ生ゼザル乎、余ハ此ノ如キコトアルヲ欲セズト駁シ。**豐川委員長**ハ、本報告ノ決定後ハ斷ジテ檢査ヲ繰返サズト酬ヒ。**安住君**、委員ハ戸山病院ノ運動ノ結果、再檢査ヲ爲セリトノ風說アリ、如何ト糺シ。**委員長**ハ、斯ル運動アリタルコトヲ耳ニセズト答フ。**鎌田君**ハ、坪谷君ノ修正案ハ自然ニ補遺ノ撤回ヲ伴フモノナリ、故ニ此意味ニ於テ採決スベシト述ベ。**議長**ハ、余ノ先ニ諾リタル點ヲ決定スルヲ要ス、若シ議場ガ報告ニ對スル修正意見ヲ認メ、之ヲ採決ニ付シテ可ナリトノ見解ニ一致セバ、余ハ之ニ從テ採決スベシト言フヤ。**清金太郎君**、議長ノ言ハ單ニ本案ノ修正ノミニ關スルモノナルカ、若クハ將來委員ノ報告ヲ修正スルノ可否ヲ一般的ニ決定セントスルモノナルカ、余ハ此場合、坪谷君ノ修正說ニハ反對ナルモ、一般的ニハ修正ハ可能ナリト信ズ、今此點ニ關シ、强ヒテ慣例ヲ作ルノ要ナキニアラズヤト論ジタルモ。議長ハ報告ノ修正意見ヲ採決ニ付スルノ可否ニ關シ議場ニ諮ハントシタルニ。**角田君**ハ、議長自身ノ解釋ニ關シテ議場ニ諮フハ奇ナリ。寧ロ事實ニ立脚シ、單ニ坪谷君ノ修正意見贊成者ニ起立ヲ命ズルヲ可トスト說ケバ。**議長**ハ、若シ諸君ノ意見ガ角田君ト同ク、直チニ修正案ヲ採決ニ付スベシト云フニ在ラバ、是亦可ナリ、只前回ノ報告ニ修正ヲ加フルノ可能性ニ關シ、大ニ議論アリタルガ爲メ、余ハ豫メ此點ヲ決定セント欲シタルニ過ギズト陳ベ。**秋山君**ハ、報告ノ修正ヲ許ス時ハ、幾多修正ノ結果、終ニ其本旨ヲ沒却スルニ至ルナキヲ保セザルヲ以テ、一考ノ要アリ、而シテ本問題ニ關シテハ、余ガ先ニ提唱シタルガ如ク、委員長ニ於テ印刷ノ誤植トシテ問題ノ文字ヲ訂正スルヲ得策トスベシト再說ス。次ニ**坪谷君**ハ、報告ヲ議シタル先例ヲ擧グベシトテ、明治四十一年、市會ハ市政監査委員ヲ設置シタルガ、此委員ハ市公金問題、砂利請負問題、塵埃燒却問題、萬年小學校建築問題等ニ關シテ報告書ヲ提出シタルニ、本會ニ於テ其修正ニ關シ、大ニ議論ヲ戰ハシタル後、二十七ニ對スル二十三ノ僅少ナル差ヲ以テ修正意見ハ終ニ敗レタリト述ブ。此時**豐川委員長**、秋山君ノ發議ニ對シ、木村主査ヨリ答フル所アルベシト告グレバ。**木村正孝君**曰ク、秋山君ノ意見ニ從ヒ、余ハ檢査委員ノ一人トシテ、委員長ノ命ニ依リ、茲ニ誤植ヲ訂正スベシ。即チ戸山病院ノ「閉鎖」ヲ「停止」ト訂正シ、「戸山病院ノ院長」ノ「長」ヲ「主」、「假令醫長」ノ「醫」ヲ「院」ト訂正ス。更ニ末文ニ「同一院長」トアルハ「同一院主」ノ誤ナリト。**坪谷君**乃チ曰ク、既ニ事實ヲ訂正シタル以上、從テ備考ノ結論ニ變化ヲ生ズルハ言ヲ俟タズ、即チ備考ノ文字ハ事實ニ非ズシテ、事實ニ基ク意見ナルガ故ニ、本市會ハ當然之ヲ修正スルノ權能ヲ有ス、是レ余ガ修正意見ヲ提出セル所以ナリ、諸君ノ贊成ヲ請フト。是ニ於テ**村松恒一郎君**ハ、左ノ如ク論ゼリ。

今木村君ハ、秋山君ノ注意ニ依リ報告中ノ文字ヲ訂正シタルガ、是レ大ニ不可ナリ。苟モ檢査委員ガ責任ヲ以テ報告セル以上、一箇所ノ文字ノ誤植ナランニハ兎モ角、數箇所ニ於テ、而モ骨子ト見ルベキ文字ヲ誤植ナリト云フニ至テハ、其責任ヲ如何ニセントスルヤ。實際問題トシテハ、此正誤ハ或ハ一種ノ便法ナランモ、本問題ノ性質上斷ジテ彌縫糊塗ヲ容サズ。余ハ檢査委員ノ報告ニ對スル責任ハ頗ル重シト信ズルガ故ニ、最初ノ報告通リトシテ訂正ヲ加ヘザルコトヲ希望ス。又委員ハ責任ヲ以テ檢査スル以上、常ニ事實ヲ赤裸々ニ報告セバ足ル。然ルニ此場合ニ於テ、更ニ所謂補遺ノ提出アリタルハ、誠實ヲ缺ケル手段ニ非ザルナキカ。但シ今回ハ事既ニ此ニ至リタル以上、余ハ强ヒテ異議ヲ唱ヘザルモ、委員諸君ガ熱誠以テ市政ヲ檢按スルノ勞ヲ執ラルル際、其責任ノ重大ナルニ鑑ミ、將來此ノ如キコトヲ再ビセザル樣、充分ノ注意ヲ希望ス。

斯テ採決ニ入リ、**議長**ハ、坪谷君ノ修正意見中一項二項ニ關スル分ハ、今檢査委員會ヨリ正誤アリタルヲ以テ、採決ノ要ナシ、因テ第三項ノ「假ニ許可セラレタルトキハ市理事者ハ之カ經營ノ實質ヲ精査シ、以テ患者ヲ委託セラレン

コトヲ希望ス」ノ修正說ヲ採決ニ附スベシト言フヤ。**山口憲君**、修正說ハ補遺ヲ伴フヤ否ヤト問ヒ。**坪谷君**、補遺ヲ伴ハズト答ヘタルガ、採決ノ結果、修正說ハ少數ニテ不成立ニ歸シタレバ、議長ハ檢査委員會ノ報告ハ可決セラレ、從テ補遺モ承認セラレタル旨ヲ宣セリ。

▽市政檢査委員會第四回報告　左記第四回報告モ十月四日ノ會議ニ提出セラレタルガ、前記第三回報告ト共ニ其審議ハ次回ニ延期セラレ、十月二十六日第三回報告議決後、直チニ議題ニ供セラレ、異議ナク可決セラレタリ。

市政檢査委員會第四回報告

委員會ハ第四回報告トシテ、別紙ノ通リ議決セリ。

右及報告候也。

大正四年九月十七日

議長宛

委員長、理事及委員連名

（別紙）

市政檢査委員第四回報告

第一、砂川分水回收費ニ關スル件

事實

（一）水利權

本市水道給水量ハ逐年增加シ之カ補給ノ手段トシテ玉川上水路ニ於ケル分水ヲ本市ニ回收シ水量ノ增加ヲ期スル方策ヲ樹テ明治四十年小川分水ノ一部及川崎分水ノ全部、同四十三年砂川分水ノ一部ヲ買收シタリ

元來之ノ分水ハ夙キモノハ舊幕時代ニ於テ玉川上水路ヨリ農耕灌漑用トシテ分岐セラレタルモノニシテ現時之ヲ使用スル人々ハ水利組合ヲ組織シ組合費ヲ分擔シ之ヲ利用シ居レルナリ尤モ砂川分水ハ明治三四年ノ頃大久保內務卿ノ許可ニ依ルト云フ而シテ水利權ハ田地ノ坪數ニ比例シテ之ヲ有セラルヽ如ク水利組合ヲ組織スル一部ノ村民カ組合ヨリ脫退スル時ハ水利權亦之ニ從フ其ノ水利權ハ分水取入口ノ樋口面積ニ正比例シ其面積ハ一寸平方ヲ一坪トシ樋口面一坪ニ對シ田地何坪ト定メラル從テ田地ヲ賣買スルトキハ水利權亦之ニ伴ヒ所有者カ田地ヲ廢止スルトモ水利權ハ尙ホ之ヲ有スルモノナリサレハ水田ヲ有セスシテ水利權ヲミ有スル者モアリ尤モ一部ノ村民ハ水利權ハ田地ニ伴フモノナレトモ田地所有者ノ權利ニアラスシテ村有ノモノナリトノ見解ヲ有スルモノアリテ回收ノ際ニハ砂川村ニ於テモ問題トナリ結局協定ノ結果代償金ノ一部ヲ小學校基本金ニ寄附スルコトニ決シ水利權ハ各使用者之ヲ有スルモノトシテ市ト交涉ヲ完結スルニ至レリ依テ市ハ分水使用者ト協議ヲ爲シタル也而シテ買收ノ標的ハ分水口タル樋口面坪ニシテ其一部又ハ全部ヲ買收シテ水量流下ノ縮少又ハ流水中止ヲ爲スニ在リ

（二）小川及川崎分水回收費

砂川分水ノ回收ヲ調査スルニ當リ事前ニ回收シタル小川及川崎分水回收費ニ就イテ一言スルヲ便宜トス

小川分水ノ取入口ハ北多摩郡小平村地內ニ在リテ初メ樋長三間ニシテ內徑竪一尺二寸橫三尺五寸七分八二八、此寸積四百二十九坪三九四アリ、然ルニ之ヲ明治四十年第六十四號市會議決ヲ以テ此ノ內八十八坪七九四、此金四萬參千九百九拾九圓六錢ヲ以テ買收シ外ニ樋口改修補助金壹千參百圓合計四萬五千貳百九拾九圓六錢（即チ寸積坪當約五百圓）ノ支出ヲ爲シ之ヲ明治四十年十二月十九日小平村小川分水組合委員長小川孫次郎及小平村鈴木新田用水關係總代秋本喜七ノ兩氏ニ渡シタリ斯クテ小川分水ハ樋口改造ノ結果竪一尺二寸橫二尺八寸三分此寸積現在三百三十九坪六合トナル

次ニ川崎分水取入口ハ西多摩郡西多摩村大字羽ニ在リテ樋長三間內徑五寸平方此寸積二十五坪ヲ明治四十年十二月第三百六十七號市會議決ヲ以テ之ヲ廢止シ手當金壹萬壹千圓此坪當金四百四拾圓（內譯金七千五百圓ヲ明治四十年十二月二十七日、金參千五百圓

ヲ四十一年三月三十日支拂）ヲ川崎分水使用者總代下田伊左衛門ニ渡シタリ

（三）砂川分水ノ回收坪數

砂川分水ハ北多摩郡砂川村外七ケ村普通水利組合（國分寺、小平、小金井、武藏野、三鷹、神代、立川）ノ用水ニシテ其取入口ハ砂川村ニ在リ、初メ樋口二本アリ、一ハ内徑竪一尺三寸横二尺三寸六五、此寸積三百七坪四五アリ、他ハ内徑竪一尺三寸横一尺七寸三〇此寸積二百二十四坪九〇、合計五百三十二坪三五アリキ、而シテ此分水ハ砂川村外七ケ村民ノ利用スル所ニシテ市ハ此内砂川村ニ屬スル水利回收ヲ協議シ始ムルニ當リ、時ノ北多摩郡長高崎襄、府會議員秋本喜七諸氏ノ斡旋ニ依リ砂川村ハ水利組合ヲ脫退シ砂川村ニ於ケル用水使用者ハ砂川一平外五十九名代理秋本喜七氏ヲ以テ直接市ト交渉スルニ及ヘリ、砂川村ニ屬スル分水ノ權利ハ取入口ノ樋口面坪五百三十二坪三五ノ内百二十九坪ニシテ二個ノ樋口ノ内南側ノモノヲ以テ主トシテ之ニ充テラル尚ホ此ノ南側ノモノヽ中ニハ組合ノ一村タル立川村ニ流ルヽ分五十坪四七五ヲモ含メル也斯カル狀態ナレハ砂川村外七ケ村普通水利組合ニテモ其ノ内ノ一村タル砂川村カ市ニ權利ヲ賣却スルカ爲メニ組合ヨリ脫退スルコトヽ承認決議ヲ爲シタルモ其レカ爲メ他ノ村ハ水量減退スルコトヲ欲セサルカ故ニ時ノ組合管理者タル高崎北多摩郡長ハ市トノ間ニ奔走シ初メハ南側ナル砂川村取入口ヨリ主トシテ減坪スルコトニ議ヲ纏メ其ノ工事ノ序ヲ以テ立川村使用者ノ要求ニ應シ立川村亦水利組合ヲ脫退シ別ニ立川分水取入口ヲ立川村使用者ノ費用ヲ以テ市カ築造シ明治四十五年三月三十一日工事落成シタルカ此時從來二個アリタル分水取入口ヲ合併シテ一個ノ取入口ニ改メタリ

今砂川分水口面坪變化ノ經過ヲ記セハ上記ノ如ク初メ五百三十二坪三五ノ内ヨリ百二十九坪ヲ市ニ回收ノ協議纏マリ明治四十三年六月十一日改造工事ヲ施行スルニ及ヒシカハ殘リ四百三坪三五トナル譯合也（即チ一ノ樋ハ内徑竪一尺三寸横一尺七寸九二七、此寸積二百三十三坪〇五、他ノ樋ハ内徑一尺三寸横一尺三寸一分此寸積百七十坪三〇）然ルニ此協定ノ成立スル條件トシテ砂川村ノ草分ケナル砂川源五右衛門氏ヨリ同用水ハ自家ノ緣故ヲ有スルモノナレハ自己ノ有スル權利十六坪ヲ市ノ砂川分水取入口買收代償金ノ割合ニ應シ買戻スルコトヽナリタルニ依リ事實ニ於テ市ハ百十三坪（即チ百二十九坪ヨリ十六坪減）ノ買收ヲ爲シタル結果面坪殘ハ四百十九坪三五トナレリ

然ルニ前記立川村ヘ五十坪四七五分難シ樋口一個ト爲シタル結果分水樋長十八尺石造水門鐵扉付トシ内徑竪一尺三寸横二尺七寸一分此寸積三百五十二坪三合トナレリ、之ヲ現在ノ砂川、立川兩村ヲ除キタル水利組合ニ屬スル分水ノ面坪トナス

次ニ田地坪數ニ就イテ調査スルニ砂川分水取入口面坪百二十九坪ニ對シ回收前迄ハ砂川村ニハ公簿面田地十一町七反五畝四歩アリキ、此ノ内水利回收ニ依リテ廢止シタル水田七町四反二畝八歩ニシテ殘四町三反二畝二十六歩ノ大部分ハ砂川源五右衛門氏ノ所有ニ屬シ少許ハ他ノ用水ニ依ルモノ也

（四）砂川分水回收費

砂川分水回收ニ關スル費用ハ決算報告ニ依リテ調査スルニ明治四十三年度ニ於テ水道經濟臨時費、玉川上水路費、分水回收費豫算額七萬五千九百貳拾圓ニ對シ六萬六千拾四圓拾六錢支出アリ、此ノ内譯

分水廢止手當五萬五千參百七拾圓、寸積百二十九坪、坪當四百九拾圓　九圓拾六錢

用水路等改修手當及報酬壹萬六百參拾五圓六拾六錢、分水元樋口改造

同四十四年度同費目ニ於テ豫算額七萬圓ニ對シ四百九拾五圓五拾錢ヲ分水元樋口改修費トシテ支拂ヒタリ、即チ兩年度ニ於テ支出高合計六萬六千五百〇六圓六拾六錢ニシテ此ノ外ニ回收ニ關シ斡旋者ニ賜與シタル報酬壹千圓ヲ增加スレハ支出合計金六萬七千五百六圓六拾六錢トナル、之ニ就キ豫算決算ノ間ニ差額ヲ生シタルハ回收坪數ノ減少、工事請負額ノ低廉ニ依リ、四十四年度ニ亘リシハ年度事業繰越ニ基クト云フ

次ニ支拂證憑書類ニ依リテ此ノ内容ヲ調査スルニ協約ニ從ヒ百二十九坪ニ關スル費用ヲ支拂フト同時ニ砂川源五右衛門氏ヨリ其ノ割合ニ應シテ十六坪ノ代償ヲ戻入レ結局差引勘定ヲ以テ明治四十三年六月十九日砂川分水使用者總代タル砂川源五右衛門、青木直

次郎、宮崎貞三、中野佐七、須崎梅太郎ノ五氏ニ渡シタリ、今此ノ關係金額ノ收支ヲ表示スレハ左ノ如シ

東京市ヨリ支出 種別	寸積坪數	寸積坪當金額	砂川源五右衛門氏ヨリ納入 寸積坪數	寸積坪當金額
回收廢止手當	一二九坪	四九〇円〇〇〇	一六坪	四九〇円〇〇〇
雜費	一二九	一一、〇〇〇〇〇〇	一六	一、三六四三四〇
小計		七四、二一〇〇〇〇		九、二〇四三四〇
樋口改造費		五〇一六六〇		二五九二〇
內譯 四十三年度 假取縮工事 改修費		五八〇〇 三三六〇 九一六〇	內譯 四十三年度 工事材料 人夫職工費	一五五二〇 一〇四〇〇
四十四年度 セメント二十七樽代		六一五〇〇		
門扉		二一三〇〇〇		
樋口改造工事		二一八〇〇〇		
計		四九二五〇〇		
報酬 內譯 砂川村境孫兵衛		五〇〇〇円〇〇〇		
砂川村原島善兵衛		五〇		
砂川村青木直次郎		五〇		
砂川村砂川源五右衛門		一〇〇		
砂川村島田角太郎		一〇〇		
砂川村役場吏員		五〇〇		
府會議員 秋本喜七		五〇〇		
北多摩郡長 元北多摩郡長 高崎襄 鷲見金三郎		五〇 五〇		
通計	一二九坪	七五、七一一六六〇	一六坪	九、二三〇円二六〇
差引	一一三	六六、四八一四〇〇		
廢止水田	七町四反二畝八歩	一反約八九五圓〇〇〇	寸積坪當五八八圓一三〇	六六、四八一四〇〇

右ノ內回收廢止手當ハ水利權買收費ニシテ雜費トハ村方ニ對シ回收費ノ「プレミアム」ノ如キモノトシテ交付シ報酬トハ回收ニ關シ本市ト村方トノ間ニ立チテ斡旋セラレタルモノニ對シ謝禮トシテ支拂ヒタル也而シテ之等ノ金員ニ就テ調査スルニ砂川村收入役ノ談ニ依レハ村方使用者ト其使用者總代トノ間ニハ回收手當ハ坪當四百圓以上ニ賣出サハ其剩餘金ハ總代ノ自由タルヘキ旨ノ契約ヲ爲シ水利權ニ就テハ使用者ノモノナリヤ村有ノモノナリヤニ就キ論爭アリタルモ妥協ノ末村會ノ決議ヲ以テ使用者ノ所有ナルコトヲ認ムルト同時ニ用水使用者ヨリ砂川村小學校基本金ニ六千圓寄贈セシムルコトヽセリ前揭雜費壹萬壹千圓ハ此ノ金六千圓ノ學校基本金及此ノ外ニ砂川村カ水利組合脫退ノ謝金トシテ取入口面坪々當金拾五圓ノ割ヲ以テ約貳千圓同組合ヘ寄附シ合計金八千圓支出シタル筈也又之等ヲ除キ殘餘金ハ行ク所ヲ知ラスト云フ

樋口改造費ハ源五右衛門分水十六坪ノ爲メニハ立川分水ト同樣砂川源五右衛門氏ヨリ實費ヲ納付セシメテ本市之ヲ築造シタリ

論　　査

（一）　砂川分水利用狀態ト回收ノ功過

砂川分水ヲ使用スル砂川村ハ武藏平野ノ西北隅ニ在リテ田地七町四反二畝八歩畑地九百五十町五反歩アリ地勢坦々タルモ地味豐饒ナラス生計ノ大部ハ養蠶桑苗製茶麥作ニシテ田米ハ頗ル僅少以テ砂川村民ノ一部ニ供スルノミ且田地面ハ分水面ヨリ地位高キ所アリ引水極メテ不便ニシテ從ツテ收穫少ク土地賣買價格亦低廉也サレハ田地ニ米作スルヨリモ桑ヲ植エ、麥茶ヲ作ルニ如カス、砂川

村收入役及砂川源五右衞門氏ノ語ル所ニ依レハ田地ノ賣買ナトハ最近十數年來全ク行ハレス價格亦畑ハ寧ロ田ヨリモ高價ニ見積ラレ田畑共一反歩ニ付キ百圓乃至二百圓ナリト云フ之ヲ以テ砂川村民カ水田用トシテ分水ヲ廢止スルハ何等ノ苦痛トスル所ニアラサルヲ察セラル

次ニ飲料其他雜用トシテ分水ヲ使用スル上ヨリ見レハ砂川村ニ於ケル用水使用者ハ現時依然水利組合費ヲ分擔シ居ル也而シテ此分水ハ砂川村ノ中央ヲ貫流シ居レルカ同村收入役ノ談ニ依ルニ回收以前ニハ水量堤塘ニ滿チ少雨降ラハ氾濫シテ村民ノ迷惑多大ナリシモ回收ノ爲メ若干ノ水量減シタレハニヤ以前ノ如クナラスト云フ即チ砂川村民ハ分水回收ニ依リテ水量ニ於テモ物質上ノ利益ニ於テモ何等損失スル所ナク却ツテ氾濫ノ迷惑ヲ芟除シタル利益アリ斯ク觀シ來レハ本市カ砂川分水ヲ回收シタル事業ノ功過ハ歴然トシテ批判ノ材トナツテ横ハルヲ見ン

（二）回收ノ價格

砂川分水ノ回收ニ先チテ行ハレタル小川分水ノ一部回收費ハ樋口寸坪當約五百圓ニシテ川崎分水ノ全部ヲ回收スル際ニハ坪當金四百四拾圓ヲ以テシタルカ砂川分水ニハ回收手當ノミニテモ寸坪當金四百八拾圓其ノ他ノ費用ヲ通算スレハ寸坪當金五百八拾八圓餘トナル即チ砂川分水ハ最モ高價ニシテ然カモ水量ハ回收前ト同樣ノ現狀ヲ留メタリ

更ニ砂川分水回收價格ヲ評價スルニ水田七町四反二畝八歩ニ對シ六萬六千四百八拾壹圓拾錢ヲ費シタル割合ヲ以テスレハ一反約八百九拾五圓ナルニ當村ノ賣買地價ハ一反百圓乃至貳百圓也即チ市ハ一反歩ニ付百圓乃至貳百圓ノ田畑ヲ購入セハ當然隨伴シ得ラルヘキ水利權ヲノミ一反歩ニ付八百九拾五圓ノ資ヲ費シテ回收シタル譯合也

（三）取入口築造法

上水本流ヨリスル分水取入口ノ構造ハ大ニ注意ヲ要スル所ニシテ本流ニ對シ分水ノ水流方向ハ直角ニ取入レラレ且樋ハ直角ニ取リ付クルヲ原則トスルモノ也然ルニ砂川分水取入口ハ殆ント本流ニ平行スルカ如キ鋭角度ヲ以テ吸込マレ樋長十八尺ノ間ニ於テ九寸位ノ斜角度ヲ以テ落口ハ瀧トナリテ急下シ去ル狀態ナレハ樋口面積減却シタルトモ流量ニ於テハ依然トシテ變更無キ觀アリ之ハ當初回收協議ノ起ルニ際シ高崎北多摩郡長等モ配慮シタル所ニシテ砂川村カ水利權賣渡ノ爲メ水量ヲ減シタルニ由リ他ノ水利組合諸村ニ對シ迷惑ヲ懸クルコトナキヲ深ク考慮ノ中ニ入レテ凝議シタル故樋口面積ヲ減少ストモ流量ノ減少ナカラシメタルナル可シト察セラル尤モ樋口角度ハ六尺ニ付キ一寸傾斜ヲ原則トスル旨ナレトモ此ノ樋口改造ニ就イテハ當局者及砂川源五右衞門氏等ハ樋口ノ斜角度ハ改築以前ト同樣六寸斜面ナリシ由云ヒタルカ工事仕樣書等ニモ明記シタルモノ無キ故今尋ヌルニ由ナキモ樋ノ斜角ノ爲メ流量カ減坪ニ比シ其割合ニ減少セサルハ何人モ明カニ認メラルヽ所ナリ

（四）希望

之ヲ要スルニ砂川分水ノ回收ハ其ノ事業ノ名目美ニシテ其ノ實擧ラス市ハ徒ラニ六萬六千圓ヲ支出シタルノ觀アリ殊ニ本問題カ回收後間モナク回收上ノ利益ヲ受ケ洩レタル村民ノ側ヨリ訴訟ヲ提起セラレタルカ兎ニ角示談ニ決シタルモ今春ノ衆議院議員選擧ニ際シ選擧法違反事件ノ材料トナルニ由ツテ見ルモ此ノ回收事業カ平穩公然ニ行ハレタルモノニアラサルコトヲ推知セラル仍テ將來分水回收ハ勿論斯種ノ事業ニ斯カル疑惑ヲ起サシメサル樣當局者ノ注意ヲ希望ス

第二　石炭ニ關スル件

其一　水道課淀橋淨水所納

事實

（一）購入契約及代價支拂

大正三年三月十三日本市カ三井物産株式會社ト購入契約ヲ爲シタル淨水所喞筒運轉用芳雄切込炭一千二百萬斤此契約金額五萬八千八百圓也ノ内大正十四年二月五日迄ノ納入量千四百三十九萬四千三百斤（次表參照）ニ對シ大正三年七月十日以降四回ニ亘リ一千萬斤ノ代價金四萬九千圓ヲ支拂ヒタリ就中最後ノ一回ハ大正三年十一月乃至大正四年一月ノ檢收ニ對スル三百萬斤ハ代價壹萬四千七

百圓ヲハ差引計算ヲ以テセスシテ支拂ヒタリ

石炭納入數量調

回數區別	納入期間	數量
第一回	自大正三年四月十日至四月十九日	一、一三〇、五〇〇 斤
第二回	同 五月九日同五月十日	一、二〇九、三〇〇
第三回	同 六月九日同六月二十二日	二、四八一、一〇〇
第四回	同 七月二十一日同七月二十四日	七七一、四〇〇
第五回	同 七月三十日同八月十一日	二、六四六、三〇〇
第六回	同 十月二十日至十月二十三日	九二四、五〇〇
第七回	同 十月二十七日同十一月一日	一、五〇〇、二〇〇
第八回	同 十二月一日同十二月十一日	一、九〇七、二〇〇
第九回	同大正四年一月二十四日同二月五日	一、八二三、八〇〇
合計		一四、三九四、三〇〇

之ニ關スル契約事項ヲ調査スルニ石炭購買示方書ニハ

第三條　粉炭ノ含有高ハ重量ニ於テ六割以内タルヘシ其場合ニ於テ粉炭ト稱スルハ四分目篩ヲ通過スルモノヲ云フ

第五條　石炭ノ效力ハ東京市水道淨水所喞筒送水量十萬立方尺ニ付石炭消費高二千斤以内タルヘシ

又物品供給契約事項第十條ニハ

代價ノ支拂ハ本檢收數量ニ就テ之ヲ爲スヘシ

但シ石炭ノ消費量ヲ喞筒送水量十萬立方尺ニ付キ二千斤ヲ超過スルトキハ其效力檢査期間ニ於ケル石炭消費量全部ニ對シ超過斤數二十斤毎ニ一百分ノ一・二ノ割合ヲ以テ單價ノ減額ヲ爲サシムヘシ

市ニ於テ適當ナリト認ムルトキハ假檢收數量ニ基キ代價ノ部分拂ヲ爲スコトアルヘシ此場合ニハ假檢收石炭代價ノ十分ノ七ヲ超過スルコトヲ得ス

トアリ、然シナカラ委員カ審査ノ當時經理課長以下多クハ右ノ第十條ノ契約ノ存否ヲ知ラサル旨言明シ居レリ

（二）消費量

大正三年五月以降各月消費量ヲ調査スルニ大正三年十一月以降ハ毎月二千斤ヲ超過スルコト左表ニ示ス如シ

大正三年度契約石炭消費成績月表

月次	二十四時間ニ於ケル總水量 立方尺	二十四時間ニ於ケル石炭 斤	水量十萬立方尺ニ對スル石炭 斤	灰量 斤	備考
三年五月分	二、一二〇、八八一	三九、〇八四・〇	一、八四二・〇	一〇、八六九・〇	
同六月分	二、二三六、七七一	四三、三七六・〇	一、九三九・二	一二、六一八・〇	
同七月分	二、三八七、六九三	四三、四〇四・〇	一、八一七・八	一二、五六五・〇	
同八月分	二、二九〇、四八五	四一、七七六・〇	一、八二四・三	一三、四三〇・〇	
同九月分	二、二四八、九一〇	四三、五一二・〇	一、九三四・八	一三、四六六・〇	
同十月分	二、〇四四、三四〇	四〇、八八二・〇	一、九九九・八	一二、七一九・〇	
同十一月分	一、九一二、五六五	四〇、一〇六・六	二、〇九六・九	一二、六六八・〇	九六、九超過
同十二月分	一、六五二、六九八	三七、八五〇・三	二、二八九・七	一一、五四五・〇	二八九、七超過
四年一月分	一、六六二、七七七	三六、七九四・八	二、二一二・二	一一、六四四・〇	二一三、二超過
同二月分	一、六五〇、四四六	三四、三一七・四	二、〇七九・三	一一、〇三〇・五	七九・三超過

（三）品質

（イ）三月十一日委員カ二月中納入ノ石炭ニ就テ現場ニ臨ミ塊炭ノ篩分ケヲ試ミタルニ其結果左表ノ如シ

第一號室	百斤ニ付	粉炭十貫四百五十匁	塊炭六貫五十匁
第二號室	同	同　八貫六百五十匁	同　七貫八百五十匁
第三號室	同	同　十二貫五十匁	同　四貫四百五十匁
第四號室	同	同　七貫三百七十匁	同　九貫百二十匁

（十六貫以上ニナルハ風袋ヲ加ヘタルニ因ル）

（ロ）右納入ノ石炭ハ水分ヲ多量ニ含有ス

論査及布望

（一）品質粗悪

（イ）粉塊兩炭ノ割合ハ購買契約ニ依レハ粉六塊四ヲ制限トスルモノナリ然ルニ大正三年十一月以降二千斤以上ノ石炭ヲ費シタルハ粉炭ノ割合殊ニ多ク且品質粗悪ニ從ツテ火力鈍弱ナルハ當然ナリト云フヘシ

（ロ）納入セル石炭ハ多量ニ水分ヲ有スルモノナルヲ以テ受入ルヽ場合ニ於テハ之レヲ乾燥スルカ又ハ目引キスヘキモノ也然ルニ此ノ事無クシテ其儘ニ受入ルヽカ如キハ當ヲ得サル處置ナリト云フヘシ爾後ハ之ヲ乾燥試驗スルカ目引キサスルヲ至當ト認ム因ニ大阪市水道ノ使用石炭ハ粉炭本位ニテ三井物産ヨリ一萬斤當參拾參圓ヲ以テ購入スルニ東京市ニテハ前記ノ如キ混合炭ヲ四拾九圓ヲ以テ購入シツヽアリ。當局者ハ物品、價格、效力トニ就イテ審ラカナル研究アランコトヲ望ム

（二）火力ト火夫

火夫又ハ之ヲ監督スル者ト供給者トノ間ニハ弊害起リ易キモノ也若シ火力ヲ一定シ之ヲ標準トシテ炭價ノ減額ヲ行フモノトスレハ火夫ニ至ルマテ供給者ニ於テ供給スルヲ至當ト認ム火夫ヲモ供給セストセハ火力ニ關スル契約ハ其效果少ナカラン

其二　土木課河港係芝浦出張所納

事實

隅田川口改良工事各船艇用運轉材料トシテ大正四年一月十五日石炭三百萬斤土木課ノ請求ニ依リ二月十八日壹萬參千五百圓（一萬斤當四拾五圓）ヲ以テ購入ノ提案ヲ市參事會ニ諮問シタルニ金壹萬貳千七百五拾圓（一萬斤當四拾貳圓五拾錢）ヲ以テ購入ノ提案ヲ市參事會ニ諮問シタルニ金壹萬貳千七百五拾圓（一萬斤當四拾貳圓五拾錢）古河合名會社ニ落札決定セリ

積ノ上隨意契約ニ依リ金壹萬四百七拾六圓（一萬斤當參拾四圓九拾貳錢）古河合名會社ニ落札決定セリ

大正四年三月二十日其ノ一部ノ檢收ヲ芝浦出張所ニテ行フニ付キ檢査委員ハ立會ヒ視察シタルニ其ノ斤量ヲ計ルニハ衡器ニ依ラシテ盛リ上ケラレタルモノニ就キ立體積ヲ計算スル方法ヲ以テセリ而シテ之ニ關係スル吏員トシテ技手一人カ水準器、計標柱等ヲ以テ尺度ヲ計リ他ニ納人及市ノ事務員カ之ヲ記帳シテ一立方尺四十一斤當ノ換算ヲ以テ算定スル也

論査

元來大量品ヲ授受スル爲メ其ノ貫量ヲ正確ニ知悉スルノ方法ハ幾多アリト雖何レモ一利一弊アリ就中斯ノ河港課ニ於テ爲シタル如ク水準器、計標柱ヲ以テスル一人ノ吏員ノ算定ニ依ル立方尺ニ因ル時ハ或ハ地盤面カ絶對的垂平ナラサル場合、或ハ塊粉兩炭混合ノ程度ニ依リテ密度ノ粗隔アルコト或ハ目標見積ノ故意又ハ過失ニ依リ差誤ノ多キコト等ノ爲メ計量ノ正確ヲ期シ難シ、殊ニ芝浦出張所ニテ見ルカ如キ單純ナラサル多角形ニ積上ケラレタルモノヲ計量スルニハ極メテ煩雜ナル算定法ニ因ラサレハ算定シ難シ從ツテ算定上ノ差誤ヲ生スル惧多シ故ニ成ル可クハ立方尺ヲ以テ授受スルヲ避クルヲ至當ト認ムレトモ如何トモ止ミ難キ事情アリトスレハ單純ニ其正確ヲ期スルカ爲メ他ノ實例ニ於テ見ルカ如ク一定量ヲ容ルヘキ室、若シクハ函ノ如キモノヲ以テスルカ宜シカルヘシ

事實

市役所廳内及小使室用トシテ野州及備淺木炭八千六百三十六貫ヲ購買スルニ付キ其ノ專業者ナルヲ以テ左記九名ニ特ニ見積方ヲ指名シ大正四年一月三十日ニ見積書ヲ徵シタリ但シ牧田以下二名ハ提出セサリキ

廣瀨與兵衛　桑原晴民　山口健次郎　角福太郎　太田慶三　榊原定右衛門
牧田富次郎　福田五平　海老根巳之助

然ルニ廣瀨與兵衛ハ八百參拾圓參拾貳錢八厘ト最低見積ヲ爲シタルカ理事者ハ二月一日廣瀨ト減價交渉ノ結果提出見積ヲ八百貳拾貳圓參拾貳錢八厘ト更メ前記神田區錦町三丁目十六番地廣瀨與兵衛ト隨意契約ニ依リテ締結シタリ而シテ市ハ此物件ヲ數回ニ分チテ納入セシメタルカ内三月九日備淺二千五百四十四貫受入ニ際シ檢査委員ハ立會檢査ヲ爲シタリ

其日廳内階下倉庫前ニ積上ケラレタル木灰ノ内試驗的ニ十五俵ヲハ俵ヲ解キテ査覈シタルニ其内全ク水分ヲ吸收シ居ラサルモノハ二俵ノミニシテ他ハ悉ク多少ノ水分ヲ含メリ依ツテ會計課ノ係員ハ委員ノ面前ニテ受負商人ニ對シ受入ヲ絶對ニ拒絶セントセシモ檢査委員ノ注意ニ依リ兎モ角目引キヲ爲シテ受領スルコトヽナシタリ當時其目引量ニ付キ檢査委員ノ一人タル尾後貫議員ヨリ一俵ニ付五百匁ノ目引ヲ申立テシモ納人ヨリノ申出ニ依リ二百匁目引ニ同意シタリ從テ檢査委員ハ市經理課ニ於テモ一俵ニ付二百匁目引ノ協定ヲ爲シタルモノト信シ居タルニ經理課ノ檢査表ニ依レハ持込總數六百俵ノ半數ナル三百俵ニ對シ一俵ニ付僅ニ五十匁ノ目引ヲナセリ（次表參照）

論査及希望

木炭ハ水上運送又ハ自然ニ多少ノ水分ヲ吸收スルコトアリト雖モ、俵裝全ク乾燥シアルニ十五俵ノ内十三俵マテ水分ヲ吸ムニ於テハ營業者ノ故意ニ出ツル處置ナリト認メラル、感無キニアラスサレハ斯クノ如キ貫量ヲ標準トスル物品ノ購入ニハ理事者ハ特ニ周到ナル注意ヲ爲サヽルヘカラサルト同時ニ斯クノ如キ不良品ヲ供給スル受負人ハ今後本市ノ受負人タルコトヲ差シ止ムルヲ至當ト認ム

次ニ前記受入ノ場合ニ於テ目引量ニ就テ收納當時ノ協定ニ據レハ一俵ニ付二百匁ナリシヲ經理課ハ之ヲ五十匁引キニシタルモ不思議ニ感セラレ且檢收ニ際シ六百俵ノ内三百俵ノ貫量ヲ計リ殘部ヲ計ラサリシハ怠慢ノ感無キ能ハス之レ或ハ受入ニ於テ立會ヒタル吏員カ檢收能力未熟ノ爲メ納者ニ瞞着サル、所多キニ依ルモノカ依テ斯カル場合ニハ爾後ハ熟練シタル吏員ヲ以テ立會ハシムルヲ要ス

備淺木炭檢收

三月九日　晴天　購入決議番號經發二、〇三〇號

納人　廣瀨與兵衛

回數	貫量	回數	貫量	回數	貫量	備考
第一回	四八、〇	第十二回	四九、五	第二十三回	四七、五	總貫量 二、九二八
第二回	四七、一	第十三回	四八、二	第二十四回	五〇、〇	風袋 二六四
第三回	四六、八	第十四回	四九、六	第二十五回	四八、三	水引分 三〇
第四回	五〇、〇	第十五回	四八、九	第二十六回	四九、二	差引 二、六三四
第五回	四八、一	第十六回	四九、四	第二十七回	四八、九	納入分 二、五四四
第六回	四八、一	第十七回	五〇、〇	第二十八回	四八、九	差引納人ニ返却 九〇
第七回	四七、五	第十八回	四八、六	第二十九回	四八、九	
第八回	四八、五	第十九回	四九、三	第三十回	四八、七	
第九回	四九、三	第二十回	四九、八	計	一、四六四、一〇	
第十回	四九、〇	第二十一回	五〇、〇	一俵平均	四、八八	
第十一回	四八、五	第二十二回	四九、五	總俵數	六〇〇	

一、一回十俵宛トス
二、水分引ハ總俵數ノ半數即チ三百俵ニ對シ三十貫控除ス
三、風袋十五俵六貫六百目一俵平均四百四十匁總數六百俵ニ對スル風袋二百六十四貫

第四、量水器ニ關スル件

（其一）二十五粍若クハ一吋量水器百個ニ關スル件

事實

（一）購買契約

本器ノ購買ハ大正元年十月二十五日水道課（課長佐藤三吾）ヨリ調度課宛ニ請求書ヲ提出シタルニ始マル、是ニ於テ調度課（課長大橋重省）ハ量水器隨意契約購買ノ原議ヲ起シ左記三名ニ指名見積セシメタリ

一、トライデント會社製品　三井物産株式會社
二、バフアローメートル會社製品　安藤進一
三、タムソン會社製品　森島清一

十月三十一日開票ノ結果安藤進一ノ入札金二千二百三十四圓（一個當二十二圓三十四錢）ヲ以テ落札シ十一月八日常設委員會ノ議決ヲ得、完納期日ハ大正二年三月二十五日迄トシテ一月十一日京橋區木挽町一ノ十三安藤進一ト供給契約ヲ爲シタリ、之ノ物品コソ米國バフアローメートル會社製造乾式ジスク式（平圓盤）U印量水器也

（二）檢査領收

該物品ノ檢査領收ニ就テハ支出命令書添付ノ「物品試驗檢査引渡表」及ヒ其ノ原調査書タル「量水器試驗帳」並ニ「賣渡量水器無償取換ノ件」ノ原議等ニ依リテ事蹟ヲ査定シ得ラル

「物品試驗檢査引渡表」ニ據レハ三月二十日ニ現品百個及ヒ右豫備材料「平圓盤」十個ヲ持込ミ試驗檢査ノ結果三月三十一日量水器百個ノ内九十八個及ヒ豫備材料十個合格シ即日領收セリ而シテ同日更ニ二個ヲ持込ミ檢査ノ結果合格シ之亦即日領收シ都合百個トナレリ、此試驗ノ關係員ハ試驗掛長岩片技手、試驗檢査擔任田島技手ニシテ領收主任ハ袴田雇也

次キニ「量水器試驗帳」ヲ飜觀スレハ大正三年三月二十四日持込、四月五日試驗ニ着手シ翌六日第一回試驗ヲ完了セリ、其成績ハ百個ノ内九十二個合格シ八個不合格トナリ更ニ其翌四月七日殘八個ニ對シ第二回ノ試驗ヲ行ヒ一個ノ不合格アリタルカ重ネテ四月十日第三回試驗ヲ行ヒ合格シタリ、結局四月十一日ヲ以テ初メ持込ミタル百個全部ヲ檢査完結ノ上領收シタリ、此ノ試驗ヲ三回其水壓四十二封度ヲ以テ各回三種ノ試驗ヲ爲ス、即チ一立方米突全開、一立方米突八分ノ一開、百リツトル一時間、之ノ試驗ハ進遲ノ差ヲ檢スル通水試驗ノミ也

更ニ之ノ量水器ヲ近衛師團ニ賣渡シ取付ケタルニ幾何モ無ク破損シタルヲ以テ無償取換フルニ及ヒタル原議ヲ見ルニ、其說明中「本量水器ハ大正二年三月檢收云々」トアリ

（三）代金支拂

大正二年四月二十三日付金貳千貳百參拾四圓市水道經濟給水費支出命令セラレタリ、此ノ關係吏員トシテハ宮川助役、日下部技師長、大橋主事、佐藤水道課長、渡邊會計課長等也

（四）賣渡量水器無料取換

二十五粍U印量水器百個ノ内、近衛師團經理部ニ賣渡取付ケタルモノ、中、赤坂歩兵第四聯隊内所在六個（大正二年八月六日賣渡）麴町歩兵第二聯隊内所在三個（大正二年八月八日賣渡）ハ元來一萬米突立方廻轉スル筈ナルモ、二三千米突内外ノ限度ニテ平圓盤軸及ヒ一號齒車輛、軸受、同軸把柄等磨滅ノ爲メ使用ニ堪ヘサルモノト認メタル技手岩片三惠吉氏ノ報告ニ依リ六月十日無償取換ノ原議ヲ起シ助役委任事項ナルヲ以テ水道課長佐藤三吾氏及ヒ宮川助役ノ決裁ヲ經之ヲ取換フルニ決定セリ、而シテ關係吏員ハ此ノ破損ノ原因ヲ研究スルコトノ說明ヲ加ヘタリ

次ニ大正三年九月二十八日近衛騎兵聯隊取付ノ一個亦二三千米突内外ニテ使用ニ堪ヘサルニ至リタルモノト認メタル技手小峯慶藏氏ノ報告ニ依リ前例ニ倣ヒ九月二十九日無償取換ノ原議ヲ起シ市長ノ決裁ヲ經テ實行セリ

更ニ大正三年九月三十日歩兵第一聯隊取付ノ五個ノ内百七十五米突位ニテ使用ニ堪ヘサルニ至リタルモノト認メタル小峯技手ノ報告ニ依リ又前例ニ倣ヒ十月三日原議ヲ起シ市長ノ決裁ヲ經テ無償取換ヲ爲シタリ

(五)　不良量水器ノ引渡

パフアローメートル會社代理店安藤進一カ量水器破損ヲ知ルヤ六月五日付技手岩片三惠吉氏ニ宛テ「右九個ノ分無償ヲ以テ(今回限リ)修理ノ上納付致度且又破損ノ部分ハ研究ノ材料トシテ製造元ニ送付致度候間該品御下渡被下度樣御取計被下度云々」ト書ヲ以テ申越シ來レリ

大正三年六月二十五日安藤進一ノ借用證ヲ提出セシメテ之等ノ九個ヲ引渡シタリ、其ノ後ノ六個ニ就テモ亦引渡シタル旨陳述アリタルモ借用證其他尋ヌヘキ憑書ナシ、但シ聽ク所ニ依レハ其等ハ何レモ納人ヨリ無償提供セル修繕材料及水道課購入ノ材料ヲ以テ夫々修繕濟トナレリト云フ、而シテ之等ノ物品ハ本委員會カ檢査ニ從事シタル三月中旬頃ニハ未タ水道課ニ戻リ居ラサリシモ大正四年三月二十四日頃ニハ匆々トシテ持戻レルカ如シ

(六)　量水器百個ノ使用成績及破損ノ原因

近衛師團ニ取付ケタル十五個ヲ除キ八十五個ノ使用成績ヲ調査スルニ大正四年五月一日ノ現狀左ノ如シ

一、初度据付以來異狀ノ報告ナキモノ　四十七個
二、据付後一回修繕ヲ加ヘ更ニ据付ケタルモノ　九個
三、据付後一回修繕ヲ加ヘ在庫中ノモノ　十八個
四、同二回修繕ヲ加ヘ更ニ据付ケタルモノ　一個
五、同具合直シヲシタルモノ　六個
六、外部ノ事故ニ依リ大破シタルモノ　一個
七、未タ一回モ据付ケサルモノ　三個
計　八十五個

而シテ破損ノ原因ハ一箇ノ齒車磨滅ヲ除キ其他ハ何レモ平圓盤軸ニ接觸セル把柄ノ切斷シタルモノニシテ其然ル所以ハ傳導裝置ノ機構カ脆弱ナルニ在リト當局者ハ說明セリ

論　査

(一)　檢收憑書ノ不合

「物品試驗檢査引渡表」(以下引渡表ト略稱ス)ト「量水器試驗帳」(以下試驗帳ト略稱ス)トハ內容同一ノモノナルヘキ筈也、然ルニ印量水器百個檢收ニ關スルモノニ就テハ各々相不合スル記述多シ、今之ヲ擧クレハ

(い)　持込日時　「引渡表」ニ依レハ現品百個及ヒ豫備材料(平圓盤)十個ハ三月二十日持込ト記述アルニ此ノ原資料調書タル「試驗帳」ニハ三月二十四日百個、同三十一日二個持込ミトアリ

(ろ)　持込數　「引渡表」ニ依レハ三月二十四日ニ持込ミタル數ハ百個ノミナルニ「試驗帳」ニ依レハ三月二十日現品百個及同三十一日二個即チ合計百二個ヲ持込ミタル勘定也

(は)　試驗時日　「引渡表」ニ依レハ三月三十一日迄ニ百二個ヲ試驗シタルニ「試驗帳」ニ依レハ四月五日試驗ニ着手シ第一回ヲ六日第二回ヲ七日、第三回ヲ十日ニ行ヒタリ

(に)　領收時日　「引渡表」ニ依レハ三月三十一日試驗終了シ當日即納シタルニ「試驗帳」ニ依レハ四月十一日完納トアリ「又量水器無償取換ノ件」ニ關スル原議ニ依レハ「三月檢收」トアリ

是ニ由ツテ之ヲ觀レハ即チ檢收ニ關スル憑書ハ總テ事實符合セサルモノ也當局者カ斯カル公文書ヲ作成保有スルニ於テハ由々敷大事也、尤モ從來本市ニ於テ年度始末ノ際ハ新年度ニ入リテ支出スヘキ事項モ豫算ノ關係上前年度豫算ヨリ支出セシムヘキ惡慣習ア

リ、之ニ據リテ本件ヲ解釋スレハ三月二十日乃至三月二十四日ニ百個ヲ持込マシメ未タ試驗ヲ爲サヽルモ年度末三月三十一日付ニテ試驗終了シタルモノト爲シ、豫算上ノ便宜ノ爲メニ「引渡表」ヲ作成シ代金支拂ノ手續ヲ爲シ新年度ニ入リ四月五日ヨリ試驗ニ着手シ、兎モ角モ通水試驗ヲ行ヒ其百個ヲ領收シタルモノト認ム、之ヲ要スルニ斯ノ如キ公文書ノ內容ニ於テ符合セサルモノアルハ豫算實行ニ重キヲ置カサル惡慣習ニ基クモノナルニ依リ爾後ハ努メテ此ノ弊習ヲ打破セサルヘカラス

（二）試驗方法

量水器ノ試驗方法トシテハ從來ハ單ニ通水試驗ヲノミ行ヒテ規定量廻轉能力ノ試驗ヲ行ハス然ルニ斯道ニ經驗ヲ有スル者ノ說ニ據レハ非常ナル不良品ナラサル限リハ通水試驗ニ合格セサルモノナシト云フ、故ニ通水試驗ヲノミ行ヒテ廻轉能力試驗ヲ行ハサリシ爲メ第六項記載ノ如キ不成績ヲ示シ一萬米突ノ豫定ノモノカ甚シキ時ハ百七十五米突ニテ使用ニ堪ヘサルニ至ルモノヲ檢收セルナルヘシ依ツテ將來ハ通水試驗ノミナラス廻轉能力試驗ヲモ行ハサルヘカラス

次ニ通水試驗ノ主要手段タル水流進遲ノ檢査ヲ爲スニ當リ其公差ヲ百分ノ三トシ試驗ヲ爲ストノ事ナルカ斯カル制限ヲ正確ニ保持スルハ檢査ノ確的ナルヲ期スル主要事項ナルヲ以テ局ニ當ル者ノ殊ニ注意ヲ望マサルヲ得ス

更ニ水壓試驗ヲ見ルニ元來本市水道ノ水壓ハ最高四十五封度位ナルニ本市ノ使用スル鐵管、鉛管、水留栓、水栓ノ類ハ何レモ二百二十五封度ニ堪フル壓力試驗ヲ行ヒ居レリ、尤モ試驗ノ事ナレハ優越ナル壓力ヲ以テ試驗スルハ必要ナルコトナルヘシト雖四十五封度ニ堪ユレハ足ルモノニ對シ二百二十五封度ヲ試ルハ鶏ヲ割クニ牛刀ヲ以テスルノ觀アリ、カルカ故ニ必要以上ニ堅牢優良ニシテ高價ナルモノヲ需メサルヲ得サルニ至ル、斯クノ如キハ些細ナル試驗問題ニ非スシテ本市水道經營上費用ヲ節シ固定資本ヲ減額セシメラルヘキ大問題也之ヲ要スルニ量水器ノ檢收ニ就テハ試驗方法ノ不完全ナルノミナラス檢收擔當ノ技術者カ意ヲ茲ニ致サス研鑽實行セサルノ責亦輕カラス依テ爾後量水器ヲ檢收スルニハ最善ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

（三）試驗費用

此ノ百個ノ量水器ノミナラス凡テ海外製作ニ係ル量水器ハ本市ト契約ヲ爲シタル商人カ之ヲ輸入シ荷造ノ儘市役所構內ニ持込ミ、初メテ解裝シ本市ニ於テ自ラ試驗ヲ爲シ之ヲ檢收スル順序也從ツテ量水器ノ良否ハ市費ヲ以テ試驗シタル結果初メテ損斥又ハ合格スルモノニシテ然カモ甚シキ時ニハ百分ノ二三位ノ合格數ヲ見ル位ノ事アリ斯クテハ水流ヲ浪費シ經常費ヲ徒費スルハ、全ク供給者タル商人ノ爲メニスルコトナレハ、此ノ費用ハ當然請負供給者ノ負擔ニ歸セシムヘキモノナリト信ス

（四）不良量水器ノ無料取換

無料取換ニ關スル憑書三種ノ內第一回ハ助役ノ決裁ヲ以テ執行シ第二、第三ノ兩回ハ市長ノ決裁ニ俟テ課員ノ語ル所ニ依レハ第一回ノ際ハ助役委任事項トシ助役限リニ於テ執行シタルモ第二回出ツルニ及ヒ斯クテハ憂慮ニ堪ヘストシテ市長ノ決裁ニ及ヘリト云フ今後モアルコトナカラ市ノ所有品ヲ無料支出スルニ際シテハ輕々シク處分スヘカラス

（五）不良量水器ノ引渡

既ニ十數個ノ不良品ヲ出シタルニ之ヲ修繕スル名ノ下ニ甚シキハ借用證ヲモ入レシメスシテ課長限リニ處置シテ之ヲ供給者ニ引渡シタルカ如キハ公器ヲ輕々ニ取扱フ所ノ責ヲ免レ難シ且又廻轉能力ニ關スル何等ノ保證契約ヲモ爲サス略式試驗ニテ檢收シタル時ハ其後責任ハ全々本市ニ歸セシムルト云フカ如キ契約ハ頗ル不用意ト云ハサルヘカラス爾後斯カル物品ニハ廻轉能力ニ係ル保證ヲモ契約事項ニ加ヘ物品ノ一定割合ノ不良ヲ見ルニ及ハヽ全部ヲ無償取換フルノ實ニ出テサルヘカラス

（六）廻轉能力ノ契約

大正三年六月一日安藤進一ヨリ量水器千六百個ヲ購入スルニ當リ同人ヨリ本市ニ提出シタル契約書ニハ二ケ年以內ニ破損シタル時ハ直ニ取換フルヘキ字句アリト雖モ此ノ種器具ノ保證ノ要件ハ時限ヨリハ寧ロ廻轉能力ニ在リ依テ將來ノ契約ニハ廻轉能力ニ關スル保證ノ責任ヲ負フ條項ヲ加ヘサルヘカラス

（七）安藤商會修繕

啻ニ斯ノ物品ノミナラス本市試驗ノ不合格品ヲ安藤商會カ持歸リテ之ヲ修繕スルモノハ如何ニスルヤヲ尋ヌルニ安藤商會ニハ特ニ工場モ無ク熟練シタル職工モナシ而カモ此ノ不良品ヲ修繕スルニハ本市水道課ノ職工ニ夜間依囑スル也即チ水道課ノ量水器ニ關係アル職工ハ晝ハ水道課ニテ良不良ヲ試驗シ夜ハ安藤商會ニテ修繕シ翌日ハ又水道課ニテ試驗シテ之ヲ檢收スル狀況也其試驗ノ如何推シテ知ルヘク誰カ之ヲ聽キテ唖然タラサルモノアランヤ斯ノ如キハ情實關係ヲ惹起セシムル惧レアルニ依リ之ヲ監督指揮スル當局者ハ殊ニ深ク注意セサルヘカラス

（八）量水器ノ修繕

量水器ノ水量表示ハ或意味ニ於テ極メテ微妙ナルモノニシテ甚シキハ螺旋ノ締メ具合ニ依リテ影響スル場合多シトハ某專門家ノ語ル所也然ルニ之ノ故障アル時水道課ノ職工カ現場ニテ齒車ナトマテ取換フルト云ヘトモ斯ノ如キ簡易ナル方法ニテハ完全ナル修繕ヲ爲シ得ラレサルコト明カナリ量水器ノ良不良ハ直チニ水料ニ關係スル重大事項ナルニ市水道當局者ハ此方法ヲ以テ可ナリトナシ滿足シ居レトモ此ノ如キハ事務ニ不忠實ニシテ事ヲ處理スル上ニ於テ甚タ失態ト云ハサルヘカラスサレハ將來量水器ノ修繕ニハ水道課ニ持歸リ修繕試驗ノ上再用スルコトニスヘシ

（九）量水器臺帳

量水器ヲ需用家ニ取付ケ又ハ修理シタル等ニ付テハカード式ヲ以テ十五瓩別分ニ整理セラレタルモノアリト雖モ量水器ヲ番號別ニシテ其取付修理其成績ニ關スル事項ヲ一見明瞭ニセラルヽ量水器臺帳トモ云フヘキモノハ水道課ニハ無シ左レハ今次ノ如キ不良量水器問題起リタル際ニ同一會社製造品ノ成績ヲ調査スルニモ非常ナル不都合ヲ感スルコトモアリ此ノ如キハ結局量水器ノ整理行屆カサルコトヽナルコトナレハ將來ハ此ノ備ヲ爲シ置クヲ便宜ナリト認ム

（其二）平圓盤式二十三粍量水器千六百個ニ關スル件

事實

（一）購買契約

本器ノ購買ハ大正三年四月七日付ヲ以テ水道課ヨリ技師長宛ニ十二粍乃至十三粍若クハ二分ノ一吋量水器千六百個ノ請求書ヲ提出シタルニ始マル是ニ於テ技師長附ニテハ四月九日豫定額貳萬五千百貳拾圓（一個當拾五圓七拾錢）ヲ以テ見積指名隨意契約ヲ以テ購買スルノ案ヲ起シ三井物産株式會社、安藤進一、明治貿易合資會社ノ三名ヲ選定シタリ、之カ同四月十日市常設委員ノ査定及市參事會ノ決議ヲ得五月二十二日開披ノ結果金貳萬四千七百八拾四圓（一個拾五圓四拾錢）ヲ以テ安藤進一ニ落札シタリ但三井物産ハ加ハラス

五月二十七日契約ニ先チ安藤進一ヨリ市長ニ宛テタル契約書ヲ提出シタルカ其中ニハ「該品完納ノ日ヨリ滿二ケ年以内ニ於テ普通ノ使用ニ依リ内部構造自然磨滅シ破損シタル場合ハ其破損部分ヲ無償ニテ御命令次第御使用ニ適スル樣直チニ取換ヘ可致萬一御下命ニ違背候節ハ如何ナル御處分相成候共異議無之云々」トアリ次テ六月一日ヲ以テ契約ヲ締結シ完納月日ヲ十一月末日ト定ム

（二）持込期日延期及代金增額請求

然ルニ安藤進一ハ契約締結ノ翌日ナル六月二日未タ製造元ニ注文セサルニ先立チ「今般御契約致候給水工事用量水器ノ構造ノ一部變更スヘキ旨御命令有之候ニ付テハ製作上豫テ御指示ノ納期ニ完納致兼候哉モ難計云々」トノ願書ヲ提出シ更ニ八月八日再ヒ書面ヲ以テ「拜啓陳者今回歐洲戰亂ノ爲メ歐米各國ヨリ發送ノ貨物ハ既ニ航送中ノモノモ總テ戰時保險ヲ付スル樣銀行全部ニ於テ決議仕爲替利息竝ニ運賃等モ暴騰致候ニ付テハ甚タ御迷惑ノ儀ト存候得共全然不測不可抗力ノ事件ニ有之出來ル限リ差額ノ最少ニ盡力可仕ハ勿論ニ候間此際何卒右戰時保險料爲替利息及運賃ノ差額等ハ御注文貨物到着次第精査ノ上ニ御請求可申上候ニ付御支拂御承諾被成下度右豫メ得貴意旁奉懇願候敬具、尙到着期日等モ右樣ノ次第ニテ自然延着モ測リ難ク通報入手次第御通知可申上候間右樣御承引被下其節ハ相當ノ御猶豫奉願候」ト申シ來レリ尤モ契約事項中ニハ不可抗力ニ依リ損害補償ニ關スル規程無キカ如シ然ルニ十一月中旬ニ入リ納期逼迫シタルモ安藤進一ヨリ何等ノ通知無カリシヲ以テ十一月十三日期日内供給ノ有無ヲ催告シタルニ

翌十四日付ヲ以テ「右ハ本年九月十五日製造元ヲ發送致シ既ニ桑港ニ到着致居候モ日本船便ニテハ途中獨艦ノ危害モアランカト被存米國船ニ積込ミ尙萬一ヲ慮リ八百個宛二隻ニ積込發送致旨製造元ヨリ報告有之候得ハ多分本月二十五日入港ノペルシア號及來月一日入港ノコリヤ號二隻ニテ到着ノ事ト被存候云々」ト返書シ越エテ十一月二十一日八百個到着ノ報告アリ

(三)　一部檢收及代金支拂

斯クテ十一月二十六日ニ至リテ終了シタルカ其結果合格シタルモノ五十八個不合格ノモノ七百四十二個即チ合格數ノ割合ハ持込數ノ七パーセント也而シテ此代金八百九拾八圓四拾貳錢ハ大正四年一月十二日原議ヲ起シテ支拂ヲ爲ス、斯ル間ニ契約ノ納期タル十一月末日ニナリタルモ千六百個ノ內唯五十八個ノ檢收ヲ見タルノミニシテ殘部ノ持込ヲモ行ハレス

續テ本市試驗係ニ於テハ不合格品ノ再檢査ヲ行ヒ大正四年一月二十七日二百八個同二十八日ニ三十三個合計二百四十一個ノ合格ヲ得同日領收シ二月二日此代金參千七百參拾參圓九錢ノ支拂案ヲ起シ二月一日殘レル不合格品ニ就キ九十三個三月二十一日ニ八個ヲ合格セシメ此代金千五百六拾四圓四拾九錢ノ支拂案ヲ起セリ即チ大正三年十一月末日迄ニ納入契約ノ千六百個ノ內大正四年三月二十一日迄ノ檢收個數ハ四百個ニシテ此金六千百九拾六圓也

論　査

此千六百個量水器ニ關スル多クノ事項ニ就テ八百個ノ量水器ニ就テ論査シタル所ト同樣ノ意見ヲ有スルニ依リ再ヒ之ヲ論セス乍併此供給者カ契約ヲ履行セサルコトニ付キ一言セサルヘカラス

供給契約ニ依レハ大正三年十一月末日限リニ於テ千六百個ヲ納入スヘキ筈ナルニ期節ヲ遲ルヽコト半年餘ニ至ルモ四分ノ一ナル四百個ノ檢收ヲ見タルノミ也斯カルモノニ對シテハ本市ノ利益ヲ害セサル範圍ニ於テ契約不履行ノ責ヲ問ハサルヘカラス

第五　水栓及水留栓ノ合金分析

傳フル者アリ水栓及水留栓ノ類ハ市ト供給者トノ間ノ契約ノ如キ合金規格ヲ有セサルト云フニ依リ試ニ本市水道課在庫品及經理課試驗係保管等ノ品ニテ最モ其色惡シキモノ二三ヲ取リ之ヲ本市衞生試驗所ニテ試驗セシメタルニ左ノ如キ結果ヲ見タリ之ヲ契約條項ノ一タル製作示方書中第八條ト照合スルニ規格ニ於テハ何等誹議スヘキ點ナシ依テ玆ニ報告ス

（參照）製作示方書第八條水留栓ハ前條折斷シタル物品ヲ以テ左記規格ニ依リ分析試驗ヲ施行スルモノトス

砲金地金　規格

一、銅ハ百分中七十以上ヲ合有スルモノトス
一、錫ハ百分中六以上ヲ合有スルモノトス
一、亞鉛ハ百分中ノ合有量ハ六以下タルヘシ
右ノ外
鉛ハ百分中ノ合有量ハ十二以下タルヘシ
其他ノ夾雜物ハ百分中ノ合有量ハ三以下タルヘシ

試驗報告

依頼先　市會事務局

衞生試驗所試驗ノ報告

第七八六號

一、水栓用具　三個

試驗目的　完全分析

（備考　本成績ハ屬物百分中ノ合有量ナリ）

	銅	錫	亞鉛	鉛	鐵
水栓胴	七七、六四	一〇、七二	四、九八	六、二三	〇、四三

大正年間　第四章　大正四年　第貳節　市政檢査委員會意見報告

大正四年四月二十九日　東京市衛生試驗所

所長技師醫學博士　遠山椿吉

主任技師　古賀彌太郎

甲	水栓頭	七六、六〇	一〇、三七	四、一一	八、一六	〇、七六
	水栓ソッケット	七八、八二	一〇、二三	四、八三	五、三八	〇、七四
乙	水栓胴	七九、二九	八、八七	四、四一	七、〇五	〇、三八
丙	水留栓胴	七六、九八	一一、三八	五、八三	五、二六	〇、五五
	水留栓開止	七七、八一	一一、二三	四、六三	五、九〇	〇、四三

第六　ショートリングチエーン（短輪鐵鎖）ニ關スル件

事實

明治四十二年十月二十九日ヲ以テ英國ロキド會社證明付短輪鐵鎖（徑八分ノ五吋）十本（一本ノ長サ九十尺）ヲ價格金五百參拾八圓（一本當五拾參圓八拾錢）ニテ購入スルコトヲ佐藤政五郎ナル者ト契約シ同年十一月二十九日檢査收納シ明治四十三年三月十三日十本ノ内三本ヲ河港課浚渫船寶田丸ニ錨鎖及船側用トシテ交付シタリ然ルニ同船ハ晝夜間斷ナク操業使用シタル事アルヲ以テ十七ケ月ニシテ使用ニ堪ヘサルモノトナリ四十四年八月二十二日之ヲ廢棄シ四十五年三月十八日高橋龜次郎ナル者ニ他ノ廢物ト一括シ一尺一錢ノ割合ヲ以テ拂下ケタリ而シテ殘リノ七本ハ四十四年九月十二日白髯丸ニ交付シタルカ現時之レハ尚ホ使用シ居ルモ多クハ頽廢シ又ハ將ニ頽廢セントシツヽアリ

論　査

（一）低廉ナル拂下價格

鐵鎖ハ之ヲ水中又ハ繫索牽引、錨鎖等ニ使用スル間ニハ或ハ酸化シ或ハ磨滅シ遂ニ使用ニ堪ヘサルモノニ至ルハ當然ナレトモ鐵鎖原價九十尺ニテ五拾參圓八拾錢ナリシモノヲ一尺壹錢ノ割合ニテ九拾錢ニ拂下ケタルヲ以テ委員ハ實地芝浦埋立地出張所ニ赴キ同所内ニ存在スル廢棄鐵鎖ノ太サ及ヒ重量ヲ計リタルニ太サハ初メ八分ノ五吋アリシモノカ平均八分ノ三吋ニ減細シ重量ハ購入當時九十尺ニテ四十七貫位アリシモノカ三十一貫位ニ減量シ居レリ即チ此ノ鐵鎖ノ拂下値段ハ尺度ヲ以テセハ九十尺九拾錢ニシテ貫量ヲ以テセハ三十一貫ヲ九拾錢ニ拂下ケタルナリ然ルニ鐵鎖ノ屑物ノ時價ハ如何ニ安ク見積ルトモ一貫目拾五錢内外ナレハ市ハ結局時價五分ノ一ヲ以テ拂下ケタル譯ナリ尤モ切斷紛失シテ遺材ナキモノモ原尺其儘トシテ單位ヲ算出スル事アレト殘レルモノカ五分ノ一マテニ切斷紛失スルコトモアラサルヘク若シアリトスレハ嫌疑ノ資料タルヘシ斯ク觀シ來レハ其ノ取引關係ニ疑義ヲ挾マストスルモ理事者ハ餘リニ時價不相當ノ低廉ナル價格ヲ以テ拂下ケタリト云ハサルヲ得ス

（二）不用意ナル拂下方法

由來市カ廢物ヲ拂下クルニハ多クノ場合個數ヲ數ヘテ價格ヲ決定スルニ非ラスシテ總テ諸屑物ト一括シ一盛リトナシ見積値段ヲ以テ決定セシメ其後ニ至リ決定シタル價格ヲ物品及其ノ個數ニ配分充價スルヲ例トスサレハ此ノ鐵鎖一尺壹錢ノ價格モ或ハ斯カル方法ニヨリ充價セラレタル單價ナリトスルモ同樣ニ他ノ物品カ斯カル低廉ナル價格ヲ以テ拂下クルニ於テハ事極メテ微細ノ如シト雖モ理事者カ本市ノ利害ヲ慮ルニ周到ナラサルノ譏ハ免レサル可シ當局者ハ特ニ正確明瞭ナル方法ヲ以テ取引ヲ爲ササルヘカラス

（三）ロキドテスト（證明）ノ眞僞

此ノ鐵鎖ハ購入示方書ニ明記セラレタル如ク英國ロキド會社ノ證明付ニ限ラレタルモノナル故一定ノ證明書添付セラレアル筈ナルニ傳フル者アリ其鐵鎖ノ最端ニテ番號刻記シアルエンドリング（端輪）ノミ外國製ニシテ其ノ他ハ大阪ナル某鐵工場ニテ製造シ付ケ加ヘタル僞造物ニシテ從テロキド證明書モ亦僞造セラレタルモノナレハ其ノ結果鐵鎖使用堪久期間極メテ短シト

委員ハ即チ購入ニ關スル一件憑書ヲ檢査シタルニロキド證明書ハ一度提示アリタルモ其ノ後供給者ニ還付シタル趣也元來ロキド證明ハ鐵鎖一本九十尺ニ一枚宛添附セラルヘキモノナレトモ時ニハ數本數千尺ヲ一括シテ證明書ヲ添付スル事アリ後者ノ場合供給契約者カ其ノ一部ヲ賣却スル爲メ買方ニ其ノ證明書ヲ提出シタル時ハ購入檢收後賣方カ之ヲ他ニ再用スル爲メ其ノ請求ニ基キ證明書ヲ還付スルヲ例トス然ルニ市カ佐藤政五郎ヨリ購入シタル鐵鎖ハ此ノ一括セラレタル證明付キノモノナレハ市ハ檢收後佐藤ニ還付シタルナリサレハ今本市ニハ其物存在無キ故眞僞何レカヲ尋ヌルニ由無キモ唯タ實地使用ノ跡ニ付キ考査スルニ如何ニ晝夜兼行使用シタリトスルモ八分ノ五吋ノ鐵鎖カ僅々十七ケ月ニシテ處々切斷使用ニ堪ヘサルニ至リシコトヲ以テ推察スレハ全ク疑念ヲ挾マスシテ觀過シ得ヘカラサルモノアリ（終）

第參節　市立小學校々地借地料補給ニ關スル建議

二月三日ノ會議ニ左ノ建議案提出セラレ、即決可決セラレタリ。

市立小學校校地借地料補給ニ關スル建議

右提出候也

大正四年一月十一日

提出者　山口憲　角田眞平　原田種德　辻井喜太郎

贊成者

羽田如雲　外二十四名

東京市會議長中野武營殿

建議

本市ハ市立小學校建設ニ際シ、校地ノ買收ヲ爲シタルモノニ對シテハ、其代價ヲ區ニ補給シ來リタルモ、特別事情ノ爲メ校地ノ買收ヲ爲ス能ハス、借地ノ上ニ校舍ヲ建設セシモノニ對シテハ、借地料補給ノ規定ナキヲ以テ、之レカ借地料ハ、全部區ノ負擔ト爲シ、何等ノ補給ヲ爲サス。借地料ニシテ一時ノモノナランニハ止ムヘキモ、校舍存續中ハ、永久其ノ負擔ヲ免カレサルモノナリ。均シク市立小學校建設費補給規定ニ基ク建設ニシテ、校地ヲ買收シタルト否トニ依リ、一ハ借地料ヲ負擔シ、一ハ之ヲ負擔セサルカ如キ輕重ヲ來スハ、頗ル權衡ヲ失シ公平均等ヲ旨トスヘキ補給規定ノ本旨ニ戻ルモノト認ム。依テ理事者ハ之レカ權衡ヲ得セシムル爲メ、借地ノ上ニ建設シタル市立小學校ノ借地料補給ニ關スル案ヲ具シ、速ニ本市會ニ提出アランコトヲ求ム。

第四節　改良下水道施工期間延長調査ニ關スル委員設置ノ建議

二月三日ノ會議ニ、左ノ建議案提出セラレタリ。

改良下水道施工期間延長調査ニ關スル委員設置ノ建議

右提出候也

大正四年一月十一日

提出者

野々山幸吉

賛成者

羽田如雲　外二十五名

東京市會議長中野武營殿

建議

本市改良下水道施工期間延長調査ニ關スル委員十五名ヲ設置セラレンコトヲ望ム。

理由

本市改良下水道ハ、拾ヶ年繼續總工費金參千參百六拾六萬圓ノ計畫ヲ以テ、明治四十四年中着手スヘク、第一期事業トシテ、設計中ノ第二區ニ屬スル淺草ノ全部、及下谷、神田ノ一部ニ施工スルモノトシ、明治四十四年五月十一日五ヶ年繼續總工費六百拾參萬圓ノ市會ノ議決ヲ經、起工ヲ爲シタリ。然ルニ事業進行中、雨量其他ノ關係上設計變更ノ必要ヲ生シ、繼續期間ヲ十五ヶ年總工費ヲ金參千九百八拾九萬圓ト爲セリ。之ニ伴ヒ既ニ着手中ノ第一期事業費ニモ、亦異動ヲ生シ、既定豫算金六百拾參萬圓ヲ金六百八拾萬圓ト爲スニ至レリ。之ニ加フルニ、財源ノ内國庫補助ハ工費二分ノ一ヲ得ンコトヲ期待シタルモ、政府ハ之ヲ三分ノ一ニ減少シタルニ依リ、收支豫算ニ差違ヲ來シ、之カ補充トシテ、大正二年六月二十四日市會ハ下水道改良費資金規程ヲ議決シ、左記ノ如キ種種ノ收入ヲ計上セリ。

補助金

年次	年度	第一期工事國庫補助	第二期以下工事(假定)國庫補助	年次	年度	第一期工事國庫補助	第二期以下工事(假定)國庫補助
一	明治四十四年	—	—	十七	大正十六年	—	四十四萬千二百圓
二	大正元年	一萬圓	—	十八	同十七年	—	四十四萬千二百圓
三	同二年	一萬三千圓	—	十九	同十八年	—	四十四萬千二百圓
四	同三年	十五萬圓	—	二十	同十九年	—	四十四萬千二百圓
五	同四年	十五萬圓	—	二十一	同二十年	—	四十四萬千二百圓
六	同五年	十五萬圓	—	二十二	同二十一年	—	四十四萬千二百圓
七	同六年	十五萬圓	四十四萬千二百圓	二十三	同二十二年	—	四十四萬千二百圓
八	同七年	十五萬圓	四十四萬千二百圓	二十四	同二十三年	—	四十四萬千二百圓
九	同八年	三十萬圓	四十四萬千二百圓	二十五	同二十四年	—	四十四萬千二百圓
十	同九年	三十萬圓	四十四萬千二百圓	二十六	同二十五年	—	四十四萬千二百圓
十一	同十年	三十萬圓	四十四萬千二百圓	二十七	同二十六年	—	四十四萬千二百圓
十二	同十一年	三十七萬圓	四十四萬千二百圓	二十八	同二十七年	—	四十四萬千二百圓
十三	同十二年	二十二萬三千圓	四十四萬千二百圓	二十九	同二十八年	—	四十四萬千二百圓
十四	同十三年	—	四十四萬千二百圓	三十	同二十九年	—	四十四萬千二百圓
十五	同十四年	—	四十四萬千二百圓	三十一	同三十年	—	四十四萬千二百圓
十六	同十五年	—	四十四萬千二百圓				

繰入金

年次	明治四十四年	大正元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年	十三年	十四年	十五年	十六年	十七年	十八年	十九年
上水道收入繰入金	—	—	十萬四千円	十萬七千四百円	十一萬四千四百円	十二萬四千四百円	十二萬八千四百円	十三萬五千四百円	十四萬二千四百円	十四萬九千四百円	十六萬三千四百円	十七萬七千四百円	二十八萬六千五百四百円	三十四萬三千五百四百円	三十七萬二千四百円	三十八萬七千四百円	四十萬二千四百円	四十一萬四千四百円		
河岸地一反歩ノ上値	—	—	—	—	—	三十五萬四百円	三十五萬四百円	三十五萬四百円	三十五萬四百円	三十五萬四百円	四十二萬四百円	四十二萬四百円	四十二萬四百円	四十二萬四百円	四十二萬四百円	五十萬四千四百円	五十萬四千四百円	五十萬四千四百円	五十萬四千四百円	五十萬四千四百円
繰入金合計	—	—	—	—	—	七萬四百円	七萬四百円	七萬四百円	七萬四百円	七萬四百円	八萬四千四百円	八萬四千四百円	八萬四千四百円	八萬四千四百円	八萬四千四百円	十萬八百四百円	十萬八百四百円	十萬八百四百円	十萬八百四百円	十萬八百四百円
繰入金合計	—	—	—	—	—	四十二萬四百円	四十二萬四百円	四十二萬四百円	四十二萬四百円	四十二萬四百円	五十萬四千四百円	五十萬四千四百円	五十萬四千四百円	五十萬四千四百円	五十萬四千四百円	六十萬四千八百四百円	六十萬四千八百四百円	六十萬四千八百四百円	六十萬四千八百四百円	六十萬四千八百四百円

年次	大正年間	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
特別税	鉄四郎	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
特別税	大正四年	三十七年	三十八年	三十九年	三十年	三十一年	三十二年	三十三年	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年	三十八年	三十九年	四十年	四十一年	四十二年	四十三年	四十四年	四十五年
特別税	鉄四郎	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
改良下水道施工期間延長調査ニ關スル委員設置ノ建議		七十七萬四百円	七十七萬四百円	七十七萬四百円	七十七萬四百円	七十七萬四百円	七十七萬四百円	七十七萬四百円	七十七萬四百円	七十七萬四百円	七十七萬四百円	七十七萬四百円	七十七萬四百円	七十七萬四百円	四十五萬六千四百円	四十五萬九千四百円	七十七萬四百円	七十七萬四百円	七十七萬四百円	七十七萬四百円
改良下水道施工期間延長調査ニ關スル委員設置ノ建議		六十萬四千八百四百円	六十萬四千八百四百円	六十萬四千八百四百円	六十萬四千八百四百円	六十萬四千八百四百円	六十萬四千八百四百円	六十萬四千八百四百円	六十萬四千八百四百円	六十萬四千八百四百円	六十萬四千八百四百円	六十萬四千八百四百円	六十萬四千八百四百円	六十萬四千八百四百円	四十五萬六千四百円	四十五萬九千四百円	六十萬四千八百四百円	五十萬四千四百円	五十萬四千四百円	五十萬四千四百円
改良下水道施工期間延長調査ニ關スル委員設置ノ建議		三十一萬四百円	三十一萬四百円	三十一萬四百円	三十一萬四百円	三十一萬四百円	三十一萬四百円	三十一萬四百円	三十一萬四百円	三十一萬四百円	三十一萬四百円	三十一萬四百円	三十一萬四百円	三十一萬四百円	三十一萬四百円	三十一萬四百円	三十一萬四百円	十萬八百四百円	十萬八百四百円	十萬八百四百円
改良下水道施工期間延長調査ニ關スル委員設置ノ建議		九十一萬四百円	九十一萬四百円	九十一萬四百円	九十一萬四百円	九十一萬四百円	九十一萬四百円	九十一萬四百円	九十一萬四百円	九十一萬四百円	九十一萬四百円	九十一萬四百円	九十一萬四百円	九十一萬四百円	九十一萬四百円	九十一萬四百円	九十一萬四百円	六十萬四千八百四百円	六十萬四千八百四百円	六十萬四千八百四百円

年次	年度	市區改正特別稅	市區改正特別稅下水稅
一	明治四十四年	一萬五千四百三圓	—
二	大正元年	八萬二千二百六十八圓	—
三	同二年	四萬五千六百十圓	—
四	同三年	八萬圓	—
五	同四年	十萬圓	—
六	同五年	十五萬圓	—
七	同六年	二十萬圓	—
八	同七年	三十萬圓	—
九	同八年	三十萬圓	十九萬九百六十圓
十	同九年	三十萬圓	十九萬九百六十圓
十一	同十年	三十萬圓	十九萬九百六十圓
十二	同十一年	三十萬圓	十九萬九百六十圓
十三	同十二年	三十萬圓	十九萬九百六十圓
十四	同十三年	三十萬圓	十九萬九百六十圓
十五	同十四年	三十萬圓	十九萬九百六十圓
十六	同十五年	三十萬圓	十九萬九百六十圓
十七	同十六年	三十萬圓	十九萬九百六十圓
十八	同十七年	三十萬圓	三十八萬千九百二十一圓
十九	同十八年	三十萬圓	三十八萬千九百二十一圓
二十	同十九年	三十萬圓	三十八萬千九百二十一圓
二十一	同二十年	三十萬圓	三十八萬千九百二十一圓
二十二	同二十一年	三十萬圓	三十八萬千九百二十一圓
二十三	同二十二年	三十萬圓	三十八萬千九百二十一圓
二十四	同二十三年	三十萬圓	三十八萬千九百二十一圓
二十五	同二十四年	三十萬圓	三十八萬千九百二十一圓
二十六	同二十五年	百萬圓	三十八萬千九百二十一圓
二十七	同二十六年	百萬圓	三十八萬千九百二十一圓
二十八	同二十七年	百萬圓	三十八萬千九百二十一圓
二十九	同二十八年	百萬圓	三十八萬千九百二十一圓
三十	同二十九年	百萬圓	三十八萬千九百二十一圓
三十一	同三十年	百萬圓	三十八萬千九百二十一圓
三十二	同三十一年	百萬圓	三十八萬千九百二十一圓
三十三	同三十二年	百萬圓	三十八萬千九百二十一圓
三十四	同三十三年	百萬圓	三十八萬千九百二十一圓
三十五	同三十四年	百萬圓	三十八萬千九百二十一圓
三十六	同三十五年	百萬圓	三十八萬千九百二十一圓
三十七	同三十六年	百萬圓	三十八萬千九百二十一圓
三十八	同三十七年	八十萬圓	三十八萬千九百二十一圓

備考　市區改正特別稅下水稅（全市總地坪ノ總賃貸價額千貳百七拾參萬七百貳拾九圓ニ對シ、自大正八年至大正十六年一圓ニ付一錢五厘ノ賦課率ニテ拾九萬九百六拾圓、自大正十七年至大正三十七年一圓ニ付三錢ノ賦課率ニテ參拾八萬千九百貳拾壹圓。

隅田川口改良埋立地賣却調

	坪數	平均單價	金額
計畫豫定額	二一五、一〇七坪	三〇〇〇〇円	六、四五三、二一〇〇〇〇円
下水道及河川改良費資金規程歇支計算表豫定額	二六五、八四〇	三四、六八三	九、二二〇、〇〇〇〇〇〇
比較・增			二、七六六、七九〇〇〇〇

備考　下水道及河川改良費資金規程歇支計算表ニハ隅田川口改良埋立地賣却代トシテ本表豫定額ヨリ事業公債償還基金ニ繰入ルヘキ金貳百七拾參萬圓ヲ控除シタル金六百四拾九萬圓ヲ計上セリ。

河川浚渫埋立地賣却調

	坪數	平均單價	金額
計畫豫定額	一二一、〇七九坪	一四、九九八円	一、八一五、九一二円四〇〇
下水道及河川改良費資金規程歇支計算表豫定額	一二一、〇七九	二二、九九三	二、七八四、〇〇〇〇〇〇
比較・增			九六八、〇八七六〇〇

附言

一、第一期工事ハ大正七年ニ結了シ第二期工事ハ大正五年ニ始マル計畫也

一、下水完成後ハ維持費トシテ年額金四拾萬圓乃至五拾萬圓ヲ要スル由

以上ノ如ク、市民ハ改良下水道事業ノ爲メ、四十年間ノ久シキ多大ノ負擔ヲ爲スニ至レリ。飜ツテ之ヲ市民ノ現狀ニ稽フレハ、必スシモ豫定計畫ノ期間ヲ以テ完成セサルヘカラサル必要ヲ認メス。且又斯ノ期間ヲ延長スルハ市民ノ負擔ヲ輕減スル所以ナルニ依リ、此ノ間ノ調査ヲ爲サント欲シ、本案ヲ提出ス。

本案ノ審議ニ入ルヤ、委員數ニ關シ、九名、十三名、十五名ノ三說アリタルモ、討論ナクシテ、議長指名十五名ト爲スニ決シタルヲ以テ、議長ハ左ノ指名ヲ爲セリ。

羽田如雲　安住佐太郎　坪谷善四郎　大貫傳兵衞　辰澤延次郎
岩松兼經　音羽耕逸　角田眞平　溝淵正氣　笠間平右衞門
松崎權四郎　野々山幸吉　太田信治郎　津村重舍　長谷川吉次

委員ハ角田眞平君ヲ委員長ニ推シ種々調査中、大正七年六月議員ノ任務終了シテ、委員ノ任務モ自然消滅ニ歸セリ。

第五節　土木費繼續年期及支出方法

第十二號

自大正四年度至大正六年度東京市土木費繼續年期及支出方法

（冒頭ノ○印ハ委員會修正ノ朱書左傍ノ——印ハ原案削除ナリ以下倣之）

一金參拾五萬參千八百七拾圓
參拾七萬五千貳百七拾圓

內譯

金四萬參千六百圓　大正四年度支出額
參千九百圓

金貳拾七萬六千五百圓　大正五年度支出額
貳拾八萬六千五百圓

土木費中橋梁費

大正六年度支出額

金四萬五千七百七拾圓
四萬四千八百七拾圓

本件ハ左記各橋改築ノ經費トシテ之ヲ計上セリ

一　三原橋（幅員六間）ハ大正二年中河岸陷落ノ影響ヲ受ケ危險ナルニ依リ之ヲ幅員九間ノ鐵橋ニ改築

二　高橋（幅員三間）ハ市區改正ノ結果其位置ノ變更ヲ要スルニ依リ之ヲ幅員九間ノ鐵橋ニ改築

三　相生橋（幅員四間）ハ現在ノ幅員狹隘ニ失シ交通不便ナルト及月島一圓ニ供給スル水道及瓦斯鐵管電纜等一ニ本橋ニ依リ連絡セラルル重要ナル橋梁ナルヲ以テ之ヲ幅員六間ノ木橋ニ改築

四　澤海橋（幅員三間）ハ幅員狹隘ナルト且現狀ニ据置難キトニ依リ之ヲ幅員七間ノ木橋ニ改築

五　一ツ橋（幅員四間二分）ハ河川改修ノ結果改築ヲ要スルニ依リ之ヲ幅員六間ノ木橋ニ改築

本案ハ二月三日ノ會議ニ於テ、第十四號議案（大正四年度東京市立小學校建設資金歳入出豫算）ト同一委員ニ付託セラレタルガ、委員ハ審議ノ末、前掲ノ修正ヲ加ヘ、且左ノ希望條件ヲ附シテ、之ヲ二月二十七日ノ會議ニ報告シ、直チニ可決セラレタリ。

希望

一　高橋改築工事ハ現在高橋上流京橋區元嶋町ヨリ本八丁堀新高橋ヲ經テ濱町ニ至ル市區改正道路開設線路ヘ新架セントスルモノニシテ市區改正事業費ヲ以テ支辨スルヲ相當ナリト認ムルニヨリ該事業設計ニ編入ノ手續ヲ採ラレンコトヲ望ム

第六節　東京市大正四年度歳入出總豫算

▽**普通會計ニ屬スル豫算**

東京市大正四年度歳入出總計豫算

歳入出	原案額	委員會修正額	市會決定額
歳入	五、七四四、八三一・〇〇〇円	五、六一九、七〇三・〇〇〇円	委員會報告通
歳出 經常部	三、三三二、七〇七・〇〇〇	三、二五〇、六〇〇・〇〇〇	委員會報告通
歳出 臨時部	二、四一二、一二四・〇〇〇	二、三六九、一〇三・〇〇〇	委員會報告通
歳出 合計	五、七四四、八三一・〇〇〇	五、六一九、七〇三・〇〇〇	委員會報告通

本案ハ二月三日ノ會議ニ上程セラレ、**溝淵正氣君**ノ動議ニ依リ、議長指名十五名ノ委員ニ調査ヲ付託スルニ決シ、議長ハ左ノ如ク委員ヲ選定セリ。

安住佐太郎　宮崎三之助　山瀨俊賢　早川庄太郎　鎌田芳太郎
楳川忠兵衛　笠原文太郎　西川嘉門　細野順　松山傳十郎
川久保源治　橋本直一　辻井喜太郎　所澤貞太郎　長谷川吉次

委員ハ**楳川忠兵衛君**ヲ委員長ニ推シ、審議ノ末、前表ノ如ク修正スルニ決シ、其旨同月二十七日ノ本會ニ報告シタルガ、其際**横山勝太郎君**ハ、未ダ委員ノ報告ヲ手ニセズトノ理由ヲ以テ延期說ヲ主張シタルモ、他ハ皆今朝之ヲ受領セリトテ延期ニ贊成セズ、結局横山君モ諒解シタルヲ以テ、委員會報告通可決セリ。

▽特別會計ニ屬スル豫算

市立小學校建設資金歳入出豫算

		原案額	委員會修正額	市會決定額
歳入出	歳入	八二七、三三九・〇〇〇円	原案通	委員會報告通
	歳出	八二七、三三九・〇〇〇	原案通	委員會報告通

本案ハ二月三日ノ會議ニ於テ、前記普通豫算ト同一委員ニ付託セラレタルガ、委員ハ審議ノ末、原案ヲ相當ナリト認メ、其旨二月二十七日ノ本會ニ報告シテ其可決ヲ見タリ。

養育院歳入出豫算

		原案額	委員會修正額	市會決定額
歳入出	歳入	二一四、四五九・〇〇〇円	二〇九、四五九・〇〇〇円	委員會報告通
歳出	經常部	二〇六、二五八・〇〇〇	二〇一、二五八・〇〇〇	委員會報告通
	臨時部	八、二〇一・〇〇〇	原案通	委員會報告通
	合計	二一四、四五九・〇〇〇	二〇九、四五九・〇〇〇	委員會報告通

本案ハ二月三日ノ會議ニ於テ、**溝淵正氣君**ノ發議ニ依リ、議長指名九名ノ委員ニ付託スルニ決シ、議長ハ左ノ如ク指名セリ。

糸川正鐵　木村正孝　岩松兼經　尾後貫朝吾郎　長清助
飯塚仁兵衛　根岸治右衛門　近藤達兒　堀田生次郎

委員ハ**糸川正鐵君**ヲ委員長ニ推シテ審議ノ末、前表ノ如ク修正スルニ決シ、之ヲ同月二十七日ノ本會ニ報告シテ可決セラレタリ。

基本財産河岸地歳入出豫算

		原案額	委員會修正額	市會決定額
歳入出	歳入	四四六、四二六・〇〇〇円	三四七、二三一・〇〇〇円	委員會報告通
	歳出	一一八、三三八・〇〇〇	原案通	委員會報告通
歳入出差引殘金		三二八、〇八八・〇〇〇	二二八、八九三・〇〇〇	委員會報告通

歳計剩餘金ハ市區改正經濟ニ編入ス

本案ハ二月三日ノ會議ニ提出セラレタルガ、**溝淵正氣君**ハ、之ヲ後ニ記述スル他ノ數案ト共ニ九名ノ委員ニ付託センコトヲ發議シタルニ。**新井興四郎君**、先般設置セラレタル河岸地貸地料變更ノ件ニ關スル調査委員ニ此等ノ案ヲ付託スベシトノ動議ヲ提出シタレバ。**溝淵君**自說ヲ取消シテ、之ニ贊成セリ。然ルニ**安住佐太郎君**ハ、十一名ノ委員數ニハ贊成ナルモ、既設委員ニ付託スルノ條件ヲ伴ハザルヲ可トスト述ベタルヲ以テ。**新井君**モ該條件ヲ取消シ、議長指名十一名ノ委員付託ニ決定セリ、而モ議長ノ指名セル委員ハ左ノ如ク、河岸地貸地料變更ノ調査委員ト殆ド同一ナリキ。（第參章第貳拾九節參照）

大貫傳兵衛　伊東靖　加藤正義　西川嘉門　細野順
八東可海　野並慶定　松崎英太郎　中嶋行麿　山口憲
津村重舍

委員ハ加藤委員長ノ下ニ本案ノ調査ニ從事シタル末、二月二十七日ノ會議ニ前表ノ如ク修正スルニ決シタル旨ヲ報告シ、修正ノ理由ヲ次ノ如ク說明セリ。

委員ハ屢集會審査ノ末、目下委員會ニ於テ調査中ノ第百五十九號議案河岸地貸地料變更ノ件ガ未ダ決定ヲ見ザルニ先ダチ、之ヲ豫算ニ計上スルハ當ヲ得ザルモノナルニ依リ、本豫算歳入第一款第一項河岸地貸地料收入中ヨリ金九萬九千百九拾五圓ヲ減額シタリ。從テ歳計剩餘金ヲ金弍拾弍萬八千八百九拾參圓ニ修正セリ。

本案ニ關シテハ左ノ如キ討議アリタリ。

鎌田芳太郎君　地代ノ値上ハ當然ナリ、從テ之ヲ豫算ニ計上スルモ何ノ不可カアラン、余ハ委員ノ修正意見ニ反對ス。

山口憲君　本修正案ハ歳入ニ於テ借地料ノ增額九萬何千圓ヲ削除セルガ、第十八號議案（次節參照）ニ於テモ、同ク此借地料ノ增額ヲ削除シ、市區改正中ノ公園地準備基金ヲ以テ之ヲ補塡セリ、理事者ハ斯ル修正ニ同意セントスルカ。

助役高橋要治郎君　理事者ハ本案ノ實質ヲ適當ナリト信ズルヲ以テ、借地料ノ減額修正ニハ遺憾ナガラ贊成スル能ハズ、切ニ原案ノ復活ヲ希望ス。又理事者ハ公園改良準備基金ノ繰入レニモ同ク反對ナルガ、是レ頗ル重要問題ナルヲ以テ、其理由ヲ一言スベシ。既ニ委員會ニ於テ詳述シタルガ如ク、貸地料値上ノ豫算額ヲ削除シ、公園改良準備金ヲ以テ其缺陷ヲ補塡スルコトハ、修正權ノ範圍ヲ越エタル一種ノ發案權ニアラズヤトノ疑ナキヲ得ズ。尙ホ又此準備金ハ市ノ特別積立金ノ一ニシテ、其使用ノ目的ハ、勿論公園ノ改良、維持、若クハ擴張等ニ在リテ、將來ニ於テモ此方針ヲ確守スルコトハ、市ノ爲メニ極メテ必要ナリト信ズ。然ルニ他ノ關係案件ガ調査中ナリト云フガ如キ薄弱ナル理由ノ下ニ、此ノ如キ重要性ヲ有スル基金ヲ、既定ノ目的以外ニ費消スルハ頗ル不穩當ナリト謂ハザルベカラズ、況ヤ借地料ノ適度ノ增加ハ、此際決シテ不當ニアラザルニ於テヲヤ、願ハクバ本會ニ於テハ、當局者ノ意ヲ諒セラレンコトヲ。

山口憲君　果シテ然ラバ、貸地ノ値上案ハ今猶委員ノ調査中ニ屬スルニ拘ラズ、當局者ハ此增收ヲ豫期シテ、之ヲ豫算ニ計上スルモ、敢テ不可ナシトノ意見ナリヤ。又若シ値上案ガ獨リ委員會ニ於テノミナラズ、本會ニ於テモ亦否決セラレタル場合、之ガ爲メニ生ズル缺陷ヲ如何ニ處理セントスルヤ。

若林成昭君　余ハ先ヅ委員長ノ意見ヲ質シ、然ル後理事者ノ辯明ヲ聽クヲ便宜ナリト信ズ。委員ノ報告中ニ「調査中ニ係ルモノナルヲ以テ之カ決定ヲ爲サザル以前豫算ニ計上スルハ當ヲ得サルモノナルニ依リ」ト云ヘリ、此當ヲ得ズトノ意味如何。余ハ貸地料値上案ニ關シテハ、委員會ノ調査ノ結果如何ニ因リ、意見ヲ述ブルコトアルベキモ、元來同案ト本案トハ全然別個ノ問題ニシテ、本案ニ於ケル値上額ヲ削除スルト否トハ、値上案ノ可決若クハ否決ニ關係ナシト信ズ、山口君モ委員長ノ說明如何ニ因リテハ、或ハ諒解スル所アルベシト考フルガ故ニ、先ヅ委員長ノ意見ヲ聽クヲ得ン。

加藤委員長　大體報告書ニ述ベタル如ク、要スルニ未ダ値上案ノ決定ヲ見ザル今日、十六號及ビ十八號議案ニ於テ、此未定額ヲ收入トシテ豫算ニ計上スルハ不當ナリト信ズルガ故ニ、之ヲ削除セリ。而シテ之ガ爲メニ生ズル缺陷ヲ如何ニ補塡スベキカ、公園ノ殘餘金ヲ之ニ充當スルハ、固ヨリ良策ニ非ザルモ、當局者トシテモ、他ニ名案ナキ以上、此方法ヲ採ルコトハ、未ダ決定セザル値上ヲ豫期シテ其收入ヲ計上スルニ勝ルベシ、是レ委員會ガ此擧ニ出デタル所以ナリ。

高橋助役　山口君ノ質問ニ答ヘン。第一ノ質問ハ、値上案ノ確定セザル以前ニ、之ニ伴フ増收ヲ既定事實トシテ見積ルモ不可ナキカト云フニ在リ、當局トシテハ、河岸地ノ値上ヲ發案スルト同時ニ、他面ニ於テ、此收入ヲ計上セル豫算案ヲ提出シタル事實自體ニ由リ、其不可ナシトノ見解ヲ明示セリ。第二ハ、若シ此値上案ガ否決或ハ修正セラレタル結果、其可決ヲ見越シテ計上セル豫算案中ニ必然生ズベキ缺陷ヲ如何ニ處理セントスルカトノ質問ナルガ、當局ハ、決シテ斯ル事實ナキヲ信ズルモ、不幸ニシテ萬一是レアリタル場合ニハ、所謂收入ノ不足トシテ、他日補塡ノ途ヲ講ズベシ。

山口君　余ハ委員ノ修正ヲ原案ニ復活スベシトノ修正案ヲ提出セント欲ス、而シテ若シ値上案ガ不成立ニ終リタルトキハ、今理事者ノ言ヘルガ如ク、之ガ善後策トシテ追加豫算ヲ提出シテ可ナリ。此ノ如クナレバ則チ理事者モ困惑ヲ免レ、市會モ發案權ヲ侵害スルノ虞ヲ免レン。余ハ委員ノ一人ナルモ、削除說ニハ終始反對ノ態度ニ出テ來リタルヲ以テ、斯ル修正案ヲ提出スルノ自由ヲ有ス、切ニ諸君ノ贊成ヲ請フ。

角田眞平君　本議場ハ今ヤ議論漸ク紛糾セルノ感アルモ、冷靜ニ考察スレバ、山口君ノ意見ハ一理ナキニ非ズ。委員ノ修正ヲ原案ニ復活スルモ、是レ決シテ貸地料値上ノ議決ヲ拘束スルモノニアラズシテ、吾人ハ固ヨリ自由ニ之ヲ増減スルヲ得ベシ。又理事者ノ立場ヨリ觀レバ、一方ニ於テ收入ヲ見積レル以上、他方之ニ伴フ支出案ヲ提出スルハ、之ヲ先例ニ徵スルモ、必シモ不當ト言フベカラズ。殊ニ特定ノ基金ヲ他ノ目的ニ費消スルガ如キコトヲ防止スル爲メ、嚴正ニ監視スルノ責任ヲ有スル市會ガ、自ラ進ンデ斯ル違法行爲ニ出ヅルトキハ、將來市會ハ財政整理ヲ口ニスルノ資格ヲ失フニ至ラン。故ニ本會トシテハ原案ヲ復活スルハ已ヲ得ザル所、而カモ之ガ爲メニ地料ヲ増減スルノ自由ヲ失フコトナキハ既述ノ如シ。

津村重舍君　角田君ノ如キ老練家ヨリ斯ル說ヲ耳ニスルハ、吾人ノ豫期セザリシ所ナリ。下水ノ改良ニハ年々必ズ百萬圓ヲ投ゼザルベカラザルガ、場合ニ因リテハ、之ガ爲メニ、市會ガ決議ヲ以テ、同ク市區改正ノ一部分タル上水又ハ公園ノ資金ヲ一時流用スルモ、何ノ不可カアラン、若シ反對ニ、公園改良費ガ不足ヲ告ゲタル場合ニ、河岸地ノ收入ヲ繰入レテ之ヲ補フモ亦可能ナラン。

斯クテ採決ニ入リタルニ、上記ノ議論アリタルニ拘ラズ、委員長ノ報告ハ一氣ニ可決セラレタリ。

市區改正歲入出豫算

歲入出	原案額	委員會修正額	市會決定額
歲入	一、一五五、五九三・〇〇〇円	一、一五一、八一九・〇〇〇円	委員會報告通
歲出	一、一五五、五九三・〇〇〇	一、一五一、八一九・〇〇〇	委員會報告通

本案ハ二月三日ノ會議ニ於テ、**溝淵正氣君**ノ發議ニ因リ、既記河岸地豫算ト同一委員ニ付託セラレタルガ、委員ハ審査ノ末、以上ノ如ク修正スルニ決シ、其旨二月二十七日ノ會議ニ報告シタリ。尙ホ此報告書中ニハ特ニ左記ノ意見ヲ附セリ。

第百五十九號議案河岸地貸地料變更ノ件

目下本委員ニ於テ調査中ニ係ルモノナルヲ以テ、之レカ決定ヲ爲サヽル以前豫算ニ計上スルハ當ヲ得サルモノナルニ依リ、本豫算收入ニ計上セラレタル河岸地貸地料增額九萬九千百九拾五圓ハ之レヲ削除シ、公園改良準備積立金ヨリ補塡スルヲ相當ト認メ、該金ヲ以テ補充シタリ。

本案ノ議事ニ入ルヤ、**安住佐太郎君**曰ク、余ハ附記ノ末文「公園改良準備積立金ヨリ補塡スルコトヲ相當ト認メ該金

ヲ以テ補充シタリ」ノ削除ヲ提議ス。其理由ハ過刻河岸地豫算審議ノ際既ニ論ジ盡クサレタルガ、尙ホ普通豫算委員會ニ於テハ、市區改正豫算委員會ガ貸地料値上ノ未決定ニ伴フ九萬九千餘圓ノ缺陷ヲ公園基金ヲ以テ補塡スルニ決セリト聞クヤ、普通豫算ノ上ニ於テモ、之ニ相應ノ修正ヲ爲スノ必要ナキヤニ關シ協議ヲ遂ゲタルガ、結局如何ナル委員會モ斯ル補塡ノ方法ヲ決議スルノ權能アルヤハ疑ナキ能ハザルヲ以テ、豫算委員會ハ之ニ關シテ喙ヲ容レザルニ決セリ、蓋シ不足額ノ補塡方法トシテ、或ハ借入金ニ依ルカ、或ハ租稅ニ依ルカ、之ヲ理事者ノ發案ニ一任スルヲ當然ナリト信ズルヲ以テ、余ハ前述ノ修正說ヲ提出スト。次ニ**高橋助役**ハ、先刻河岸地豫算審議ノ際、既ニ卑見ヲ述ベタルヲ以テ、今玆ニ之ヲ反復スルコトヲ避ケ、當局者トシテハ、公園改良準備金繰入ノ委員會修正案ハ修正權ノ範圍ヲ越エタル不穩當ノモノナルコトヲ言明スルニ止ムベシト述ブレバ。**安住君**、理事者ノ意見ハ、主トシテ公園準備基金ヲ以テ補塡スルハ發案權ノ侵害ナルガ故ニ不可ナリト云フニ在リテ、貸地料增收ノ見積額ノ削除ハ已ヲ得ズト爲スカト問ヒ。**高橋助役**、增收額ノ削除ハ修正權ノ範圍內ニ在ルヲ以テ、已ヲ得ザルナリ、而シテ其缺陷ハ、他日之ヲ補充スルノ途ヲ講ズルノ外ナシト答フ。斯クテ採決ノ結果、安住君ノ修正說ハ敗レ、委員會ノ報告通リ可決セリ。然ルニ六月二十二日ノ會議ニ於テ、河岸地貸地料變更ノ件ニ關スル調査委員ノ報告ヲ審議シ了ルヤ、**議長山口熹君**(副議長)、貸地料變更ノ議決ニ伴ヒ、理事者ヨリ本年ノ第十八號議案(市區改正歲入出豫算)再議ノ要求アリ、此際緊急議案トシテ之ヲ上程シテ可ナルヤト諮リ、異議ナカリシヲ以テ、直チニ之ヲ議題ニ供シタルニ、**太田信治郎君**ノ發議ニ依リ、議長指名七名ノ委員ニ調査ヲ付託スルニ決セリ。

右再議要求ノ通牒ハ左ノ如シ。

庶發第八三七號

本年第十八號議案大正四年度市區改正費豫算ノ件、曩ニ市會ニ於テ修正議決相成候處、同議決ハ市會修正權ノ範圍ヲ超越シルモノト認メラレ、且本件ニ直接關係アル河岸地貸地料ノ增額ノ件モ、既ニ決定相成候條、旁再議ノ上、相當御措置相成度、此段通牒候也。

大正四年六月二十二日

東京市長法學博士　奧田義人

東京市會議長中野武營殿

因テ議長ハ左ノ委員ヲ指名セリ。

宮崎三之助　横山勝太郎　細野順　川久保源治　中嶋行藤
所澤貞太郎　長谷川吉次

委員ハ**長谷川吉次君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、原案ヲ左ノ如ク修正スルニ決シ、其旨七月十七日ノ會議ニ報告シタリ。

歲入出	原案額	委員會修正額	市會決定額
歲入	一、一五五、五九三・〇〇〇円	一、一一三、八三四・〇〇〇円	委員會報告通
歲出	一、一五五、五九三・〇〇〇	一、一一三、八三四・〇〇〇	委員會報告通

本報告ニ關シ、**長谷川委員長**ハ左ノ如ク說明セリ。

市區改正ノ豫算中、河岸地貸地料ノ增收豫定額ヲ削除シ、公園ノ準備金ヲ以テ之ヲ補塡ストノ市會先般ノ決議ハ、修正ニ非ズシテ一種ノ發案ナルヲ以テ、市會ノ權限ヲ超越シタルモノナリトノ議論ハ、我委員會ニ於テハ、

其正當ナルヲ認ムルノ外ナシト云フニ決セリ。蓋シ市會ガ發案權ヲ有スルヤ否ヤノ問題ニ關シテハ、之ヲ市制ノ精神ニ鑑ミルニ、市會ハ修正權即チ監督權ヲ有スルニ止マリ、發案權ヲ有セザルコトハ明白ニシテ、此點ハ府縣制ニ於ケル府縣會ト異ラズ。故ニ理事者ガ本案ヲ再議ニ附シタルハ失當ト言フヲ得ズ、況ンヤ今日ニ於テハ河岸地ノ値上額モ既ニ議定セラレタルヲ以テ、理論ハ暫ク措キ、事務ノ執行上再議ニ附スルハ便宜ナリトハ、委員多數ノ意見ナリキ。唯横山君一人ハ豫算不可分論ヲ主張シ、本案ヲ理事者ニ返附スベシト力說セラレタルモ、思フニ豫算ノ一部ヲ修正シタル爲メ、其全部ノ變更ヲ必要トスル場合ニハ、豫算不可分論ハ當然考慮セラルベキモノナリト雖モ、本件ノ如キハ全ク特別會計ニ屬シ、他ノ豫算ニ何等ノ影響ヲ及ボサザルガ故ニ、假リニ學理上多少議論ノ餘地アリトスルモ、事務上ノ便法トシテ、本案ヲ再議確定スルヲ適當ナリト認ムルコトニ委員會ニ於テ決定セリ。

是ニ於テ**横山勝太郎君**ハ、余ハ少數意見ヲ述ベント欲スルモ、之ニ先ダチテ市長ニ問フベキコトアリトテ、理事者ハ市制ノ第何條ニ依リテ本案ノ再議ヲ求メタルカ、又再議ヲ求ムル以外ニ、本案ヲ圓滿ニ解決スベキ方法無カリシカ、過般ノ市會ノ多數ハ理事者ガ發案權ノ侵害ナリト言明シタルニ拘ハラズ、强ヒテ本件ヲ其意ノ如クニ議決シタル結果終ニ再議ノ已ムナキニ至リ、今ヤ市會ハ法律ヲ無視シタルコトヲ自白セザルヲ得ザルガ如キ窮地ニ陷ラントシツヽアリ、此際條例ノ如何ハ暫ク措キ、市會ノ體面ヲ損セズシテ圓滿ニ本件ヲ解決スルノ良策ナキカト質シタルニ。**奥田市長**、余ハ就任早々此問題ニ逢着シ、圓滿解決ノ方法ヲ發見スベク大ニ苦心シタルモ、終ニ意ノ如クナラズ、已ヲ得ズシテ再議ニ付スルノ手段ニ出デタルガ、其根據ハ市制第九十條ノ規定ニ在リト答フ。**横山君**更ニ、第九十條ニ據リ提案シタリトセバ、同條ノ權限ヲ越ユルノ項ニ該當スルト爲スカ、若クハ法令ノ規定ニ背クノ項ニ該當スルト爲スカ、或ハ又會議ノ規則ニ抵觸スルノ項ニ該當スルト爲スカト問ヒ。**奥田市長**、權限ヲ越ユルノ項ニ該當スト認ムト答フ。

仍テ**横山君**ハ左ノ如ク論ゼリ。

余ハ今少數意見ヲ述ベント欲ス、但シ少數意見ト云フト雖モ、數月前ニハ實ニ大多數ノ意見ナリシガ、今日ニ於テハ終ニ少數意見ト爲ルニ至リタルハ、余ノ悲ム所ナリ。理事者ガ本案ヲ再議ニ附シタル理由ハ、先般市會ガ議決シタル本案ノ修正ガ、市長ノ發案權ヲ侵害セルモノナリト云フニ在リ。余ハ此點ニ於テ遺憾ナガラ理事者ト見解ヲ異ニシ、市會ノ多數派ナル市政倶樂部ノ諸君ガ、數月前ニ主張シタル意見ヲ今尙ホ固執スルモノナリ。本案ノ歲入ニ於テ、市會ガ「基本財產河岸地經濟ヨリ繰入」ノ項ヲ全然削除シタルハ、明ニ修正權ノ範圍ニ屬スルコトハ蓋シ理事者モ亦之ヲ認ムルモノヽ如シ、從ツテ問題ハ此削除ノ爲メニ生ズル缺陷ヲ補塡スルニ公園改良準備金ヲ以テシタルノ點ニ在リ、一定ノ基金ヲ他ノ目的ニ使用スルコトヲ決定スルハ果シテ發案權ニ屬スルカ。余ノ信ズル所ニ據レバ、市會多數ノ意思ヲ以テ之ヲ決定スル場合ニハ、毫モ間然スル所ナシ、何トナレバ是レ豫算案中ノ款項目ノ一部ノ修正ニ過ギズシテ、發案權ニ非ザレバナリ。例ヘバ拾萬圓ノ豫算ヲ全然削除スルモ發案ニ非ズ、之ヲ貳拾萬圓ニ增加スルモ發案ニ非ズ、果シテ然ラバ貸地料ト云ヒ、公園基金ト云ヒ、同ク東京市ノ金庫ニ貯藏セラルル資金ニシテ、單ニ名目ヲ異ニスルニ過ギズ、然ルニ前者ニ代フルニ後者ヲ以テスルハ、何故ニ發案權ニ屬スト爲スカ。且又發案權ナル文字ハ、東京市ノ記錄ニハ何レノ處ニモ之ヲ見ル能ハズシテ、只學者ガ發案ノ語意ヨリ推シテ、發案權ト稱シツヽアルノミ。斯ル漫然タル術語ニ基キ、案件ニ對スル多數ノ市會議員ノ承認ヲ覆サントスルハ、甚シキ不當ニアラズヤ。又假リニ發案權ノ侵害ナリトノ市長ノ見解ヲ正當トスルモ、余ハ尙ホ此再議ニ反對セザルヲ得ズ、蓋シ豫算案ガ所謂不可分ノモノナル事ハ、市長モ亦或ル程度迄ハ之ヲ認ムルモノヽ如シ。

何トナレバ市長ハ此市區改正歳入出豫算中、公園改良準備金繰入ノ修正事項ノミヲ越權ニシテ無效ノ決議ナリト言フニ拘ラズ、此點ノミヲ再議ニ附セズシテ、市區改正ノ豫算全部ヲ再議ニ附シタレバナリ。而カモ豫算不可分ノ原則ハ一般會計ト特別會計トヲ包括スル大正四年度豫算全部ノ不可分ヲ意味ス、然ルニ市長ハ前述ノ如ク或ル程度迄不可分論ヲ實行シナガラ、又或ル程度迄可分論ヲ唱ヘ、例ヲ帝國議會ニ取リ、大正三年ノ春、議會ガ特別會計ノ一部ヲ議了シタルモ、一般豫算ハ不成立ニ終リタル際、政府ハ豫算不可分ノ原則ヲ採用セズシテ、特別會計ニ屬スル豫算ノミヲ施行シタル事實ヲ指摘シ、理論トシテハ豫算不可分ノ原則ハ正當ナルベシト雖モ、政務ノ運用上豫算可分ノ原則ヲ採用セザルヲ得ズトノ意見ヲ言明セリ。本案ノ調査委員長モ亦今同樣ノ說ヲ述ベタルモ、余ハ便宜ノ爲メニ法令ノ解釋ヲ左右ニシ、或ハ其原則ヲ無視スルガ如キコトハ、斷ジテ許スベキニアラズト信ズ。況ンヤ自治制ハ法令ノ範圍內ニ於テ、纔ニ其政務ヲ執行スルヲ得ルモノナルガ故ニ、縱ヒ一歩ト雖モ、法令ノ原則ヲ超越スルヲ得ザルニ於テヲヤ。又市長ハ委員會ニ於テ屢バ慣例ヲ云爲セラレタルモ、公ノ規定ニ反スル慣習ガ有效ナラザルハ勿論ナリ。以上述ブルガ如ク、本案再議ノ理由ハ甚ダ薄弱ニシテ、學理上何等ノ根據ヲ有セズ、徒ラニ習慣ニ藉口スルニ過ギズ、而カモ之ガ爲メニ市會ノ面目ハ全ク蹂躙セラルルニ至ルコトヲ記憶セザルベカラズ、去ル二月初メテ本案ヲ審議スルニ方リ、理事者ガ懇々修正反對ノ理由ヲ述ベタルニ拘ラズ、市政倶樂部ノ諸君ハ多數ヲ恃ンデ修正ヲ斷行シ、爲メニ今日爰ニ東京市ノ面目ニ關スルガ如キ問題ヲ惹起セルハ頗ル遺憾ナリ。又若シ理事者ガ豫算不可分ノ原則ヲ承認スルトセバ、大正四年ノ豫算全部ヲ不可分ト看做スニ非ザレバ徹底セザルナリ。以上述ブルガ如ク、本案ハ道理ニ反シ、且市會ノ體面ヲ傷クルモノナルヲ以テ、市長ハ宜ク直ニ之ヲ撤回スベシ。

斯クテ採決ニ入リタルガ、横山君ノ反對論ハ少數ニテ敗レ、委員會ノ修正報告可決セラレタリ。

下水道歳入出豫算

歳入出	原案額	委員會修正額	市會決定額
歳入	一、〇〇七、〇六七・〇〇〇円	原案通	委員會報告通
歳出	一、〇〇七、〇六七・〇〇〇	原案通	委員會報告通

本案ハ二月三日ノ第一讀會ニ於テ、前記河岸地豫算ト同一委員ニ付託セラレ、委員ハ審査ノ末、原案ヲ適當ナリト認メ、其旨同月二十七日ノ本會ニ報告シテ、原案通可決セリ。

下水道及河川改良費資金歳入出豫算

歳入出	原案額	委員會修正額	市會決定額
歳入	一、五〇〇、三五八・〇〇〇円	原案通	委員會報告通
歳出	一、五〇〇、三五八・〇〇〇	原案通	委員會報告通

本案ハ、前記下水道歳入出豫算ト同一ノ經過ヲ以テ可決セラレタリ。

事業公債費歳入出豫算

歳入出	原案額	委員會修正額	市會決定額
歳入	一、二〇六、七五三・〇〇〇円	原案通	委員會報告通
歳出	七四八、七八四・〇〇〇	原案通	委員會報告通
歳入出差引殘金	四五七、九六九・〇〇〇	原案通	委員會報告通

歳計剰餘金ハ事業公債償還基金ニ編入スベシ。

本案ハ二月三日ノ第一讀會ニ於テ、前記養育院豫算ト同一委員ニ調査ヲ付託セラレ、委員會ハ原案ヲ相當ナリト認メタル旨、同月二十七日ノ本會ニ報告シ、本會モ亦原案ヲ可決セリ。

水道歳入出豫算

		原案額	委員會修正額	市會決定額
歳入出	歳入	四、七八七、二〇九・〇〇〇円	四、六八八、六一七・〇〇〇円	委員會報告通
歳出	經常部	一、〇四七、四八五・〇〇〇	九四九、一九三・〇〇〇	委員會報告通
	臨時部	三、七三九、七二四・〇〇〇	三、七三九、四二四・〇〇〇	委員會報告通
合計		四、七八七、二〇九・〇〇〇	四、六八八、六一七・〇〇〇	委員會報告通

本案ハ前記養育院豫算ト同樣ノ經過ヲ以テ、同一委員ニ付託セラレタルガ、委員ハ審査ノ末、前表ノ如ク修正スルニ決シ、其旨同月二十七日ノ本會ニ報告シテ、修正通可決セラレタリ。

特別基金歳入出豫算

		原案額	委員會修正額	市會決定額
歳入出	歳入	一六、七二五・〇〇〇円	原案通	委員會報告通
	歳出	六、三七七・〇〇〇	四、九二七・〇〇〇円	委員會報告通
歳入出差引殘金		一〇、三四八・〇〇〇	一一、七九八・〇〇〇	委員會報告通

各基金ノ收入支出差額ハ其所屬別ニ依リ各基金ニ編入スベシ。

本案ハ二月三日ノ第一讀會ニ於テ、前記普通豫算ト同一委員ニ付託セラレ、委員ハ審査ノ末、前表ノ如ク修正スルニ決シ、其旨同月二十七日ノ本會ニ報告シテ、修正通可決セラレタリ。

火災共濟費歳入出豫算

		原案額	委員會修正額	市會決定額
歳入	歳入	六四、七六〇・〇〇〇円	原案通	委員會報告通
歳出		六四、七六〇・〇〇〇	原案通	委員會報告通

歳計剰餘ヲ生シタルトキハ火災共濟基金ニ編入スベシ。

本案ハ二月三日ノ第一讀會ニ於テ、前記養育院豫算ト同一委員ニ付託セラレ、同樣ノ經過ヲ以テ、同月二十七日原案通可決セラレタリ。

電氣事業費歳入出豫算

歳入	經常部	一一、五二七、七九一・〇〇〇円
	臨時部	二、六六四、九四〇・〇〇〇
合計		一四、一九二、七三一・〇〇〇
歳出	經常部	六、四五一、八四〇・〇〇〇
	臨時部	七、六九〇、三七一・〇〇〇
合計		一四、一四二、二一一・〇〇〇
歳入出差引殘金		五〇、五二〇・〇〇〇

本案ハ二月三日ノ第一讀會ニ於テ、同時ニ提出セラレタル電氣事業費更正追加繼續年期及支出方法ト共ニ、議長指名十五名ノ調査委員ニ付託スルニ決シ、議長ハ左ノ如ク指名セリ。

羽田如雲　早川喜兵衛　白石源右衛門　大橋新太郎　大澤朝吉
村松恒一郎　豐川良平　音羽耕逸　笠間平右衛門　新井與四郎
三浦良幹　矢野鉉吉　小泉策太郎　太田信治郎　若林成昭

委員ハ豐川良平君ヲ委員長ニ推シテ、審査ニ從事シタルガ、電車電燈ノ兩會計ヲ分離シテ、各別ノ豫算案ヲ編製スベシトノ議起リ、大橋、早川、音羽三君ヲ小委員ニ擧ゲテ、此事ヲ參事會ニ交渉セシメタルニ、參事會モ之ニ同意シ、二月二十七日ノ會議ニ本案ノ撤回ヲ通告スルト同時ニ、左ノ諸案ヲ提出セリ。

第四十二號

電氣事業會計區分整理ノ件

電氣事業會計ハ大正四年度以降、電氣鐵道事業費、電氣供給事業費ニ分割シ、各別ニ整理スルモノトス。

（參照）

市電氣事業會計條例

第一條　電氣事業ヲ經營スル爲之ニ要シタル買收資金竝將來投資スル金額ヲ以テ資本トシ特別會計ヲ設置ス

第二條　電氣事業會計ハ其收入ヲ以テ事業經營費、本會計ニ屬スル市債ノ利子、市債諸費、減損補塡金ヲ支辨シ及本會計ニ屬スル市債ノ償還ニ充ツ

特許命令ニ依リ負擔スル道路、橋梁及横切下水ノ修繕、掃除、除雪ノ費用ハ前項ノ事業經營費中ニ包含ス

第三條　本會計ノ收入ハ前條支出ノ外一部ヲ普通會計ニ編入スルコトヲ得

第四條　市區改正事業トシテ軌道ヲ敷設スヘキ道路ノ擴築ヲ爲ス場合ニ於テ特許命令ノ幅員制限ヲ充タス迄ノ擴築ニ要スル費用ノ半額ハ本會計ヨリ支辨ス

橋梁ノ改築費ニ關シテハ前條ノ規定ヲ準用ス

附則

第五條　本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

市參事會審査意見

大正四年二月二十六日市參事會ハ本案ノ如ク分割スルモ、將來經費ノ膨脹ヲ來タサスト說明アルニ依リ、之ニ同意セリ。

大正四年二月二十七日提出

第四十三號

電氣事業減債基金規程中改正ノ件

電氣事業減債基金規程中左ノ通改正スルモノトス。

第二條第一項ヘ左ノ一號ヲ加フ

五　前各號ノ外豫算所定ノ繰入額

說明　本案ハ短期債發行ニ當リ、額面ト手取トノ差額アル場合、其差額ヲ償還年期ニ均分積立ヲ爲シ及歳入ニ餘裕アル場合ニ於テ、隨時積立ノ法ヲ設ケントシ之ヲ提出ス。

（參　照）

第五十號

電氣事業減債基金規程

第一條　本市電氣事業ノ負擔ニ屬スル市公債償還ノ爲減債基金ヲ設ケ之ヲ特別ニ整理スルモノトス

第二條　電氣事業公債基金ハ左ノ受入ヲ爲スモノトス

一　明治四十五年市條例第二號電氣事業公債條例附屬償還年次表所定ノ減債基金支出額

二　大正三年市條例第一號第二回電氣事業公債條例附屬償還年次表所定ノ公債元利金相當額

三　電氣事業建設費ヲ以テ支辨シタル財產處分ニ依ル收入金中減損補塡工事ノ爲生シタルモノヲ除キタル金額

四　電氣事業費每年度所定ノ經常部歲入豫算ニ對シ實收入ノ超過シタル額

前項第一號ノ受入ハ大正五年度ヨリ之ヲ爲スモノトス

第三條　電氣事業ニ於テ臨時必要ノ經費ヲ支出スルニ當リ資金ニ不足スル場合ハ本基金現在金ノ內ヨリ一時繰替支出ヲ爲スコトヲ得

第四條　前條ニ依ル繰替支出ニ對シテハ日步一錢四厘ノ割合ヲ以テ利子ニ相當スル金額ヲ本基金ニ編入スルモノトス

市參事會審査意見

大正四年二月二十六日市參事會ハ本議案ヲ相當ナリト認メ同意セリ

大正四年二月二十七日提出

第四十四號

電氣鐵道事業費、電氣供給事業費間收支整理ニ關スル件

大正二年度迄ニ電氣鐵道事業費ヨリ電氣供給事業費ノ不足額ヲ補塡シタル金七拾參萬四千七百九拾參圓ハ將來電氣供給事業ヨリ生スヘキ收益金ヲ以テ之ヲ償却スルモノトス

大正三年以降兩事業費ノ一方ニ不足ヲ生シタル場合ハ相互補塡ヲ爲シ其償却ハ前項ニ準スルモノトス

（參　照）

電氣電力事業各年度損失補塡額計算書

一金六萬五千參百五拾參圓	明治四十四年度損失
一金貳拾壹萬九千九百六拾四圓	大正元年度損失
一金四拾四萬九千四百七拾六圓	大正二年度損失
合計金七拾參萬四千七百九拾參圓也	

市參事會審査意見

大正四年二月二十六日市參事會ハ本議案ヲ相當ナリト認メ同意セリ

大正四年二月二十七日提出

第四十五號

大正四年度東京市電氣供給事業歲入出豫算

歲　入　　經常部豫算高

一金貳百參萬六千百九拾五圓

一金六拾貳萬四千八百拾八圓　　臨時部豫算高

合計金貳百六拾六萬千拾參圓

歳　出

一金百參拾七萬千百八拾壹圓　經常部豫算高

一金百參拾六萬九千八百七拾圓　臨時部豫算高

合計金貳百七拾四萬九百九拾八圓

歳入出差引不足金七萬九千九百八拾五圓

一金四萬八千五百九拾六圓　歳入臨時部ニ豫計セル財産賣却代

右ノ實收額ハ電氣事業減債基金規程第二條第一項第三號ニ依リ電氣事業減債基金ニ編入

改不足金拾貳萬八千五百八拾壹圓

本費ノ實收支差引不足額ハ大正四年度電氣鐵道事業費剩餘金ヲ以テ之ヲ補塡ス

（同豫算表省略）

市參事會審査意見

大正四年二月二十六日市參事會ハ本議案ヲ相當ナリト認メ同意セリ

大正四年二月二十七日提出

第四十六號

大正四年度東京市電氣鐵道事業費歳入出豫算

歳　入

一金九百四拾九萬千五百九拾六圓　經常部豫算高

一金貳百四萬百貳拾貳圓　臨時部豫算高

合計金千百五拾參萬千七百拾八圓

歳　出

一金五百貳萬六百五拾九圓　經常部豫算高

一金六百參拾八萬五百五拾四圓　臨時部豫算高

合計金千百四拾萬千貳百拾參圓

歳入出差引殘金拾參萬五百五圓

一金千九百貳拾四圓　歳入臨時部ニ豫計セル財産賣拂代

右ノ實收額ハ電氣事業減債基金規程第二條第一項第三號ニ依リ電氣事業減債基金ニ編入

改殘金拾貳萬八千五百八拾壹圓

本費ノ剩餘金ヲ以テ大正四年度電氣供給事業費ノ收支差引不足額ヲ補塡ス

（同豫算表省略）

市參事會審査意見

大正四年二月二十六日市參事會ハ本議案ヲ相當ナリト認メ同意セリ

大正四年二月二十七日提出

以上數案ニ關シ、會議ノ劈頭ニ於テ、左ノ質問應答アリタリ。